

「小樽市立小中学校 学校再編についての地区別懇談会」

会場で寄せられたご意見、ご要望と教育委員会の発言

期 間 平成22年5月17日から7月22日まで

会場数 36会場 37回開催

※ 発言内容は、ブロックごと、会場別に掲載しています。

| | | |
|-----------|-----|-----|
| 塩谷・長橋ブロック | 1 | ページ |
| 高島・手宮ブロック | 20 | ページ |
| 中央・山手ブロック | 54 | ページ |
| 南小樽ブロック | 93 | ページ |
| 朝里ブロック | 144 | ページ |
| 銭函ブロック | 164 | ページ |

塩谷・長橋ブロック

| 会場 | 会場での発言（質問・意見・要望） | 教育委員会の発言（回答・説明） |
|------------------------|--|--|
| <p>忍路中央小 5月31日</p> | <p>1 あくまでも小樽市内の子どもたちは小樽市内の学校に通うということを前提にして作られたプランだと思うが、現在も忍路、蘭島地区からは余市に通っている子どもがいる。 教育委員会ではそれを認めていることからすると、蘭島地区の子どもたちは、距離とか利便性から、余市へ通う方が近いし、便利だということも考えられるが、その辺はどのように考えているのか、お聞きしたい。</p> | <p>区域外就学の件だが、現状、忍路中央小学校では6名の方が余市町の方へ通学している。また、中学校では2名の方が通っている。区域外通学は、受け入れ先の学校で通学を認めるというものが出来、そちらへ通学できるということになるので、保護者が希望しても、必ずしも認められるものではない。</p> <p>小樽市内の学校の場合に、忍路中央小学校に指定されているが、塩谷小学校に行くという場合もある。これは特認(指定校変更)といって、この場合は保護者が小樽市教育委員会に、こういう理由があるから指定された学校ではなく、隣の学校へ行きたいという申請、申込みに見られる。市教委では、特認を認める理由をいくつか要綱で定めており、それに合致すれば認めている。 自治体をまたがっていくケースは、区域外就学と言うが、これは形が違い、例えば、この校区の方が余市に行きたいと言った場合に、ここの保護者が余市町教育委員会に(手続きに)行く。特認と理由は似ているが、こういう理由で小樽の忍路中央小ではなく、余市の小学校に入りたいと、余市町教育委員会に相談をする。余市町教育委員会が、余市の子ではないけれども受け入れるとなると、余市町教育委員会は小樽市教育委員会に協議、こういう申し出があって、余市町教育委員会としてはその理由が妥当だと考えるから、余市の学校に入れて良いかということをお小樽市教育委員会に同意を求め、協議をして、それで(小樽市が認める)良いですとなる流れで、特認と似ているが流れが違う。 担当課長から説明があったが、ここ(忍路中央小)は6名ほど、全体で40弱の数であるから、6名というのは決して少ない数ではないと思っている。理由は色々あるが、兄弟、姉妹がもうすでに通学している、幼稚園は余市の方に通っていたなど、そういった理由で手続きをするが、私どもとしては、保護者が余市町教育委員会へ行って、余市町教育委員会が受け入れると協議が来たものをそれが駄目だということにはならない中で、ここ数年増えてきているという現状にある。小樽市教育委員会としては大変残念なことだとは思っているが、実態としてはそういうこと。</p> |
| | <p>2 プランの中で、小学校のプラン4、9ページの中で、今までの説明では全体の学級数ばかり言っているが、この下の学年別内訳を見ると2年生Aグループ71人で3学級となっている。その隣では3年生76人で2学級となっているが、40人で1学級が基本と思っている。 1、2年生に対しては、35人の特例だったかと思うが、今日ざっと見ると、1名まだ若い保護者の方がいるので、その辺良く分からないのではないかと。忍路にはクラス分けがないので、そういった部分をきちんと説明しないと、71人や72人で3学級だと25、6人くらいの1クラスが、次の3年生になると30何人の結構な人数になるので、びっくりするのではないかと。</p> | <p>北海道の制度で「少人数学級実践研究事業」というのがある。基本的には、1学級40人で編制するが、小学校では1年、2年を対象に、2学級以上になった場合に、1学級当たり35人で1学級としている。数字で説明すると、1年生で71人いると、普通の場合2学級だが、2で割ると35人を超えるので、この場合は3学級となる。これは、1年から6年までではなく、1年生と2年生になるので、仮にこのまま推移した場合、2年生までは3学級、3年生から2学級に戻るという形になる。これが「少人数学級実践研究事業」といわれるもの。 中学校の場合には、1年生のみこの制度の対象となる。</p> |

塩谷・長橋ブロック

| 会場 | 会場での発言（質問・意見・要望） | 教育委員会の発言（回答・説明） |
|-------|--|---|
| 忍路中央小 | <p>3 統合の時期について、前期、後期に分かれていて、前期8年となっている。新聞記事では、2015年度(H27)には既に統合されているような記事が出ていた。正直なところ、このまま順調に進めばいつくらいにこの地域は統合する予定を考えているのか。</p> | <p>統合の時期だが、会長さんのお話のとおり、前期8年という計画の中で進めている。ここのブロックでもそうだが、統合がいつだということはまだ言っていない。前期8年の中でやっていくということなのだが、こういった懇談の場を繰り返して、保護者の皆さん、地域の方、そういった皆さんの一定の合意が得られる、そういう時点で、統合していきましょう、ということで話を進めていくので、現時点でいつといった、期限を区切った設定はしていない。</p> <p>どこの会場でも聞かれることなので、統合時期の関係全体をお話させていただく。平成22年から15年間の極めて長い計画になっている。それは市内41校全部を対象にしていく、あるいは古くなった学校校舎の建て替え、耐震工事もしていかなければならない中で、一律に15年間ではなく、前期と後期に分けている。前期は、今年から平成29年までの8年間、後期は30年から36年までの7年間としている。前期、後期に区分けをした理由は、小さい学校が集中しているところ、多くあるところを前期に手をつけていかなければならないという考え方を持っている。塩谷・長橋地区についても前期に位置付けている。後期の部分は、銭函地区、朝里地区は、まだ一定程度の規模の学校の比率が多いことから、豊倉、張碓の小さい学校も一部あるが、地区全体としてはそういう状況だ。</p> <p>色々な会場でご質問いただいているが、前期も実際にやるのは平成29年なのかとの質問があった。お答えは、前期のブロックだけでも四つあるから、それぞれのブロックによっていろんな議論とか協議の進捗状況が違うと思っている。前期の部分であっても全部同じ時期にやるとは考えていない。一定程度、話が、合意ができた所から順次やっていこうというのが基本的な考え方。</p> <p>先日塩谷小学校の会場でこういったお話をさせていただいた。ある方から、最短で具体的に(統合が決まった)なった場合に、どんな日程を考えているのかというお話をいただいたので、その際のお答えをお話します。</p> <p>例えば、今年統合校をA校にしよう決めた。そのA校に色々な校区から通っていくために、どの通学路を通っていくのか、ここの地区の場合当然バスの問題がでてくる。小学校であればスクールバスだが、中学校の場合は部活があるのでスクールバスではなく、路線バスを使って定期代を助成することがどうなるのか。もっと言えば、校名がそのまま良いのか、統合校だけの校名で良いのか。校歌はどうなのか。小学校1年生に入学された際にそれぞれの学校で、教材を購入するが、統合するグループの中でそれが同じものなのかといったことも、事前に準備をしておき、実際に統合しなければならない。もちろん子どもさん同士の交流もやる。昨年の説明会の際に、ある保護者の方から、1学年5人、6人の学校から、仮に長橋を統合校とした場合に、1学年2クラス、3クラスという学校であるし、1クラスも30人ほどいるわけだから、びっくりしてしまうと。そういう通学路とか物理的なものだけではなく、事前に心のケアといった部分を含めて必要なのではないか、準備が必要なのではないかといったことも出た。</p> |

| 会場 | 会場での発言（質問・意見・要望） | 教育委員会の発言（回答・説明） |
|-------|--|--|
| 忍路中央小 | | <p>私どもとしては、まず統合校が決まる、一定程度の合意ができる。次に、その準備のために何をしていかなければならないのかという議論も最低でも1年はかかると思っている。保護者同士の話もある、先ほどの子どもの交流の話もあるから、今日お配りした資料の「学校の統合を進めるに当たって」の左側に書いてあることを議論していく。これが1年で済めば良いが、仮にそれが2年かかるのであれば2年でも良いと思っている。時期を決めないというのは、一般的に時期を決めないということではなく、統合準備に向けてどういう段取りで話をしていくかということが必要だろうと思っている。</p> <p>もう一点、今日お配りした資料の2ページ目下段のところ、「統合の時期は、学校施設の状況、対象校の位置関係、統合前の児童生徒の交流期間等を総合的に考慮し、地区実施計画を策定し決めていきます。」とこれは今申し上げたようなことだ。ここでもう一つ課題となるのは、この地区は小学校も中学校も統合していかなければならないと教育委員会は考えているので、そうした場合に「その際、同一地区内で、段階的な実施となる場合は、児童生徒が統廃合を繰り返して経験することのないような間隔とします。」と、これも塩谷である方から発言があったが、小学校で統合を経験した。その子が1年生だったとする、そうすると卒業まで5年間ある。その子が今度中学校に行った時にまた統合を経験するというのは、基本的には避けていきたいという考え方を持っている。そうではない場合も保護者の皆さんとの協議の中ではあるかもしれないが、基本的なスタンスとしては2度繰り返さないとしている。その場合、同時にやるということも思う。また、中学校をやってから、一定の期間を置いてから小学校という場合は2回経験することはない。そういった議論も必要になってくると思っている。</p> |
| 4 | <p>中学校の方にはないが、この資料を見ると本年度、忍路中央小学校には特別支援学級が1クラスでき、1名在籍している。去年の資料では、塩谷小学校でも特別支援学級に1名在籍していて、プランを見ると、ほぼ、長橋か幸かどのプランになるか分からないが、通学距離が長くなる。そういった場合、特別支援学級に在籍している子どもたちがスクールバスなどに乗っていくとか路線バスになるのかどうか分からないが、そういった中で通学する不安というのは保護者がすごく持つと思うが、その辺は教育委員会としてどうお考えなのかお聞かせください。</p> | <p>この学校再編は、学校を半分程度にするという計画になっているから、多くの子が通学距離が長くなる。それは特別支援学級の子であっても、通常の学級の子であっても同じにならざるを得ないと考えている。もちろん、お子さんの状況にもよると思う。繰り返しになるが、私どもとしては統合に当たっては色々な課題を協議しなければならない。その中で、特別支援学級にいるお子さんが例えば10キロバス通というのが無理だとすれば、どのような方法が可能なのか、100%無理なのか、そういった具体的な議論をさせていただかなければならないと思っている。例として、小樽から余市養護学校に通われているお子さんも30人ほどおられる。この方々は、余市養護学校で用意しているスクールバスで小樽から通っている。そういった形態も考えていかなければならない。遠くなっただけでも、勝手においでということか、済まないのか。そういうことも含めて考えていかなければならないと思っている。</p> <p>一般的に想定しているのは、小学生の場合は基本的にはスクールバス。中学生の場合は帰りの時間帯のスクールバスというのは難しくなるから、そこは色々協議をさせていただかなければならないと思っている。</p> <p>この塩谷・長橋ブロックでは、長橋小学校がスクールバスで、この小学校の概要の中にもあるが、長橋小学校380人ぐらいのうち110人ぐらいバスで通っている。この中に特別支援学級のお子さんがあるのか資料がないのでわからない。銭函小学校でも、在籍生390人ぐらいのうち160人ぐらいの子どもがスクールバスで通っている。これも特別支援のお子さんは分からないが、スクールバスの形態が特別支援のお子さんが利用できるかどうか、それは個々の子どもさんの状況を見ながら、当然保護者とも十分話をし合いをして、理解を得ながらやっていかなければならないと考えている。</p> |

塩谷・長橋ブロック

| 会場 | 会場での発言（質問・意見・要望） | 教育委員会の発言（回答・説明） |
|-------|--|---|
| 忍路中央小 | <p>5 先ほど統合の時期について聞いたが、それはまだ未定ということだった。どの学校にするのかというのは今後どういう形で決めていくのか。</p> | <p>今後の部分だが、まず、今回このブロックを含めて、5月からこのような懇談会を全校36会場で行っていく。その学校によって状況は変わってくると思うが、私どもとしては、まず一度こういったお話し合いをさせていただいて、地域の皆さん、保護者の方の意見を聞いていく。さらに今度は、それを踏まえて、こちらにお邪魔するという形になると思うが、その際にはこの学校単独でお邪魔する場合もあるかもしれないし、このブロックの塩谷、長橋の保護者の皆さんも含めた場を設定する。また、PTA関係の会合があればそういった場にも、呼んでいただければ私たちは参るので、皆さんとの意見交換の場を踏まえながら、統合に向けたお話をしていきたいと考えている。</p> <p>塩谷・長橋地区は、日程調整の関係で、懇談会は大分進んでいる。この地区では、今日終わると残るのは、長橋小学校と幸小学校。塩谷小・中の懇談会では、(統合を)決めた以上はあまり長く、だらだらやらないで進めてほしいという意見もあった。この懇談会7月22日まで予定しており、まずは一当たりやっていく。次の段階で、それぞれブロックごとにどういう意見が出ていたのか、どういうご希望が出ていたのか、もちろん賛成の方もいる、反対の方もいる。その辺をブロックごとに集約して、こういう個別学校とやる形が良いのか、それとも小学校グループ、中学校グループという形が良いのか。あるいは、こういう地区だと小・中一緒にやる形、どういう組み合わせが良いのか、一当たり終わった段階で、総括、まとめるところはまとめながら、PTA会長さんなどに相談をさせていただき、次の進め方については、色々なパターンの中で議論のしやすいような形を探していきたいと考えている。</p> |
| | <p>6 プrintの「学校の統合を進めるに当たって」の左側に統合が決まった後のスケジュールのようなことが書かれているが、これ、決まる前に色々な部分、通学のもの、色々な場合があると思う。3校、4校が一緒になるのだから。そういったメリットもたくさんあるだろうし、その反対のデメリットもたくさんあると思うので、それを包み隠さず全部出して、その中で保護者に判断してもらったり、地域の方々にも判断してもらったりしなければならないと思う。</p> <p>今回の資料では、学校の規模だけでしか、今回は説明、中心的な説明はそれだけだ。スクールバスになるのか、通学の手段とかそういった部分はバスになるであろうという部分で、それ以上踏み込んだ部分が一切書かれていない。ここが統廃合になった場合には、歩いてはいけない距離だから、そういった部分をきちんと保護者側に示して、人数が増えてこういったプラス面があるが、通学とかそういった部分ではマイナス面も、また人数に関してもマイナスの面も色々あると思うので、それをきっちりと、統合が決まる前に保護者に示してほしいと思う。</p> | <p>そのとおりだと思う。このペーパーでは、機械的にまず統合校を決めます、とそれが決まってから、通学路の選定などを決めますと書いてあるが、これは結構一体化した話だ。統合は小樽市の現状から必要だと思っているが、プラス面はあると思っている。ただし、マイナス面もあるのは事実だからプラス面を前面に押し出すために、マイナス面をどれだけ軽減できるかという議論になるだろうと思っている。統合を決めてから、通学距離、子ども同士の交流とか、子ども同士の交流は一定程度決まらないと出来ないが、特に通学路などは、いきなり統合協議会ではなく、仮に長橋小学校にするのであれば、ここはこういうことをしてもらわなければならないという議論を何回かやり取りしながら、最終的には、統合校を決めていくという作業があると思う。統合を決めてから全部条件ではなく、条件と行き来しながらやっていかなければならない。その場合に、単独の学校単位の場合もあるし、先ほど言った色々な組み合わせでやる場合もあるのではないかと思っている。この地区は5校を2校にするが、正直に言って、5校の代表者の方を集めてどれにするかというような議論にはならないと思っているので、そこは丁寧にやっていかなければならないと思っている。</p> |

| 会場 | 会場での発言（質問・意見・要望） | 教育委員会の発言（回答・説明） |
|-------|---|--|
| 忍路中央小 | | <p>昨年の忍路中学校の説明会で今のお話とほぼ同じような、統合にはデメリットが必ずあって、その影の部分はきっちり話をして、そうでないところといった問題は中々理解を得られない、といったお話をいただいた。今回も、プランをそれぞれ出しているが、教育委員会事務局では、通学距離という部分では、どちらかというと、長くなるということにはこれまであまり触れていなかったところもあったが、今回はあえて11キロとかそういうところも見せているつもりだ。さらに、工事の必要性についても、耐震工事や増築工事をやると、そのことによって経費がかかるというコスト面での部分も、色々検討する時の材料にしてほしいという思いはある。小規模な学校の関係で、中心部の堺小学校が稲穂小学校と花園小学校に統合された。他の会場でも同じように、どういった課題があるのかというような質問があったので、教育委員会の説明員に当時の堺小学校の教頭がいるので、どのようなことに取り組んで、それぞれの学校に送ったかということを紹介する。</p> <p>平成18年3月に堺小学校は閉校し、その時に教頭をしていたが、「保護者と子どもが困らないように」を合言葉に、地域の方も校友会とか色々な意見があった。反対も賛成もあったが、とにかく子ども、保護者が困らないようにということに取り組んでいたことを覚えている。今回のように長いスパンではなく、半年とか、その前から体制は組んでいたが、決まってからは半年くらいはかななかったから、特に保護者や地域の方の心配というのはそこが大きかったと思う。そこに向けて教育委員会と協力しながら、地域の方の理解を得ながら、登下校の安全も実際に保護者と一緒に歩いてみたり、学校間交流を頻繁に行わせていただいた。あとは、校内体制として整えられることはとにかく整えようということで、学校運営の委員会や教育課程の委員会を作り、児童の実態を把握するというので、自校(堺小学校)の子どもたちの様子や相手校の様子も十分把握して、交流をとにかく推進しよう。小さい学校から大きな学校へ行くので、どうしても自分を表現できない、大きな中に入って尻込みしてしまうこともあるので、できるだけそういった場に慣らさせようという取り組みもした。また、部長からあったが、教科で扱ってないものはないか違いも把握するというので、統合が決まってからはできるだけ早く慣らしてあげようということも取り組んだ。あと、PTAの関係、親同士の交流というのもやった。さきほど、おっしゃってたかと思うが、色々心配な点はたくさんあったかと思う。初めに申し上げたように、子どもと保護者が困らないことに関して何とかしようということでは、当時の教職員が一致して取り組んでこられたかと思っている。地域の方も同じようにしていたし、教育委員会も同じように足並みを揃えて進められたと思っている。</p> |
| 7 | <p>統合先は、忍路は多分幸か長橋になるのだろうか、統合の仕方としては吸収合併なのか。それとも3校を一回閉校して、新たに学校を作ることなのか。今の段階でどのように考えているのか。</p> | <p>考え方としては、今回はあえて学校再編といっている。A校をB校、C校に分けるという考え方ではなく、小樽市の41校全部を対象にして再編していこうと思っている。この地区には5校の学校があるが、新しい学校を2校作っていこうというのが私どもの基本的な考え方。先ほども申し上げたが、校名をどうする、校歌をどうするといった議論もしていかなければならないと思っている。難しいのは、塩谷の方では、それぞれ伝統というものがあるのだからそれもやはり大事にしていかなければならないという意見もいただいた。なんでも、今後の議論、今後の議論について申し訳ないが、それぞれ学校ごとの考え、それぞれの個人個人の考えもあると思うので、その部分は十分議論していく、私どものスタンスとしては学校再編という形で考えている以上、新しい学校を作っていくということを念頭に置くということは基本として考えていかなければならないと思っている。</p> |

塩谷・長橋ブロック

| 会場 | 会場での発言（質問・意見・要望） | 教育委員会の発言（回答・説明） |
|----------------|---|---|
| 忍路中央小 | <p>8 小学校の通学はスクールバスという考えだが、例えば遅刻とか早退とかの場合にはどのようにお考えなのか。</p> | <p>現状をお話しする。市内で3か所、忍路中央小学校と長橋小学校、銭函小学校で、忍路中央小学校の場合は自前のスクールバス、長橋小学校と銭函小学校の方はバス会社に委託してやっている。忍路中央小学校の場合は、1名なので遅刻ということはない。長橋小学校と銭函小学校については、朝2便出している。必ずどちらかに乗ってというお願いをしている。帰りについては、時間割に合わせて4便、5便運行している。最終便は16:00、16:30をめぐりにスケジュールを組んでいる。2便出しているの、必ずどちらかでお願しているが、乗り遅れた場合はある意味実費を想定するが、スクールバスを自前で走らせるのか、委託の場合でも2便で対応できるのかというのは今後の検討課題と思っている。</p> <p>このバスは、桃内小学校の経過、直営、市自前のバスでやってきた経過がある。今のバスはある方からご寄付いただいたもの。今後、スクールバスを出していかなければならないと思うが、基本的にはJRバスや中央バス、また他に路線バスを持っていない事業者もいるので、そういった業者をお願いするというのが一般的か。市がバスを持って、運転手を雇ってやるというのは、結構難しい面もある。朝はあるけど、しばらく無い。このバスは学校の色々な行事で使わせていただいているが、流れとしては、専門の業者さんにスクールバスをお願いするという流れになるかと思う。</p> |
| | <p>9 今のスクールバスの答えだが、もし途中で具合が悪くなって帰らなければならなくなった場合、距離が遠い。この小学校でも中学校でもある程度だったら歩いて帰っておいでと言え、必ず路線バスなどに乗って帰らなければならないわけで、そういった場合はどう学校側で対処しているのか。また行ってから学級閉鎖になった場合に、1時間、2時間してから帰ってくる。その辺のところ詳しく教えてほしい。</p> | <p>私の知っている範囲では、スクールバスの帰りの便は、その子どもさんのためにだけ出すわけにもいかないので、親御さんに連絡をして迎えに来てもらうか、一人で路線バスに乗って帰られるという状態ならそれはそれで良いが、そうではない場合、緊急の場合はタクシーで送り届けるということになる。これは養護教員の場面になるが、そういう事例も想定している。学級閉鎖などの場合には、できるだけ対応できるようにしていると思う。それはケースバイケースでやっている。</p> |
| 塩谷小・中 5月19日 | <p>1 資料について、色々な数値が27年度とされている理由は何か。これ以上、早いパターンはないと考えた方が良いのか。</p> | <p>27年度というのは、昨年度策定した適正化基本計画のまとめに当たって、将来の児童・生徒の推計に、その時点で、生まれた子どもさんたちの実数を置いて、学校に入る年齢で整理したもの。一昨年の段階で生まれた方が27年度に小学校に入る方なので、それを整理した。</p> <p>もう一つ、27年度までにしなければならないのかという話ですが、基本計画の中では、全体で15年間、前期は22年から29年までの8年間、30年から36年までの後期7年間で考えている。前期に再編をする地区は小規模な学校が多いところ、塩谷を含むこの地区についても前期計画の中で取り組むこととしており、最後まで、または27年までやらないということではなく、このような懇談会を進め、皆さんとの協議が整った段階で次へ進めていくという考え。</p> |
| | <p>2 バス通学となる場合は、バス料金などどのようになるのか。専用のバスを出すとか、中央バスを使うとか。どのようにしているのか。</p> | <p>今現在、市内では、スクールバスが3台、忍路中央小学校への通学用、長橋小学校への通学用、銭函小学校への通学用とある。利用者はおおむね250名程度。通学のバス助成と制度があり、小学校の場合片道2キロ以上、中学校は片道3キロ以上の場合に対象となる。現在120名程度の利用となっている。</p> |

塩谷・長橋ブロック

| 会場 | 会場での発言（質問・意見・要望） | 教育委員会の発言（回答・説明） |
|-------|---|---|
| 塩谷小・中 | 3 中学生の場合、部活がある。部活で遅くなった場合には、どうなるのか。 | 基本的なことを話すが、通学支援は、小学生は片道2キロ以上、中学生は片道3キロ以上としている。小学生の場合は、基本的にはスクールバスを用意しており、市で持っているのは1台ある。蘭島方面からは中央バスに、銭函方面はJRバスに業務委託して実施し、全部合わせると5台走っている。中学生は、部活の関係もあり帰りの時間が一定にならないことから、スクールバスではなく通学定期代を全額助成している。 |
| | 4 それは部活をしている生徒のみが対象ということか。スクールバスを使っても、使わなくても全員に無償で交通券を出しているということか。 | 違う。部活があるので、スクールバスということにはならないので、全部の生徒に通学定期代分を助成している。 学校にバス通学をしているという確認をしてもらっている。中には、中学生で片道3キロ以上あるが、うちの子は元気良から歩かせるという親御さんもいる。その場合には、助成していない。あくまで、実費相当を出すというやり方。 |
| | 5 保護者の負担はないということか。一定の距離を超えるとその負担はあるのか。 | スクールバスを利用した場合にしても、路線バスを利用した場合にしても、一定の距離を超えるという距離要件はあるが、保護者の負担はない。 小学校では2キロ以上の方。中学校では、3キロ以上の方を対象としている。 |
| | 6 今は、通学はその範囲内で収まっているのか。忍路にするとか、塩谷にするとか話していることに対する距離の考えは、その範囲で収まると考えているのか。 | 2キロを超えれば対象となるので、5キロであろうが、10キロであろうが構わない。それを超える者がいれば、それは対象として支給する。昨年の実績でも400人ほどいる。 |
| | 7 塩谷の場合、文庫歌から浜の方を回って通う人もいるが、スクールバスは、文庫歌から浜の方を回って、今の終点のところまで回るということになるのか。 | 具体的な通学方法の話になるが、実際に統合校が決まった場合に、資料「学校の統合を進めるに当たって」で若干説明したが、統合校が決まれば、地域の方や保護者の方を含めた「(仮称)統合協議会」を組織してスクールバスか路線バスか、またバス停まで歩いて行くのか、スクールバスはどこまで来るのかなど、具体的に協議する組織を作って、具体的な通学方法を定めるということになる。 |
| | 8 塩谷を統合して、長橋となった場合に児童館はどうなるのか。学校の帰りに児童館に預けているのがどうなるのかということを知りたい。 | ここは児童館を使って、守る会など色々活動をしていることは承知している。学校がなくなるから、児童館がなくなるということはない。 放課後児童クラブについては、議論しなければならないと考えている。ここに限らず、統合校に移った場合には、放課後児童クラブの子どもは増える。増えることによって、放課後児童クラブの利用ができないということはない。一つの教室でできない場合には、二つの教室で行うことで対応する。この場合、仮に長橋小となった場合には、長橋小のクラブに入る場合と塩谷の児童館の児童クラブを使うということが考えられる。この場合、どのように輸送するのか、相談しなければならない問題だと思っている。 今でも、放課後児童クラブがあり、スクールバスを運行している学校は、最終時間を決めている。授業が2時に終わった。放課後児童クラブに行きました。児童クラブへ行ったら、あとは勝手に帰ってということにはなっていない。児童クラブの時間に合わせてスクールバスの最終便の時間を決めている。そこは、色々意見があると思うので、色々な選択肢の中で協議していかなければならないと考えている。 |

塩谷・長橋ブロック

| 会場 | 会場での発言（質問・意見・要望） | 教育委員会の発言（回答・説明） |
|-------|---|---|
| 塩谷小・中 | <p>9</p> <p>プラン4を作っているが、その理由を聞かせてほしい。また、27年度数値を基としていて関連するが、自分の子どものこととして考えてしまう。前期計画の中で、適正、適切ではない状態の学校に自分たちの子どもが通い続ける、教育委員会が言う、適正ではない数の学校で卒業していくことになる。個人の意見として、誤解を恐れずに言うと、やるならチャッチャとやってほしい。どうしても自分の子どものこととなると短絡的に考えてしまうことがあり、長期的にといわれると関係のないことだと単純に思ってしまう面もある。</p> <p>ここは、塩谷小から塩谷中だけに進む、他から混じることのない特殊な環境にある。なし崩し的というのであれば、中学は別のところを考えたいとの話を良く聞くので、もしポロポロと崩れていくような感じになり、中学の状態がどうなったのか。それと、塩谷中に行くこと自体が残された者という感覚になるのではないか、そのあたりをどうお考えなのかお聞かせ願いたい。</p> | <p>プラン4だが、ピンクの部分は、中央・山手ブロックから編入してくると説明した。中央・山手の中でもいくつかのプランを作っており、その検討経過の中で、中央・山手から切り離れた形で、こちらに受け入れる形で検討できないか整理をし、プラン4を作ったところである。</p> <p>具体的に言う、このピンクの部分は色内小学校の校区である。中央・山手ブロックは、狭い地域にたくさんの学校があり、色々なパターンを用意した。稲穂小との統合を考えた場合に、色内小学校の校区を全部稲穂小へという考えもあるが、色内小は、手宮地区とも接している。臨港線から国道に入ってくるころは、小樽でも一番長い信号を渡らなければならないところと考え、果たしてそこを渡らせて稲穂小へ行くことが、通学路上良いのかという考え方で、そのような線引きをした。そのときに、色内小は手宮地区へ、ピンクの所は長橋小の方が近いのではということでプラン4を作った。これだけ見れば取って付けたように見えるが、境界線の部分はそういうことがある。若竹小学校でも潮見台小に近いところと桜小に近いところがある。これだけ見ると唐突ではあるが、中央・山手地区としては、色々なプランとして考えられる一つの選択肢である。</p> |
| | <p>10</p> <p>統合を望んでいる者だが、最短で何年になるか。市としての考えは。</p> | <p>学校再編の手順としては、まずどこを統合校とするかという議論を先行する。統合校が決まれば、通学区域、通学距離、事前交流という段階に入っていく。仮に、22年度、今年統合校が決まったとすれば、教育委員会としては、具体的に統合するまでに、準備に1年間は必要だと考えている。ご心配の件、統合校が決まって、1年間準備となれば、来年行くのであれば、もう行こうということが起きると思う。市教委としては、このような場で話し合いをしているのであるから、1年であっても、一緒に学校へ入って、行くときはみんなで一緒に行こうというスタンスで議論、協議をさせていただきたいと考えている。</p> <p>今、プランを示して話をしているが、来年から統合ということにはならない。統合校を今年決められるのであれば、最低でも来年度、1年間は統合に向けた準備をする。そして翌年みんなで行こうということになる。一方では、ここにプランで示した長橋小学校はもともキャパが大きいのでそれほど支障はないが、改修が必要となってくる場合がある。教室はあるが、20年くらい使っていない場合もあるので、改修しなければならないので、最短でもそのくらいは必要である。これも、皆さんの議論次第ではあるが。</p> |
| | <p>11</p> <p>子どもは、今1年だが、資料の中で、2年程度かけてと書いてあるので、卒業してからということになるかと思うが、教科の話で、数学を教えて、美術も教えてというパターンがこの学校でもある。この間統合しないのであれば専門の先生を配置して、授業をお願いしたい。</p> | <p>免許のない先生がいる場合、校長が勝手にこの教科はこの先生と決めることはできない。北海道教育委員会の許可を得なければ、免許外の教科を教えることはできない制度になっている。現行制度では、そこまでが精一杯である。免許を持っているよその学校の先生が授業をすることも認められていない。英語や数学は、ティームティーチング方式で1教室に二人の先生を配置し、退職校長や退職教員を入れて、数学など極力そのようなことがないように、解消に努めている。全国的にも東京都以外は、必ず、免許外がいる状況にあるので、理解願いたい。</p> |

塩谷・長橋ブロック

| 会場 | 会場での発言（質問・意見・要望） | 教育委員会の発言（回答・説明） |
|------------|--|---|
| 塩谷小・中 | <p>12 部長の話で新しい学校がはやりという発言があったが、私は保守的な考えで、いつまでも地域の子どもたちにはこの校歌を歌ってやりたいと考えている。統廃合の進め方で、決まったところから準備を進めていくことを話されたが、小学校が決まれば小学校、中学校が決まれば中学校ということであったが、ブロック、特にこのブロックで考えれば中学校から統廃合をしないと、昨年の説明では小学校で換わって、中学校でまた換わるのは避けたいという話だったので、順序は中学校からやらなければうまくいかないのではないかと。</p> | <p>地区、地区で色々条件が異なっており、中央・山手地区では、校区が複雑であることから、小学校を先行して、小学校の校区を落ち着かせてから中学校に手をつけなければならないと考えている。この地区は、小学校を先に再編すると、2回繰り返さないことを考えると、相当長い期間置かなければならない状況となる。小学校と同時という考えもあるが、時期がずれるのであれば、中学校の再編を先にやらなければならないと考えている。</p> |
| | <p>13 できれば、この小学校は残してほしい。</p> | <p>学校再編計画の中では、どこを残すということの発想ではやっていない。あくまでも、一つのブロックの中でどこを統合校にしようかという考え方で、この学校を存続してくれという議論にはならない。思いは受け止める。</p> |
| 幸小 7月9日 | <p>1 昨年の説明の際に1クラス30人程度と聞いたが、今回35人で1学級となっている。その人数について教えてほしい。</p> | <p>昨年の素案説明会、基本計画の中で1学級当たり約30人と、昨年5月1日現在の市内の平均の児童数で説明していた。今、発言のとおり資料6ページを見ていただくと、プラン1のBグループ、幸小学校単独の場合1年生が27年になった場合に22人という数値が出ている。さらに4年生は37人となっている。お話いただいた35人というのはプラン3の場合の1年生の人数だが、私もこのプラン、組み合わせを作っていく中で、基本的には小学校の場合12学級になるように検討はしたが、現実にはどうしてもそのような学年というのは出てくる。基本計画の中でも、皆さんからのご意見を踏まえ、何が何でも12学級だという表現ではなく、場合によっては12学級にならないということは想定される旨記載をしている。現実には幸小学校に通われる通学区域内の27年度推計を出すと、これが実態になってしまうということでご理解いただきたい。</p> <p>今、言ったことに尽きるが、私も今回の学校再編をするに当たって、極端に大きな学校を作る、あるいは1クラスの人数を増やしていくという考えではもちろんない。逆に、小学校では12クラスを目指しているが、今日示しているプランの中では、残念ながら幸小学校では12クラスに届くところはない。最大でも11クラス。プラン3というのは、長橋小学校の線路から上の方と、オタモイ3丁目の住宅生協の辺りを幸に入れたものを示している。もう一つ、プラン2との考え方で、忍路と塩谷も幸に入れる。そうするとプラン2と違って、黄色（の部分）は続いてくる。</p> |

塩谷・長橋ブロック

| 会場 | 会場での発言（質問・意見・要望） | 教育委員会の発言（回答・説明） |
|----|--|--|
| 幸小 | <p>2</p> <p>今、30人台弱程度で推移しているので、それが30人を超えると先生も大変だろうと思っている。また子どもさんも少ない人数でやってきたものが、急に40人近くなると戸惑うような子どもがいるのではないかと。昨年30人と聞いていたので、30人以下で配置していただければ良いのかと思った。</p> <p>最大30人で、例えば35人のところを17人と18人の2クラスという考えでやっていただけないのか。去年、そのように理解していたので。そういう意味合いで、お話をしたのですが。</p> | <p>昨年の30人というのは、先ほど申し上げたとおり、市内の平均の1学級当たりの児童数。35人を17人と18人に分けられないかとのことだが、今の仕組みでは40人学級が基本。41人を超えると2学級になるが、それ以下は基本的にはできない仕組みとなっている。</p> <p>小学校1、2年生については、71人以上で2クラスが確保されるとなると、北海道の少人数研究事業の関係で、71人の場合3学級を作ることができます。ただし、例えば、2年生71人で3学級となっていたのが、そのままの人数で3年生になると、40人が上限ということで2学級になってしまう。人数的には、40人というのは、現状では変えられないということでご理解いただきたい。</p> <p>今のお話を聞くと、プラン1の4年生の37人のところを危惧しているかと思うが、30人を超えるような学級については、各学校においてきめ細かな対応をするよう、指導をして、進めていかなければならないと考えている。</p> |
| 3 | <p>塩谷方面から長橋小学校にスクールバスが出ていると思うが、それについての現状、良く知らないのですが、どのようになっているのか、いつから始まったのかお教えいただきたい。</p> | <p>スクールバスの件だが、スクールバスが導入される前に、制度として通学のバス助成というのがあった。現行では、小学生の場合片道2キロ、中学生の場合片道3キロ、そのうち2分の1以上バスに乗っていれば、定期の額を全額助成する制度がある。スクールバスについては、長橋小学校に通学する子どもたちはある一定の通学助成を受けている人数がいるということで、平成19年に長橋小学校と銭函小学校でスクールバスを導入したという状況である。</p> |
| 4 | <p>それは、塩谷方面から、どの辺の生徒が使っているのか。</p> | <p>制度の流れで補足する。バス助成というのは平成6年からやっている。距離は、中学校3キロ以上、小学校2キロ以上でやっていた。平成6年にスタートした時は冬の期間だけ、4か月間、定期代の2分の1。年間として考えれば、2か月分しかバス助成していなかった。皆さんからの要望等もあって、平成19年から全額助成とした。全額助成とした場合に、たくさん子どもさんのいる所は、定期代の全額助成よりもバス事業者にスクールバスの運行を委託した方が安いということで、長橋小学校の児童の皆さん、オタモイの住宅生協の辺りの方は2キロを超えているので、中央バスに2台委託して、朝何便かと帰りに何便かを運行している。帰りは4パターンくらい出している。塩谷から来ているというよりも長橋校区の2キロを超える児童の対応をしているという状況。</p> <p>もちろん、塩谷、忍路ということになると、忍路から長橋まで10キロ以上あるから、これは間違いなくスクールバスあるいは通学助成の対象にしていかなければならないと思っている。</p> <p>基本的な考え方として、中学生は部活があるので、スクールバスで決まった時間に帰りなさいというわけにはいかないから、中学生は100%バス定期代の助成。小学生は、一定の人数がいればスクールバスだが、張碓とか少ない所は小学生でも定期の全額補助という形でやっている。</p> <p>今回の学校再編は、41校を21校にしていこうというプランになっているものだから、今は長橋と銭函が大半だが、もっともっとバス助成、スクールバスの対象というのは広がっていきだろうと思っている。</p> |
| 5 | <p>私が聞きたいのは、一番遠方から、スクールバスを利用している一番遠い児童はどこからかということをお聞きしたい。オタモイに中央自動車学校がある。だいたいあの近辺ということになるのか。</p> | <p>この校区の一番遠方の住所は、はっきりと示せないが、スクールバスの始発は、新道踏切が始発となっている。自動車学校よりもう少し塩谷寄りとなる。そこから通っている。</p> |

| 会場 | 会場での発言（質問・意見・要望） | 教育委員会の発言（回答・説明） |
|----|---|--|
| 幸小 | <p>(この学校は)統合を受け入れる立場になるのがとても濃厚で、塩谷や忍路からスクールバスで通ってくるようになると思うが、放課後、子どもたち同士が家に帰ってから遊ぶことが、校区が広がるので、そういうことは無くなっていく、遠い子とは。そうすると、幸の子は幸の子だけで固まって、塩谷や忍路の子はそっちの子でということになるという可能性は高い。それが少し心配だ。</p> <p>また、遠くから保護者も授業参観、懇談、学級行事、PTAの行事に来る、あと役員のことでも遠いから参加できないということで断られてしまうと、もともと幸小学校の校区の保護者に負担がかかると感じる。中々役員のなり手がいない中で、人数は増えるが、そういったところで本当に活気が出てくるのか心配はある。統合のことはあまり関係ないのかもしれないが、やはりそういう心配はある。子ども同士で遠いから遊べない、親がついて土日にその家まで行かなければならないというのは、関わりの中でどうなのかと思う。</p> | <p>校区が広がるので色々心配なことがある、それはそのとおりだと思う。校区が広がるということは、子どもたちの交友関係が増える。広がるということで、これまで学校の中では、それぞれの地区に関係なく一緒に学んで、一緒に遊ぶことはできると思うが、自分の住んでいる所よりも離れて住んでいる所の子どもについては、低学年であれば親と一緒になければそこにいけない。今の幼稚園がそのような状況になっている。以前、幼稚園はその地域の子を入れていたが、今は、幼稚園バスでどこでも行っているの、うちの子もそうだったが、遠くの子のところに行きたいとなると、休みの日に親が連れて行くということはあるが、そこは小学校においても校区が広がるのでそういうことは出てくるかと思う。</p> <p>PTAの役員のなり手がいないのではとの心配があると思うが、今後実際に統合の学校がはっきり分かった段階で、それぞれの地域からPTAの役員を、人数にそれぞれ違いはあるかもしれないが、出していただくような話し合いをすることも必要ではないかと思う。</p> <p>過去に統合した小学校の経緯を見るとPTA同士で話し合いを行って、それぞれの地域、元の学校のところからもそれぞれ出していかなければ駄目だという意見はあったと聞いている。</p> <p>おっしゃってることはそのとおりだと思う。忍路から長橋まで10キロ、多少の距離ではないと思っている。長橋や幸から見ればそういう見方になるが、忍路から見れば、地域でも学校の中でも十数人という集団でしかなく、もっと広がりを作っていかなければならないと思っている。仲の良い友達が出来て一緒に遊びたい、その子は10キロ先だというのは大変なことだとは思いますが、こっちから見ると極めて固定した交友関係、そこをもっと広がりを持たせていかなければならないと思っている。</p> <p>PTAの関係、つい最近の懇談会で、複式の小さな学校だが、その保護者さんからは、家庭実数が15の学校で、正直言って運動会とか色々な学校行事はPTAとして持ち切れない、大変だと言っていた。家庭実数15でPTA活動をしているわけで、そこは考えなければいけないというご意見もあった。</p> <p>この校長先生ではないが、以前郡部の学校にいた際に3～4校の統合を経験したことがあるとので、統合した後は小さい学校の保護者はすごく一生懸命にやる。大きいところに行って、どうい付き合い、子どもたちもそうだが、親同士の付き合いもどのようにしていったら良いのだろうか、小さいから参加しないということではないようだ。これが例になるか分からないが、こういう話のある校長先生から伺ったことがある。</p> <p>いずれにしても、子ども同士の交流はもちろん、PTA、保護者同士の交流をするということで、子どもも安心する部分もあると思うので、ぜひ、このところは一定の時間をかけてもお願いしたいと思っている。</p> |

塩谷・長橋ブロック

| 会場 | 会場での発言（質問・意見・要望） | 教育委員会の発言（回答・説明） |
|--------------|---|--|
| 幸小 | <p>7 一定の時間をかけてと言っているが、半年とか、1年とか、その期間がどのくらいか、具体的に決まっているのか。</p> | <p>繰り返しになるが、今日配付したこのリーフレットに年程度と書いている。「統合校が決まった後のスケジュールはどうなりますか」左側の吹き出しの下に、「2年程度かけて、保護者や地域の方の協力をもらいながら次のような事前の準備を行います。」としている。例えば、この1学期の時にこの地区はここを統合校としようと思ったとすれば、その段階から、まずは学校間での準備、保護者の方々との色々な話し合い、相談。校名とかを含めた部分で、そういう議論をしていただいて、もう1年置く。</p> <p>もう1年の中で、A校とB校では教材が違っているものを使っているとすれば、それぞれの学校でもう1年あるから、その学校にいる時から同じ教材でスタートしていき、そして次の年(に統合)。そういう意味で2年程度と書いている。これがあまり長くなっても。具体的な心配は、例えばA校、B校の統合が決まり、5年後となってしまうと毎年新1年生が入って来るから、統合先の学校に行った方が良いのか、今の学校にいて、1年で入って5年に統合するという、長すぎても色々な問題が出てくるので、私どもとしては、1年程度、学校間、あるいは保護者さん同士の協議をして、残りの1年で子ども同士の色々な交流をする。そして統合を迎えるというのがイメージだと思っている。</p> <p>ひと月くらい前に、仁木町で80人くらいの小学校と10人くらいの小学校が来年統合する。</p> <p>今年10人くらいの小学校の子どもさんが毎月1回大きな学校に行って交流をして、来年を迎えるという記事も読んだこともあるので、形としてはそういう形が望ましいと思っている。</p> |
| 長橋小 6月23日 | <p>1 色内小学校の子どもたちが通学するには、西陵中学校の方が近いと思うが。</p> | <p>隣のブロック、中央・山手地区ブロックがあるが、今回の学校再編は全市的に41校を六つのブロックに分けて、プランを示して協議を進めている。今日配付した資料に広報おたる5月号があるが、地区別懇談会を開催しますというところの裏面をご覧ください。中央・山手地区の中学校のプランで、中央・山手地区の中学校は、西陵中、菁園中、松ヶ枝中の3校あり、この3校を2校に再編することで意見を聞いている。このプランの中で、Aグループ、Bグループのどちらかを統合校ということで示している。この中で中学校の位置をどこにするか、2校にする場合に、市教委の考え方としては菁園中は適切だと考えており、もう1か所は西陵中、松ヶ枝中のどちらかとして色々プランを示しているが、松ヶ枝中は築50年以上経ち、建て替えの時期に来ており、建て替えを急がなければならない。プランでは松ヶ枝中学校は今の最上小学校を中学校に改造し、そこに新しい中学校を作りたいという案を持っている。その場合、中学校はそこが一つと、先ほど言った菁園中が、教育委員会としてこの2校が統合校として適切だと判断している。その場合に、西陵中学校は(再編後の)統合校の位置としては無くなるので、先ほどのピンク色の部分では、長橋中が近くなるので、その部分について長橋中に編入しようという考え方。</p> <p>その(ピンク色の)色内小学校の校区の部分について、長橋1丁目、2丁目の砂留地区は長橋中学校に、稲穂5丁目、色内3丁目は西陵中を統合校としない場合には手宮方面の中学校に、手宮方面の中学校も手宮小か手宮西小のどちらかを中学校にという考え方を持っているので、そちらへ編入することを考えている。あくまでも教育委員会が考えたプランであり、皆さん色々な意見があると思い、先ほどの説明のように7月22日まで36会場で順次説明していくので、その中で色々な意見をいただき、一回で終わりとはならないので、以降も意見を聞かせていただき、二回目以降に生かしていきたいと考えている。</p> |

塩谷・長橋ブロック

| 会場 | 会場での発言（質問・意見・要望） | 教育委員会の発言（回答・説明） |
|-----|---|---|
| 長橋小 | | <p>色内小学校と西陵中学校の地区別懇談会は先日終わり、長橋方面への編入案は、いくつかあるプランの中の一つということは説明した。それが良いとか、一番良いという話には、説明したばかりなので、まだなっていない。これから、何度か意見交換していく中で、地元の人が納得できる形にしていきたいと思っている。そのことと合わせて、説明の最後に触れたが、13ページの一番最後のところの四角ので囲み、小学校のプラン4と中学校のプラン2を選択する場合は、これは今のピンク色の場所のことだが、このプランをこのブロックで選択した場合は、中央・山手地区ブロックでの議論とマッチしなければならないわけで、西陵中、色内小の学校再編との調整が必要、お互いに納得づくでやっていかねばならない。一つは話がついたが、もう一つの、隣は話がついていないというわけになれば、話はまとまらないわけで、そこは並行して議論していこうということで、ここに書いている。</p> |
| 2 | <p>このプラン4の色内小学校区を入れた場合、幸小学校校区はプラン3のように広げるとことは考えていないのか。これだと長橋小学校が広がってしまうので、幸小学校校区をもう少し広げた方が、人数的には幸小学校に送れるのではないかと思うが、そういう案は考えていないのか。</p> | <p>こちらではプランを四つしか示していないということだが、色々なパターンを考え、その中で今回四つのプランを示した。先ほど言ったとおり、このプランはあくまでもたたき台であり、今言われたご意見でここを繋げる考え方もあるのではないか、こちらをもっと広げる案もあっても良いではないか、そのような意見を今日聞きにきている。他の会場でもそのような意見をいただき、今後プランとしてどういう位置関係とか校区を設定していけば良いのかを考えていきたいと思っている。今のご意見、貴重なご意見として伺いたいと思う。</p> |
| 3 | <p>（教育委員会の問いかけに対して） スクールバスは利用していないので、実感はないが、スクールバスであれば、普通のバスのルートでなくても走ることはできる。それであれば、自動車学校の付近から幸小学校に向かっても良いかと思う。実際にはバスに乗り遅れた場合、路線バスを利用して帰りたいといった場合は、普通のバスが通っているルートの方が良いのではないかというはあるが、今日は（4年生の母親ですが）見学旅行に行き、普通のスクールバスが4時40分1本だけ、到着予定が4時10分だったが、帰って来たのは25分くらい。中には30分くらい待たされるのではと心配して迎えに来ている親御さんもおられた。実際は、時間的にはちょうど良かったと思うが、ちょっとぎりぎりだったかと思った。そういう見学旅行とか修学旅行の場合に心配されている方もいるので、路線バスで帰れるルートの方が良いのかとも思うが、うちは実感がない。 27年度は娘が中学生、下の子は4年生になるので、プランだけみると、人数の割り振りで考えるとプラン4に幸小学校はもう少し校区を広げた方が人数的にはバランスが良いのかと思って見ていたが、路線バスのルートなどもあると思うので、このままスクールバスという形で運行されるのであれば、また考えも違うが、いずれ路線バスに戻すというのであればバスの便の良い方法で割った方が良いのではと思う。路線バスの方が時間を気にせず、定期で乗れるという意味では良いと思うし、スクールバスは帰りに2本くらいしかないので、掃除、委員会、クラブ活動で遅れた場合に心配という話は良く聞く。</p> | <p>こちらから問いかけをしたいと思うが、このプラン3でオタモイの自動車学校、給食調理場付近は長橋小学校の通学区域になっていて、そこから以前は路線バスを使って、今は、2年前から市でバスをチャーターしてスクールバスとして運行している地区だ。プラン3では、統合校が長橋小学校ではなく、幸小学校としている。同じ幸町、国道、JR線、地形とか地理的なものも考えて、このようなプランもあるのではないかと提案している。これについて率直な感じを持っているか、関心があるか。どうか。</p> <p>現在、長橋小でスクールバスを利用している児童が110人くらいいて、今のプランのように幸にということになれば、やはりこの方達の意見を聞いていかなければならない。貴重なご意見として、スクールバスもあるけれども、路線バスが通っていた方が何かあった時には良いということで受けとめたが、それでよろしいか。現在スクールバスについては、学級閉鎖や午前中に終わる場合など、柔軟な対応ができるようにしているが、限界はある。それが一つということでご理解願いたいと思う。また、いただいた意見は今後の議論に生かしていきたいと思う。</p> |
| 4 | <p>耐震化工事の件は分かったが、学校の敷地自体はこのままか。長橋小学校の敷地はこのままか。</p> | <p>敷地については、別に変更は考えていない。</p> |

塩谷・長橋ブロック

| 会場 | 会場での発言（質問・意見・要望） | 教育委員会の発言（回答・説明） |
|--------------|--|--|
| 長橋小 | <p>5</p> <p>これだけ地域が広がると参観日の時など来られる親御さんが大変かと思う。運動会の時も自家用車で乗り入れないようにとは言っているが、毎年問題はあるので。自動車学校の方から来るとなるとお弁当とか荷物を持って車で来たいという方ももちろんいるし、参観日の時のご遠慮くださいと言っても、長橋は近いといっても線路の上の方だとバスに乗るまで不便だったりというがあるので、なおかつこれだけ広がると学校へ来る機会に車で来る方が増えると思う。このままの敷地、親御さんの車のことまで考えるのはどうかと思うが、さらに問題が増えるのではないかと心配も多少あるので、そこら辺はどうお考えなのか。</p> | <p>もっともな話、現実的な話したと思う。敷地については、簡単に広げることもできないので、建物が建っている部分や遊具の部分もある。お母さんの話は現実的な問題として差し迫ってきていると思うので、学校とも相談し効率的に車を停める、又は遠方の方は車で、近くの方には遠慮いただくなど、個別に対応していかなければならないと思う。</p> |
| 忍路中 5月25日 | <p>1</p> <p>今回の話で小さな学校は一切残さないという考えなのか、はっきり聞きたいと思う。</p> | <p>昨年度この会場で、適正化基本計画の素案をお示した時も、そのような議論はあったと思うが、私どもが再編に当たって考えているのは、ここを例にとると、小学校で6年間さらに中学校で3年間子どもたちが固定された人間関係で過ごすことを考えると、学校再編は必要だという前提に立って中学校で9学級、小学校で12学級の規模にしていきたいというのが、基本的な考え。</p> |
| | <p>2</p> <p>去年の説明会でも適正な規模という話が出たが、北海道でも人口が減っていて他の町でも適正配置を行っているという根拠になるものをきちんと出してほしい。こうすれば子どもたちにとって、教育効果が上がるのか。ここの学校では小学校からクラス替えがなく、再編していきたいという話があったが、多分、前に座られている皆さんは、学級数がそこそこの学校で育っていると思う。私自身は、小さな学校で育って何も困ったことがなく、胸を張って自分の学校が良かったと子どもたちにも話している。そういった中で、教育委員会が規模が適正ではないから、この学校はだめだと言っているように聞こえてしょうがない。それを子どもたちに言ってしまうと、この学校で自分が学んでいることは、あまり良くないと感じてしまうのではないかと思うが、まず適正な規模の根拠になるものを示してほしい。</p> | <p>昨年時の時の繰り返しになるが、まず規模の小さな学校を全く否定するものではないということをご理解願いたい。基本計画の中でもその長所について書いている。ただ一方で、クラス替えができないなど何点かある。一つは、先程発言された方から、根拠は何かとあったが、中学校で言えば、教科担任制ということで、一定の規模がなければ、専科の先生が、確保できないという点がある。9学級で16人の先生が配置されることになるので、多くの教科で専門の免許を持った先生の指導を受けられるということがある。そういうことから9学級を基本的に考えている。</p> |
| | <p>3</p> <p>先程、教育委員会の方が安全で、なおかつ安心して通える学校づくりのために学校再編をします、と話されていたが、耐震化によって、耐震強化を図れば、それで安心なのかという疑問がある。楽しく通える学校が子どもにとっても親にとっても、安全で安心な学校だと思う。その辺はどう考えているのか。</p> | <p>耐震化の関係だが、市内には多くの学校があるので、診断をして一定の順位を決めながら取り組んでいるのが実態。もちろん、校舎の安全性は当然確保していかなければならないから、そういう意味では、耐震化に向けた取り組みというのは、必要だという認識は持っている。</p> <p>昭和56年以前に建てられた校舎というのは、今の耐震基準を満たしていない、そのような校舎をたくさん持っているので順番は一定程度つけていかなければならないが、校舎の耐震化は進めていかなければならない。また、建築から40年以上経っている校舎については、耐震化工事だけではなくて建て替えということも考えていかなければならない。</p> <p>それから先程言われた安全、安心という意味では、私どもも施設のことだけだとは思っていない。通学路の問題、交通安全、暗い道など色々な部分での学校の安全、安心を当然考えている。また、それに対する対応もしていかなければならないと思っている。</p> |

塩谷・長橋ブロック

| 会場 | 会場での発言（質問・意見・要望） | 教育委員会の発言（回答・説明） |
|-----|--|---|
| 忍路中 | <p>4</p> <p>それでは小樽市が適正規模としている以上、この後どんどん人口が減って、今現在平成27年度の子どもの数で適正な学校の数としているが、この後10年、20年後、さらに人口が減った場合、また適正配置をして、適正化規模にこだわって学校を再編して行って、どんどん小樽市に人が来ない方向に向かっていくのではないかと思います。とても、子どもを育てたいという若い人がいる町ではなくなってしまふような気がしてならない。その辺はどうお考えか。学校再編はどんどん繰り返していくのか。</p> | <p>なかなか難しい問題。子どもの数というのはある面、親の数、人口の問題だと思っっている。残念ながら小樽市ではここ数年、二千人ずつ人口が減っているという現状がある。市としては人口対策でどういったことができるのか色々な取り組みはしている。基本的には雇用、働く場をどうやって確保していくのかというのが問題になると思う。残念ながら、日本国中を見ても、全体としても、人口減の局面に入っていて、もちろん地域的には東京など増えているところもあるようだが、札幌はもう頭打ちになってきている。全体的には減ってきている状況にあるようだ。私どもがこの計画を立てたのは、10年後、15年後がどうなっているのかと聞かれても、私どもは市の人間なのでなるべく人口は現状を維持する、または少しずつ増えるような政策は打っていきたいということは色々なところで申し上げているし、政策を進めているところでもある。ただ今回お出したのは、人口統計で出すと、小樽市は、十年後には十万人を切るのではないかと議論はあるが、現実に平成27年ということでこの計画を作っているのは、一昨年生まれた子どもさんが、小学校に入ってくるころまでを見通して小樽の子どもの数がどの程度になるのか、そういった中で小学校については12学級、中学校については9学級という一つの基準を持って地区毎の学校再編を進めていく必要がある、そういう考え方で示したものだ。ですから、この先20年後に、これよりもさらに半分になったら、学校数も半分になるのかという議論ではなく、今現実に見通せる子どもさんの数をベースにしてこの計画を作ったということは、まずご理解をいただきたいと思っっている。現実的に昨年、736人のお子さんが市内で生まれている。これが、遠い将来に二百人になった時に、今の学校をずっと維持するのかと言われれば、その時期になれば考えなければならない時が来るのではないかと思っ。ただ、私どもこの計画を立てたのは、昨年生まれた子どもさんが、大きくなって学年進行をしていくからその児童・生徒数の中で、どういった学校配置をすべきなのかということを示している計画だということで、ご理解をいただきたい。</p> |
| | <p>5</p> <p>このプランを見ると、この中学校は長橋中学校行きということになっているが、教育委員会は、学校教育推進計画の中で、地域に開かれた学校を目指してくださいとか、子どもを育てる上で、学校だけではなく家庭や地域の力も必要だと一生懸命力説していたが、それが、11キロも12キロも離れた学校に行くと、この地域は子どもたちを見ることがなくなってしまうのではないかと、子どもたちはスクールバスに乗って学校へ行き、バスで帰ってくると家庭に入ってしまう、行事すら何をやっているのか分からない。そんな中で地域にとっての学校というものをどのように考えているか。切っても切り離せないものだと思う。そのことについてはどのように考えているか。</p> | <p>地域と学校との連携とか、地域の行事で子どもたちが参加するということを否定する気持ちは全然ありません。徒歩で帰れるところに学校があつて、そしてその学校も一定の規模があるというのが望ましいと思っ。先程も言ったが、この体育館が建ったのは昭和47年、校舎が建ったのが49年です。この頃の中学校の生徒数は、150～160人くらいいたが、それがこの30年程度を経て、去年が15人、今年11人という規模になっている。この先平成27年度までの数字で見っていく限り、20人を少し超える数字で推移していく中で、私ども教育委員会としては、小学校中学校については一定の規模を持って、様々な学校の勉強や部活、友人関係について考えた場合、学校再編をしていくべきではないかということ考えている。ですから、この地域に学校がなくなるということ考えれば、単純にあつた方が良く思っっている。ただ現実に11人という規模が良いのかどうか。それについては皆さんと色々意見交換をし、議論をしていかなければならないと思っ。</p> |
| | <p>6</p> <p>規模を考えて学校作りをした場合、この中学校がなくなるということになってしまふが、このブロックの中で長橋中学校と塩谷中学校と3校あるが、忍路中学校は、不登校の生徒が数十年出ていると思っ。それは子どもたちが、楽しく学校に通えている、それは先生方のおかげでもあり、地域のおかげでもあるが、そういう学校がなくなるのはおかしいと思っ。不登校の子どもへの対処については、どのように考えているか。</p> | <p>不登校について、確かにこの学校では、数が少ないというか、指導上の問題については、そのような傾向もあると思っが、一概に小さな学校だからない、大きいから多いとはいえないと思っ。ここでは、先生や地域の力もあつて、子どもたちが健やかに育っていると認識をしている。ただ同じようなことが大きな学校であっても、適正な規模の中で、子どもが遅く育っていくことも私どもは考えているし、子どもに目が届くような生徒指導上の配慮についても考えていきたいと思っのでご理解いただければと思っ。</p> |

| 会場 | 会場での発言（質問・意見・要望） | 教育委員会の発言（回答・説明） |
|-----|--|--|
| 忍路中 | <p>7</p> <p>不登校に関して、今年の春はいなかったが、ここ2年ぐらい続けて他の地域から受入れて、ここに進学している子どものお母さん方もすごく喜んでくれている。他の学校で、たまたま通いやすかったということもあったのだろうが、普通であれば、中学を卒業して高校進学は諦めなければならなかった子どもが一步踏み出せたというのは、この学校の特徴だと思う。しかし、教育委員会は、人数がいなければとかたくさんの中で育てなければというような言い方をするが、この人数ではだめなのか。高校へ行けば黙ってても40人学級になるし、たくさんの友達もできる。さらに大学に進学すれば、友達ももっと増える。この小さい学校ではだめなのか。</p> | <p>小さな学校がだめだということは私どもは毛頭考えてはいない。不登校の子どもたちが、高校へ進学していったことも聞いている。先生の努力もとてもよく分かる。私自身小さな学校にいたこともある。人間関係が一度崩れてしまうと、修復できずになかなか変わらないという例もあるし、そのことによっても高校に行ってからもなかなか難しかったりするという話も実際にある。忍路では実際良い環境で子どもが育っていったと思うが、ではそれがすべてに当てはまるかという一概には言えないと思う。大きな学校に行って、適正な規模の中で子どもたちが遅く育っていった、頑張ってもらえるように適正な規模と配置を考えているところであり、一概に小さいからだめだとか大きいから良いだとかの話にはならないと思う。</p> <p>先生方の人事について、この学校の保護者の方から、5教科だけは、免許を持っている先生をということで話があったので、私としましても去年と今年先生方の希望を優先しながら、条件に合うように、この学校で頑張りたい、という先生がいらしたので、子どもも先生も活力ある学校で進めてこられている。もしここにこられる先生の希望が、ある教科についてないという状況になると、それなりの規模であれば免許を持つ先生を揃えることは可能だが、校長先生を入れて5人で9教科を揃えるということは、大変ではないかと思う。希望どおりに、免許を持つ先生を揃えることができない場合が出てくると思う。9学級になると、先生の数は15人確保できるので、小さい学校が決して悪いということではないが、また、この学校で不登校の子どもが立ち直れたということは、先生方の全力をあげた姿が反映したのではないかと思う。ですから、この2、3年は、たまたまお母さん方の希望でこのような人事だったが、それがもし、3教科ぐらいしか免許を持つ先生がいなくて、あとは全部免許を持たない先生ということになると、課題は多いと思う。先生をはじめ、保護者の方が全力をあげて行っているということは、私も承知をしている。</p> |
| | <p>8</p> <p>通学のあり方に関してだが、プラン1も2も、長橋へ通学という話になっているが、この場合、忍路は人数が少ないから1便しか出ないとなると、子どもの体調により、乗り遅れてしまうことがあった場合、また帰りについては、部活などで、その子によって帰る時間が違う。この時期は、中体連に向けての練習もあるから、それが終わって、バスで帰って来ると20分ぐらいバスに乗って、ここからさらに奥に住んでいる子どもが歩いて帰ってくると7時、8時になる。天気の良い日なら良いが、吹雪いたり雨降りだったりすると、通学時間がどの程度になるのかということの検証はしているのか。ただ国道沿いに住む子どもの通学時間だけを地図でなぞるような話ではなく、一人一人生徒の家は違うので、例えば、忍路の港の近くに住んでいる子どももいるし、蘭島でも海側の奥の方に入っていた子どももいる。そういったことは、どう考えているのか。</p> | <p>今日配付している、「統合を進めるに当たって」という資料の中で、統合校の位置を決めたあと、通学についてはバスの利用もある。また徒歩の場合でも、この場所は道が狭いとか、夜は暗いとか問題は出てくると思う。それは、文字どおり具体的に通学路の選定や通学の安全上の問題として、準備期間の中で統合に至るまでの間、具体的に議論をしていかなければならない部分だと思っている。この地区では、小学校の再編プランについても先程話を少しさせていただいたが、この地区での可能性としてお聞きいただきたいが、一般的に小学生としてはスクールバス、中学生については路線バスの定期代を助成するというのが仕組みとなっている。ここの地区については、帰りは難しいかもしれないが、小学校も中学校もスクールバスということも考えていかなければならないと思う。これは今後の議論だが、議論の素材となると思う。帰る時でも、他のところの小学生は、銭函、長橋ではスクールバスを運行している。中学生では部活などの面からスクールバスは逆に難しいだろう。ただ、路線バスの朝の時間帯、1時間に1、2本しかない場合については、説明会でも話させていただいたし、銭函方面の経験面でもあるが、通学時間に合わせて、普通の路線バスのダイヤのほかに、スクール便という言い方をしているが、そういうようなものもバス会社と話をして出した経緯もある。いずれにしても今おっしゃった課題としては、文字どおり統合へ向けての色々な課題の中の一つの大きなものと考えている。</p> |

塩谷・長橋ブロック

| 会場 | 会場での発言（質問・意見・要望） | 教育委員会の発言（回答・説明） |
|-----|---|--|
| 忍路中 | <p>9 統合が決まらないうとそういった踏み込んだ話し合いは始まらないのか。統合が決まった後に思っていたのと違うということになりそうな感じがするが。バス通学を考えると、普通の人、スクールバスが出るとイメージしていると思う。それが路線バスの利用となると、ちょっと話が違うのではないかと思う。そういったプランもきちんと考えて、統廃合の考え方を出さないと色々な部分から賛成して良いものかどうか判断がきちんとできないと思う。実際、統合した場合に言っていたことと違う部分がいっぱい出てくるのではないかと思う。その辺はどう思うか。</p> | <p>今回プランの中では、13ページの最後のところで「バスによる通学になります。」としている。今現在小樽市内では、400人ぐらいの児童生徒がバスによる通学をしている。その形態は、忍路中央小学校では、スクールバスを走らせている。バス会社に委託をして専用のスクールバスを走らせている長橋小学校と銭函小学校、それから、路線バスを利用して張碓小学校に通っている、あるいは、北山中学校に祝津の子どもさんが、中央バスで通っているなど色々なやり方を併用してやっている。それでこのブロックではどういう形が良いのかというのは今後の話し合いになるが、今日すべてを決めるというやり方ではなく、その辺の具体的なプランに触れられていないような要望とか意見交換の場としたいというように話をしたので、今の話ではバスの利用形態について明確にもらった方が議論しやすい、というような意見だと思うが、それでよろしいか。</p> |
| | <p>10 決定する前に、全部のことを教えていただかないと、ということです。</p> | <p>今日のこの場で要望という形、条件という形で言っていただいて良いが、長橋に統合するとした場合に、中学生も路線バスではなくて往復スクールバスにして欲しいということがあれば、教育委員会がどのように考えているかということではなく、そのようにして欲しいということがあれば、私どもはそれを持ち帰る。今現在、200人ぐらいの小学生がバス通学で通っているが、中学生がこういう形、小学生はこういう形ということで話はしたが、仮にここの忍路から長橋へ行くのにこのようにして欲しい、すべきだということがあれば私どもはお伺いする。</p> |
| | <p>11 この統廃合の最終的な決定、どこを統合校としてやるというのは、どのように決めるのか。どういう基準で決めるのか、ふと疑問に思ったものだから。</p> | <p>今回の統合、学校再編の進め方というのは、A校を二つに分けてC校とD校にするという枠組みでは考えていない。今日示している塩谷・長橋地区での小学校の数、中学校の数を示していくつかのパターンを出した。配付した資料の中に、「この資料は地区別懇談会で参加者の活発な意見交換ができるという観点から作成したものです。」と書かせていただいた。これは昨年5月～7月まで、素案の説明会を行い、その中で「議論をするために、教育委員会でたたき台を作ってそして懇談会を行って」という意見をいただき、それを踏まえて出させていただいている。そして、この度全市36会場で懇談会を行う。その意味では、小樽中の意見を全部聞くということではなくて、このブロックでは、このブロックの意見をまずお聞きして、条件面でまず私どもがお答えをしなければならぬ部分をまとめて次の段階に進んで行こうと考えている。今の段階ではまず教育委員会がお示したたたき台の説明をして、それに対してご意見をいただくという進め方を考えている。小さな学校を残すべきではないのかというご意見だろうと思っている。私どもご意見としてはもちろんお聞きする。まずは、市内を一回りして次の段階でということ考えている。</p> |

塩谷・長橋ブロック

| 会場 | 会場での発言（質問・意見・要望） | 教育委員会の発言（回答・説明） |
|-----|--|---|
| 忍路中 | <p>12 今中学校のプランが二つあるが、これ以外にも出るということか。</p> | <p>教育委員会としては二つのプランを出して、これが適切だという言い方をしている。教育委員会としては、この二つのプラン以外に出すという考えを持っていない。ただ、懇談の中で参加された方からこういうプランもあって良いのではないか、ということは当然出てくると思う。その議論の末、実際に再編するときには違う形になるということはあると思う。もちろん統合校としての考え方も出している。今日も示しているが、図面で違う色になっている部分についてどうだとか色々なことが出てくると思う。私どもとしてはこの統合の案としては長橋中学校が適切だと申し上げている。それに対して、いやそうではない、真ん中の塩谷中学校が良いのではないかと議論が出てきても、それを私どもは一つのご意見としてお聞きしなければならない。他の会場ではどうのご意見が出てくるかお聞きしたい。ただ、ご理解いただきたいのは、子どもが減っていく現状。今年小学校に入ったお子さんは、平成15年生まれだが、この年の小樽市の出生数というのは、930人くらいあった。先程も少し触れたが、去年は730人台だ。この間の6年間だけでも、200人落ちている、そういった中で、私どもとしては現状の小学校41校のままですとずっといくということは考えられない。学校再編をしていくということをご理解いただきたい。これは全体的な議論だ。</p> |
| | <p>13 統廃合を効率よく進めなければならないというのはよく分かるが、その際、なくなってしまう学校について、耐震化について一切手をつけないという考えが読み取れてしまう場合がある。学校とは離れるが、ここは地域の避難場所になっていて耐震基準をクリアしていない学校をそのまま残しておくのか。そういった部分は、市の方でどう考えているのかお聞かせ願えるか。</p> | <p>学校の適正配置計画と合わせて、私どもは再編計画の後、学校をどうしていくのか、ということを考えていかなければならない立場だ。学校の土地も市の財産であり市民の財産なので、これについては市民の皆さんのご意見というものを十分に聞いていかなければならないと思っている。その意見を聞く場というのは、一つには、地区の懇談会があると思う。そのあとには、学校の再編計画ができた後の説明会、そのあとには協議会という場もあるので、そういった場も通じながら皆さんの意見をいただきながら考えていきたい。その際には学校の持っている特性というものもあって、今話があったように学校は避難所としても使われていることがあるので、そういったこと、あとは地域の特性、そういったものも考えながら、市としては全体的な観点から考えていきたいと思っている。当然避難所として機能を有している学校を残していく場合については、耐震化がどうなっているのかということも十分に考えていかなければならない。皆さん方のご意見をいただきながら十分に跡利用については考えていきたい。残す以上は耐震化については、しっかり考えていかなければならないと考えている。</p> |

塩谷・長橋ブロック

| 会場 | 会場での発言（質問・意見・要望） | 教育委員会の発言（回答・説明） |
|----------------------|--|---|
| <p>忍路中</p> | <p>14</p> <p>この後の流れについてどのように進めていくのか見えてこないで具体的に教えていただきたい。私は大きな学校であれ、小さな学校であれ、その地域に根差した学校作りで子どもたちが楽しく通えれば一番良いのではないのか、安心して通える学校が一番なのではないかということをごすく願っている。ただ学校規模、適正な数というものにあまり踊らされないでほしいというのが願いだ。これからの、今後の流れについて教えてほしい。</p> | <p>これからの流れだが、先程私の方からお伝えしたことに重なる部分もあるが、この地区別懇談会は7月22日までほぼ毎日やっている。そこで、小樽の小学校41校全部の方々と一当たりやっというと思っている。その中でいろいろ意見をいただいでいく。</p> <p>次の段階は、今日はこの地区のプランを、この会場で、説明をして了解されたとは全然思っていない。そちらの方から、最後にまとめた意見もいただいたし、このような意見が出たということについては認識をしていかなければならないと思う。</p> <p>次の話の段階だが、一つはこうして個別のPTAの皆さんや地域の皆さんとお話をしていくという場面ももちろんあると思う。ただ場合によっては、地域の小・中一緒に話をするという場面もあるのかと思うし、それから中学校同士、この地区では中学校を1校にしたいと考えているので、対象になる学校は3校あるので3校で話をする場面もありうるだろうと思っている。また、色々な想定、色々な場面というものはある。ただ、去年の素案説明会の時にも、この会場でお話をさせていただいたが、大きくはこの計画は前期と後期に分かれている。前期は今年平成22年から平成29年までの8年間としている。ただこれは29年度にやるということではなく、一定程度その地域の合意、了解されたところから順次進めていこうというのが基本的な考えで、この地区は何年に、あの地区は何年にという進め方ではなく、まずは一当たり説明させていただいて、それでまた次の段階に進めていきたいと考えている。</p> |
| <p>長橋中 5月28日</p> | <p>1</p> <p>小学校の方は長橋小学校が平成22年度に耐震補強工事を行い、長橋中学校は平成23年度に耐震補強工事を行うということが載っているが、その補強工事だけで校舎の安全が保たれるものなのか。それは、この先何年間、その補強工事によって校舎を使用していける目処があるのか。</p> | <p>耐震補強工事は、昭和56年に耐震基準が変わって、新耐震と言っているが、56年以前に建てられた校舎や体育館については耐震補強工事が必要となっているが、長橋小は今年(工事に)入っている。長橋中は23年度予定だが、耐震補強工事をやることによって震度6強までの地震に耐えられるということになっていて、校舎、体育館、施設については、それぞれ耐用年数があるので、それについては耐用年数、校舎が使えるまでは、耐震補強工事をやっていたら大丈夫ということになる。</p> <p>耐震補強をしたからといって、100年もつとか、200年もつとかという話にはならない。耐震補強工事と建物自体の老朽化というのがあるので、それがずっと続く、耐えられるということではない。小樽市内の小学校27校のうち19校が耐震優先度調査をした結果、耐震補強が必要だという結果が出た。中学校でも14校のうち10校で優先度調査の結果、耐震補強工事が必要だという結果が出ている。教育委員会としては一定の考え方を持っており、長橋小学校、長橋中学校と順次補強工事をしていく考え。</p> |

高島・手宮ブロック

| 会場 | 会場での発言（質問・意見・要望） | 教育委員会の発言（回答・説明） |
|-------------|--|---|
| 祝津小 7月8日 | <p>1</p> <p>これについて、保護者と話したことがあるのか。私はこのことについて初めて聞いた。保護者に対しても説明をしているのか。</p> | <p>去年の5月14日に、ここでこのような説明会をやっている。この基本計画の段階では高島・手宮地区の小学校は現在の5校を2校にしたいという考え方で出している。去年言ったのはそこまで。今回のようにAグループ祝津高島地区と、Bグループ手宮地区でこういうプランを出してそれぞれどういう課題があるのか。教育委員会としてはこの祝津高島地区では、統合校として高島小学校の方が適切ではないか、こういうある意味踏み込んだ、具体的なプランを出したのは今回が初めてだ。</p> |
| | <p>2</p> <p>分った。ああだ、こうだ言っても結局このように進めていくことになるのだろう。浜で聞いた保護者の話では、残るのなら残してもらいたいが、説明を聞くともうこのように進めると聞こえるのだが。</p> | <p>学校再編の考え方で説明があったように再編の必要性というものはある程度、基本計画の中で決定をしたということで、次の段階で、再編するに当たって、このブロックのこのグループの部分ではどこを統合校として使うのが一番良いのか、そういう議論に入っている。</p> |
| | <p>3</p> <p>現状でいくと、ここにいる方はほとんど今の小学校の児童の現状などを見ると理解はできると思う。確かに、今生徒が少なくなっている状態で、12人という人数は中学校に行った時に規模の面で全然違うものになるということもあると思う。ただ私たちにすれば、地域とすれば、学校というのは、特に今日こられている方は昔PTAの会長などをやっていた方で、この学校を建て替えた時の会長、副会長もいるので、跡地利用だとか、これが何もなくなると、地域で避難場所になっている部分もあるのでそのような考え方も教えていただきたい。</p> | <p>地域の皆さんの気持ちについて、十分に理解をしているつもりだ。今あったとおり、昭和63年にここの学校を建て替えたがその時の子どもの数は80人、クラスは6学級あって複式ではなく6クラスだった。この祝津小学校で複式が始まったのが平成14年から、複式の学級が出てきて、もう8年経っている。今日お配りした資料2ページのところに、平成27年度推計ということで、小学生と中学生の表をつけている。小学生でいえば合計で543人。今現在何人いるのかというと682人いる。平成27年というとそう先ではないが、それと今と比べても、140人程減ってしまう。これはもちろんここだけではないが、高島・手宮地区全部含めてだが、中学生も今現在でいうと400人程いるが、330人程になってしまう。全市的に少子化が進んでいる中で、41校の小中学校をもち続けるということは、現実的には考えにくい。地域の歴史、祝津小学校の歴史、ここに教育所が出来たのは明治9年で、高島の方へここから分かれていった。学校の成り立ちも、祝津の方が古い。その意味では地域の方の学校に対する思いは、色々あるということはあるが、やはりこの先この学校が10数名で推移していくことは、何とかしなければいけない。ここところは、ぜひご理解いただきたい。そして今、お話のあった跡利用やまちづくりの関係では、今日企画の担当者も来ているので考え方をそちらのほうから説明させる。</p> <p>具体的なことは言えないが、一般論ということで聞いていただきたい。教育委員会では昨年11月に学校配置適正化の基本計画を作っている。この中で廃止となる学校施設の跡利用の考え方が示されている。「統合により廃止となる学校の建物や土地の利用については、市民の共有財産として、全市的なまちづくりの視点で地域の皆さんの意見や要望を聞きながら検討します。」ということになっているので、まず、跡利用については、地域の皆さんのご意見を聞くということが大前提になっている。それから質問にあったとおり、市内の小中学校すべてが、市では地域防災計画の中で避難所に指定している。もう一つは、特に小規模校にいえることだと思うが、教育の場としての機能のほかに、コミュニティ形成の場としての機能も果たしている。そのようなことに配慮しなければならないのではないかと考えている。ただやはり施設として残す場合、財政的にどれだけの費用がかかるのか、あるいは、例えば、残した施設を地域の皆さんで維持管理していけるのか、そういった色々な問題もあるので、そういったものも考えていかなければならないと考えている。小中学校の統廃合というのは、全国的に少子化傾向で、本州でも、学校の跡利用を色々な形で展開している。私もそういった先進的な地域でどのように使われているケースがあるか調査をしているところだ。いずれにしても、この地区別懇談会とは別に学校の跡利用については、地域の皆様、保護者の皆さんの意見を聞く場を設けながら、跡利用を議論させていただきたいと思っている。一緒に考えていきたいと思っている。</p> |

高島・手宮ブロック

| 会場 | 会場での発言（質問・意見・要望） | 教育委員会の発言（回答・説明） |
|-----|---|--|
| 祝津小 | <p>4 小学校の方ではプラン2がかなり有力だと思うが。ここで祝津小学校を増築するという形は多分ないというのが流れたと思う。そこで次にあるのが、高島小学校の耐震化工事になっているが、実際この耐震化工事というのは期間にしたらどのくらいかかるのか。年単位なのか何ヶ月単位なのか。この間高島小学校に通っている子どもたちはどのようにするのか。</p> | <p>今、小樽市内では5校の耐震化工事を行っている。耐震化するにはどのような段取りを踏まなければならないか、まず耐震診断をしなければならない。その次に実施設計、どういう工事をすれば耐震化が保てるか。それから、工事を始める。そういう流れになっている。長橋小学校を例にとると、長橋小学校では耐震診断を始めたのが、20年の10月、そして工事の予算化をしたのが21年の暮れで、実際に工事を始めたのが今年の春くらい。診断をやることによってその建物が、どれくらい危ないか、耐力がどの程度なのかが判る。その次に、それを耐震補強するために、どのような工法が良いかを考える。そして、いくつかの工法が出てくるので、例えば、プレスという筋交いを入れたり、柱を補強するとか色々な方法があるが、診断をやって工事に至るまで順調にいったら1年半くらいの期間がかかる。先程も話をした長橋小学校で初めて耐震工事に入るが、基本的には、普通に学校を使いながら、補強工事是可以する。今それぞれの学校でも、音の大きく出る工事は基本的に夏休みにやる。それほど音の出ない工事は、普段の時にやるという形で行っている。期間としては結構かかるということになる。</p> <p>このプランの選択によって、高島小学校が統合校ということになれば耐震診断から始めていかなければならない。耐震工事はしなければならないだろうという優先度としては確定しているが、実際にどの程度の工事になるかの調査のための診断は専門の業者で判定をしてもらう必要があるので、その辺のところを次のステップに進むためには、それぞれの懇談の中である程度の方向性や合意が必要になっていくと思う。</p> |

| 会場 | 会場での発言（質問・意見・要望） | 教育委員会の発言（回答・説明） |
|-----|---|--|
| 祝津小 | <p>5 合意に至ると、今説明にあったことが開始されるということでは分かった。その合意に至るとはこのような話し合いをあと何回やればということになるのか。要するに今いる保護者が納得すれば、それが合意ということになるのか。</p> | <p>他の会場でも合意という部分がどうなのかという質問をいただいている。まずこのような懇談会に来て皆さんのご意見を聞きながらということを進めていることは、お話をさせていただいた。ただ一ついえるのは、皆さんの中で、「賛成出来ますか。」と多数決をとるようなそのようなことはしない。私達が考えているのは、進め方として、一つは、プランを持って5月17日から各学校41校を対象に、懇談会を開催しているが7月までに一当たりして今度はその中で保護者の皆さんや、ここであれば統合の対象としているのは高島小学校なので、そのPTAの方も含めた話し合いというのも今後の夏休み明け、2学期以降になるが、合意という部分でいうと、このような場で何回か話をさせていただいて、その中で一定の判断をさせていただくので、そこまで何回かと言われると具体的には難しいが、このような懇談の場を経て、次の段階に入っていくことで考えている。</p> <p>去年の5月14日にここで説明会をさせていただいた。その時に、前の会長さんからの発言で、このように子どもが少なくなっている状況の中では、やはり統合はしていかなければならないだろうと、いったご発言もあった。それは、前の会長さんのご意見で、それはそう思ったが、もう一方、時期はいつかということでは、私どもが思っているのは「統合しましょう」もっとぶっちゃけていうと、「高島に行きましょう」ということにするとしても、今日、保護者の方に来ていただいているが、ここから高島小学校までは2キロくらい、これは中々歩いていける距離ではない。祝津線の通りを歩いていくが、郵便局の所から上がって行って、霊園に行くところになると家もまばらになってそこから降りて高島に行くことになると思う。そうなった場合、バスの関係がどうなるかなど色々なことがあると思う。それから統合すると決めても、端的に言って、今現在12人のお子さんが通っているが、高島小学校は370から380人と小樽市内でも大きな学校だ。統合するまでの間、何回か事前に交流をする。1ヶ月半ぐらい前だと思うが、仁木でも学校の再編をやっている、そこでは10人くらいの学校と80人くらいの学校が統合することになっているが、月に1回その10人くらいの学校の子がそちらにいて交流しているという記事を新聞で見た。そのとおりということではないが、色々な形での統合の準備、子ども同士の準備も必要だし、保護者同士の交流も必要だ。それから、学校の先生同士の、例えば、祝津では今までこのような指導計画でやっていた、それが、2年生で移る子、3年生で移る子色々いるので、それを高島が受けた場合に、支障なくやっていく場合には、事前の打ち合わせが必要だ。そういう意味では、統合が決まると1年くらいは、そういうことでの準備をやって、そして迎える。</p> <p>今までの経験でいうと、東山、石山、住吉、堺小での統合の経験があるが、どの学校でも地域の方々が中心になって閉校に向けての色々な記念行事に取り組みされるし、私が知っているのは1年間の記録をCDに作って、子どもに渡すなど、色々な取り組みをするので、そういうことも当然必要だろうと思っている。そういうことも含めて、今決めたから来年春ということではなく、一定の余裕は持って、統合の準備をやって、それは保護者同士していただきたいし、必要であれば私どもも入るし、高島小学校とここの橋渡しという部分では、当然、教育委員会が入ってやっていく。お配りしてある青いリーフレットには、実はそのことを書いている。仮に統合が決まった後のスケジュールとしてどんなことをやっていくのかということについて書いてあり、私どもとしては、是非、保護者さんの中でこのようなことも含めて、統合するかどうかだけでなく、こういうことも含めて十分話し合いをしていただきたいと思っている。</p> |

高島・手宮ブロック

| 会場 | 会場での発言（質問・意見・要望） | 教育委員会の発言（回答・説明） |
|-----|---|--|
| 祝津小 | <p>6 ホームページを見たが、計画の前期は平成22年度から29年度の8年間というのは変わっていないのか。</p> | <p>高島小の懇談会は、6月23日に行った。高島小学校の保護者のご意見ということで、先程中学校の関係で末広中学校の説明をさせていただいたが、それとの関連で末広中学校の通学路の暗さへの心配をお母さんからいただいた。私も先程言った、手宮小学校か手宮西小学校を統合校として使う、その場合、どちらか空いた方を中学校として使いたいというプランの説明をさせていただいたが、そのプランに対して中学に転用するという点については、そういうプランは良いという保護者からの話をいただいた。それと、違う方からは、街路灯の整備や通学の安全対策を教育委員会からも出してほしいという話もあったし、中学校の保護者からは、高島の裏のかもめが丘団地から通っていく場合には、安全面からバスの利用ということで考えてほしい。その際には、通学支援の条件が現在は中学生だと3キロ以上そしてその半分の距離のバスの利用ということになっていて、小学生は、2キロの1キロということになっているが、その距離要件を弾力的に考えてくれないかというような話が、あった。主には、そういう部分で話をいただいている。</p> <p>あと計画の関係では、基本計画を昨年11月に策定しているが、計画そのものは全部で15年間。前期が22年度から29年度までの8年間、後期が30年度から37年度までの7年間になっている。それで、市内を六つのブロックに分けてやっているが、そのうちここ高島・手宮地区は、前期計画の中で位置付けている。前期計画は小規模な学校が多いところということで、後期になっているのは、朝里方面、銭函方面、この二つは後期だが、それ以外の高島・手宮地区を含む四つの地区は、前期の中で再編をやっという計画の中で位置付けている。</p> <p>前期、後期というのは、そういう分け方になっている。今、会長さんが言われた8年間だから8年後にやるのかというと、決してそうではなくその地区、地区、高島でいえば高島、祝津をAグループとして一つのグループ、手宮3校をBグループにしている。そのグループごとに、一定の合意ができれば、できたところから進めていこうと思っているので、前期のところは、全部8年後にやります、ということではない。一定の合意が整ったところから具体的にやっていく。というのは、先程会長からもあった耐震化については相当お金のかかることなので、これを一遍に全部やるといっても、中々できない。先程少し触れた、手宮方面のことでも、手宮小学校は、築50年経っていて耐震優先度も①-4で早くやりなさいということだ。優先度が①だが、築46年も経っていて、もう建て替えなければならない。そうすると、一遍に全部とはできないので、一定の合意、方向性が見えたところから、耐震化なり、建て替えも含めて、順次やっていこうというのが基本的な考え方だ。</p> <p>それと、高島小学校での話し合いだが、ストレートにいうと、高島、祝津グループでは、高島小学校を統合校とすることが適切だという言い方をしたのだから、小学校のことについてのご意見はあまりなかった。この地区全体として、中学校を1校に、そして、場所としては、北山でもなく、末広でもなく、手宮か手宮西の空いた方という言い方をしているの、そこに議論が集中した。今日は小学校の懇談会だが、中学校も大事なことで、祝津小学校からはほとんどがバスで北山中学校に行っている。今11人が、この校区から北山中学校へ通っている。ここについては、北山に行くにしても、あるいは手宮の手宮小か手宮西になるとしても、バス助成の形になるので、4キロ～5キロくらい離れているところもあるかと思うので、そのことと中学校のことも含めて、議論をいただきたいと思う。</p> |

高島・手宮ブロック

| 会場 | 会場での発言（質問・意見・要望） | 教育委員会の発言（回答・説明） |
|-----|--|--|
| 祝津小 | <p>7 中学校について、例えば手宮西の後にしても、手宮の後にしても、それはどちらでも良いが、祝津から通う場合、中学校経由というか、バスができるだけ中学校に近い、今までの祝津線の通りではなくて、中学校の近所の道路を通って行くような路線バスでもスクールバスでも良いのだが、そのようなことは考えてくれているのか。</p> | <p>今回41校を21校に再編するという全体的に大規模なプランとして考えていることから、ほとんどの地区で今通っているところより遠くなる、バスを使わなければならない部分も増えると思う。こういうプランを出しているの、つい先日、中央バスに行ってお話はさせていただいている。色々な部分でスクール便であるとか、スクールバスとか、路線バスとかそういった部分、懇談会をやる上で色々な要望が出てくるので、そこで出てきたものについては、検討できるものは検討してほしいという話をしてきた。中央バスは民間会社なので、バスを走らせて赤字を出すということにはならないので、採算が取れる部分については、できるだけ協力はしてくれるということだった。この部分で教育委員会が中央バスとがっちり掛け合ってくるとは言えない部分もあるが、どういことが良いのかについては要望を聞いて、実現できるかは色々あると思うが、バス会社とも色々な話はしていきたいと思う。</p> <p>この高島・手宮地区でいうと手宮3校と高島も終わって、末広中学校、今日がここ。来週の北山中学校でどういったご意見が出るかということもあるが、私どもの一つのスタンスとしては、先程申し上げた手宮西と手宮の関係で、手宮地区でも色々意見があり、やはり手宮の町は手宮が真ん中なのだから手宮をそのまま小学校にしてほしい、という意見や違う意見もある。ただ、私どもが言っているのは、今回のプランでは、中学校から一番遠くなるのはここ祝津だ。だから、この意見をまず聞かせてもらいたいと手宮地区での懇談会でも言ってきた。資料の3ページを見ていただきたい。手宮西と手宮で手宮小学校は、小学校にせよ中学校にせよ建て替えしなければならない。手宮西は小学校として使うのであれば基本的に今の施設のままで問題ない。手宮西を中学校として使うのであれば相当改造はしなければならない。校舎がオープンスペースの教室になっており、中学校ではオープンスペースで授業をするわけにはいかない、それは、私どもやるという前提で言っている。変な言い方だが便器の高さまで違うということもある。この資料で見えていただきたいのはグラウンドの面積。ご承知のとおり、手宮は町のすぐ裏にあるので、敷地がそれほど取れていない。現状でグラウンドが4,500㎡、小学校としては平均的な部分だが、決して広いとは言えない。ただ、隣の手宮西は9,000㎡のグラウンドがある。これは小学校としても広い、中学校としても相当広い方だ。この地区の中学校では、末広が6,300㎡、北山が9,000㎡で、北山と同じ広さを持っている。形状が違うので見た感じと直接結びつかないが実面積としてはそれくらいだ。中学校では、部活があるので、4,500㎡ではちょっときついという意見も出ている。中学校でも例えば町場の菁園のグラウンドは狭いが、やはりサッカーと野球ということになるときついということがある。これは来週の北山中での懇談会で聞かなければならないが、もちろん通学距離、バス停からの距離に近い方が良いというのは大きな要因だが、やはり中学校仕様でのグラウンドの広さなど、そういった部分も私どもとしては意見を聞きながら、こちらの考えも言いながら、解決というか、相談していきたいと思う。</p> |

高島・手宮ブロック

| 会場 | 会場での発言（質問・意見・要望） | 教育委員会の発言（回答・説明） |
|-----|---|--|
| 祝津小 | <p>8 中学校を建て替えるにしても、(耐震)工事をするにしても、このブロックではそれは、小学校と連動させるのか。それとも全く別の時期にやるのか。</p> | <p>想定の部分で言わせてもらう。この小学校で言えば、高島に移るということとはそれほどややこしいことではない。耐震はもちろんやるが、工事が終わってからということではなく、移ってからでも耐震工事はできる。ただ中学校の関連で、手宮になるとどちらを選ぶかということになるが、仮に手宮小学校を小学校として使うということになれば、建て替えということになるから2、3年かかると思う。手宮西を中学校として使うことになると、中学校仕様にするということだから、単独の工事なので2年なり1年なりで統合ができるということになる。ただそれが逆に なった場合、手宮に中学校を建てて、手宮西を小学校にするということになれば、こちらの方が時間的には早くなると思う。手宮3校の子どもたちを手宮西に通わせて、手宮が空くので中学校の工事をやるという流れになると思う。こうい うととても簡単に聞こえるが、学校を建てる時には国の補助を受けなければなら ないので、事前に国に補助申請をして認められれば、具体的な工事を進めるとい うことになるのでそれなりの時間はかかってくると思う。ただ私どもとしてこの地 区は、前期計画の中でやっていくので、前期8年ということで非常に長い幅を 持っているが、当然その8年の中で対応をしていきたいと思っている。</p> <p>今具体的なスケジュールまでは今日の段階ではまだ、お話できないということ だったが、どちらにしても学校再編をやる必要性ということから言えば、このグ ループで言えば、祝津小学校が複式という課題があり、その課題を何とか克服 したいということがある。それから、手宮方面で言えば、手宮小学校が古いとい う部分と、中学校で言えば北山中学校が古いということがあるので、その辺の解 決も早くはかりたい。そういうことから言えば、前期計画の終わりの方ではなく、 なるべく早いうちに、皆さんとの話し合いの中で、やっていければ理想的だと教 育委員会では思っているの、その辺のところ精力的に皆さんとこのような意見 交換の場を重ねていきたいと思っている。対象となるのは基本的には定期代、 現在はその定期代を全額助成するという形になる。</p> |

| 会場 | 会場での発言（質問・意見・要望） | 教育委員会の発言（回答・説明） |
|-----|---|--|
| 祝津小 | <p>9</p> <p>要望だが、どこかの資料に書いていたが、同じような思いを同じ一人の子がしないように色々配慮するとあったが、それについては頑張ってやっていただきたい。</p> <p>今祝津小学校には3人の1年生がいるが、何とかその子たちが、この学校を卒業できればと思っている。どうなるかわからないが、8年間、もう22年度に入ってしまったが、これを早急に話を進めるのか。願望としては、今の1年生3人がこの学校を卒業してもらいたい。統合される学校の保護者はみんなそう思っていると思う、特に1年生をお持ちの保護者さんは、非常に難しいことではあるかと思うが、何とかという希望は私としてはある。</p> <p>もう一つこれは質問だが、中学校については祝津でも実例としてあるが、小学校のバス通学、長橋小学校や銭函小学校の子どもがバスを待っている姿を見たことがあるが、具体的に今ここでも言えると思うが、中学校ではバス定期を購入する際どのような助成があるのか。小学校ではどうか。</p> | <p>バス通学の助成についてだが、先程の説明の中で小学生は2キロ以上、中学生は3キロ以上で、それぞれその2分の1以上バスに乗っていることがあれば助成がある。助成の対象となるのは基本的には定期代、現在はその定期代を全額助成するという形になる。</p> <p>夏休みとかそのような部分で、大人が使う定期とは金額も違う。基本的に、学割の定期代は全額助成する。スクールバスを利用しているお子さん、通学助成をしているお子さん全体で400人程いる。基本的に中学校は定期（路線バス）、部活などがあり、帰りの時間が一緒にならないということがある。小学生では、一定の数がいるところはバスを出している。具体的にいうと長橋小学校と銭函小学校。長橋小学校は中央バスに委託してスクールバスを運行し、銭函小学校はJRバスに委託してスクールバスを出してもらっている。委託事業なので、委託を受ける方も、あまり人数が少なくて、上手くない部分もあるのでその辺は今後、どれくらいの数が出て、委託した場合、それなら出せるとか、それでは中々難しいので路線バスを使ってほしいということになるか。色々な相談をしていかなければならない。</p> <p>それから、先程の会長の発言に「子どもが卒業するまで」ということがあったがその気持ちはとても分かる。それは皆さんもそうだと思う。ただ教育委員会の立場からすると、毎年新入生は入ってくるので、どこかで議論をさせていただかないとちょっときつい面はある。確かにこの統合時期に当たったお子さんは、やはり他の子にはない苦勞をしなければならないことはあると思う。ただ私どもからすれば、できるだけその負担や不安についてフォローしていく、軽減するために、事前交流をどのようにするか、具体的には、高島に移った場合でも、祝津の先生に何人か高島に行ってもらおうとか、スクールカウンセラーを統合校に派遣して何かあった場合に相談に乗る。子どもだけではなくて保護者でも何かあったら、色々お聞きをするそのような手だてというのは、できるものは何でもやっていきたいと思っている。</p> |
| | <p>10</p> <p>これから入学する子どもたちに対して、入学の案内の中にこのようなことがあり得ることを知らせる文面を入れることはできないのか。</p> | <p>資料の2ページを見ていただきたい。下段の一番下の◆に「学校再編に伴い在学中に、統合することとなる学校への入学予定者は、再編後の新たな通学区域や通学距離を考慮した特例を、また、統合の時点での在生について、交友関係や通学距離を配慮した特例を設け指定校変更の承認をするなど、学校指定に関する弾力的な運用を行う。」例えば、「また」以下にかかっているのが、一つの学校が二つに分かれるという場合を想定している。今、人クラスの数人は20人とか少なくなっている者だからA校がB校とC校に分かれる。その時、1年生が十数人だったとする。その子どもの大半がB校に行き、C校に行くのはほんのわずかだとする。そうすると、C校に行く子の中にも、B校に行きたいと思う子が出てくるので、これには弾力的に対応していかなければならないということを書いている。ただここ祝津では、みんなが高島に行くことになるのでこれはない。会長さんが言われたのは、今度入学してくるお子さんのこと。例えば3年後に学校がなくなるが、来年入学する子どもがいて、保護者としては3年後になくなるのなら、先に行ってしまうと考えられる。これは有り得るし、これに対しても弾力的に対応していかなければならないと思う。だからその意味で、入学通知書の中に、まずは現実的に存在するのだから、A校に入ってください。ただ、このA校は学校再編で何年に再編になる。そういったお知らせの仕方は、丁寧にしていかなければならないだろうとは思っている。ただ私どもの希望としては、できるだけ事前交流もしていくが、やはり入るときはその学校に入ってもらいたい。そして事前交流をして、（新しい学校に）行く時は皆で行こうということで理解をいただきたいというのが希望だ。中々そうはいかない面もでてくるとは思うが。</p> |

高島・手宮ブロック

| 会場 | 会場での発言（質問・意見・要望） | 教育委員会の発言（回答・説明） |
|-----|---|--|
| 祝津小 | | <p>今回の懇談会の開催に当たって、まずこれから入られるお子さんをお持ちの保護者に対して、この懇談会の開催案内を幼稚園に通っている子どもの保護者あてにお配りしていて、保育所も同じようにしている。また、今年の新一年生にこれまでの学校再編の基本計画を作ってこのような流れになっているというペーパーをお配りしているが、それと同じものを幼稚園・保育所の保護者にお知らせしてこのような機会があるので懇談会に参加していただきたいという話をしている。他の会場ではまだ入学前の子どもをもつ保護者もきていただいていたし、そういう方々にもこういうご案内をして、こうすることで学校再編に教育委員会が取り組んでいるということを通して流している。それとあと、私どもとして、現在はホームページを通じて懇談会の6月4日までの分をアップしているが、ブロック単位で、どの学校でどのような意見が出ていたかをお知らせしている。また近々6月の中くらいまで皆さんからいただいた懇談会への発言、ご意見というものをまずは出していこうと思っている。</p> <p>また今後の部分になるが、15年の計画ということで、長い期間で一部の地域は後期になるので、どのような動きをしているのか分からない部分があるので、年間どれくらいの情報が出せるかというはあるが、できる限り地域ごとにどういう状況で協議が進んでいるかということについて皆さんにお知らせしていくことは、色々な手法をとって考えていきたいと思っている。</p> |
| 11 | <p>ここまで進んでいる統合案が実現になった時には、この学校が唯一の避難場所だ。子どもたちのことも私たちは考えている。夏の災害であれば、ある程度の猶予はあるが、問題なのは、冬の場合、まして祝津だ。例えば統合になって小学校がなくなると言った時に、全部を残してくれとは言わないが、校舎の一部は何とかならないか。普段は閉校していても構わないが、災害の時には今までも役所の方からも人が来ているが、管理職の方々が来てここを開ける、そして地域がそれを助けるということで(避難支援)プランをやっている。今後に当たっては力を入れていただきたい。地震だけであれば北海道の家は簡単にはつぶれないと思うが、私は神戸にも行ってきたが、小学校、中学校、高校のグラウンドがトイレの(設置)場所になっていた。そのような観点から言っても、グラウンドを潰すということであれば、この建物の跡に広場を残してもらいたい。そのように夏のことよりは冬のことを考えて進めてもらいたい。</p> | <p>小中学校41校すべてが避難所に指定されているから当然そのことについては十分配慮をしなければならぬと考えている。小樽市の地域防災計画というのがあり、これは小中学校だけではなく、高校であったり、その他の施設であったりということで避難場所の指定をしているので、今いただいたご意見については十分考えていかなければならないし、私どもとしても避難所のあり方については、全市民的な視点で考えていかなければならないと思っている。</p> |

高島・手宮ブロック

| 会場 | 会場での発言（質問・意見・要望） | 教育委員会の発言（回答・説明） |
|----------------------|---|--|
| <p>高島小 6月23日</p> | <p>1 昔、中学校に通っていた方は、暗さというのはどうだったのかなど。末広中学校の人数が多い時に通っていた方がいます。その方々は別に暗さが気にならないで通っていたのか。私は、30年くらい前に北山を卒業した、その時には末広の暗さの話は聞いたことがなかった。その時の時代の方は、別に暗さは別に気にもならず。今、自分が子どもを持った時に、人数が減って、もし末広と北山のどっちをとるといったら、末広の暗さがかなり気になって、小学校の空いた方が使えるということで、良い案だと思った。</p> | <p>末広のどこが暗いかというと、手宮の入り口から上がって行って神社くらいまでは人家もある。僕らが暗いというイメージと今暗いというイメージ、今は電気がついて町中全体明るくなったから違うというのはある。ただ、神社から上になるとまず人家がなくなり、上がっていくとグラウンドがある。あの頃町会の方と話をして何か所か街灯は付けた。グラウンドの鉄柱のようなところに付けたりしたが、部活や文化祭の準備で遅くなって帰る道としては条件は良くない。これは今でも言われており、町会の会長さんとも相談をしている。電気代が町会の負担になるので色々検討していただいている。それから、高島側から来るほうも場所によっては人家もまばらな状況にある。</p> <p>町会長さんともお話をさせていただいたが、町会のほうでも町内会費を集めて電気代を払っているのが家があるところに街灯をつけることは考えるが、家がないところにつけてくれと言われても難しいところがあるという話も聞いている。それなら今までどうだったのかということにもなるが、今回、小中学校を合わせて再編するという考え方の中では、空く小学校があるのだから、そこを活用するというのも一つの選択肢として協議していこうと、今回このプランを出させていただいている。ただ、今回、手宮なり手宮西を使うということになれば、北山と末広を統合してどちらかというと手宮側のほうに中学校を建てるというプランになる。そうすると北山のほうからは相当通学距離が長くなるので、そこも色々議論していかなければならない。場所によってはバスを利用しなければならぬ場面も出てくると思っている、そこはこれからの話の中で聞きたい。</p> <p>私どもあくまでも「これでやります」ということではなくて、いくつかのプランを出して色々な意見を出して議論をしていくというスタンスなので、是非ご意見をお伺いしたい。</p> |
| <p>2</p> | <p>通学の距離ですが、何キロ以上になるとバスという決まりはあるのか。私たちが中学校の時に、元北生病院の上側の方は歩いて来ていたが、祝津は必ずバス。距離的にはそんなに変わるのか。</p> | <p>通学のバス助成の話だが、現在バス助成の制度があって、小学校でいえば片道2キロ以上でその半分、1キロ以上バスに乗っている区間があればバス助成の対象になる。中学校であれば3キロ以上でその半分以上、1.5キロ以上の乗車区間があれば助成の対象になるという現行の制度がある。</p> <p>バス助成、あるいはスクールバスで通っている児童・生徒は小樽市内で400人くらいいる。この辺では祝津から北山に来る人が11人ほどだ。ただ、銭函の方や長橋小のオタモイの住宅生協の辺りからは、3キロを超えているので全部で400人くらいいる。</p> |
| <p>3</p> | <p>末広中学校に統合するには通学路が暗いという話があった。今のお話を聞くと手宮小学校が中学校になる可能性もあるとのことで、地図でいうとこの高島小学校より左、東側のかもめが丘団地に子どもさんたちいるかと思うが、その子たちが仮に手宮小が中学校になった場合には、通学路的に末広中学校だとゆるくないという話があったが、手宮小学校が中学校になった場合にそこはクリアされると考えて良いのか。</p> | <p>通学路については、現場を見て皆さんでご議論いただき、決めていただくということになるが、今お話しのかもめが丘団地ここから手宮方面へ新しい手宮小学校を統合校の位置、新しい中学校となった場合に、行く道としては一つはここからバス通りを通して、赤岩を下りていって、夏井医院の方から末広の方へあがっていくという経路が一つ考えられると思う。それともう一つは、比較的祝津方面へ行くバスというのは結構あるので、そういうバスを利用してバス通学になるケースとなるかもしれないが、ここから手宮のバスターミナルのところまでバスに乗って行き、ターミナルから少し登るが手宮小学校まで行く、そのように二通り考えられると思っている。手宮のターミナルを経由してということ考えると、約3キロちょっとくらいの距離になると思う。かもめが丘団地のところから、おそらく10分くらいの乗車時間だと思う。</p> |

高島・手宮ブロック

| 会場 | 会場での発言（質問・意見・要望） | 教育委員会の発言（回答・説明） |
|-----|---|--|
| 高島小 | <p>4 今のお答えに関して、団地の方はバス通学を前提とは考えていないということか。あまりにも距離があると思うが。</p> | <p>説明不足であれば申し訳ない。団地の方からということで、二つの方法が考えられるとお話をした。バスを使う場合どういう経路が一番良いかというお話をさせていただいたつもりだが、ここから手宮のターミナルまでバスに乗っていただいて、そのあとに手宮のターミナルから学校まで上がっていただく、そういう経路は考えられるだろう。バス通学前提の経路ということではそういうお話をさせていただいた。</p> |
| 5 | <p>かもめが丘の奥の方から出てくる方は、歩くことは前提にされないのではないかと思う。そこから先は、夏井さんから上がるという方法と手宮から上がるという方法はあると思うが、そこへ行くまでは歩くというのは考えられない距離だと思う。</p> | <p>私が言っているのは、ここから手宮までバスで行くというお話をしている。先ほど、男性からいただいたのは手宮小学校の所に中学校を建てて、その場合にここからかもめが丘団地から通う方の通学路とは、どのようなことが考えられるか、という質問をいただいたと思ったので、かもめが丘団地からだバスは結構走っており、かもめが丘団地からバスに乗って、本局に行くバスに乗って、それが手宮のバスターミナルで止まるのでそこで降りていただき、そこから歩いて、手宮小学校の場所まで上がっていただくという話を二つ目にさせていただいた。一つ目は、歩いた場合には、そのような経路で行くことが考えられると言った。</p> |
| 6 | <p>6 歩くことが前提なのか。</p> | <p>両方のことは考えられるということは言った。通学距離はかもめが丘から3キロを超えるから、先程言ったとおり、今の通学支援策でも中学校は3キロ以上の通学距離があって、そのうちの半分以上がバスに乗車している場合には、通学助成ということになるということ先程の方の質問にお答えしているので、その部分を踏まえると、3.3キロくらいになるということもあるし、バス路線にしても1.5キロ以上ということになると、バスを使つての通学というのも当然あるということでお話をしているつもりだ。</p> |
| 7 | <p>7 前提がちよつと違うかと思う。かもめが丘の方はバス通学が前提になると思うのだが。</p> | <p>前提は、ご自宅からその学校まで、中学生の場合3キロ以上あるというのが前提。だから、かもめが丘の団地から、手宮か、手宮西かはまだ色々な議論をするが、そこまでの距離が3キロを超えれば、それはもうバス通学の助成対象になる。バスが通っていなければどうしようもないが、バス路線があれば、バスで通うだろうからバス通学助成をするという考え方だ。</p> |

高島・手宮ブロック

| 会場 | 会場での発言（質問・意見・要望） | 教育委員会の発言（回答・説明） |
|--------------|---|---|
| 高島小 | <p>8</p> <p>夏井さんのところで降りてもなるか。安全のことを考えたら、2.9キロくらいでもバスで通いたい、そういう状況が起きてくると思う。かもめが丘の団地の中も暗い。夜になると、部活などを終えて帰るのであればバスに乗せたいというケースも出てくると思う。その辺に関して、歩くことが前提なのか、バスかという話があったものだから、その辺のところを検討いただきたいと思うし、距離だけではなく、安全面を考えて、この辺は山坂ですし、影ですし、夜になると人家はあるものの人通りも少なくなるので、その辺のところは、私の子どもはもういなくなるが、自分の知っている地域の中で何か被害があった、事件があったというのは聞きたくない。学校がなくなったためにそういうことが起きたという、当然距離が長くなるので危険にさらされる時間も長くなるので、そういうことがないように、バスについても四角四面で距離だけではなく親の不安とか、部活の関係とかぜひ考慮していただきたいと思う。夏井さんから上がるのは近いが、あそこも人家はあっても人通りが少ない、昔みたいに大勢で帰ってくれば別だが、部活によっても遅い、早いがあるので、その辺のところは、末広の時にも言ったが、市で街灯をつけるなど、何らかの安全対策をきっちり出していきたいと思う。バス通学と併せてお願いする。</p> | <p>バス通学の要件、距離だけではなく他の要素も色々考えるべきではないかというご意見として伺っておく。ただ、今の基準としては、3キロ、2キロが一つの基準になっているので、それはまず今日の段階としてお話をさせていただいた。</p> <p>実は他のブロックでも出ていた、高島・手宮地区のプラン2では色内小学校で出た意見だが、小学校の再編の関係で現在色内小学校の図面のピンクの部分を手宮小学校へという一つのプランだが、この色内校区の児童はこのプランとすると一つは浄応寺の坂、荒巻山を越えて下りていく。手宮に入りもう一回手宮公園に向けて、歩いていく。距離としてはそれが一番近いが、通学路としてそれが適切かという、それはなかなか難しい。そうすると手宮線のバスで行くという一つの考え方が出てくる。もちろん今それに決めたということではないが、前段に担当から説明させていただいた冊子の2ページの下端に六つ程ひし形を置いているのが、三つ目に「統合学校の場所は統合後の通学区域内のバランスと校地・校舎の状況や通学上の安全等の条件を勘案して決定します。」これは今までも説明させていただいた部分だ。簡単にいうと三つの学校があれば、真ん中の学校が一番良いのではないかというのがバランス。それから校地の面積、校舎の状況、築何年経っているとか、グラウンドがどうか、そのような条件。それから今お話があった通学路の安全が条件になってくる。特に小樽の場合、「交通の利便性や冬期における周辺の除雪体制など、学校立地の条件としてより良好な環境であるかの観点も考慮します。」これが中学校の統合校として手宮や手宮西を入れている一つの考え方だ。なかなか学校の立地条件として、北山中学校も末広中学校もこの先もずっと使っていくということはなかなか考えにくいところもあるのではないか。だからこの再編の中で、小学校敷地も使いながら考えてみよう、そういうことで、前段に担当から統合校を決めていくという視点で説明させていただいたということ。だから、今通学路のことで言われた方も、近いということは大事な要件だが、その道の条件なども今後議論をしていかなければならないと思っている。</p> |
| 北手宮小 7月1日 | <p>1</p> <p>今、このような書類をいただいて、前回の素案説明会にも出席したが、前回よりは進んでいる、色々なことを調査している。今、配られたばかりで、頭が回らないというのは現実だ。教育委員会は、調査をしてやっているから分かるのだろうが、その辺、今書類を見直して感じているところだ。今、このように児童数も少なくなっているし、うちの娘もこの学校にお世話になっているということで、結果的に統合するということであれば、その形で動いていただきたいと思っている。結果的にするべきだと思っている。問題は例えば、統合した後の、中学校が絡んでいるのでよく分らなくなるが、結果的になくなった学校の使い道に関して、この北手宮小学校がこういう条件から見ると、ここが残ることはないような文面になっている。ここはなくなる可能性が強い。では、この学校がなくなった後に、どうするのかということまで議論されているのか。</p> | <p>今、14ページある冊子をお配りしてこの間20分くらいで説明をさせていただいているということで、すぐに頭の中に出るということはないかもしれない。今回の懇談会をやっているのは、まずは皆さんにたたき台として提示をして、何かご意見があればそれをもろろ聞いて次回に向けて、まずは41校を7月22日までまずは一通り回って、そのあとは、またこの学校になるかもしれないし、例えば、手宮3校のPTAの関係でまた懇談会を開くということもあるかもしれない。これ1回ということではないのでご理解いただきたいと思う。意見交換はまだ時間があるので、後ほどでもこの中を読んでいただいて、疑問があれば言っていただければと思う。</p> <p>今、質問のあった学校の跡地利用について、今現在このような懇談会をしている段階なので、どこの学校がどのようにという、当然、跡地利用のことで具体的に何にということは今考えていない。この計画では15年かけて市内41の小中学校が21校になるということになっており、その跡地利用の基本的な考え方ということになるが、当然、統合校が決まった時に、学校の跡地利用ということになると、統合協議会の中でも、地域の皆さんのご意見等を聞きたいと思っているし、この会場でも色々な跡地利用があるということも伺うこともできるが、実際に学校の後となると、意見としてこのような使い方にも十分に聞きながら、地域の持っている特性や学校の持っている特性を考え、また全市的になることから全体のバランスも考えて、校舎、グラウンドも含めて跡地利用を考えていきたいというのが現状だ。</p> |

| 会場 | 会場での発言（質問・意見・要望） | 教育委員会の発言（回答・説明） |
|------|--|---|
| 北手宮小 | <p>何点かある。素朴な疑問で、統廃合の検討の年度に平成27年度を挙げているが、なぜ27年度なのか。この年度であくまでも進めていくのか。27年度に向けて、このような再編を考えているのか。それともその前にやるのか。</p> <p>それと、量徳小学校について、新聞に閉校すると載っていたが、量徳小学校に全く関係のない保護者になると、(統合の話が)いきなり出てきたという感覚にしかなく、全市的にやっているということが、自分の学校のことしか分らないが、あのように記事になると、もしかしたら自分の小学校もあのような形でいきなり出てきてしまうのか、という不安が子どもたちにもあるので、その経緯が分かるのであれば教えていただける範囲で、教えてほしい。あと、学校の適切な場所が出てきているが、学校施設の状況からというのを見たが、意外と私たち保護者は、手宮西小学校が悪いということを言っているのではなく、ただ校舎から見えないところにグラウンドがあるので、その辺をどのように考えているのかという不安もあるので聞かせてほしい。</p> | <p>まず平成27年度という部分だが、昨年ここでの説明会を7月1日にやらせていただいたが、その時に基本計画の素案について説明をさせていただいた。実はその中では、計画期間として、平成22年度から36年度の15年間とする。その中で、わりと小さい学校が集中しているところは前期でやらせていただく。前期で平成22年度から29年度までの8年間としているが、ここで平成27年度の数字を置いているのは、このプランを作ったのが平成21年度なので、その段階ではその前年の平成20年度に生まれたお子さんが現実に小樽にいるわけで、そのお子さんが小学校に上がるときのそれぞれの校区のお子さんの数というのが分かる。もちろん、転出入はあるが、この地区には何人いるか分かるのでそれを推計して平成27年度の1年から6年までの子どもさんの数を小学校で言えば12学級規模の学校を作っていくためにこういう組み合わせが良いのかということで平成27年を出している。ただ、前期計画の8年というのは、私どもの考え方としてはこういう形で、議論をさせていただいて、小学校で言えば、北手宮、手宮西、手宮この三つの小学校で一定の合意ができれば、合意ができたところから進めていきたいと思っている。その意味では、何年にやるのか、5年後にやるのか、そういうことではなく一定の合意ができたところから進めていきたいと思っている。ただここでいうと、私どものプランでは手宮西と手宮を出しているが、手宮を小学校に、仮にそういうことで合意になったとすれば、建て替えをしなければならぬので、それにはやはり一定の期間、2年、3年の期間というのはかかる。逆にいうと、2年、3年後に向けて、色々子どもとの交流や保護者同士の事前の相談などに時間を使っていくという考え方でいる。</p> <p>それから量徳小学校の関係だが、量徳小学校もこと同じような形で言えばAグループという分け方をしている。国道5号沿いの量徳、潮見台、若竹。国道393沿いの奥沢、天神という二つのグループに分けて協議をしていくという基本的な形になっている。ご案内のとおり量徳小学校の部分というのは、去年の6月に病院建設の問題があって、市内の医療関係者の方々、あるいは、私どもも色々市民の方々とお話をする機会があるが、病院を新築するのだったら、やはり今の小樽病院の場所と量徳小学校を含めたところに作れないのかという希望やご意見がたくさんあるという中で、量徳小学校については、去年の7月からついこの間の6月22日まで、これまで7回程このような懇談会、説明会を開いてきた。量徳小学校のPTAや地域の方も参加して、市長も2回程、病院の並木局長も参加して進めてきた。新聞でご覧になったと思うが、「まだわかった」となっていない部分もあるが、市としてはこの病院問題というのは全市民にとって重要な問題なのでこの部分だけ、南小樽地区のAグループについては何とか24年までお願いをしたいということで話をしている。ただその他のブロックについては先程も触れたが、一定の合意ができてから進めていくというスタンスでいる。この懇談会は5月から始めて、ちょうど今3分の2くらい終わったところだが、こういう懇談会の中で、やるのであれば早くやってほしい。という意見もいただいているので、やはり私どもとしては、やはりその地区、その地区で時期は変わってくると思うし、この地区のように建て替えという問題が出てくると、どうしても建設期間も含めながら考えていかなければならない。だからそういう意味では、一斉に41校が21校になるということではなくてブロック、ブロックで進めていくということになると思う。</p> |

高島・手宮ブロック

| 会場 | 会場での発言（質問・意見・要望） | 教育委員会の発言（回答・説明） |
|------|--|--|
| 北手宮小 | | <p>それから、手宮西小学校と手宮小学校について、私どものプランでは、どちらか空いた方をこの地区の中学校と考えている。今日配布した資料の施設のところをご覧いただきたい。3ページになるが、一長一短といえば語弊があるが、手宮西小学校を小学校にする場合、まだ新しいのでそれほど大きな改修は必要ない。この表にもあるが、手宮西小学校のグラウンドは9,000㎡ある。ご指摘のとおり、今校舎が下であって、グラウンドが上にある。段差のある土地の学校は建て替えごとに交換していく。だから、手宮西を建て替えるとすれば、当然今のグラウンドに建てて今の校舎のところをグラウンドにする、ころがどうしても出てくる。お話のとおり、小学校ということからすれば、校舎からグラウンドが見えづらい部分はありそこはマイナス点だと思っている。ただ、手宮小学校ではグラウンド面積が4,500㎡で、この地区の5校の中では一番狭い面積だ。仮に手宮小を中学校とした場合、中学校は小学校と違いグラウンドが広くほしいということもあり、その辺が皆さんと文字どおり話をしていく部分だと思う。先日の手宮小学校での懇談会でも、ある方から、手宮西を小学校にして手宮を中学校にして末広のグラウンドをそのまま使えば良いのではないかと、そういった発言をされた方もいた。私どもは、そういうところを具体的にああいうこともできる、こういこともできると文字どおり地区の中で協議をしていきたい。</p> |
| 3 | <p>私はこの地域に生まれ育った者。ここのグラウンドの下に昔から第2グラウンドと呼ばれている場所がある。そこはどこの土地なのか。あれはグラウンドにする可能性はあるのか。今は車を止めたりしているがどうなのか。あれはグラウンドになる可能性はない土地か。</p> | <p>ここの門の横か、右手になると思うが。今、手持ちの関係図面では、市として持っているのは、全部ではなさそうで、残りは民地だと思う。市の土地ではないと思う。</p> <p>全部が、市の土地ではない。</p> |
| 4 | <p>そこで考えるが、この学校は生徒が少ないから統廃合されて当然だ、という考えで、皆さん統廃合は当たり前という雰囲気だと思うが、実は手宮小学校は、あそここの場所は、手宮の中心地だ。手宮小学校の所に小学校を建てて、手宮西小学校は小学校という手宮の町から生徒が通わなければならない。山坂の場所で平地ではないので、手宮の町から手宮西小学校への通学はとても問題があると思う。だから手宮の中心である手宮小学校の所に小学校を作っていたら、この北手宮小学校は、昔中学校だったので、生徒が何百人もいた時に、昭和22、23年か小学校から中学校に変わった。そして、今の北山中学校が赤岩に建つまでの間、中学校だった。それで、是非この小学校を中学校としてできないものか。ここの坂を登ってくるのは中学生であれば、今でも小学生が通学しているのだから、中学生であれば全然問題ないと思う。だからこの北手宮小学校を是非中学校にしていきたい。手宮は高齢者が多く住んでいる、あちこちに空き地があって高齢者が住んでいるので、手宮西小学校は、是非、そういう皆さんがパークゴルフをしたり、楽しみを持っていきいきと集えるものに市で考えていただけないか。よろしく願いたい。</p> | <p>今文字どおり、学校施設として使わなくなった所の跡利用、学校でなくなったとしても市の大事な財産なので、市にとっても、そして地域にとっても、一番有効な使い方を今後も色々な角度から話し合いをしていきたいと思う。企画政策室の職員もいるので、今の発言は、ご意見としていただきたいと思う。私どもも今後の議論のポイントだと思っているのは、手宮3校の部分でどちらが小学校に相当なのか、手宮地区全体として、ということが一つあると思う。もう一つの大きなポイントは、北山、末広を一つの学校にする。それも今私どもが考えているのは、北山はもうすでに50数年、ああいう立地からすると、多少距離は遠くなくても、通学路の安全ということを考えれば、その中で、北手宮という選択肢を一切排除するということは考えていない。北手宮も空けば、当然候補地の一つになる、ここにも北手宮を位置とした場合という一つのパターンとしての想定も出している。今後大きな議論となるのは、祝津、高島、北山のほうの方々、表でも示しているが、4キロ以上の通学距離になる。当然バス利用も考えなければいけないので、中学校の部分ということになれば、小学校はまずこの手宮3校の部分で議論をしていただこうと、中学校ということになると、高島・手宮地区で文字どおり色々な意見を聞いていかなければならない。議論の進め方としては、ご理解をいただきたいと思っている。それと私どもが皆さんからご意見を伺いたいのは、小学校のプラン2、プラン3どちらでも良いが、今北手宮小学校の赤岩1丁目の図面のグリーンの部分で、一昨年からの説明会で、いわゆる特認について、おかしいのではないかという意見が出ている。本来北手宮小学校の校区だが、高島小学校との境界になっているところでは、高島小学校の方が近いということで、相当の数のお子さんが行っている。だから今回、こういう学校再編の時に、ここの地区は高島が良いのか。もちろん、手宮地区3校で北手宮が残らないということもあり得るわけで、そういった中でどうなのかということもご意見としてあれば、お聞きして帰りたいと思っている。</p> |

高島・手宮ブロック

| 会場 | 会場での発言（質問・意見・要望） | 教育委員会の発言（回答・説明） |
|------|---|--|
| 北手宮小 | <p>5</p> <p>新しく入る新一年生であれば全然大丈夫だと思うが、あくまでも在籍している子どもが途中で別れるというのは考えられないと思う。新しく入る子どもたちであれば親にしても、この学校だと言われれば行くと思うが、在籍している子どもたちが途中で離れ離れになるというのは親としても、子どものことを考えると、あり得ない話だと思う。</p> | <p>プランの2ページ目に再編に当たって次のとおり進めるとした、と書かれていて、この中で、最後の◆だが、学校再編に伴って、在学中に統合することになる学校への入学予定者については、再編後の新たな通学区域については、通学距離を考慮した特例を、また統合の時点で在校生についても、交友関係や通学距離を考慮した特例を設けて、指定校変更という制度で、承認をして学校指定については、弾力的な運用を図るということなので、仮に通学区域が変わったとしても、それでいきなり線引きをして友達同士が離れ離れになるというようなことのないような制度として設けていきたいということを考えている。</p> |
| | <p>6</p> <p>今の特認について、高島小学校に移行するかどうかということだと思うが、ここにいる者の実感としては、統廃合の話が出てきたら、急に数が減った。そしてその話が立ち消えになったら、人数が元に戻るという感じで、必ずしも手宮小学校や高島小学校に行きたいからということではなく、統廃合になって北手宮小学校がなくなる、そうなった瞬間に、十数人いた子が3、4人になるという実感だ。だから今の理屈は逆だと思う。この地域の子どもが是非高島小学校に行きたいというよりは統廃合という話が全くなかったら、十数人いるという感じは持っている。ただどこかで統廃合をしなければならないということもあるから、それについて私は議論する気はないが、実感としてはそういう感じだ。それともう一点伺いたい、手宮小学校か手宮西小学校のどちらかをこの地区の小学校にする、もっと大きい視野で手宮西小学校か手宮小学校を中学校にすることだが、手宮西小学校を小学校にした場合、前回も色々議論が出ていたが、中野植物園の道路が冬道かなり危ない、除雪するにしても、夏でもかなり狭い、バスも通っているしそこをどうするのか、という話は前回も出ていた。それと、手宮西小学校を中学校にした場合、ブロック内での位置的に偏りすぎているのではないか。実際には祝津までが校区となるのに、一番、端の手宮西小学校を中学校にしたらどうなるのか。その辺を教えてください。</p> | <p>まず通学路の関係、通学路については、青いリーフレットの中にも、統合が決まればということで、左側の方に通学安全上の問題ということで、保護者の皆さんと協議していきましてここに書かせていただいている。地域のことは地域の方が一番ご存知だろうから多少遠くなくても、安全な通学路というものが、確保できるのであれば、皆さんのお話を聞きながらやっていきたい。また市としてできる部分、しなければならない部分というのは、統合に向けて、改善をしていかなければならないと思っている。それが100%できるかというと、その部分はあるかもしれないが、できることについては可能な限り取り組んでいくという姿勢で臨むということをご理解をいただきたいと思う。</p> <p>もう一つ、手宮小学校のところに中学校ということ先程も申し上げた、そうなるとうると、このグループでいくと向こうに2校、さらに大きな高島・手宮でも向こうに学校が固まると話があったが、先程部長が中学の関係で話したが、現状でも祝津方面からは北山中学校に通学される場合にバスを利用されている方がいる。この資料の中にも書いているが、私どもが今回考えた中で、手宮の方に中学校をと提示しているのは、一つはやはり手宮のバスターミナル近辺というのは、こちらのかもめが丘団地方面からバスに乗ってきても、祝津方面からバスに乗ってきても、高島の漁港側からも手宮を経由しても、バス路線、公共の交通機関があるので、遠い部分で、バスに乗って来るという部分では時間はかかるが、そういう公共の交通機関を利用することで、今の北山中学校の場所、末広中学校の場所の改善ができないかという観点からも合わせて、プランを作った皆さんの意見を聞きたいということを示しているということ。</p> |
| | <p>7</p> <p>先程質問した点は手宮西小学校が中学校になった場合に、随分位置が偏っていないかという質問だ。</p> | <p>確かにこの通学区域内から見ると、はずれの方になるというのはこの位置関係を見てもあると思うが、いずれにしても手宮ターミナル付近から手宮西小学校までは若干の距離がある。その部分、祝津方面、高島方面から出てくる部分としては、公共の交通機関を利用できるという観点があるということをご理解をいただければと思う。</p> |

高島・手宮ブロック

| 会場 | 会場での発言（質問・意見・要望） | 教育委員会の発言（回答・説明） |
|------|--|---|
| 北手宮小 | <p>8</p> <p>先程、お話を聞きましたら、北手宮小学校を卒業した子どもたちは、皆、北山中学校へ行くという前提のもとで話があった。でも実際は、去年あたりから、卒業した6年生は、皆、末広中学校に行っている。それが前例となって、今年も来年もということもなきにしもあらずだと思う。それから、北手宮小学校がなくなるといふ風評のもとで、「それだったら高島小学校へ行こう」という子どもたちが今のうちから随分増えている。そういうことがどの程度まで許されるものか、ということ考えた。それから、私の（資料の）表の見方が間違っているのかも知れないが、2ページと3ページを比べた時に、祝津小学校が27年度から急に一年生が27人も増えることになっている。そして全体でみると、27年の推計では、祝津小学校が109人となっている。現在はたったの14人だ。私の表の見方が変なのか。なぜ祝津小学校はこんなに増えるのか。それを教えていただきたい。特認校と言われた祝津小学校が109人になれば、どこの学校よりも多いことになる。この辺の矛盾とかどのように解釈したら良いのか。頭が混乱している。</p> | <p>大変分かりづらくて申し訳ない。実はこの2ページの表は、学校の名前ではなくて町別、祝津の町、赤岩の町、高島の町の子どもの数ということで書いている。ご承知のとおり祝津は、祝津小学校にも行っているが、特認ではなく、祝津の住所自体が高島小学校区になっているところがある。だから、109人のうち大半は、高島小学校の方になると考えていただいて結構だ。町の名前で。</p> |
| | <p>9</p> <p>実際、祝津小学校に行っている子が、高島に住んでいるということか。今の説明で分かったが、この書き方ではわからない。</p> | <p>高島小学校の校区の中に、祝津1丁目の1番から3番、それから祝津2丁目の団地の辺りの町名は祝津になっている。これはいわゆるかもめが丘団地、町名は祝津だが校区は高島、その関係だ。</p> <p>表の上に、「町別学齢人口」と書いているのでご理解願いたい。</p> <p>それから特認についてだが、これから皆さんとどこの学校が統合校として良いのかということで議論をして、一定の方向が出ると思う。先程も話したが、その統合に向けての事前の色々な準備、それから施設の改修という部分もある。当然一定期間はかかる。私どもとしては、新一年生で入ってくる子も基本的には今の学校に入っていて、再編するのであれば、みんなと一緒に事前準備をして新しい学校に行こうという基本的にはそのような考え方で進めていただきたいと思っている。ただどうしても中には、2年後に、自分の行く学校がなくなるのなら、最初からいってしまおうという考え方が出るのもある意味分かる。ここところは、教育委員会は、こうでなければだめだとそのようには言えない。ただやはり、地元の学校に行って、統合するときにはみんなと一緒にいこうということで、協力を要請していこうと思っている。それは、地域の方々、在校している方々も当然そのような気持ちだろうと思うので、そういうことでご理解をいただきたい。</p> |

| 会場 | 会場での発言（質問・意見・要望） | 教育委員会の発言（回答・説明） |
|------|--|--|
| 北手宮小 | <p>3点お聞きしたい。一つは、市の方の計画では、平成27年度になると、平成22年から見ると、0歳から14歳までの児童数は、3千人くらい減るようになっていく。そのあと5年経つと、またさらに減るようだが、こういうことから見ると、先程おっしゃっていたが、今の1年生に上がる前の子どもの数も地域別で分かっているような話だったので、それがあれば、どの地域が3千人近く減る該当する地域なのか、手宮地域がその中でどのくらい減っていくのか。この辺の概算があれば、教えていただきたい。というのは学級数がそれだけ減るのだから。前の統廃合の時には、2学級にかなり固執されていたと思うので、その辺との関連で、そんなことは無視してあくまでも、地域の利便性というか、通学の利便性というのか、それを一つの基本にして学校の位置を決めるということなのか。その辺を示していただければと思う。いずれにしても市の方の基本的な計画の人口推移を見ると、もうかなり減っていくと思う。27年度でいけば、全人口が11万人くらいになる。前に新聞にも出ていたが、2050年には8万人しかいなくなる。事実、それは、今の情勢からいけばひっくり返らないのではないかなと思う。そういう中で学校統廃合、どの部分に学校を置いたら良いのか。これが、大事なことではないかと思う。前にやったように、手宮西小学校は新しいからそこにおくとか、何か目先のことだけを考えているような気がしていた。今度はそういうことではなく、将来の人口の移り変わりに対応してどう学校を配置していくか、これを一つどこまで考えているのか。</p> <p>それから先程から、末広中学校の話も出ていたが、北山中学校と末広中学校どちらかがなくなるということなのだろうが、この最後のまとめを見ると、手宮西小学校か手宮小学校このどちらかを中学校にするかというように受け取れるが、なぜ末広中学校を廃校にするのか。この辺の意図というか、陸上競技場もあるから駐車場にするのか、前の小樽病院の話ではないが、そういう計画もあるから分らないが、いずれにしても、末広中学校は、ここに書いているのを見ても、遠距離は4.1kmと遠くなるが、その4.1kmとはどの地域を指しているのか。そこからあまり遠いからということで、今中央バスが通っているが、通えないような場所なのか、それについても教えてほしい。仮に末広中学校が現在のところに残るとすれば、地図から見ると真ん中のようなだし、それから、色内の方、仮に山の方から町の方へ降りていくという情勢になった時に、色内地区もある程度は、末広の方に通っても、それほど遠い場所ではないのではないかな。こういうふうな思うので、末広中学校をやめるという意図これを少し説明していただければと思う。それを残してもいいのだということになれば、北手宮小学校は私も校友会の関係でなくなってもいいということは、決して口に出しては言えないが、私の卒業した次の年にはこの学校がなくなって北山中学校になった経緯もあるので、決してなくなつてはだめだということではなくて、この時勢、そういうことも仕方ないという気がする。従って、今話したように末広中学校が現在地に残れば、耐震工事だけやればそれで済むわけで、そうすると残るのは、手宮小学校か手宮西小学校だけになる。この2校どうするかということを考えれば、当然、この手宮B地区については、小学校の位置が当然決まってくる、その場合に、段々人口も減って手宮地区も今の手宮西小学校に小学校とすれば、色内地区、稲穂地区の下の方を持ってくるのは難しいのではないかな。では手宮小学校を建て替えるのであれば、それはある程度可能ではないか。その場合に建て替えの工事というのは、どのくらいかかるのか。そういうことで、1校の建て替えだけの問題になってしまうのではないかな。このように思うのでご説明いただければと思う。</p> | <p>色々な組み合わせを頭の中で考えられたと思う。実は我々も、そうしてきた。正直言ってこれが絶対だということで、今回このプランを出しているというよりも、いくつかのプランを出して、そして皆さんと議論をしたいというのがスタンスだということはおご理解をいただきたいと思う。子どもの数の動きについてだが、資料2ページに町別人口ということで載せている。これは平成27年度推計が一番下のところに合計、小学校でいうと543人とある。では今現在何人いるかというと、684人いる。平成27年の6年後には、この地区だけでさらに今より150人減ることになる。中学校も同じような傾向だ。27年度が333人と書いてあるが、今は、406人小樽市全体としてどの地区がということでお話があったので、その部分で言わせていただければ、この言い方が適当かどうか、手宮地区や蘭島地区では下がる幅の大きなピークは終わっている。キャバ自体が少なくなっている。だから学校を例えていっても、1学年1学級が複式になるには相当幅があるが、幅があるというのは、41人で2学級だが40人になった瞬間から1学級になりそれはしばらく続くことになる。それで、2学年にまたがって8人になると複式になっていくという形だ。小樽市全体でいうと、今後下げ幅が大きくなっていくのは、今は子どもの多いところだ。朝里や新光、望洋台、銭函。要するに昭和40年代から50年代にかけて、わりと新しい住宅が建った、そこに住んで子どもが生まれたが、今は2代、3代とそこには住まない。1代で終わってしまう傾向がある。するとそのピークが終わり人口が落ちていく。だから、小樽市全体の下げ幅が多いところというところ、今はわりと人口が多いところになる。結構まだ先になる5年先、3年先というレベルではないがそのような傾向だ。</p> <p>それと末広中学校についてだが2校を1校にということなので資料の4ページに北山中学校と末広中学校の施設の概要をまとめている。北山は昭和33年ですでに築54年となっている。末広の方が新しいので普通は統合校になると思われるが、もう一歩考えてみると、末広も昭和55年なので、もうすでに30年は経っている。この耐震の優先度調査の結果を見ていただくと、②-1だ。一方、北山は③-2、④-2。どちらかというと、末広の方から先に手をつけなさい、ということになっている。これには色々な要件があり、北山は3階建て、末広は4階建てで、1階違つと耐震強度には差が出てくる。私どもの一つの判断としては、仮に末広に何億かかけて、耐震補強をしたとする。それでもすでに30年は経っている。この先もたせたとしても15年から20年くらい。そのように考えた時に、一つは新しく建て替えると考えても良いのではないかな、というのが一つ。それと末広中学校の立地条件がある。これは末広中学校区の地域の方からも保護者からも言われるが、手宮ターミナルの方から上がっていくと、神社のところくらいまでは、家もあるが、それから上に上がっていくと夜は相当暗い。高島から末広にきている子もいるが、その道は、手宮側からよりもっと暗い。そういうことを考えるとすれば、あそこがこれからはずっと学校の敷地として、持つべきだと考えることはどうなのかというのがベースにある。特に、あの辺に住んでいる方は、毎日通っているからだというのもあるが、北山、祝津の方から来る方はバスを降りてからまたあの坂を上がっていくということはきついなと思う。このようなことの現状からの考え方として手宮西と手宮の空いた方ということでのプランを出している。この懇談会は高島小学校と祝津小学校、北山中学校はまだこれからなので、まづご意見をお伺いしていこうと思う。</p> |

高島・手宮ブロック

| 会場 | 会場での発言（質問・意見・要望） | 教育委員会の発言（回答・説明） |
|------|--|---|
| 北手宮小 | <p>11</p> <p>仮に手宮西小学校が統合校になったとした場合、通学路について、手宮西小学校のバスのあそこを通って危ないと思っている。もしも仮に許されるとしたら、少し山側の方の市有地になると思うが、そちらの方に通学路ができるものかどうか。その辺をお聞きたい。</p> | <p>最初に手宮西の関係だが、手宮西が統合校となった場合の通学路を新たに造れるのかという話だが、それは考えていない。今回は41校を21校にするという極めて大きな学校再編なので、どこが統合校になるかによって、通学路も大きく変わると思う。それに対しての道路の整備だとか、危険なところにどう対応ができるのかということは、やっぴいかなければならないと思っているが、新たに道路を造るということは考えてはいない。</p> |
| | <p>12</p> <p>去年からこのような説明会を行っていて、色々質問等出ている。私どもこのような中身を聞いて、ある程度の形は見えてきているが、今後PTAとして、保護者も子どもが卒業すると同時に、中学に行くということで、小学校にとどまるということが難しい、当然新入生も入ってくるので保護者も入れ変わっていく。そういった中で、平成27年までの統合という中で、例えば今後、毎年このような会合を開いて、入れ替わっていく保護者への説明等そういうものを続けられるのか。それと今後、このような話を詰めていった時、方向性が決まると思うが、途中経過やそういう部分での報告について今後どのような方法を考えているのかということをお聞かせ願いたい。</p> | <p>今日で手宮、北手宮、手宮西の3校の懇談会が終わった。市の方で6月4日までの懇談会でどういった意見が出ているのかということ市のHPに掲載している。</p> <p>今後の進め方だが、確かに時期を設定していない。合意となったところから具体的にやっぴいしていく。手宮西にしても手宮にしても校舎の改修がある。ただ私どもとしては、7月22日で、市内全部の懇談会を一当たり終える。その次の段階はどうしていくのかということになるが、これもまたご相談させていただかなければいけないが、この地区の小学校3校のことで言えば、一度学校関係者の方、全部という形ではなくても、多分役員の方などにお集まりいただき、今後の議論の進め方について、相互にフランクに意見交換する場を作ったほうが良いのではないかなと思う。当然皆さんも手宮はどういう意見か、手宮西ではどういう意見かということがあると思う。そこで何か物事を決めてしまうということではなくて、議論の仕方進め方をご相談させていただくような場面も作らなければならないと思う。この地区だけではなく、他の地区もそうだが、小学校と中学校で一緒にやらなければならないという場面もある。先程の北山、末広ということになると高島・手宮全体の課題になるので、今、必ずこのように決めていくわけではないが、去年、一昨年とこの時期に説明会に来ていたが、次はまた来年の今頃かという決してそうではない。私どもから一定プランをお示したので、もう一歩踏み込んだ具体的な話を進めていかなければならないというふうにも思っている。いずれにしても、この学校再編は大変重い問題であるし、地域の方にとってはなくなっていく学校の寂しさとか、その伝統なり、今まで地域で活動してきたことをどのようにつなげていくのか、様々な議論はあると思うが。私どもも十分に意見を聞きながら、色々な形で話し合いをしながら進めていきたいと思っているのでよろしく願います。</p> |

| 会場 | 会場での発言（質問・意見・要望） | 教育委員会の発言（回答・説明） |
|-----------------------|---|--|
| <p>手宮西小 5月20日</p> | <p>この地域では、以前に石山中学校が閉校となり、末広中へ行く経験をした。地域が代わる、別れた形で行ったので、保護者から色々な心配が出たことを思い出していた。例えば、手宮公園辺りの道路の暗さや学校へ上がっていく上の方が本当に人けがないとか。今後、統廃合が進めば子どもさんの数は増えるだろうが、そういった環境整備、この資料では、以前の小中学校の統廃合の際に取り組んだこととして書かれているが、今現在も、帰りの際に女子中学生は部活の帰りなんかはまとめて帰らないと嫌なんだ、という声も現実には聞いている。統廃合するということは、本当に大変なことだと感じているので、環境の整備のきちんとしたたき台を作って示していただくのも保護者にとっての安心材料になると感じている。色内の児童がこちらに来るというプランもあった。これは、別件となるが、地域、手宮方面として、色内小学校の所にかかっているスクールゾーンの中で、初期の段階だが話し合いをさせていただいている。そういったものも地域がスムーズに活性化していく、つながりの中で考えていかなければならない問題と考えている。</p> | <p>今、会長さんが話されたこと、私どもも十分認識している。末広中学校は、手宮側から行く方も、途中からうんと暗くなるし、今の校区でも高島側から通って来るお子さん、多くはないが、あつちは、こっちよりもっとすごい。民家もほとんどないし、草ぼうぼう。以前通学路を担当していた時に、当時の会長さんとも、街灯をつけた場合に町内会で電気代を負担できないかなど色々話した経過がある。なぜ、この話をするかと言うと、今の子どもさんの状況から、この地区は中学校1校という形で考えていかなければ、学年3学級は中々確保できない。ここは、中学校の適正配置を平成11年から12年にかけてやって、末広中学校は一時9学級になった。しかし、去年また6学級になり、今年1学級増え7学級になった。前段で、担当の方から町別人口のことを話したが、この先、さらに相当減っていく。北山中学校も前の適正配置のときは9学級あったが、今年6学級になっている。</p> <p>今回検討した中では、北山、末広があつて、高島方面のことも考えれば、位置としては末広を中心であることは間違いないと思っている。ただ、会長さんが言われたように、坂が急だということもないわけではないが、通学路を考えた時、このままずっと末広中学校で良いのかということは議論していかなければならない。前段で申し上げたが、今回の適正配置は小樽市内全域でこのような議論をしていくわけで、一つは、その地域のバランスをとって、中心ということもあるが、それだけではなく、冬の雪対策としてどうか、通学路の安全としてどうかということも考えていかなければならない。ということで、高島、祝津方面から見ると、手宮小にしても手宮西小にしてもすごく遠い距離になる。だが、バスを使うと、グルーッと回って手宮のターミナルで降りれば、通学路の安全という部分からすれば、そちらの方がベターではないのかという考えもあつて、あえて教育委員会として適切と考えるのは、手宮西小、手宮小を一つの考え方として示した。</p> <p>もう一つは、小学校の適正配置では、平成16年に案を出して、その時には手宮西小学校を統合校という形で示した。今回、それも一つの選択肢としてはあるが、手宮小学校をもう一つの選択肢として出している。校舎の状況ではこちらの方が良いに決まっている。耐震の問題もない。仮に、教育委員会が考えた、手宮を中学校と考えれば、ご承知のとおり手宮小学校はグラウンドが4,000㎡です。このような地形ですから、あっちこっちに狭いグラウンドの学校はあるが、一定の規模の学校を作って、中学校でも部活を考えると、4,000㎡でできるというのは難しいと思っている。ここは、小学校のグラウンドとしては極めて広い、正直、小学校としては広すぎるかと思うくらい広い。ですから、校舎の状況、地域の真ん中にあるとか、そのようなことだけではなく、色々な面から、一つ新しい学校を建てると、40年から50年使うことになることから、そういったことも含めて、私ども今回のたき台を出させていただいたということ。今日は、これではだめとか、これは良いとかを含めて、たくさん意見を聞きたいと思っている。特に、高島方面の場合、中学校1校とした時に、いくらバスに乗っても相当距離がある。また、色内小学校の方々にとっては、この考え方は校区を分けることになる。この校区を分けた理由は、このピンクのところは、小樽で一番長い国道を渡らなければならぬ距離のところだと思っている。交通安全上から、一つこのプランも考えたということで、これ自体、色内小の皆さんからどのような意見を伺えるか、これから色内の方々とも懇談会をやるので、今日はどんな意見でも良いので、ぜひお考えのことをお聞かせいただきたいと思っている。ここにきて、意見が全然聞けなくて帰るとするのが一番寂しい。</p> |

高島・手宮ブロック

| 会場 | 会場での発言（質問・意見・要望） | 教育委員会の発言（回答・説明） |
|------|---|---|
| 手宮西小 | <p>2 小学校が統廃合になってから、中学校になると思うが、小学校の統廃合を何年をめどに、2～3年とかをめどにするのか。それを受けて、中学校の統廃合を何年後くらいをめどにしているのか。</p> <p>もう一つは、統廃合後は、この地域の中学校は1校になるかと思いますが、その時、このプランでは、色内小の区域の一部がこちらの方というプランしか示されていませんが、前に、豊川町と石山町の通りのところを境に西陵の方に一部中学校の区域が分かれるという噂、話を聞いたことがあります。そのプランというのは、今は検討除外という受け止めをしてよろしいでしょうか。</p> <p>3 この懇談会が始まる前に、前の学校でPTAの皆さんから出た質問とか、こういったところどうなのかなどあったら、お教えいただきたい。</p> | <p>統合の時期について、今回の計画は非常に長い計画だが、このブロックについては、前期8年、平成22年度から29年度までの8年間で統合を進めていく位置づけ、考えとしている。かといって、一番後ろの29年度でやるということではなく、このような話し合いをしながら、統合学校をどこにするのかということを決める。その次に、時期をいつにするのかというのがあがるが、先ほど校舎の問題があった。建て替えると建築期間とか長期の建築期間がもちろん必要なので、その部分も考えなければならない。また、中学校の問題というのも、どこを校舎として使うかということもあるので、その部分一体となってやっていかなくてはならないと考えている。正直なところ、具体的に何年までということは、建築期間等を考えながら進めていかなければならないと考えている。</p> <p>今日お配りした冊子の2ページ見てほしい。先ほど、一つずつ説明はしなかったが、一番上の所に、統合の時期について書いている。学校施設の状況、対象校の位置関係など諸々書いている。2行目の中ほどくらいから、「その際、同一地区内で、段階的な実施となる場合は、児童生徒が統廃合を繰り返して経験することのないような間隔とします。」と書いている。例えば、小学校3年生の時に統合で学校を移った。今度、その子は中学校へ行ったら。その中学校でも統合に当たった。これはダメだろうと思っている。もっと言うと、小学校1年生の子が1年生の時に統合をやった、その先5年後に中学校の統合をやればその子は引っかからないが、学校というのはいつも1年生から6年生までいるから、そこも課題の一つです。逆に、中学校から始めて、小学校をやればそのようなことはない。同時にやるというのがあるが、この地区の場合、手宮小学校を小学校にしようが、中学校にしようが、もうすでに築45、6年経っているのも、もちろん耐震化をしなければならない学校だ。しかし、耐震化をしてもたせるという学校ではもうない。統合校とするのであれば、建て替えをしなければならない。そうすると、2～3年はかかる。</p> <p>ここが小学校の統合校となればそれほど大きな改修は必要ないと思う。工事、建て替えが関係のない学校であれば、統合校が決まれば、事前に1年なり準備をしてやりましょうということになるが、この地区の場合、建て替えや改修が大きくなるので、一定の幅を持って考えなければならないと思っている。逆にいえば、手宮小学校も今申し上げた状態だ、北山中学校は50年を超えた校舎もあるので、方向性は、わりと早い時期に方針を決めて、それに向けて工事をどうする、建て替えをどうするという議論をしていきたいと思っている。時期がはっきり言えないのは、そういうことがあるということでご理解いただきたい。</p> <p>一昨日、手宮小学校で地区別懇談会を開催した。その中で保護者や地域の方から頂いたご意見があって、主なものは、通学路の問題、どこかの学校を統合校としたときに最遠距離からの通学に対する不安と、先ほど会長さんがおっしゃった末広中学校、夜は暗いとか、児童生徒の通学する時の安全性、それから小学校では通学するに当たって、手宮地区では色々高低差があって平坦ではないので、そのようなときに距離が遠くなると大変になるのではないかとといったような意見が出ていた。地域の方からは、できれば手宮小学校は残してほしいという話も出ていた。やはり一番保護者や地域の方が心配されるのは、通学路の安全性について出ていた。</p> |

高島・手宮ブロック

| 会場 | 会場での発言（質問・意見・要望） | 教育委員会の発言（回答・説明） |
|------|--|--|
| 手宮西小 | | <p>私の印象としては、このような少子化の中で学校の再編は考えていかなければならないといった形ではご理解いただいたと思っている。手宮小学校での懇談会なので、手宮地区の手宮小学校というのは、歴史的にもここだと、手宮小学校に小学校を作ってほしいという意見を言われた方もいた。もう一つ、中学校の統合の場所について、末広中学校が良いのではないかという意見もあった。理由は、すぐ横に陸上競技場もある、環境としては大変良い場所ということで。私も環境としては良いと思う。ただ、私の方からは、今回、祝津、高島ということも考えながら、手宮3校だけではなく、そちらの方からのご意見も聞きながら、色々な観点から議論していきたいということをお話しさせていただいている。色内3丁目の人から、あの場所は太い道路があるので、手押しの信号をつけてほしいとの要望もあった。</p> |
| 4 | <p>今までの話を聞くと、いずれにしても手宮西は中学校になるにしても、小学校になるにしても、このまま使える学校というのは分かったが、娘が5年と6年なので微妙に関係なくなってしまうと思うが、確かに末広中学校は前から物騒だということは聞いているので、もう少し下の手宮小学校のところに中学校ができれば良いと思う。正直に言って、小樽市は建て替えのお金はあるのか。何校も何校も耐震の工事、新築するにしても何校もある。その中で、教育委員会としては、この三つのプランの中ではどれが一番おいしいと思っているのか。</p> | <p>手宮3校で言うと、先ほども話したが、色々な要素で、一つの要素だけでは考えられない部分がある。小学校は12クラスの学校を作りたいという基本的な考え方を持っている。ただ、プラン1では12に満たない。プラン2の北手宮を高島にもっていくと、もっと減ってしまう。今でも、赤岩1丁目付近は北手宮小と高島小の境界の所で、通学距離としては、高島の方が現実に近い子はいる。このピンクの色内小校区が入ってくれば12クラス確保できる、小学校を12学級にしたいとの考え方はある。ここは圧倒的に、色内小学校の皆さんとお話をしないと進まないところだ。この面から見れば一番これ。この面から見ると一番これです。役所はお金ありませんから、その面だけから見れば、小学校では手宮西が一番だ。造作しなくても受け入れられるから。手宮を中学校とした場合、グラウンドの問題というのは、中々難しい問題だと思っている。教育委員会のすぐそばの菁園中学校、建て替えをしたが、あそこのグラウンドも大変狭い。市教委のグラウンドを使ってもらえるか今学校の方と相談しているところ。新しい学校となると、規模も大きい学校となるので、そこところはやはり・・・ そういう感じで、意見を聞いていくしかないと思っている。</p> |
| 5 | <p>石山中学校はどうなのか。</p> | <p>それを言われると、中々ゆるくない部分がある。</p> <p>石山中学校も古い校舎で、あそこをそのまま使うということにはならない。建て替えになると思う。そういうことから、スタートラインにはならないと直感的に思う。今回、教育委員会としてプランを示した。端的にいうと、ここの敷地を小学校として使うか、中学校として使うか、手宮小学校の敷地を小学校として使うか、中学校として使うか、これが教育委員会で示した部分だ。今、ここに参加している方で決めるということではないが、少なくとも生の声を聞かせていただければと思う。</p> |

高島・手宮ブロック

| 会場 | 会場での発言（質問・意見・要望） | 教育委員会の発言（回答・説明） |
|------|--|---|
| 手宮西小 | <p>話をまとめると、小学校の方を先にしなければいけないということだ。私たちが手宮小に移るとなると、手宮小に入ったまま建て替えるというのは無理だ。手宮西に小学校を置いて、手宮は、建て替え、新築となると思うが、グラウンドということになれば、末広中学校のグラウンドを使ってはどうか。ちょっと離れてはいるが、中学生であれば、なんとかクラブをしにいけるとかできると思った。</p> | <p>資料3ページご覧ください。体育館とグラウンドの面積を記載している。手宮西小学校は、体育館が1,092㎡ある、素晴らしく大きいわけではないが、北山中や末広中よりも大きい体育館だ。今お話のあった建て替える順番についてももつともだと思ふ。手宮からこちらに小学校が来て、その間に向こうを中学校に建て替えるとすんなりいかかと思ふ。逆に、手宮を小学校として残すためには、手宮小学校は大きいので半分ずつ壊して、建てていくとか、グラウンドは使えなくなるが、グラウンドにプレハブを建てることもできる。</p> <p>最終的には、手宮に行くんですが、1年くらい手宮西にみんな来てもらって、手宮を小学校に改築して、一遍にみんなで戻るとか、色々なパターンがあると思ふ。最終的に、一昨日の手宮の会場でも言われたが、学校は今新しくもいつかは古くなるのだから、一番良い場所にした方が良いという意見があつて、なるほどもつともだというのものもあるが、色々な建築の仕方はある。さっき言われたのは、すんなりいくという形ではあるが、今私が話したように色々なやり方がある。</p> <p>そのようなご意見の中で議論を進めていかなければならないと思つている。あつちが良ければ、こつちが悪い。こつちが良ければ、あつちが悪いというのがあつたが、こうすればその部分は解消されるのではないかとすることを、やり取り、やり取りしていつ、一番良い形にしていきたいと思つている。何年もかけてやり取りするわけではないが、ぜひ、そのような議論もしていきたいと思つている。</p> <p>ただ、どうしても中学校の位置については、こちらの意見を聞かないということではないが、高島・祝津方面の方と相当いろんな議論をしていかなければならないと思つている。今日お配りした資料にも載せているが、中学校のプラン1を見ていただきたい。相当通学距離、5km近い通学距離になってしまう。9ページ中ほどの表を見ていただきたい、中学校を北手宮にして3.7キロ、手宮西にして4.6キロ、手宮にして4.8キロとそれほど大きな違いはないが、いずれにしても4キロを超える相当長い距離になっていくという部分があるので、この辺の議論というのをもう一回しながらと思つている。</p> <p>それぞれ学校で、地域の伝統、町の伝統というものもあるが、まずは一当たり、そのような形で進めていきたいと思つている。</p> <p>今話があつたように、高島方面からの通学のことも考えながらということになると思ふ。祝津小学校の卒業生は北山中学校へ行くことになるが、祝津から北山中学校に通うのにバスを利用している。バス代については市の方で全額、定期代を補助している。これだけ広域となると、バスを利用する生徒さんが増えることから、なるべく通学の便が良いところ、手宮地区に中学校を移すにしても、通学の利便、バス路線そういったことも頭に入れながらという事で教育委員会は考えている。</p> |

高島・手宮ブロック

| 会場 | 会場での発言（質問・意見・要望） | 教育委員会の発言（回答・説明） |
|----------------------|---|---|
| <p>手宮小 5月18日</p> | <p>1 町別学齢人口では色内3丁目、このブロックに入っているが、地図上ではこのブロックに入っていないと思うが、このブロックでよろしいか。来年学校にあがるので、わからないので確認したい。</p> | <p>色内3丁目は、手宮小学校と色内小学校に分かれている。色内3丁目1番から7番まで、11番以降は色内小学校。同じ色内3丁目でも8番から10番までは手宮小学校の通学区域。この町別学齢人口は、総合計画の中で、地域別、地区別の姿を表す時に、色内3丁目は一つの括りとして一緒に表記をしており、このような形になっている。</p> |
| | <p>2 資料3ページ、4ページにある通学環境の隣接校との距離、在校生の最長通学距離、最寄りのバス停、これらは地図上の距離と理解してよろしいか。手宮小学校のところに手宮が出てこない、末広中学校の方が手宮に近いというのは道のりを考えるとおかしいと思う。それぞれのプランに出ている、最遠地点からの概算距離も地図上の距離ということで理解してよろしいか。道のりではない。なぜかと言うと、中学のプラン1で①北山中学校の場合、石山町6というのが合点がいかない。そこよりもっと遠いところがあると思う。これは道のりではなく、直線距離で、しかも高低差を考えていないのではないかな。</p> | <p>プランの中に書いた最遠地点からの概算距離は、主要道路経由として書いた。子どもさんのご自宅から主だった通学路を、その経路をなぞって、地図上で計ったもの。</p> <p>最遠地点からの概算距離は、平成27年度に在籍する子どもさんの計測は図面上だ。どの経路を通るかによって、100メートル、200メートル違う場合があると思うので、これを固定して考えるわけではなく、一つの目安として作っているもの。</p> |
| | <p>3 手宮西小学校に統合する場合、手宮3丁目地区からはどのような通学となるのか、考えをお聞かせいただきたい。歩いて手宮西小学校に行くということになるのか。</p> | <p>実際に路線バスが通学路上にある場合には、路線バスを使って通学していただくわけだが、その場合には、通学費の助成制度というものが現行制度である。小学校は片道2キロ以上、中学校は3キロ以上。通学路上に路線バスが通っていない場合でバス通学が必要な場合には、今後皆さんの意見等を踏まえ、スクールバスを導入しなければならないということになれば、協議していく。</p> <p>今回のプランでは通学手段について、具体的に記載はしていない。あくまでも通学区域の組み合わせ、それをベースにして話し合いをしていこうということ。プラン1から3まであるが、プラン〇〇を採用すると、今の通学手段の問題が大きな問題として出てくる。そうすると、実際に保護者や地域の目から見て、プラン〇〇はダメなのではないかという話になるのではないかな。逆に、この通学上のことが担保されるのであれば、プラン〇〇が良いのではないかなということになる。今のお話は、今日プランを提示したという中で我々として受け止めるので、プランについての話し合いを続ける中で、このプランについては通学手段をこう考えていきたいと思いますか、ということでお答えできるのではないかなと思う。今の段階で、プラン1から3の中では、まだ皆さんとキャッチボールする、最初の段階ですので、教育委員会として、はっきりした答えはできていないと思う。</p> |

高島・手宮ブロック

| 会場 | 会場での発言（質問・意見・要望） | 教育委員会の発言（回答・説明） |
|-----|--|--|
| 手宮小 | <p>4 小学校を手宮小学校、手宮西小学校それぞれ一長一短はある、どっちもどっちだと考えられるが、中学校を考えた場合、この広い地区全体を考えて、手宮西小学校の地点を中学とするというのを、この範囲の中で、その位置で「有り」と本当に思っているのか。ここら辺の小学校の方からすると、手宮西が中学になっても、高島地区を含めて中学ということを考えるのであれば、かなり端に寄った通いづらい位置になるとしか思えない。そうなれば、手宮小学校を中学校へ転換するというようにほとんどの方には、自然と見えてくると思うが、教育委員会としては、両方同じくらい進めたいプランとして考えているのか。</p> | <p>今日ここには、いくつかのパターンをたたき台として示すというスタンスで来た。資料6ページ、北手宮小学校を統合校とした場合、手宮3丁目から1.9キロ。手宮小学校を統合校とした場合は、清水町から1.8キロ。手宮西小学校を統合校とした場合は、手宮3丁目から2.4キロと一番遠いところとなる。</p> <p>3校のバランスで、通学区域というところをただ考えてしまうと、手宮西小学校とした場合、一番遠い人を作ってしまうということになる。後段のところ、施設の状況も書かせていただいた。施設の状況から見れば手宮西小学校は、耐震化もされている。手宮小学校は、もう40数年経っている学校で、学校施設のことだけ見れば、手宮西小学校が良いとなる。もう一つは、今日は手宮小学校でやっているの、この学校を建て替えて、残して欲しいという気持ちでお話されているのは、ある意味当然だと思う。私どもは、今出された意見、この後手宮西小学校でもやるので、そこでの意見も伺う。そういった中で、一定程度時間はかかるが、議論を積み重ねていく中で、この高島・手宮地区のBグループは、どこが最も適切なのかという議論をまず進めさせていただきたい。あえてこの中で、手宮西小学校が一番新しいから残すと決めている考え方は持っていない。これだけの広い地区の中で、中学校一校だけで、これは無理ではないかとの議論はわかる。10年前、20年前にはそれぞれの学校規模を持ってあったわけだから。今、中学校は両方も6クラスずつだ。</p> <p>平成27年になると、末広中学校は、去年192人いた子どもが、132人まで落ちてしまう。今、小学生の子どもが、このまま中学校に入った時には、1学年1学級の学年が出てきてしまう。</p> <p>今日の資料にも書いた、前段の教育長の挨拶にもあったが、私どもとしては、中学校を運営していくためには、1学年3学級、特に中学校の場合は、先生の専任免許の関係があり、1学年2クラスでは、1人の先生が国語と社会科を持つなど、どうしてもやらなければならない。先生の数が足りなくて。</p> <p>通学距離のことは、先程のお話のとおり、この区域全体で中学校一つはどうかという議論があるのは十分分かる。もう一方では、こういう地域でも1学年1クラスの中学校が出てきているという現状から、バスの利用とかそういったことも考えながら、統合はしていかなければならないという、考え方を持っている。中学校も1学年1学級で良いのだという議論は、私ども教育委員会の立場からすれば、学校運営上そうはならない。</p> <p>先程の小学校の議論に戻るが、手宮西小学校を残して、もう一つの手宮小学校を中学校の敷地にするという議論はあると思う。ただ、手宮西小学校は、グラウンドが9,000㎡ある。市内の小学校でも極めて広いグラウンドを持っている。手宮小学校は、4,000㎡程しかない。中学校のグラウンドとしては十分ではない。</p> |

高島・手宮ブロック

| 会場 | 会場での発言（質問・意見・要望） | 教育委員会の発言（回答・説明） |
|-----|------------------|--|
| 手宮小 | | <p>そういう意味で、手宮西は中学校、手宮は小学校ということも一つのたたき台として、今回提示させていただいている。そういうわけだ。迷わせると言われるかもしれないが、私どもとしては、昨日から始まったこの地区別懇談会は、41校全部対象としてやるので、こういう場をまず一つづつ作って意見をいただき、私どもの示したこのプランの中で、どの方法が一番良いのか。より良い環境を作っていくという視点で、今後の議論をさせていただきたい。</p> <p>今日は、手宮の校区、手宮小学校でやってるが、場合によっては、手宮地区3校の皆さん全体でやる場面もある。あるいは中学校も含めてやる場合もある。いろんな形で考えている。今回の学校再編計画というのは、極めて長い15年間というスパン、前期8年、後期7年で考えている。ここは前期に位置付けているが、文字どおり吸収合併とかということではなく、この地区の中の学校の場所はどこが一番良いのか、ということを経済的に、6年後、10年後の子どもの数はどのくらいになるのかということも見ながら、議論をしていかなければならない。そういった中で、建て替え、新築、耐震補強をしようといった議論をしなければならぬことから、一定程度の幅を持たせて、十分な議論を保証しながら進めていきたいと考えてるところ。</p> <p>7月22日までに一回りするんで、それが終わったら、当然また説明に来る。その時には、この学校ではこういう意見が出ていたということも含め、進めていかなければならない、そういうスタンスに立っているというのをご理解いただきたい。</p> <p>今の話のとおり、今日のこの懇談会ですべてを決めるという立場ではない。再編計画が長い中で、このブロックについては、前期計画で位置付けているが、手宮小学校は昭和39年、北山中学校は昭和33・4年くらいに建築した古い校舎を持っていることから、8年間の中でも皆さん、地域の合意ができれば、なるべく早く決めて、次の段階、実際に統合の準備に入っようと考えている。プランの中でも、このブロックの小学校、中学校は、古い校舎を抱えているという学校があるということから、建て替えあるいは新築という考え方も教育委員会が改めて示しているんで、そういうことも含めて、今日は要望等も聞いていきたいと考えているので、もう少し時間があるので、そういったところの話も聞ければと思う。</p> |

高島・手宮ブロック

| 会場 | 会場での発言（質問・意見・要望） | 教育委員会の発言（回答・説明） |
|-----|--|---|
| 手宮小 | <p>地域住民としての要望をお聞きいただきたいと思う。小学生を遠くへ通わせるというのは問題があると思う。マイカーの時代であってもお母さんたち皆さんが車を持っているとは限らない。何かあっても困るから、小学生にはあまり遠くまで通わせたくはない。</p> <p>手宮小学校は、地図を見ても手宮地区の中心だから、手宮小学校を残していただきたい。学校というものは、半永久的に残ると思うので、小さくても良いから手宮小学校を建て直して、手宮小学校として存続していただきたい。</p> <p>5 中学校については、グラウンドが広いから手宮西ということも考えられるが、手宮には大きい競技場もあるので、今の末広中学校は、環境がすごく良い。北山中の校区が云々と言っても、ほとんどの方が、校区を変更して末広中学校に通っている。今年もそうだと伺っている。中学校は、環境が良いということも考え、高島からでも祝津からでも通いやすい。どうしても遠い人であればバスを利用して手宮で降りて通うこともできると思う。スクールバスの問題は、前回の統廃合と同様に、色々な問題があり、難しいと思う。</p> <p>手宮には、手宮小学校を残して、中学校は今の末広中学校を何とか改修して残していただきたい。手宮西は、老人のための施設として、図書館とか老人が生き生きと暮らせる、そういうものに役立てていただきたい。手宮にはそういったものが何もないので、学校のことだけではなく、住人が住みやすいそういったまちづくりを進めていただきたい。もう一つ手宮西小学校に小学生を通わせたくないのは、グラウンドが学校から全く見えないところにある。広さだけではなく校舎から全く見えない。何かあったときに、小学生がそこで本当に良いのかと思っている。</p> <p>（要望） 6 末広中学校が候補に上がらなかったという話を伺ったが、私は、北手宮小学校が中学校だった時代に通ったものだ。あそこも道路が整備されているし、近くまで民家があるので、防犯上の心配がないところだから、末広がらなければ、北手宮小学校を中学校にすることを念頭に置いて検討いただきたい。</p> | <p>手宮小学校と手宮西小学校のどちらかを中学校として使用するということを出させていただいたのは、夏井さんの方から来ても急だし、暗い道だ。高島方面から来る道はこちらよりもっと暗い。草ぼうぼうで、人家もまばら。特に、北山方面から通学することを考えれば、そちら側を通学路とする人が大量に増えるだろうという考えがある。その時に、手宮公園の向こう側から徒歩で通学するというのは、通学上の安全からなかなか考えづらいと思い、末広中学校ではないたたき台を用意したということ。先程話のあった環境が良いというのは私どもも十分理解はしている。そのあたりは、高島小学校と北山中学校の懇談会の中でどういった意見が出るのか、注視したいと思っている。</p> |

| 会場 | 会場での発言（質問・意見・要望） | 教育委員会の発言（回答・説明） |
|-----|---|---|
| 手宮小 | <p>7</p> <p>先程の距離の話、地図で測るのではなく、実際の高低差も入れて、歩行距離を明確に出していただきたい。先程、教育委員会から距離の説明があったが、この距離が独り歩きする可能性がある。実際に歩いている距離ではない。坂道だと、当然その道のりは長くなる。子どもの目線でいくとその子どもが実際に何キロ歩いているのか、そういうことを測る必要があると思う。それに基づいて数字を出した方がリアリティーがあると思う。</p> <p>もう一点は、先程からバスの話が出ているが、前の頓挫した計画の時にも話したが、手宮西では、特にバスはあてにできない。清水町のバス停は、冬には使えない、吹雪けば止まる。そういうことも改めて紙の上ではなく、現実を検討していただきたいと思う。</p> <p>市のほかの計画とのリンクというのは、教育委員会として考えることができる立場なのかということをお聞きしたいと思う。例えば広域避難場所の件で、錦町のバス停のところに避難場所は手宮西小学校と書いてある。客観的に見ると手宮に走ってくる方が多いと思う。公共施設として、避難場所として小学校や中学校は当然使われるし、幸か不幸かこら辺の小中学校全部高台にあるので津波が来てもそこへ行く。広域避難場所ということも考えて小中学校を建てるということを市の方でなっているのか、それともまったく、単にあくまで校区を割って話しているのか。校区を割るのであれば、地図上から見ると、手宮と手宮西は個人的には間違っていないと思うが、現実はこの集落のことから考えると、高齢の方が多いという状況だ。現時点で市のほかのセクションと連携を取るといのが計画されているのか、それとも教育委員会が独自に立てられて、ある程度まとまってからすり合わせをするという形にせざるをえないのか。</p> | <p>小樽市全体の課題の調整を計る企画政策室からもこの懇談会には参加している。昨年、基本計画の説明会を41か所でさせていただいたが、忍路方面や銭函・張碓方面でも、大規模な学校再編になっているので、市全体でのまちづくり、ストレートにいうと、避難所の問題をどうするのかという質問も何点か出された。</p> <p>学校の再編は教育委員会の所管だが、市の他の計画、施策と無関係に進めるわけにはいかない。今回プランを出して具体的な議論を進めていく場面では、市の全体調整を行う企画政策室も入ってもらおうということに来て。今の避難所の話は、防災担当のところに、しっかりと伝える。これからの議論についても、避難所とか色々な計画との関わりが出てくるので、どの会場にも企画政策室の職員が参加するので、調整、連携をとりながら進めていかなければならないと思っている。</p> |
| | <p>8</p> <p>保護者皆さんがお願いしたいことだと思うが、現場を見ないで考えるということはやめて欲しいと思う。学校再編を検討するのであれば、学校の周りを見てほしい。そして見た方を出席させてください。ここから手宮西小学校へ向かうとすると、左側に大きく迂回してそこから手宮西へ行く、その直線のところは、防犯上危ないところだ。</p> <p>プランを出していただいた方、どれだけの人が分かっているのか。そういうことが詰められていなく、検討もされていない。だから前に進まない。それは前回からまだ学んでいないと感じる。防犯上のことに重点を置いて検討いただきたい。</p> <p>娘が末広中学校に通っているが、街灯が少ないところを通る。今まで通って来たら意見があまり出なかったから、そのままになっているのかもしれないが、歩けばわかります。そういう現場を見た方が出席して話をしなければ、また頓挫してしまうと思う。意見です。</p> | <p>通学距離と教学路の安全について実際に教育委員会の職員が歩いているのかという話があったが、すべての小路について丹念に歩いているわけではないが、この手宮小学校に限らず主な通学路については、歩いている。具体的に通学区域が決まって、どこを主な通学路にしようかという段階では、「学校の統合を進めるに当たって」という1枚ものの資料、この資料の左側に、「仮に統合が決まったあとのスケジュールはどうなりますか」と書いてあるが、2年程度かけて事前の準備をしていくと書いている。その中で保護者や学校・地域の方がメンバーとなった学校統合協議会を作って、話し合いながらここに例を書いているが、通学路の選定や通学安全上の問題など、この中で話し合おう、実際に見て回ろうと考えている。</p> <p>例を言います。北広島市でも今統合計画をやっている。通学路の選定のために教育委員会と保護者の方が一緒に端から端まで歩いたということも聞いているので、そういういい例は積極的に採用して皆さんと話し合っていきたいと思っている。</p> |
| | <p>9</p> <p>平成14年の時に住吉中学校廃校した際に、そこに小学校をという議論が起きた。その際、小学校と中学校とは校舎のつくりそのものが違うから、使えないんだと教育委員会の皆さんはおっしゃられた。今回のプランでは、手宮西小学校を中学校とする場合には、中学校に改修すると書いてあるが、わずか6、7年の間に、小学校と中学校は、改修することで使うということができると、教育委員会では考え方を変えたのか。</p> | <p>小学校を中学校に使うのは簡単。中学校を小学校に使うのはものすごく難しい。簡単に言うと、階段の段差が違う。中学校の基準は小学校の基準より高い。小学校は中学生がその階段をそのまま使えるが、中学校を小学生が使うためにはその階段の段差を低くしなければならない。</p> |

| 会場 | 会場での発言（質問・意見・要望） | 教育委員会の発言（回答・説明） |
|----------------------|---|---|
| <p>北山中 7月21日</p> | <p>2点質問がある。14ページに書かれている部分で、手宮小学校を中学校にした場合は新築をしなければならない。この新築の費用が捻出できるのか心配だ。もう1点は、そうした場合に手宮小学校はグラウンドが狭い。グラウンドを拡張する方策はあるのか。拡張できる方策が解決できれば、費用も捻出でき、グラウンドを拡張することができる。比較的、北山中学校から通うにしても、末広中学校から通うにしても、手宮小学校は距離的にバス停から歩いてもたいしたことがないというメリットがあるのでこのプランに大いに注目をしたいと思う。</p> | <p>この再編プランを作って懇談会を開いているのは、学校をくっつけるとか、二つに分けたりとか、形として結果的にはそうなる場合もあるが、基本的な考え方としてはこの地区に小学校を2校、中学校を1校とした場合にどこが一番場所として良いのか、そういう目でまず見ていただきたいということ。ご心配いただいたように、小樽市は決してお金はないが、今のままでいくとここも建て替えをしなければならない。4ページに記載したが、末広中も昭和55年の建築なので、既に30年経っている。耐震化優先度調査の数値があるが、北山と末広を比べると、北山の③に対し、末広は②で末広の方が北山より新しいのに、危険性が高いとの結果が出ている。この優先度調査は、耐震診断と異なり100%このとおりということではないが、ここは3階建てで、末広は4階建て、1階上がるだけで点数の数え方が変わるので、そのような結果になっている。今銭函中学校の耐震化工事を手掛けているが、銭函中学校の例でも耐震化工事に1億5千万円くらいかかる。末広中に一定程度のお金をかけて、もたせたとしても30年経っているから、この先50年もつかというそうではない。それであれば、この地区としてどこが最善の場所かという議論をしながら建て替えるものは建て替えていこうという考え方。</p> <p>例えば、手宮小学校をこのまま小学校として使うことになれば、小学校として建て替える。手宮西小を中学校として使うことになれば、耐震は問題ないが、相当の改修はしなければならない。小学校と中学校は、手洗いの高さやトイレの高さが違うので、でもそうした場合には改修しなければならない。</p> <p>小樽市内に41校の小中学校を持っていて、いつかは建て替えなどをしていくわけだが、少し長いスパンで物事を考えて、統合校として残すところにはお金も手をかけてでも残していくという考え方でいるということをご理解いただきたい。このプランは教育委員会が中心となって考えているが、市長部局にはこのようなプランを出して、これから懇談会で議論をしていくとの話はしているので、必要なことはお金をかけてやっていかなければならないということにな。</p> <p>手宮小学校を改築してグラウンドを作った場合、4階建てにしてグラウンドの敷地をとるなど工法は色々ある。全体の面積が限られており、裏側を削るなど色々あるかと思うが、7,000㎡とこの北山中と同じようなグラウンドを作るというのは、中々難しいと思っている。実は菁園中学校が中学校で一番新しいが、町場にある学校でグラウンドでは大変苦勞している。相当高い擁壁を作って、できるだけグラウンド面積をとろうとしているが、正直に言って狭い。できるだけ、工法や校舎の階数、擁壁とか色々な検討はするが、広々としたところまでは難しいと思っている。</p> |
| <p>2</p> | <p>一つ確認したいが、遠距離通学になることよってのバス定期助成について、自宅と学校までの距離が3キロ以上でバスに乗る区間が1.5キロ以上だとバス代が出ると聞いたが。それで間違いはないか。</p> | <p>今お話しされたのは中学校の場合で、3キロ以上で、実際にバスに乗っている距離が1.5キロ以上の場合には、そのような通学がある。小学校の場合は、2キロ以上で1キロ以上バスに乗っているとバス助成の対象になるというのが現行の通学助成の制度となっている。</p> |

高島・手宮ブロック

| 会場 | 会場での発言（質問・意見・要望） | 教育委員会の発言（回答・説明） |
|-----|---|--|
| 北山中 | <p>初めは距離を聞いても、ピンとこなかった、あまり意識して歩いたことがないので、(北山中まで) 駅から4キロぐらいしかないと知りびっくりした。駅から4キロということは、3キロは随分あるというのが正直な感想だ。北山中学校から候補の学校の手宮小学校までは車で距離を測ってみると、約2.2キロで補助が出ない距離だった。私の中ではとても遠い距離だったので、この学校の近くに50人ほど子どもさんがいるので、その子どもたちの代表と考え、実際に北山中学校から手宮小学校まで歩いてみると、私はスポーツをしており、普段から数キロ走ることもあり体力には自信のある方だが、子どもに1日分の勉強道具を借り、それをかばんに入れて持った。最近の教科書は大きいものもあり、ドリルもあるので測ってみると6キロ程ある。さらに部活の道具や習字の道具などもある時には10キロ近くになるようだ。その荷物を持ち、歩いたが行きは下り坂なのでとても順調で、最後の上り坂で少し息が切れたが24分で着いた。問題は帰りです。皆さんご存知のように手宮小学校から北山中中学校まではずっと上り坂で、天国と地獄とはこのことを言うのだという程行きとは違った。行きの時よりは随分ゆっくり歩いたのに息が切れ、汗が流れた。時間は32分かかった。これを毎日、雨の日も吹雪の日も部活でへトへトになった日も毎日歩かなくてはならないと考えると、余りにも子どもの負担になるように感じる。平坦な道と急な道では体力的な負担がまったく違うと思うので、少なくともこの急傾斜の手宮高島区域では、バス助成の距離をもう少し考慮してほしいと思う。教育委員会の方々も重い荷物を持って一度この坂を登ってほしい。</p> <p>もう一つは、候補地が手宮小と手宮西小というのは、個人的意見では、今ある中学校の北山と末広にするよりは良いのかなと先程の説明で、すごく納得ができた。苦しい財政状況の小樽市の中で、建て替えてくれるのであれば、手宮小学校の方が、校区がとても広がるので、中心にある分、そちらを中学校にした方が良いと思う。これは個人的な意見だが。</p> | <p>この地区では、祝津から北山中学校へ通っているお子さん、数でいうと11人程で決して多くはないが、それはバス通学助成の対象となるお子さんは、小樽市内全部でいうと400人のバス通学者がいる。どこが多いかという点と銭函と長橋小学校の住宅生協の方から来るお子さんが小学校で言えば2キロ以上を通っている。中学校の場合でも豊倉方面から朝里中学校に来る子は3キロ以上となっている。確かに今おっしゃったように通学助成をしているところはわりと平坦なところだ。助成の対象になるところと、ならないところのどこかで線は引かなければならないが、地形の部分では色々議論をしていかなければならない、相談をしていかなければならない。この地区の学校での懇談会で申し上げたが、仮に手宮小学校を中学校にした場合、高島側から来るお子さんは、裏側の所を通って神社から手宮公園の方におりてくる。これは3キロないかもしれないが、通学路としてどうなのかというのはあった。私が申し上げたのは、今回、教育委員会でプランを作っているのも、通学路の安全ということからすると、あそこは避けたいということで、回ってでも考えている、と申し上げた。予算のこともあるので、ここで分かったとは言えないが、通学距離の3キロの部分の考え方の中で、平坦な道と坂道の場合、斜度がどうだとかあるかとも思うが、常識的な部分での、色々な議論をしなければならぬと思っている。この辺、細い道はたくさんあるが、通学路として適切かどうかということもあるので、手宮、手宮西どちらが統合校になっても、ここからはこういう通学路になるとした場合にこのような問題がある、坂も一つの克服しなければならぬ問題だと思うので、そのことも含めて具体的な話し合いをさせていただきたいと思っている。</p> |
| 4 | <p>前回は参加しなかったが、小学校での懇談会の参加者から話を聞き「これは大変だ」と思い今回参加をした。先程発言された方と違いきちんと距離や時間は測っていないが、先日手宮西小学校に子どもスポーツ大会の関係で行った。錦町と手宮西小の間は、小学校からだと距離はあるが下りなので、それほど苦痛ではないが、錦町から小学校へ上がる道は上りきった後に最後さらに登る。ここでは線上で測った数字で出ていると思うが、実際に歩いてみて、末広中学校に通う道は確かに暗く、上の子の時も今の子も安全性を考えるとちょっと怖いと思う。ただ時間で見ると15分くらいだ。末広中学校は、高島からも手宮からも1キロくらいで距離的にはさほどない。ただ、手宮西小学校となった時には皆さんバスで通うと思うが、荷物を持ってあの距離をずっと通うことを考えると、やはりどうせ通うことを考えると、末広がらなければ手宮小学校でと思う。グラウンドが狭いということであれば、今の末広の跡地を利用して第2グラウンドということにできないのか。</p> | <p>市のホームページにもアップしているので、できればご覧いただきたいが、手宮西小学校の懇談会で同じ趣旨の発言をされたお母さんがいた。手宮西にお子さんがいるお母さんだが、中学校ということで考えると、手宮は中学校として、グラウンドは末広を使っても良いのではないかと同じことを発言されていた。その後、ある学校の先生に、そんなことが可能か聞いてみた。否定する訳ではもちろんないが、いただいた意見は私ども真剣に検討しなければならない。その先生からは、学校からグラウンドが離れるということは、どうしても部活中の怪我とかの対応で難しい面があると言っていた。今日、ここに来たのは色々そのような意見もいただきたくて来ているので、また、この場合、この場合というプランを出している、どっちが良いと決めきれない、二つ出して皆さんから意見を伺うための懇談会なので、今のご意見、先ほどの方の意見も含め、この懇談会のご意見として受け止めさせていただく。また、来るが、まず一回目の時のご意見として受け止める。</p> |
| 5 | <p>個人的な意見で、良いか。私は手宮西小学校のすぐ側に住んでいて、うちの子がここに通ってきているが、もし手宮西小学校に中学校ができるのであれば、グラウンドも広いし、トイレなどを設置してくれれば、小学校としてより中学校の方が使いやすいと思う。設備がちょっと、グラウンドがとても遠いが、今小学生も手宮の下の方から歩いて通ってきているので、どっちみちバスに乗ってきて、どこかのバス停から歩いてくるのなら、それほど急ではないのではないかとと思う。</p> | <p>今おっしゃった方のご意見。ほかの会場のご意見を紹介するが、ご存知の方も多いと思うが手宮西小学校はグラウンドが高いレベルに古い校舎が低いところにある。学校を建て替える時は、グラウンドの方に建てて古い校舎の方を取り壊してグラウンドにするという形でするので、もちろん全部平面というところもあるのですべてではないが。出ている意見では、グラウンドが高い位置にあるので、職員室の方から見えづらい。そうすると昼休みとか遊んでいるときに子どもが見えないので、小学校の形としてはあまり良くないのではないかとのご意見もいただいた。何十年かしてまた建て替えるときは逆になると思うが、そういう意見も出ていた。私どもは今のも、ご意見として承りたいと思う。</p> |

高島・手宮ブロック

| 会場 | 会場での発言（質問・意見・要望） | 教育委員会の発言（回答・説明） |
|----------------------|---|---|
| <p>末広中 5月26日</p> | <p>1 手宮小学校を建て替える場合と中学校に改築する場合の費用はどの位掛かるのか教えてほしい。また、今の政権は少人数学級を打ち出しているがその場合、学級数は増えると予想される。それについては、どのように考えるか。 バスについては、月額でいくら位補助されているのか教えてほしい。</p> | <p>学校建設の費用の関係、地形や仕様によって、様々だが、市で建てた直近の例では、新築する場合では、一番近いところでは、菁園中学校を建てているが、そこでは約17億円かかっている。その次はもうすぐ15年近くなるが稲穂小学校で、土地の造成費がそれほどかからなかったこともあり、若干安かったと記憶している。いずれにしても学校を一つ建てるとなると、17～18億かかることになる。 今日を示している中で、最後の方でも説明したが、手宮小学校を統合校にする場合は、中学校でも小学校でももう新築をしなければならない時期になっているので、建て替えという形になる。逆に手宮西小学校を統合校とした場合に小学校であれば、それほど大きな改修の必要はない。子どもの数によって、教室が一つか二つ足りなくなる部分があるが、10億単位の金額にはならない。中学校になると、増築の関係もあり、トイレ等色々な部分で小学校と仕様が違う部分があるので、大ざっぱな言い方しか出来ないが、数億近いお金がかかると思う。 それから少人数指導については、文部科学省で学級編成について色々検討しているということは聞いている。文部科学省のホームページを見る限りでは、来年度に向けて検討していると言っているので、きっと今年の夏ぐらいには、一定の方向性、考え方について出てくると思っている。その考え方は微妙だが、少人数学級編成といった場合、30人学級とか35人学級とか色々な考え方があるが、仮に今、小学校1・2年生、中学校1年生で、北海道で行っている研究事業、これは35人学級でやっているが、そこで考えると今日の資料でも13ページを見ていただきたい、ここに全部の学校の平均なので、きっちりそのとおりではないが、1学級あたりの平均人数は、33.3人と出している。35人学級を仮に想定したとすれば、それほど大幅にクラスが増えるとかそういうことにはならないだろうと思っている。 次にバス助成の関係だが、21年度の実績でいうと、小樽市内全域で400人程の子どもがバス通学をしている。大まかにいうと小学生については、スクールバスを用意している。市で直接持っているバスは1台だが、中央バスやJRに委託して行っている。中学生では部活の関係が出てくるので、同じ時間に実行するということが難しくなってくるので、3km以上通学距離がある子どもについては、路線バスの定期代を一部でなく全額市が出している。これは現行の制度なので、学校の再編で通学距離が長くなるのが一般的なので、そうなった場合、今の制度でやっていきたいと思っている。</p> |
| <p>2</p> | <p>4ページの在校生の通学最遠距離について石山町45(2.4km)が最遠と書いているが、地図上では同じような距離かもしれないが、長橋3丁目というのもある。隣接するという意味で長橋3丁目も入れていただきたい。</p> | <p>この校区内で、昨年度現在、実際に通っているお子さんの一番遠い距離を書いたもの。長橋3丁目18～21はこの校区に入っている。この数字を拾った時点で、21年度に通っている時点でいなかったということでも外れていると思う。</p> |
| <p>3</p> | <p>今2年生なのでいると思う。昨年度1年生だった。</p> | <p>長橋3丁目は、長橋中と末広中に校区が分かれていて、何回か校区変更している。今質問された方がどちらの校区に入っているかの資料には今はないが、末広中に通っているということであれば、そこが今の在学生の一番遠いところになるかもしれない。それでよろしいか。</p> |
| <p>4</p> | <p>校舎を建て替えるための工事に要する期間を教えてください。</p> | <p>それぞれの学校で、今のグラウンドに校舎を建てて建て替える学校だとか、現在地で建て替えなければならない学校だとか色々な状況はあるが、少なくとも2年か3年はかかる。グラウンドの造成が必要になれば、それに時間がプラスされるし、体育館も建て直すかどうかにもよるが、だいたい2年か3年と考えていただきたい。</p> |

高島・手宮ブロック

| 会場 | 会場での発言（質問・意見・要望） | 教育委員会の発言（回答・説明） |
|-----|--|---|
| 末広中 | <p>5 今、通学距離が3キロ以上の中学生については、全額助成しているとあったが、区域外から通ってくる子どもについてはどのような対応になっているか。</p> | <p>特認で他の校区から通ってくる子どもについては対象としていない。あくまでも校区の中で小学校は2キロ、中学校だったら3キロを超えている場合は、スクールバスあるいは、定期代を市の方で持つという仕組みだ。</p> |
| | <p>6 プランで27年度の学年別推計が資料で示されているが、22年度から話し合いを始めて協議に3年位かかるから27年度の推計を載せたということによるのか。</p> | <p>この表の数字の意味だが、今回、基本計画そしてこのプランを作るに当たって、子どもの数の推計が必要になる。そのような推計をするに当たって、昨年度に生まれたお子さんが、27年度に小学校に上がることになるので、実際に生まれたお子さんを住所ごとに拾ってきて小学校1年生から中学校3年生までその学年に当てはめたものだ。昨年基本計画を作っているのが27年度の数字ということだ。それと今再編の時期の話があったが、平成27年度に向けてということではなく、基本計画では、22年度から29年度までの前期8年で計画しているのが、その8年の中で進めていくというのがこの基本計画の考え方だ。</p> <p>具体的に言った方が分かりやすいと思うが、前期計画は平成22年から平成29年までの8年間で置いている。ただ8年後にやるのかということではない。仮にこの地区で、統合校が手宮に決めるということで地区全体の合意ができたとする、そこから施設の建て替えという問題がある。もう一つは、子どもの交流を事前にする、学校で使う教材のこと、中学校の場合であれば制服はどうするなど統合に向けての準備がある。それにもやはり一定程度の時間はかかる。仮にその準備が2年間でできたとすれば、2年後には統合しましょうということになるので、前期の最終年度の平成28年に統合を行うということではない。市内全部を対象にしているのが、全体としては一定の幅を持たせているが、私どもの基本的な考え方としては、統合校が決定する、その統合に向けての期間を一定程度おく、そして統合する。そういう形で考えている。だから2年間でいける場合もあるし、先程言ったように学校建て替えということがあれば、その建て替えだけでも2年や3年はかかるので、そのようなことも考えている。</p> <p>この手宮地区については、数年前に小学校の適正配置の話があった。その計画を立てるときに、実際に実行に移すまでの期間ということで、教育委員会が、学んだこともあるので、そういう面も含めて、準備期間については十分に取りがらやっていきたいと考えている。</p> |

| 会場 | 会場での発言（質問・意見・要望） | 教育委員会の発言（回答・説明） |
|-----|--|--|
| 末広中 | <p>資料に最遠の距離が出ているが、ここの地域の特性として、地形の起伏を考えると、距離だけでは語れないところが大いにある。祝津から手宮西に通う場合、バスで通学するにしても乗り継ぎが必要になる。距離だけではなく、そういったことも出してほしい。小学生がその通学に耐えられるのかについても、ぜひ検討してほしい。中学生では、山坂を考慮して通学時間を考慮してほしい。</p> <p>通学の安全確保について、通学距離が今より長くなる。手宮から高島方面に行くことを考えると、末広から高島の間でも変質者が出たり、グラウンドの辺りは夜は真っ暗なので、教育委員会が目で見計ってどのように対応するかということまで出してほしい。うちの子どもたちの時も心配をした。日が暮れば、部活をしない時間帯でも真っ暗で電灯も人家もない。まして、これから通学距離が長くなり、人通りがあればいくら目が届くが、人口もどんどん減って、そういうところを通して学校に通わなければならない子どもが増えることをどうか考慮していただきたい。そして、それに対して、具体的にどうするのか、プラン決定の時期になると思うが、きちんと示していただきたい。冬の除雪についても、具体的にどうやっていくのかプランを示してほしい。</p> | <p>通学時間の関係だが、中学校のプランとして出した部分では距離については、それぞれ比較をしている。ただ、通学時間という観点からの比較がないという主旨だと思う。これについては今後、懇談会を重ねる中で、違うデータを比較検討する素材を提供できるのではないと思う。二つ目の安全確保の部分だが、中学校で言えばいくつか統合校の位置として、パターンということで5か所を上げているが、そういった場合、通学路の安全という部分で、継続して検証作業をしていったほうが良い、というご提言だと思う。</p> <p>言われたことはそのとおりだと認識している。今回の学校再編は、ご案内のとおりここだけではなく市内41校を全部を対象にしている。そういう意味からすると多くの部分で、通学路が変わる、通学距離も長くなるということを念頭に置いて考えなければならない。その意味で今日説明させていただいたいくつかのパターン、それぞれの統合校をどこにしたかで示しているが、今回あえて、手宮西や手宮という形で、今ある中学校ではなくて統合校を小学校の敷地にしたことも大きな理由として私どもも考えているところだ。今日は末広中学校の懇談会だから、今日お示しているのは、統合校の位置を末広中学校が適切だという考え方ではない。それはなぜかという、先程言われたとおり、安全面からすると、私も夜ここ通ったことがあるが、手宮側から来ると神社の辺りまでは、一定程度、人家もあるが、それから上がっていくところは夜は本当に暗いと思う。</p> <p>それから高島側に降りる道だともっと暗い、夜通るのは辛い。だからそういう意味では、距離だけからすると、今現在の末広中学校の位置の方が位置的には真ん中に見えるが、通学路の安全からすれば、山坂という面で、隣の北山中学校も坂の上にある学校だ。私どもとして、こう決めたということではないが、色々議論をいただく資料として、手宮や手宮西が適切ではないかということで今回出させていただいた。おっしゃったとおり、距離だけからすると、祝津の方から来る子どもは、距離は相当長くなる。私どもが思ったのは、祝津からバスで来てターミナルで降りて、またこの末広まで上がってくるというのは、なかなか考えにくいのではないかと。</p> <p>距離は長くなるが、バス停からの距離が冬のことも考えてそれ程遠くない位置ということでの考え方を出したものだ。個別の議論はこれから出てくると思うが、仮に手宮を中学校にした場合は、こちらから通う人のこの道はどうか、あるいは歩道がどうか、そういったことも具体的には色々出てくると思う。</p> <p>私どもとしては今日このプランを示して、学校の中でも色々議論をいただいて、ここを統合校とした場合は、こういう問題があるがこれについては解決できるかどうか、そういったことを文字どおり今日配付したリーフレットの中で、2年程度かけて議論をしていこうということを考えているので、ぜひそのような視点で見たいと思っています。</p> <p>先週の月曜日から、この懇談会を始めていて、日程調整の中で手宮地区の学校が割りと多く、手宮小学校と手宮西小学校を終えている。そこからやはり意見が出ていて、「中学校として使うには手宮小学校はグラウンドが狭いのではないか。」や「それであれば、グラウンドだけは末広を使ってはどうか。」というようなご提言をいただいている。「やはり小学校は手宮がいいのではないか。」手宮西小学校は、グラウンドは、9,000㎡程あり小学校のグラウンドの広さとしては、1、2を争う程広いが、「そこから見れば中学校の方が良いのではないか。」というような議論もあった。今回でもう決まるということではなくて、色々な意見をいただきたい。私どもはそれを要望も含めて持ち帰って、次の話し合いの時にそれを課題にしてまた意見交換をしたいと思っている。</p> |

高島・手宮ブロック

| 会場 | 会場での発言（質問・意見・要望） | 教育委員会の発言（回答・説明） |
|-----|--|-----------------|
| 末広中 | <p>8 (要望)</p> <p>前回の小学校の適正配置の時小学校5年生だった子どもも、無事手宮小学校を卒業し、今年は末広中学校の3年生になった。PTAの立場で話をするのも今年が最後になる。前回の適正配置の時の小学校の保護者の立場として言わせていただければ、当時は通学が不安で、そのまま短期間で決行されるのが余りにも、という一点だけだった。その後、手宮小学校を残せというように発展してしまっただが、本当にあれから、多くの時間をかけて膨大な資料を作っていた、色々な意見を公平に、全市的に、という仕事をされ本当にお疲れ様。今日はその思いを伝えたくてこの会場に来た。</p> <p>以前も手宮小を末広中というのが現実的だという話は保護者の間でもしていたので、実際に、そのようなプランが出て来て驚いている。今後は、今、現に手宮小学校に子ども通わせている保護者やこれから学校に子どもを通わせる保護者の意見を十分に聞いて進めていただきたい。</p> | |

高島・手宮ブロック

| 会場 | 会場での発言（質問・意見・要望） | 教育委員会の発言（回答・説明） |
|------------|---|---|
| <p>末広中</p> | <p>9</p> <p>この地域では、数年前に石山中学校が閉校になっている。その際に、通学路が伸びた子どもたちがたくさん出た。今でもとても重いかばんを背負って毎日坂を上ってきていて、部活などで再登校するという場合もある。今回は全学的に再編を行うということで、末広か北山かということになっているが、一度そういう痛みを味わっている地域ということで、これまでのこの地区の懇談会で何か意見はなかったか。</p> | <p>平成12年に中学校の適正配置の計画案を示して、1、2年生を13年の4月に、3年生だけが残って平成14年の3月に卒業させたという経過で、末広が石山を受ける側の学校になった。前の方の発言と重なる部分もあるが、教育委員会としても何回か学校再編を経験していく中で、色々学習をさせていただいている部分もある。確かにこの地区、石山と末広の関係でいうと「またか」という部分があるというのは分かる。私も平成12年当時、教育委員会にいたので、石山での説明会を何度もやった記憶がある。数制的な部分で大変申し訳ないが、この末広中学校も平成12年、13年当時は6クラスだったが当時統合したことによって平成14年には9クラスになり、残念ながらその後はずっと減ってきている。そういう経過で去年は6クラス、今年は研究事業で7クラスになった。そういう状態になっている。今回全学的にやらなければならないと考えたのは、平成12年度に中学校の適正配置をやった時には、小樽市内で年間975人の子どもが生まれた。それが平成16年に815人、4年間で、160人減ったことになる。160人というと今の小樽市内の一つの学校の1学年分になる。中央地区や手宮地区そういった部分、部分で、再編を考えることはできない。ただ一つの学校を二つにまとめようとか、A校を廃校してB校とC校に振り分けようとか、そういうレベルではもうないだろう。</p> <p>それともう一つは、この地区でもそうだが、手宮、北山ももうすでに50年を超えている校舎となっている。耐震化の問題も四川省の地震以来大きくクローズアップされている中では、ある意味、市内41校の学校をご破産にして、それで小学校中学校の位置がどこが良いのかを考えようということで、一昨年「考え方」、それから昨年の「基本計画」ということで、話を進めてきた経過がある。だから特にこの地区も、私どもも北山と末広を統合してどっちが良いということではなく、小中を一回キャラにして、そして改めて、どこが良いのかを議論しようと思っているので、そのことは、前提として現在このような議論をさせていただいていることはご理解いただきたいと思っている。それから今回、高島・手宮地区の再編プランで、北山中学校の懇談会はまだこれからだが、北山の方々から見るとすごく遠い距離になる。怒らないで聞いていただきたいが、手宮3校地区であれば、手宮、手宮西はそれ程の距離ではないと思うが、私どもとしては、他のところは軽いということではないが、このプランを持っていった時に、小学校で言えば祝津、中学校で言えば北山、そこからどういご意見が出てくるのかというのも、お聞きしてそしてまた次の話の段階に進めていかなければならない。</p> <p>そのようなことで、私どもの構えとして思っている。だから、いついつまでにやるということにも今回ははしていない。統合校が決まったらその後、準備のために2年程、子ども同士の交流、保護者同士の交流、Pとの交流、そういったものをやっていって、それで統合に向けていきたいと思いますというそういうスタンスでいる。だから、その流れというか、協議、相談の進め方も含めて、ご理解をいただければと思う。</p> <p>今後の進め方も含めて、今話をした。このブロックでは手宮小学校、北山中学校は大変古い校舎ということで、早めに対策をとらなければならないということもあるので、ただ漫然というわけにもいかない、という側面もあり、教育委員会として精力的に、こういう場を持って合意形成を図っていききたいと思っている。</p> |

高島・手宮ブロック

| 会場 | 会場での発言（質問・意見・要望） | 教育委員会の発言（回答・説明） |
|------------|--|--|
| <p>末広中</p> | <p>10</p> <p>この資料の中で耐震化について触れているが、再編までの間、未耐震の校舎については、耐震化するのか、手をつけないのか考えを聞きたい。 地域、保護者の同意を得ながら進めていくと言っているが、どのように進めていくのか。この前の量徳の説明会を見ている限り、本当に話し合いや意見を聞いてくれるのか不安に思ったので聞いておきたい。</p> | <p>耐震については、言われるのはもともとだ。耐震化された学校が後でなくなるのは困るというのももともとだと思う。残る学校が決まっています、それを耐震化していくのが一番効率的だということは皆さんもお分かりだと思います。今はそういう状況ではないので、これからは、統合校として決まった学校を耐震化していくことはもちろんですが、それだけではできないので、教育委員会としてすでに5校、長橋小、桜小、朝里小、朝里中、銭函中、それから、第2弾として長橋中、桜町中について手掛けている。統合校として残る学校はあるが順次、適配で話し合いが進んでからではなく、それより前にも手掛けていることをご理解願いたい。</p> <p>基本的な考え方として、すでに40年以上経過して、統合校の位置として残していく場合は新築しなければならないと思っている。昭和56年以降の建物は耐震基準を満たしているの、ここも体育館は大丈夫だ。私どもは新耐震と呼ぶが、校舎によってもばらつきがあるので、一遍に全部はできないが着実に進めていきたい。</p> <p>量徳の関係の合意形成についてだが、昨年素案説明会を開いている時期に小樽病院の並木局長と医師会を含めた市内の医療関係者の議論の中で病院を新しく建てるのであれば現在地が望ましいということが新聞報道され、それから一気に色々な議論がされたという経過だ。それを受けて7月2日からついこの前の5月11日まで量徳小学校では、6回の懇談会、説明会をさせていただいた。正直皆さんから賛成をいただいているわけではない。やはり、ここに学校を残してほしい。この学校がどうしてなくなるのか。という議論もたくさんさせていただいた。ただ、市としては、病院建設も極めて大事な事業だということも含めて、あの地区だけについては、平成24年3月に、つまり平成24年4月から統合するという、時期を決めた方針を出させていただいた。色々な意見はあるが、今、量徳のPTAの方を含めて24年ということであれば、それに向けてどのような準備をしていくのか、どのような事前交流をしていくのか、そういうことについて話し合っていくという段階になっている。これは、量徳1校だけの問題ではなくて、南小樽地区のAグループでは潮見台小学校を統合校として適切だという言い方をしているが、今後若竹小学校との関係も出てくるので、若竹小学校の懇談会を当初6月22日になっていたが、PTA会長とも話をし、時期的に遅すぎるといふこともあり6月1日にこのような話し合いをさせていただくことになっている。南小樽地区のAグループでは時間が限られた中での準備になると思うが、この市全体の懇談会とは別に、少しテンポを速めた意見交流していかねばならないと思っている。</p> |

中央・山手ブロック

| 会場 | 会場での発言（質問・意見・要望） | 教育委員会の発言（回答・説明） |
|---------------------|--|--|
| <p>色内小 6月4日</p> | <p>1 このプランの一番初めに、これはあくまでも教育委員会の方でたたき台として分かりやすいように示されたものだということ saying いただいたが、どうも聞いていくとこれしかないんだよと、最終的に詰められている気がする。</p> <p>その中で、本当にこれはたたき台であって、こちら側が、ここはおかしいのではないか、こういうところは子どもの安全は的確ではないと思うという部分で、ここに住んでいるので、冬場の車の流れとか色々なことがとても良く分かる親として、考慮していただけるかというのが一点、お答えいただきたい。</p> | <p>今日お配りしている冊子の表紙をめくっていただくと、この資料はということで、先ほどお話しさせていただいたとおりのことを書かせていただいている。今お話いただいたとおり、実際に統合に向けていく場合に、子どもさんの安全の面などの部分については、この資料にも書いてあるとおりに、地域の皆さんとお話をしながら最善の方法というのをもちろん取っていきたく思っているのですが、何が何でもこのプランでというようなことではなく、皆さんからご意見をいただきながら、協議して進めていく考えでいる。</p> <p>結論から言うと、たたき台だ。プランそのものは、この色内小学校の部分、三つのものを出した。まだ皆さんの方からもここはこうした方がよいのではという意見もあるかと思う。あるいは、このプラン1とプラン5を組み合わせるといふ部分、部分を、簡単に言うとプラン2の薄緑のところはこっちでよいのではないかと。そういう部分もあると思う。まずは、固定したものではないということ。それは前提。私ども、今担当が説明した中で、稲穂小学校が適切という言葉を使っているが、その部分を言うべきか、言わないべきか。このプランだけをお示しして、それでどうかということも一つの出し方としては内部では考えた。昨年、色々な場所で説明した中で、一定程度教育委員会の考え方も示さないと中々議論が進まないのではないかと。皆さんどれでも良いです、というわけにはいかないから。そういった意味で、現状、この懇談会に参加している今の時点で、教育委員会としては、この学校が適切だという考えを持っている、ということご理解いただきたい。</p> <p>一つは、このプランの他にもプランがありうるのではないかとのご意見もいただきたい。言っていたら全然構いません。このプランだとこの通学路の安全対策、例えば、今言われたとおりに、ここはこういう危ない面があるとか、私どもも一定程度は道路とか見えています、地域に住んでいる方ほど知らないわけですから、そういった部分の指摘もいただければと思っている。</p> |
| | | <p>ブロック、組み合わせの考え方、冒頭で申し上げたとおり、5ページのところに図1で書いているが、国道を基点として横に見た場合に、国道から下でいうと、色内小学校と量徳小学校という非常に幅が、両サイドに離れてしまうことがあります。そのような部分から、図2で示した3分割するということにしたもの。</p> <p>稲穂小学校の校区については、プラン1とプラン2では稲穂小学校はそのままということになりますが、プラン5をとった場合には稲穂小の校区についても違う学校との再編をしていくという、プラン1、プラン2に比べると稲穂小の校区は小さくなるというプランを作っている。</p> |

| 会場 | 会場での発言（質問・意見・要望） | 教育委員会の発言（回答・説明） |
|-----|--|---|
| 色内小 | <p>2 どうもプランを見ていると、校区の色を見ていると、稲穂小学校の校区がずいぶん広いと感じる。色内小学校の校区は稲穂小学校に比べるとあまりにも狭いのではないかと思うが、色内小学校のプランを三つ示していただいているが、稲穂小学校が分かれるというプランの考えはないのか。何か、フェアじゃないような気がする。どうもそこが納得できません。</p> <p>それと噂なので、分からないのですが、稲穂小学校を中心とした場合、稲穂小学校の周りの子どもさんよりも、校区が広くなった、広い、遠いところから来ているお子さんの数の方が多いのではないかと聞いていますし、また、色々他の校区で、いろんなことがあったら全部稲穂小学校に来ているという噂も聞いていますが、母親としてそういう部分、稲穂小学校を残す意味といったらおかしいですが、そこら辺をお答えいただければと思います。</p> | <p>稲穂中心で考えているのではないかとご質問だったかと思う。私も、稲穂小の校区を絶対いじらないということを考えているつもりはなく、今日お示ししているプラン5の部分では稲穂小校区が分かれる、西陵中校区を一つの小学校校区として考えているプランなので、稲穂小は分割されているプランだ。稲穂小校区に手をつけないという考えはない。ただ、稲穂小を統合校として選択するという視点からは、校区の件は置いておいても、統合校として稲穂小の校舎を使いたいという私どもの意図からすれば、稲穂小学校は市内の小学校の中で一番新しい学校だということもあるので、施設の状況からすれば稲穂の施設を使わないという選択肢は、正直に言って持っていない。今回、前段担当が説明した部分でも、一つは統合校の人数がどのようになるのか、そこを統合校とした場合、それぞれの地域からの通学路はどうなるのか、施設状況はどうなのか、そこは今回の学校再編をする場合の一つの大きな要素として私どもが考えているのは事実だ。</p> <p>ご意見の特認で稲穂小学校によその校区からいっぱい来ているのではないかとのことだが、具体的に稲穂小学校のことを話すが、特認というのは出ていく場合も、入ってくる場合も両方ある。稲穂小の例では、稲穂の校区から違う学校に行くお子さんは20人いる。逆に、他の校区から来ているお子さんは51人いるので、出入りで考えると稲穂小で受け入れている方が圧倒的に多い状況にある。もちろん、教育委員会としては一定の基準をもって、それぞれの基準に要件が合うか判断しているわけだが、稲穂はお店などがたくさんある地域なので、学校が終わった後、お店に帰るというのも割と多い理由となっている。51人のうち、21人が緑小学校校区のお子さん。緑小の校区というのは、商大の方の山から続いているし、昔お蕎麦屋さんがあった緑1丁目付近は緑小校区ですが、稲穂小の方が通いやすいという、緑小と稲穂小の関係からいけば緑小から来るお子さんが多いという結果。無原則に稲穂小に入れているというわけではないので、そこは理解いただきたいと思う。</p> <p>今の話で色内小の校舎が古い、新しいということが出たが、資料の3ページの小学校の概要のところ、色内小学校は昭和32年の建築、稲穂小学校は平成7年、8年ということで15年くらい経っている学校ということで、小樽市内で一番最近建てた小学校ということになる。比較の部分では、14ページ、15ページ、16ページのAグループを見ていただきたい、①というのが色内小学校の留意点になる。②は稲穂小の統合を考える場合の留意点。何項目か示しているが、できるだけ公平に、客観的に色々なデータをこのような形で記述している。今日は時間もないので、改めてご覧いただければと思う。今日は、何かを決めるという会合ではないので、あとでじっくり読んでいただくということによりお願いしたい。</p> |

| 会場 | 会場での発言（質問・意見・要望） | 教育委員会の発言（回答・説明） |
|-----|--|--|
| 色内小 | <p>色内小学校の校区に関して、校区は校区でも、先ほど言われたとおり、緑から稲穂へ行っている子どもがいるという話で、色内3丁目の旧日本郵船、あの近辺に私の知り合いがいて、その子は、手宮西小学校に行っている。始め、手宮小学校に行っていて、当時統廃合の噂が流れて、それで手宮西に変えたという人ですが、その話がなくなって、子どもは今遠いところに通っているという話ですが、あそこら辺で、果たして色内小学校の人達っているのかなと思うのです。再編のプランで、色内小学校の稲穂5丁目、色内3丁目、長橋1丁目の方は、手宮・高島地区というプランはあるのですが、ここは最も危険なコースです、冬場は特に。どう考えても子どもの安全は守れません。今、一生懸命色内小学校で安全パトロールをしていますが、それでも危ない。そういうふうになっているから、なんとかおさまっている話で、それ以上遠くなる場合には大変なことになると思います。これは、脅しではなく、事故があってから御免なさいで済まない状態なので、これだけは、はっきり言わせてもらおうが、この考え方は平面図で見た考え方だ。立体的にみると山一つ越えることになるから。山一つ越えて、山を登るんです。どう考えても、大人でも大変なことになるとし、特に子ども、低学年の子どもにしてみれば大変なことだと思う。ここで一番大変だと思うのは、集団下校ができづらい状態になると思う。どうしてもまばらになるから。集団下校は、最低でも10人くらいの下校になると思うが、それが5人とかになれば、最終的には一人は必ず一と歩かなければいけないとなるので、非常に危険だということが考えられる、この資料を見て。</p> <p>もう一度校区という考えで見るとではなく、地域という考えで見ていただけたらありがたいと思うのは、先ほど、反発するわけではないのですが、このブロックは小学校から再編しますと言われていたが、最上小学校を中学校にするというのをちらっと聞いた、中学校のプランで見た。それは、ちょっと違う話になってきます。同じブロックだから。そうすると、この地域で考えると、西陵中学校が小学校になってもおかしくないんじゃないか、ちょうど中心で、色内小学校の子どもたちも稲穂小学校の子どもたちも、ちょうど真ん中で良いのではないかと思う部分もある。西陵中学校であれば、当然色内小学校の子どもたちは中学校によく通っているわけだから、安全なコースも限られているし、当然稲穂小学校の方もそうだと思う。ということで、小学校を先に考えるという考え方、なぜそういうふうに至ったのかということをお聞きしたい。</p> | <p>資料13ページ、一番下段の記述、今お話しいただいた最上小学校の部分が関係してくるが、このブロックの特殊性として、小学校の再編を先行させて考えると書きました。ブロック内の3中学校の中でとの記述のあとに、松ヶ枝中学校のことを書いている。松ヶ枝中学校は昭和31年開校時の校舎のまま、改装等はないが、老朽化が進んでいる。あと、このブロックの将来的な人口の動き、立地環境から、今後の中学校の再編を考えた中でも、松ヶ枝中学校をそのまま現在地で建て替えをしていくというのは現実的ではないと判断している。そのため、中学校の再編を終えるまでの間、松ヶ枝中学校は校区内の小学校を改造して移転することを検討する。そのようなプランを作っている。このプランの中では、Cグループの中では、最上小学校を中学校仕様で改修して使用するという設定でプランを作っている。</p> <p>今、言われた部分、私もこのプラン2をお示ししている中で、確かに小学生の足で浄応寺の坂を登って、下りて、また手宮小学校、手宮公園の坂を上って行くというのは現実的ではないと思っている。距離としては、そのコースをたどれば先ほど言ったとおり。実は手宮地区と関連するのですが、今日お渡ししている図面のプラン2をご覧いただきたい、上の方に手宮と手宮西と北手宮がある。この地区は、小学校3校を1校に、中学校は北山中、末広中を統合して1校に、学校の数としては考えている。高島・手宮ブロックで教育委員会がプランとして示しているのは、中学校は北山か末広のどちらかを使おうということではなく、両方とも高い場所にあるから、プランとしては手宮小学校と手宮西小学校のどちらかを小学校にして、小学校は高島小と祝津小がもう一つのブロックだが、小学校の三つを、このブロックの中では手宮か手西のどちらかを小学校として議論する、空いた方に中学校を建てようということプランを示している。ここは、中央ブロックだが、色内は手宮、手西なのかというのは、そっちの方の議論もしながら進めていく。繰り返しになるが、浄応寺を越えて、下りて、もう一回上がるという選択肢はないと思う。距離からすればこれが一番近いが、こういう形で、距離がどのくらい、住まいによっても、手西か手宮かによってもそれぞれ距離が変わってくるが、距離によってはバスを利用する、そういったことも選択肢として色々話し合いをしていかなければならないと思っている。</p> <p>小中の転換、使い方、先ほど言った松ヶ枝中学校ももう50年をすんでいる。この学校もすごいところに建っている。プランとしては松ヶ枝中を最上に持ってこようというプランを持っている。最上を緑との統合という考え方を出している。小学校を中学校に使用するにはそれほど大きな問題はない。例えば、便器を大きくする、高くするとかということで済む。中学校を小学校にする場合、建築基準法の規定で階段の高さが一段につき2cm違う。小学校の場合16cm。中学校は18cmまで良い。小学校にする場合は、階段を全部16cmに改修する工事をしなければならぬ。もちろん幅も決まっているが、階段を1階から3階まで全部替えるとなると、廊下に飛び出してくるような階段になってしまうこともあって、転換ということは考えているが、中学校を小学校にということは現実的には相当難しいだろうと思っている。今お話のあった位置関係からすると西陵中というのは小学校の位置として良いのかというのは、相当長いスパンで考えている議論ですから、一つの議論としては、していく必要、していくことは全然構わない議論だと思っている。今申し上げたとおり、西陵も遠いけれども、私どもが示しているここから浄応寺の坂を上っていくというのは大変なことだと十分分かっているつもりです。</p> |

| 会場 | 会場での発言（質問・意見・要望） | 教育委員会の発言（回答・説明） |
|-----|--|---|
| 色内小 | <p>2点ほどお聞きしたい。一つは、前期8年、後期7年、15年間の計画として進められていくと思うが、ざっくり考えて、どこからどう手をつけて、プランを見ると建て替えが必要とか、改修が必要とか色々あるが、色内がなくなる、残るは別として、そういう予算的なものが今の小樽市に何校も、だからできるだけ既存のものを使いたいというお考えだと思うが、そういう予算とか財力があるのかどうかということ。それから、それまでの間にかなりの回数、時間、話し合いが必要だと思うが、教育委員会の皆さん、あちらこちらで話し合いが行われるということは、それだけの話し合いの場に人員を割けるのかどうかそれがすごく不安。ちゃんと最後まで、保護者との話し合いに、かなりの時間、回数、私たちがエネルギーを使うと思うが、その辺のところ、これから先検討していくのにはちょっと不安なところがある。</p> <p>4 あと、今、地域の力、地域の教育力と言われている中で、第2次計画の中でも学校を開くということが言われている中で、このプランを見ると色内がなくなるという不安がどうしても拭いきれないんです。そうした中で、教育委員会が示されている地域と地域の力を使って教育力を高めようということ、もしここに学校がなくなってしまうということはそのプランと教育委員会が目標としていることと逆行しているように私は思うのですが、せっかく色内の中ではボランティアの方とか参加していただいて、良い形でできているので、その流れがなくなってしまうのが、保護者としても、地域の者としても、もったいないというか、せっかくの流れがここで途絶えてしまうのは、違うところに行ったら、統合したらそこでまた生かせるということはあるかもしれませんが、やはり色内のこの地域でしかできないということもあると思うの、その辺の目標というか計画と逆行、ちょっと流れが違うのではないかなということ、そのことをお聞きしたいと思います。</p> | <p>期間と予算の部分からお話をする。全市的に、市内41校全部対象にしてやっている。41校を見たときに、ここもそうだが、色内、手宮、北山、松ヶ枝はすでに50年経っている。だいたい学校というのは、40数年から50年くらいまでの間に、建て替えをしなければならぬ、コンクリート強度のこととかあるから、小樽もそのようなパターンでやっていた。すでに今言った4校がそういう状態になっている。それに平成16年からの耐震化工事というのも急がなければならない、という中で、このままでいくと在る学校はしなければならない、当然。これは、学校施設の状況と少子化という状況の中で、学校施設を改善していくためにもこの学校再編はしていかなければならないというスタンスに立っている。この計画は教育委員会が作った、教育委員会だけで勝手に作ったというのではなくて小樽市全体でも示しているし、議会でも色々議論をいただいている。</p> <p>先ほどの手宮、手宮西で言うと、例えば手宮を小学校で残すとすればこれは絶対建て替える。ここは50年を経ているから。手宮西を中学校で使うとすれば、中学校仕様の改装と増築をしなければならない。手宮西も大きな小学校ではないが、それを北山、末広を合わせた中学校にしなければならないから。その逆でも同じ。そこの部分は、私どもも学校再編を進めるということは、当然お金もかかることということで、市の方でも十分話をしながら、市の方でもこれはやっていかなければならないという考え方は持っている。</p> <p>正直に言って、学校の新築なりを一気に2校、3校を一緒にやるというのは中々難しいものがある。一定程度、年次的にやっていくということで考えていかなければならない、このことはご理解いただきたいと思う。逆に言うと、今回のこの計画、あえて、前期、後期、両方合わせると15年間、平成22年から36年までの15年間という計画にして、前期を平成22年から29年までの8年間として。前期の中で今言った古い校舎のところは、基本的には手をつけていかなければならない。それは、再編と合わせて、建て替える、あるいは大規模改修をやる、耐震化をやっていくということは、していかなければならないと思っている。</p> <p>5月17日から7月22日まで、懇談会をこういう形で41校全部とやることとしている。ある地区の懇談会では、現実的に「やるんだったら早くやってよ」「中途半端なのはいやだよ」というような意見もいただいている。六つのブロックで、小中でたくさんの方の戦場（懇談・協議の場）ができる。そうすると、足りなくなるのではないかなというのは確かにある。今年の4月から一人適正配置の担当者を増やした。次からの話は、いつもこんなにたくさん来てということにはならない。一人というわけにもいかないの、二人程度で来て、いくつかの部分について話し合いをさせていただこうと思っている。地域の方から話を進めるというのに人が足りないから待つということには絶対ならないので、どうあってもきちんとした話し合いをしていかなければならないと思っている。</p> <p>最後に、地域と学校の関係、私もここでの活動は良く知っているし、学校支援本部を立てていただいて、手宮、北手宮、手宮西といったところとも一緒に色々な取り組みをしていただいているのは知っている。</p> <p>それぞれの学校でやっていることは再編後も新しいところで引き続きやってくださいというのは、一般的な言い方になってしまう。この資料（学校の統合を進めるに当たって）統合校が決まったら、もちろんその前から、どこを統合校とするかという議論からだ、子ども同士の交流、今朝の新聞に仁木の小学校の交流のことが出ていたが、子ども同士の交流はもちろん、保護者の方、PTAの方、地域の町会の方や色々ボランティアをされている方など、そういう方々に集まってもらい、統合に向けての準備の議論というのをしてもらおうと思っている。</p> |

中央・山手ブロック

| 会場 | 会場での発言（質問・意見・要望） | 教育委員会の発言（回答・説明） |
|-----|------------------|--|
| 色内小 | | <p>ここでは、新しい統合校の学校名をどうする、校歌をどうする、先ほど言われた通学路、この対策ができるのかなど、いろんなお話があると思う。その中の一つの大きな柱として、学校に対する地域の方々の支援、A校とB校では違う形でやっている。安全パトロールとか読み聞かせとか、違う形でやっている。それを統合に向けてどうやって拡大していくのか、あるいはどうやって作っていくのかという議論もしていただきたいと思っている。特に、この場合、放課後児童クラブの問題もあるし、土曜日皆さんの協力をいただきながら地域子ども教室をやっている。国のメニューとしては放課後子ども教室というのもあるので、今あるメニューを新しい学校でどうやって作っていくかという議論もさせていただきたいと思っている。こういったものは教育委員会だけでやるということにはならないので、資料の中には、統合に向けて2年程度かけて準備をしていこうと書かせていただいているが、それが2年でも3年でも良いと思っている。双方で、隣の学校でやっていることは今度の新しい学校でもやっというふうな部分での議論を、教育委員会も入るが、させていただきたい。</p> <p>最後のお話、それぞれ学校、PTA、地域の方々が学校を拠点にして取り組んでいる活動というのは、色内小学校の例をとるまでもなく、多かれ少なかれある。こういう話し合いをするとその話は必ず出てくる。自分のところの学校では、自分のところの地域では、あるいは、自分のところの町内会では学校と一緒にやっている、色々などころでお聞きをしている。どこの学校がということではないが、地域との連携は大切でそれを広げていかなければならない。例えば、この色内小学校でやっている取組をこの色内小学校の子どもさんだけに限定してやることはもったいないと思う。これは、中学校との連携とか隣の学校とか、今現在もやっているけれども、輪になって、大きくなってという観点も必要だと、そのことだけはお考えいただきたいと思う。だから統合すべきだということを言っているわけではないので、そのように感じている。</p> |

中央・山手ブロック

| 会場 | 会場での発言（質問・意見・要望） | 教育委員会の発言（回答・説明） |
|-----|--|--|
| 色内小 | <p>5</p> <p>ちょっと観点がずれるかもしれないが、この小学校プランで先ほど稲穂小学校の範囲が広いとか、色内小学校の範囲が狭いということで、実際にこの範囲というのは変えられないのか。ある知り合いの子が船見坂の下に居て、自分の子どもは道路に出て、見える学校ではなく、見えない学校に行くという素直な感想を言っていた。実際に安全面を考えると、親としては見える学校へ行った方が安全だ。まっすぐ行けば良いから。先ほど、5号線を跨ぐ、跨がないという話をしていたが、そんなことを言ったら、小樽では生きていけない。海か山かに分かれてるから。そういう問題以前の問題で、もっと近くの見える学校に振り分けていただくと、色内、稲穂、入船というのは、良いバランスで位置関係にあるのかとふと思ったりして。黙ってみていると。そうなると山を越える必要もないですし、危ない、危険なコースも行くことないと思うこともある。先ほど、耐震云々、やらなきゃならないところはやらなきゃいけないでしょうし、そういう意味ではもっと長い期間に亘って何年間も話し合う場があるのではないかと思うが、そういうことも考えていただいたら、ありがたいかなと思うのと、その間に、もし、富岡2丁目もそうですね。見える学校は色内小学校なんです。見えない学校に子どもたちは歩いて行っている。その1本挟んで長橋1丁目の子は色内小学校に行っている。それも僕には良く分からない。なぜ、その範囲になったのかも良く分からない。そういう人たちが逆に色内小学校に来れば、色内小学校はものすごく増えてくるわけで、そうなると考え方も変わってくると思うし、今現存で、ある学校の中で、先ほど会長さんが言ったように、ここで活発にやっていて、じゃ統合したらできるか、そうではない。ここだからできるんじゃないかと思う。そういうのも考えていただいて、より一層やっていただいたらありがたいかなと思う。</p> | <p>前段担当から話をしたが、私どもお願したいのは、再編に当たって六つのブロックに分けさせていただいた。このブロックの分け方も、果たしてこれで良いのかという議論もあると思う。議論の進め方として、そのブロックの中で5校を2校にする、あるいは3校を2校にするといったところからスタートして、2校にする学校はどこになるのだろう、あるいは3校を1校にした場合の学校はどこになるのだろうと。その次にこの校区になるのかどうかというのはもう一つの議論になると思う。繰り返しになるが、手西を小学校にするか、手宮を小学校にするかによって、隣との関係というのは大きく変わると思う。まずは、全市的に進めていく以上は、そのブロック、ブロックの中で、冬の雪のことですとか、坂ですとか、除雪の関係ですとか見ればここが適切だという議論からスタートさせていく。それで統合校が決まったら校区はどういうふうになるのかと。ここからここまでは道はついているが、冬は無理だ、通れないということになれば、こういうふうに戻して、長くなるけどバスを使うとか、そういう議論が必要だと思っている。なんだかんと言っても、41校を21校にする計画です。通学距離が長くなるのは当たり前です。ここも昭和30年代の学校で、手宮とかも同じような学校だ。100年くらい前の町の事情で、町の作りで建てた学校です。もうすでに道路事情とか大きく変わっている、一方子どもの数も大きく減ってきている、昭和30年代40,000人いた子どもが、8,000人しかいなくなっているというのが現実、そういう中で学校の位置を議論していこう、そうした場合通学路はどういうふうに考えたらいかということも議論していこうと思っている。ここを統合校とした場合の通学路はこっちではないのかという議論は本当にさせていただかないとならないと思っている。この塩谷街道の状況というのも知らないわけではない、小樽はわりとこのようなところは多々ある。道路を全部拡げることはできないにしてもこういうことをすれば、こういう安全対策はできるのではないかと、この道を避けてこっちを通れば遠くなるが、安全に通えるのではないかと、そういう議論はぜひさせていただきたいと思っている。</p> <p>通学区域の話もあった。通学区域は毎年毎年変更するということにはならない。今の小学校27校の通学区域というのは、やはり昔の経過の中で決められたもので、ときどき見直しはやっているが、交通事情が変わったり、住宅の張り付き状況も変わったり、それが実態にそぐわな部分もあると思う。それが指定校変更、家庭の事情とか親の勤務先の関係以外にも地理的な要件、こっちの学校が近いという、そういった部分も変更の承認の理由に上げられるので、場合によっては今の実態にそぐわない通学区域というのはあるのは事実だと思う。今回の再編を契機に実情にあった通学区域の線引きというのも、議論の中ではできるんじゃないかと思っている。</p> |

中央・山手ブロック

| 会場 | 会場での発言（質問・意見・要望） | 教育委員会の発言（回答・説明） |
|-------------|---|--|
| 色内小 | <p>6</p> <p>量徳小学校の一件を新聞報道で実は知った。その前の学校統廃合の時の量徳小学校の一件も報道で知った。報道と市議会議員と色々皆さん関係があるのだろうが、少なくとも子どもを持っている母親にすると、一番大事なのはそこに通わせている子どもや親であって、申し訳ないが、言葉は不適切かもしれないが、市議会のおじさんたちは関係ないのではないかって思う。今回の報道でも、質問した人も、質問の答え方も、それを報道した方も新しい病院のことについての意見であって、学校再編について直接関係ないというご意見かもしれないが、その話が出ないと学校再編が始まらなくて、最終的にああやって市長さんが出て話が解決するっていうのは、あまりにも切ない、情けないというか、親を何だと思っているのかと思ってしまいます。教育委員会の方々も色々な立場の方がいて密接な関係もあるのですが、ぜひ親や子どもの立場に立ってそういうことを考えていただければと思う。一番知りたい、一番初めに知りたいのは、親であって、子どもであって、その子どもにもつわる知り合い、兄弟であったり、また知り合いが一杯いればその方たちもそうだと思うのです。新聞で知るより、学校からの説明とかが一番先に届ける、届くように努力をしてほしいと思う。</p> | <p>量徳小学校のPTAの方々には、本当に前回の小学校の適正配置も含めてある意味混乱をさせた部分、これは私ども教育委員会だけではなくて、小樽市全体としてもお詫びしなければならない部分はしなければならないと思っている。ただ今回も、一昨年から私ども学校の再編について話を進めてきてたが、昨年の6月からまた病院の建設問題が出てきて色々ご迷惑をかけたと思っている。私どもも基本的には量徳のPTAの方々、地域の方々には丁寧な説明はしていかなければならないということで、昨年の7月2日から今年の5月11日までこういう形で懇談会、説明会を6回もたせていただいた。ほぼ、1か月半くらいに1回ずつやった。</p> <p>現状で、量徳のPTAの方々含め、分かった、大賛成だという形にはなっていない。まだ、いろんな意見あると思う、あって当然だろうと思う。ただ、私どもとしては、5月11日の説明会の中で、小樽全体にとってはその病院の必要性といった部分も一定理解をいただきながら、24年という病院との関係では年限があることから、そこに向けて学校統合について具体的な話をしていこうということで、量徳のPTAの方々ともお話をさせてもらった。今後、またそれほど遠くない時期に具体的なことについての話し合い等もしていかなければならないだろうと思っている。これは、病院があったから量徳だけということではなくて、この学校再編そのものが、子どもさんはもちろん、保護者、地域の方々にとっても大事な課題だと思っているので何回も話し合いをさせていただきたいと思っている。</p> |
| 稲穂小 7月7日 | <p>1</p> <p>13ページの最後のところ、「中学校の再編を終えるまでの間、松ヶ枝中学校は、校区内の小学校を改造して移転することを検討します。」とあるが、この場合は、先に松ヶ枝中学校を移転して小学校にいくのか。それとも小学校の再編の時期は、どちらを先にするのか、同時進行なのか。その間は、中学校は三つ残るといふ考えだと思うが、その順番、スケジュール的なことはどうなるのか。</p> | <p>13ページの中学校の移転の関係、今の位置での建て替えは現実的ではないと教育委員会でもそう判断している。ただ、松ヶ枝中学校を移転してくるという想定をした場合、どこかの新たな土地に校舎を建てるという事はあり得ないので、ここで私どもが想定した小学校の再編の中で、緑小学校と最上小学校というグループを考えている、入船小学校と最上小学校というグループも考えているが、その際には最上小学校を統合校として使わない選択肢ができた場合の条件でしかならないことになっているが、最上小学校の場所が小学校の再編によって空くことになった場合に、中学校を持ってくるというプランなので、まずは小学校、最上からむ部分の小学校の再編を先に進める。その後に中学校を移転してくる。順番としてはそういう形で考えている。</p> |

| 会場 | 会場での発言（質問・意見・要望） | 教育委員会の発言（回答・説明） |
|-----|------------------|---|
| 稲穂小 | | <p>冊子の5ページを見ていただきたい。Aグループは基本的に色内一稲穂を想定してのグループだと、今説明させていただいたが、実はCの部分で私どもとしては、緑一最上というグループを一つ想定している。それから最上一入船というのも想定している。それぞれどちらが良いのかは省かせていただくが、それと松ヶ枝中学校の校区を中心とした統合というのを想定している。その中で、いろんな条件があるが、Cのグループで統合校として残すのはどこが適切か、三つのパターンの中で通学距離からは緑小学校が一番通いやすいという場所になる。ただ、施設状況から、最上小学校は比較的新しい学校のため最上小学校統合校とした方がよい。その二つの考え方を示している。入船小学校は、緑小学校から結構遠くなる。通学距離からは緑小、施設面からは最上小、そういう選択肢を出している。その中で、小学校が終わってから中学校に手をかけるというのが中央・山手地区の考え方だが、松ヶ枝中があの様な状況、築54年経って、耐震の優先度も①になっており、そういう状況の中では、松ヶ枝中については、小学校をやってからやりましょうということにはならない。やはり急がなければならぬ。それで一つの考え方として、最上小学校に松ヶ枝中を持ってきて、そして、緑小学校をこの地区の統合校にしようという考え方だ。ただ、3ページに緑小学校もすでに築40年経っている。さらに耐震優先度では松ヶ枝中と同じく①で施設状況としては決して良くはない。例えば、緑小をこの地区(グループ)の統合校にする場合、緑小は建て替えるしなければならない。そういう考え方で、このプランには書いている。実は、緑小学校での懇談会もやったし、松ヶ枝中、最上小は合同で懇談会を開いた。確かに今の松ヶ枝中は、小学校が終わってから中学校をやるという、長い期間、スパンをおいてということにはならないという認識は皆さんも持っていたいただいていると思う。</p> <p>それから、松ヶ枝中のあの場所でもう一度、中学校を建て替える。要するに新築してまたこの先50年使うというのも考えづらい。ご存知の方もいると思うが、工業高校から松ヶ枝中学校まで上がっていく坂は大変な道だ。特に冬場は相当きつい道なので、あそこは今後も学校として新築してまた50年使うということにはならないというご意見をいただいた。それで、緑小学校を統合校とした場合には、最上2丁目のからまつ公園の方から2キロ程度の距離になる。ここで優劣の関係も出てくるが、入船とも相当距離が離れている中で、松ヶ枝中学校と最上小学校の合同の懇談会の時に、ある方からの意見というか、提言だが、シガの向かいのところにスペースがあってその後に、駐車場があって、一定程度のスペースがあるところだがそこにも小学校を建てれば最上方面からも、緑方面からも一部の入船からも通学しやすいのではないかといった提言もいただいた。ただ、あそこは公園敷地内で学校を建てるのは、小樽市段階だけではなく、都市計画決定という北海道のレベルまで手続きが複雑というか、面倒な部分がある。私どもとしてはそのような提言について、できるかどうか可能性は別にしても、研究、できるとすればどのような方法があるのか、どんな方法をとってもできないのか、その辺は調査をしてみようと思っている。その意味では、会長から言われたことについては、まず緑小を建て替えるなければならない。そして最上小を移してそして松ヶ枝中を閉じる、とそれだけでも、短く見積もっても、3年という期間はかかると思う。だから、この計画が15年という長いスパンを持っているのは、建て替えなども含めてやっていかなければならないことからすると、相当時間もかかるということ長いスパンを見ているということだ。</p> |

中央・山手ブロック

| 会場 | 会場での発言（質問・意見・要望） | 教育委員会の発言（回答・説明） |
|-----|--|---|
| 稲穂小 | <p>先ほどの質問に続くが、プランを見ていると、前回の色内の時も感じたが、中学校を二つ決めてしまった方が、時間の無駄がないのではないかと考えている。残る中学校を二つ決めてしまえば、自然と小学校の統合位置も決まるのではないかと前回思った。他の地区もそうだと思うが、小学校と中学校を連動しながらやるというのは、分からないわけではないが、たくさんプランを示しているが、逆にプランがありすぎて、保護者の混乱を招いている。中学校をどこに、いくつ残してというのが決まれば、小学校の校区が決まってくるという気がした。</p> <p>2 実際には、菁園中と松ヶ枝中と西陵中で考えると、西陵も擁壁を何千万円かかかって直しているし、西陵は学校の取組を新聞等でも良く見かける。他の学校では何もしてくれないという話も聞くので、良い取組をしている学校は保護者としては残してほしいと思う。そのようなことを考えると通学距離の問題だけではなく、学校の取組、そのような差があること自体が良くないことかとも思うが、保護者としては良い取組をしている学校を残して、自分の子どもを通わせたいというのは素直な思いだと思います。そこを考えて進めていただけたらと思う。</p> | <p>今お話のあった部分は、私どもも真剣に検討した部分です。資料の4ページをご覧ください、そこに21年度現在での中学校の状況を書いているが、西陵中学校が今は7クラス、菁園が今年10クラス、松ヶ枝は今年も6クラスだ。この中で、菁園が新しいということもないわけではないが、例えば、一つの想定だが、松ヶ枝は校舎も古いから振り分けるとしても、現実的にキャパ的に振り分けられない状況だ。菁園は、普通教室が16教室あるが、今現在、通常の学級で10クラス、特別支援学級で2クラス。押し込めるようにやれば、やってやれないことはないが、現実的には中々難しい、中学校を軸にしてしまうということが。もう一つは、中学校3校を2校にして、それからそれに合わせた小中連携も合わせたように校区を設定していく方が、手法的にはやりやすいと思う。というのは今の規模の中で、菁園中学校には五つの小学校から子どもが来ている。今色々ところで、文部科学省や道教委も含めて、小学校から中学校にいくときの「中1ギャップ」について議論されていて、今年から道内でモデル事業を道教委が始めたところだ。私どもも今後の小中連携を考えると、現状の菁園のように五つの小学校から来ると、やはり先生方がいくら頑張っても、小中の連携を日常的にやるということは不可能に近い状態だと思う。その意味では、一つの中学校に二つくらいの小学校からという固まりにしたいというのがある。ご意見のように先に中学校からやってはということも私たちの中にもあるが、現状、キャパ的な部分からも整理をしきれない。そして松ヶ枝中は、ご覧のとおり築54年という中で急がなければならないので、小学校を先行して、小学校の校区が一定程度固まってから中学校をという考え方を持った。否定するというのではなく、私どもとしても、相当議論した、考えて判断をしたということだ。</p> |
| | | <p>先生方の定数についてお話する。実は国の基準で中学校の場合、6学級では定数が11人、9学級では16人になる。5人の差があるから3学級増えることによって、二人余分に配置されることになる。冒頭に挨拶でも述べたが、今小樽で免許の関係でどうしても、これは国できちんと認めてくれているのだが、小学校と違って免許がなくても、別の教科を教えてもらっているのが現状だ。中学校の先生は、できるだけ先生が多ければ、その免許を持った先生にきちんと子どもたちが習うことができる。そのような形になるものだから、できれば時間数の多い数学、英語や国語や理科の教科については、免許外ではなく、正規の免許を持っている先生に習った方が子どものためになるとの考えなので、6学級と9学級の比較では、9学級を基本とするということではあるが、やはり学級が多いほうが中学校の場合、そういう意味では子どもたちが免許を持つ先生に習える環境が整えられる。</p> |

| 会場 | 会場での発言（質問・意見・要望） | 教育委員会の発言（回答・説明） |
|------------|--|--|
| <p>稲穂小</p> | <p>3</p> <p>どうしてもこの中学校3校を2校にしなければならないのか。他の地区との兼ね合いで、向陽中学校も無くなる予定で、そちらの校区から来る人たちが潮見台中学校に行くよりは、今の最上小学校のところに来るほうが距離的に短いという考え方かと思う。多分、長橋中学校も蘭島、忍路、塩谷から来る子どもたちが出てくる。色内の校区からもいく子が出るかもしれないと考えた時に、どうしてもこの山手・中央地区は2校にしなければならない何かがあるのか。他のブロックとの兼ね合いで残すというのも考えられるのかという点と、西陵はプールがある、向陽もプールがあり、無くする予定だと今の子どもたちにプール授業は無くなっていくのか。昔のように海へ行くのかと考えたりもする。どうしてもここを2校にするのは難しいのではないかと思う。他の地区からも、当初はブロック内だけという話はあったが、他の地区からどうしても混ざって来ることは避けられないことだと思うので、人数的なものはどうなのか。この地区は耐震基準を満たしているところが小中学校で4校あるので、昨年では耐震設計となっているところは優先的に残していく方向で、古い学校は壊すということで、その説明が、西陵も築30年だが、まだ小樽市では新しい校舎なので、あそこは山の中ですし、何かがあった時の避難場所にもなってる、そこが無くなったらどうするか。あの建物はどうするかと考えた時に、この地域に限っては、無理やり3校を2校にするのはどうかと思う。それをしたところで少人数学級というのはどうなっていくのか、今後の予定として、1学年何人、2学年何人と出てきた時にクラスの人数はどうなっていくのかというのを疑問に思う、いかがか。</p> | <p>小樽市では平成11年から適正配置に取り組んでいる。平成18年から全市を対象にして考えてきた。それは、一つの例では、昨年小樽市内で生まれた子どもさんが730人台になってしまい、今年小学校1年生に入ったお子さんが、生まれたのは平成16年、その時はまだ960人生まれていた。それから見れば、残念なことだが、去年、一昨年と700人台になった。そうすると、これから各学校の小規模化は今にも増して進んでいくということが一つある。そのような中で、一定規模、中学校でいえば9クラスを確保していきたいというのが教育委員会の考え方だが、そのためには一つの基準を持って、市全体を見て、ブロックに分けていって何校が必要なのか、そういう議論の中で出てきたということでご理解いただきたい。この地区の3校は、3校で良いのではということではなく、全体議論の中でこのようなプラン、考え方を示しているということをご理解いただきたい。</p> <p>もう一点、少人数学級の関係について、私どもも国の動向を大変注目している。国の定数改善は第8次が見送られ、今の中教審でも来年度に向けて少人数学級を整理して一定の方向性を出していこうという議論になっている。いつくらいに出てくるかというのは言えないが、見方としてはこの間の小委員会の中でも30人とも35人も人数は示されなかった。そういう表現だったと記憶している。私どもの見方としては、まずは35人ではないのか、それで今全国的に北海道も小学校の1、2年生と中学校の1年生を対象に研究事業としてやっているが、この辺がスタートかという気はしている。今日お配りしている資料の中で27年度の推計では、当然小学校1、2年生については研究事業の学級数を入れている。中学校1年も同じだ。全学年を含めても平均すれば30数人、2、3人というのが、27年度推計の平均。もちろん、学校、クラスによって、40人というところもある、24人のところもあるが、仮に35人になったとしても、それほど大幅にクラスが増えるという現状には中々なり得ない。もちろんそうなってはほしいし、そうなるべきだと思っている。</p> <p>文部科学省の動きということで、あくまでもホームページ、あるいは別のルートで見聞きをしている段階だが、文部科学省の方でも色々な調査をやっているようで、今全国都道府県の中で、この間まで東京都も少人数学級をやっていないが、最近の資料では、39人学級に踏み込んだようであり、全国の都道府県が何らかの取り組みをやっていると聞いている。文部科学省はそういったものを見ながら、あるいは有識者、関係団体の意見、それから、国民に意見を聴取するという手法で、何千人からの意見を求めた。その結果、定数改善については、今までよりも踏み込んだ中教審の作業部会の提言があったように聞いている。その中では、具体的に何人にするとは提言の中に盛り込まれてはいないが、今やられているものを尊重しながら、といて余りにも規模が小さくなっていくのも色々な支障があるということで、歯止めをかけるような仕組みはどうだという提言もあったようだ。それが近いうちに、一つの政策として、国の方で示されるのではないかと思うが、ただ、その提言の中でも、一挙にやったらどうだということではなくて段階的にやってはというニュアンスの提言でもあり、その辺のところは見守っていかなければならないと思っている。そういう動きと、さっき部長が言ったように平成17年くらいから今の再編の動きをやっており、国の制度の動きは当然見ていかなければならないが、我々としては、今まで市民の検討組織からもらった提言やあるいは、何度もやっている、市民からのパブリックコメントもやり、中間報告への意見を求めるということもあり、小樽は独自の道を歩んでいる。そのように押さえていただきたいと思う。</p> |

| 会場 | 会場での発言（質問・意見・要望） | 教育委員会の発言（回答・説明） |
|-----|---|---|
| 稲穂小 | <p>このプラン、たくさんありすぎて、逆にいえば分かりづらいというのが正直なところだと思う。では、実際にどうしたら良いかというの、何となくボヤーンとしすぎていて、結局何が言いたいのだろうかというのが、非常に分かりづらい。先ほどの質問にあったとおり、スケジュールとかがはっきりと見えてこないと思う。実際に自分の身に降りてこないというのがあるのかと思う。</p> <p>稲穂小学校も校区外から来ている児童もいるので、この人数に本当に捉われて良いのかというのもあるし、この人数に実際になるのか。校区外から来ている児童の動向とか、親御さんとしては中学校も見据えて小学校を選ぶような部分もあるのではないと思う。中学校の楽しい生活をするためには小学校のうちからきちんと色々の準備をしていった方が良いという親御さんの心配があると思うので、スケジュールがなんとなくぼやけすぎていて、いつどうして、どうなるというのが非常に分かりづらくて、もちろん一つのプランという過去の例からも色々あるので、こういう状況になっているのかと思うが、その辺をもう少し、こうしたという形で進めた方が良いのではないのかと思う。結局何が言いたいのか分からない、集まっても、どうなっていくのだろうかというのが、この文面からは見えな、読み取れないというのが正直なところ。</p> | <p>今、会長さんから率直なお話をいただいた。私個人は前回の小学校の適正配置の時にしかかわった経験があり、そこ部分では色々反省すべき点もあり、進め方を考えていく際には、これは全市的な課題だと思っており、多くの方に関心を寄せていただいて、ある程度納得をしていただいて、そして本当にこの再編の必要性と一緒に考えながらやっていこうということで、ある意味では、石橋を叩きすぎている、いつ渡るのか、というような言われ方をすることもありますが、これは会長さんのお話をいただいたように、今日の懇談会の位置付けを含めて、少し不鮮明な部分を感じ取っているのかなと思うが。他の会場で、このようなお話を「それでは、来年来るときには、このようなお話になるのですね。」と言われて、来年ではなく今年も続きがあるのというお話を別の会場でしたが、その辺のところは少なくとも、ここにいらっしゃる皆さんは、同じ気持ちに立ちたいと思う。</p> <p>進め方の部分で会長さんからお話をいただいた。まず一つは、今司会からあったように、会長さんからもいただいたが、教育委員会が決めたことを持つていくということも一つの反対をいただくということもある。今日の資料の冒頭にも意見交換と書いていて、こういうことも考えられるということでもいくつかのプランを示しながら保護者や地域の皆さんに懇談会を通じて意見をいただくということである。このような懇談会の場を何回か繰り返していくことで、皆さんからこのような方向性でということが出てくれば、またそこに向けて議論をしていくことになるが、まず今は、市内41校、この案を持って7月22日まで各会場を回っている。それが終われば2学期以降も、今度はこのような学校単位にはならないかもしれない。一つのPTA単位で話をする機会になるかもしれないし、また関連する稲穂小学校と色内小学校のPTAの方にお集まりいただいて、そこでの議論ということもしていかなければならないというものもある。この場合は前期に位置付けており、8年の中で、8年後にやるというわけではなく、1日でも早く私どもは、方向性を出したい、皆さんの意見を聞きながら進めていきたいと思っているのでその部分をご理解いただければと思っている。</p> <p>時期的な部分を含めて、資料の青いリーフレットは統合が決まった場合という前提で書いているが、実際にはどこが統合校として相応しいとなった場合には、今度は、通学区域の問題、どこを通ると安全な通学路が確保できるかということなど個別具体の協議をしなければいけない。一番大事なことは子どもさんなので、その子どもさんたちが統合するに当たって、心のケアということで、事前の交流も必要となる、保護者同士の交流も必要になるので、この資料に書いてあるとおり教育委員会としては方向性が決まってから2年程度かけて統合に向けた色々な協議をしていこうということでお示しさせていただいた。</p> <p>教育委員会や市ができることということにどういうことがあるのかということも含めて、保護者の皆さんから通学路の安全ということも含めて考えながら、要望も出てくると思うので、そういうことについてこれから具体的な話を進めていかなければならないと思っている。今1学期中にこのような形で回っているの、2学期に向けては、その学校、地域によっては温度差があるかもしれないが、私ども保護者の皆さんに声かけしてこういう意見交換をする場を持つていくということで考えている。</p> |
| 5 | 最終的に統合を決定するのは誰なのか。誰が決定をするのか。 | <p>教育委員会。最終的には、教育委員会が決定する。 条例は議会の議決が必要になるが、校区をこのようにするという事は、基本的に教育委員会が決める。といっても、勝手に決めるというわけにはならないから、このようなことをやりながら決める。</p> |

| 会場 | 会場での発言（質問・意見・要望） | 教育委員会の発言（回答・説明） |
|------------|---|---|
| <p>稲穂小</p> | <p>それは良く分かるのだが、教育委員会だけが決めるとなると、何となく我々のこの意見が本当にとおっているのか。先ほどの3校を残してという貴重な意見があったと思う。現実に残る、残らないは別にしても、それが本当に検討しているのか、どうもそこが我々とそちら側の間に深い谷底があって、中々見えなくて、そちら側がブラックボックスになっていて、突然コロナとサイコロのように出てきているというイメージで捉えてしまっており、ある意味不安だと思う。決まってしまう過程も教育委員会としては公開していくとは思いますが、我々の方から見ると見えづらい、正直に言うとも見えないということになり、独断で決めてしまっているのではないかと。結局そういう案かということになっているのではないかと感じます。</p> <p>本当に校区を分けてやらなければならない、例えばプラン5はそうになってしまうわけで、ケアの部分とかは非常に大切になってくると思うので、当然そこは十分やっていただけたらと思うので、逆に言えば早めに話していただいた方が良いのかと思う。我々の子どもは稲穂小学校にいる、まだ小学校に入っていない幼稚園や生まれたばかりの子たちがこれに非常にかかわりが出てくることなので、そういう人たちのためにも十分すぎるほどの説明をしてほしいと思う。</p> | <p>中々一回だけではこのようなお話し、深くする時間もない。そういうこともあって、何度もこのような懇談はしていかなければならないと思う。特に現在の通学区域が分割されるということについては、色々なご意見もあると思うので、こちら今日の資料の中では出してはいるが、あるブロックでは、その子どもさんの分布状況の地図を別に用意して、より議論が深まるような工夫もしているもので、それはその時々、そのブロック、そのグループごとの議論の深まり具合によっては、色々な形の資料もだしながら、意見交換をしなればならないと思っている。</p> <p>前回の小学校適正配置の関係からお話が出ているが、今回お出ししているこのプランは、これまでの経過を踏まえた中でたたき台ということで出している。先程も話したが、まず今回の適正配置のスタートについては、市内41校全部を対象としてやっていくことにしているが、今回の取り組みのスタートの部分でいうと、平成19年に市民の方の参加もいただいて「学校規模配置の在り方検討委員会」というものを作り、11回の会議を重ねてその中で答申をいただいている。その答申を踏まえて、平成20年に学校再編の考え方をまとめて、それを市内の中学校14校を会場に地域懇談会を開催した。さらにそれを踏まえて、平成21年に41の全小中学校と教育委員会庁舎を加えた42会場の基本計画の素案をお示しして、説明会を開催して意見をいただく場を設けた。その後、基本計画素案を意見を踏まえて修正するところは修正し原案として掲げて、パブリックコメント手続で市民の皆さんから意見をいただいている。それらを踏まえて最終的に昨年11月に適正化基本計画というのをまとめさせていただいたので、その中で六つのブロックに分けて小中学校それぞれの数を整理してお示しをさせていただいている、というところをご理解をいただきたい。私どもできるだけ市民の皆さんに内容を示しできる部分というのは、手段は限られているかもしれないが、これまでもお示しをしているし、今後もお示しをしていきたいと思っている。</p> <p>私たちはこういう会を100回はやっているが、逆に考えると、皆さんから見ると3回です。そこところは分かります。色々、伝えていく手段としては、どうしても限られてくる部分というのはある。ある意味長丁場なので、これから他の地区でも色々な意見が出てくるので、それぞれのブロックでどのような議論がされているのかを年に何回かでも良いと思うが、学校再編ニュースのようなものを出して「このブロックでは今このような議論がされています」ということもお知らせするように考えていかなければならないと思っている。</p> <p>というのは、15年という期間を言っているわけだし、一定の合意、話し合いがついたところからやっていくということで行っているもので、所によっては「去年来たけど、そのあと全然何も言ってこない」ということにもなるだろう。でも私どもとしては足を止めているわけではなく、これは言い訳でも何でも無いが、去年42会場やって400件程の意見をいただいて、その意見とそれに対し教育委員会がどのようにお答えをしたか100ページ程の資料をホームページでもアップしており、それを見ていただく他の地区ではどのような議論をしているのかも見ていただきたいと思う。どこの引き出しを開けると何が見えるのかということとは情報として流していく。会長が言われた100%公開していくのは無理だが、できるだけブラックボックスにしないような努力をしていきたい。</p> |

中央・山手ブロック

| 会場 | 会場での発言（質問・意見・要望） | 教育委員会の発言（回答・説明） |
|--------------|--|---|
| 稲穂小 | <p>7</p> <p>今日は、もう少し小学校の再編に関して進んだ話を聞けるかと思っただが、意外と中学校の話とか、教育委員会の微妙なバッシングみたいな意見が出たり、想定外だった部分だが、この教育委員会が考えた検討結果に出てるようにプラン2、プラン4は優先して考える方向性だと思った。実際、このAグループに関連する色内小学校の懇談会が6月4日に行われたが、その時にこのプラン2、プラン4あたりの何か問題点とか、そういった声が聞かれたのか、お聞きしたいと思う。</p> | <p>今、ご質問のあった点、これはホームページにも掲載しているが、読み上げさせていただく。色内小学校の部分。「手宮地区への編入プランについてこの通学路は大変危険である。坂もあるため、平面ではなく立体的に見てほしい。」「西陵中を小学校として考えてみるのも良いと思う。」「現在の校区分けでは、色内小学校の校区が余りにも狭い。稲穂小が分かれるというプランはないのか。」「これは、プラン5でお示している。」「色内小、稲穂小、入船小はバランスの良い位置関係にあると思う。もっと長い期間にわたって話し合う場があっても良いと思う。」「15年間の計画だが、学校の建て替えや改修を何校もやる予算が市にあるのか。教育委員会が、統合までの話し合いの場にそれだけの人員をさけるのか不安である。」「教育委員会が示している学校教育推進計画には、地域の力を活用した開かれた学校づくりというのがあるが、今回のプランはその目標に逆行しているように思う。この学校はいい形で地域ボランティアの取組があり、その流れがなくなってしまう。」「それからその他として、「量徳小の一件については、新聞等で知るのではなく、学校からの説明が保護者に一番先に届くように努力してほしい。」ということで、色内小学校での意見要望としてはこのような形で、これはホームページに掲載している。</p> <p>さっきの話に関連するが、この懇談会の様子、寄せられた意見は市のホームページに掲載している。色内小学校の懇談会の中でもまだ1回目ということで最終的にこのプランの中でどれが良いかということは、地域や保護者の方からも、これが良い、ということまでは深まっていない状況だ。</p> |
| 花園小 6月28日 | <p>1</p> <p>二つお聞きします。プランを五つ提案されていますが、プランを考えるに当たって教育委員会としては全市を見通して考えているので、一番望ましいプランの姿はあるのか。今の段階で一番望ましいプランはあるのか。全部の学校を回って意見の多いところにするという方向なのか。</p> <p>もう一つ、プランを見ると学校の適している場所というのは、この花園はBグループなのでこの場所が一番適切だということで、ここが中心になるのだと思って聞いていたが、組み合わせによってCグループは緑小が適しているとの話だが、私は最上が適していると考えていたが、今の説明では最上は松ヶ枝中学校の場所とするとしているが、プランの中には花園と緑という組み合わせもあり、Cグループは緑が望ましいとしても、緑の子は自分の近いところに学校ができるのに花園へ来るというのがどうなんだろうと思って聞いていた。教育委員会で(全市を)見通した学校配置をお持ちなのか、今の段階で。五つの中でも一番このパターンが望ましいというのがあるのかお聞きしたい。以上2点です。</p> | <p>今2点ご質問あった。まず私がプランを説明する際に、資料の表紙のタイトルの下に「地区別懇談会での活発な意見交換ができるように」と書いている。先程教育長からもお話をさせていただいたが、このようにプランを考えてすべての学校を基本に、ある学校を使う場合にはどうなのかということで、どこをなくするということは考えていない。そういう中から、このような懇談の場でどれが一番望ましいと皆さんがお考えになるか、先程も再編計画のところでお話をさせていただいた部分で通学区域のバランスや校地、校舎の状況、通学上の安全などからどこが望ましいのかを考えていただきたいと、冒頭お話をさせていただいた。今日お示しているこの中で、最終的には教育委員会からは、どれでも皆さん自由にお考えくださいという形でももちろん出しているが、その中で一定程度の判断をして適切だと、そのような表現を使わせていただいている。どれということはない。</p> <p>もう一つ、花園小学校と緑小学校の関係で、Bグループでは、確かに花園小学校がその位置が優位と考えていると言っているが、その場合、Bグループのプラン3、プラン4をとった場合、緑小学校はこの校区と一緒にすることになっており、その場合には、入船、最上の組み合わせの中で考えている、必ずしもここで、花園小学校が適切だと言った場合に、緑がというのは、組み合わせの中でどちらが適切かと言っている。</p> |

中央・山手ブロック

| 会場 | 会場での発言（質問・意見・要望） | 教育委員会の発言（回答・説明） |
|-----|------------------|---|
| 花園小 | | <p>先生のおっしゃるとおりです。繰り返しになるが、中央・山手地区は学校も多いので組み合わせは複雑になっている。今の段階で、今日持ってきた部分ではCグループとBグループの関係で、花園、緑というのが良いのか、花園、入船というのが良いのか、その部分で正直どちらが良いかは、なかなか判断しきれない。先週、最上と松ヶ枝中の合同の懇談会を開いて、今日ここでやらせていただいて、明日は入船、その後緑に行く。それから稲穂は、Aグループということで、組み合わせとしては、一つのパターンしか出していないが、その辺の意見を聞きながら、その組み合わせを決めていかなければならないだろうと思っている。組み合わせが決まると、今度はどの学校が適切なのか、そのような議論になると思う。先程入船のことで触れさせていただいたのは、入船小学校も隣の南小樽地区の奥沢小学校とブロック境界になっている。南小樽地区では国道5号沿い3校のグループ。それから国道393号沿いの奥沢、天神、Bグループ。その二つのグループにしている、奥沢、天神グループでは、現状では奥沢小学校の方が適切という考え方を言っている。奥沢小学校が統合校として固まったとすれば、当然入船小学校の奥沢小学校の前の道が入船校区だからその中の議論もきっと出てくるだろうと思っている。これを煮え切らないといえそうかもしれないが、私どもとしてはこのようにいくつかのプランを出して、皆さんからご意見をもらうために、このような資料を作っているが、前提だからまずお示しをして議論をしていきたい。</p> <p>今回の学校再編については、ご存じでしょうが何年も前からやっていて、全体で市内の全部の学校を対象に再編をしていく。そういった中で一つずつステップを踏んでやっているつもりだ。今の段階は、最終的に小学校を13校、そして中学校を8校という一つの方向性を出して、それをある程度の長い期間の中でやっていく。その時にそれぞれのブロックで現状を把握して、地域の方の意見なども十分に聞いて、1回決めてしまえば、またしばらく続くのだから、その辺のところには皆さんが「そうだね。」というところまで持っていきたいと思うので、教育委員会が意見を一つ出してそれに対して喧々諤々やるというやり方もあるかもしれないが、今のところこういう形式でやっている。</p> |

中央・山手ブロック

| 会場 | 会場での発言（質問・意見・要望） | 教育委員会の発言（回答・説明） |
|-----|---|---|
| 花園小 | <p>2 (問いかけに対し) 花園は場所的には良いと思うが、グラウンドが悪い。グラウンドが良いのであれば、皆さん来てくださいということも言えるが。会長グラウンド悪いですね。運動会が心配な学校だから、いっぱい迷惑をかけるかと思って。でも、花園が良いと言ってもらえれば、ありがたいと思って聞いていた。グラウンドを何とかしてくれるのなら良いと思って聞いていた。ただ、緑も近いし、入船と一緒にあった方が良いのかと思っていた。</p> | <p>先生の目から見て、今先生はそう言ったがどうでしょう。こういう聞き方するのも変だが、私たちとしてはそういうこともお聞きしたいと思っている。</p> <p>先ほどの資料の3ページ、4ページをご覧いただきたい。どうしても中心部にある学校のグラウンド面積はご覧のとおり。色内が2,700㎡、稲穂が建て替えの時に設計を工夫して4,500㎡、ここが3,500㎡、緑も2,800㎡。実は緑を統合校として、とお話をさせていただいた時、松ヶ枝中学校の保護者だと思ったが、「緑のグラウンドは狭いよ」と、意見として出されていたのは、シガの向かい、昔の車両整備工場のあったところ、あそこに建てられないのかという意見もいただいた。あの土地は公園の敷地になっているので、それを外すというのは法律的に難しいものがあるが、もし、あそこだとすればどれくらいの可能性があるのかということも調査してみたいと思う。この地区でいうと、青園は中学校でもグラウンド面積が3,000㎡という中学校としては、極めて狭い面積。松ヶ枝は広いが、その中で最上小学校は、7,300㎡という大変広いスペースを持っている。実は松ヶ枝中が築53年でほっておけないという中で、最上に松ヶ枝を下ろそうとプランで示しているのは、中学校のグラウンドとしても7,300㎡あれば何とかやっていけるということで提案している。量徳小学校のグラウンドが4,500㎡。小学校としては平均的な部分で統合先としては、プランの中で言っている潮見台もここも狭い、と言われている。グラウンドというものは、統合校をどこにするかの大きな要素だが、やはり通学距離とか学校施設の状況とかそういったことも含めて、この資料の中では、適切な学校はこことしている。極端なことを言えば、青園も狭いから花園小学校を何とかして、花園小学校を青園のグラウンドにしたら良いのではといった意見もいただいている。</p> |

中央・山手ブロック

| 会場 | 会場での発言（質問・意見・要望） | 教育委員会の発言（回答・説明） |
|-----|---|--|
| 花園小 | <p>具体的に進めていく中で、計画とかも変わってくると思うが、具体的なめど、教育委員会ではどのくらいの感じで、この地区の計画はあるのか。目安のようなものを決めているのであればお聞かせいただきたい。</p> <p>もう一つは、25日の金曜日、量徳小学校の懇談会に参加したが、（保護者の受け止めが）全然違う。こちらは、学校の先生とPTAは私しか来ていないようで、その部分の温度差があると思ひまして、身に迫るというを感じている保護者がこの花園小学校は少ないと思ひます。その中で、南小樽地区は統合校として潮見台小学校がなるというお話をしして、対等な合併、新しい学校を潮見台小学校につくるとい、3校を合わせて新しいものを作るといのも一つの案だといお話をししていましたが、それはこの中央・山手地区においても同じとい考えか。</p> <p>量徳小から花園に移って来るお子さんがいると思ひますが、そのフォローがあると思ひ。合併、合併となってしまう部分もあると思ひるので、先ほど説明のあった年数といか、計画に関係すると思ひのですが、おおまかな計画が分かればお教えください。</p> | <p>大きくは前期、後期に分けて、南小樽地区も中央・山手地区も前期の計画に位置付けている。量徳の保護者に協力を求めているのは、基本的に私どものスタンスは、前期は8年間の幅を置いているが、どこの場合も具体的に平成何年からではなく、地区、地区で、一定の合意ができたところからやっていく、そういう考え方でいる。今日で3分の2くらいの懇談会の日程が終わったが、いくつかの懇談会の会場からは、やるのだったら早くやってくれ。時間を置いてしまうと毎年新一年生が来るわけで、自分の子どもは来年学校に入るが統合になるのは5年先となると、色々なことがあるので、早くやってほしい、といご意見もいただいている。全体的な進め方はそのように考えている。今回この学校再編の全体的な作りも従前やってきたように一つの学校を二つに分けて、A校を二つに分けてB校とC校に分けるとい考え方ではなく、41校すべてを対象にしていることから、その地区、地区で新しい学校を作っていくとい基本的な考え方に立っている。だから南小樽地区で言え、統合校としては潮見台小学校の場所と建物は使うが、ここに新しい学校を作るとい議論をししていきたい、とい私どもの基本的なスタンスで申し上げている。これはどこの会場でも言っている。こういう発言をするとい地域では、各学校にそれぞれ伝統はあるから統合校は名前を残した方が良いのではないか、とい意見もあるが、教育委員会の基本的なスタンスとしては、その地区、地区に、新しい学校を作っていく。お渡ししている青いリーフレットにも書いているが、場合によっては、校名、校歌、教育目標とか、そういったものを含めて準備を、議論をししていく。そのように考えている。</p> <p>それで今会長さんからあった時期については、このような準備をししていくには、子ども同士の事前交流、PTA同士の事前交流、中学校の場合だと制服の問題もあるし、小学校でも教材などあると思ひ。A校で使っているピアノとB校で使っているピアノがもし違っている場合、統合が2年後といことになれば、その前から同じものを使っていく。そのような事前協議があると思ひ。ここに書いていとお2年程度と思ひている。そういう意味では特に量徳小学校の部分でい、病院との関係がどうしてもあるので、先週金曜日の懇談会も10時までおつき合いいただいたことに感謝するが、是非、学校統合は対象校全体の問題なんだといことを、今日は先生方がたくさんお集まりいただいているが、このPTAの中でもお話をししていただいて、また、私ども教育委員会の職員は来いといわれればいつでも来るので、ぜひそういうスタンスでお願いしたいと思ひている。</p> <p>教育委員会としては統合校として、統合場所として使う学校は話の中から外れるといことではなくて一体となって考えていただきたいと思ひ。</p> |

中央・山手ブロック

| 会場 | 会場での発言（質問・意見・要望） | 教育委員会の発言（回答・説明） |
|--------------------|---|--|
| <p>緑小 7月2日</p> | <p>1 もし、最終的にここに校舎を建て替えるとなった場合に、正しい情報ではないかもしれないが、ここは河川敷に校舎、大きな建物を建てるのは無理なのではないかという話を聞いたことがあるが、それは大丈夫なのか。正式に決まった後に、設計とか予算の問題もあるかと思うが、どのくらいの期間が必要になるのか、お聞きしたい。</p> | <p>会長のお話のとおり、河川敷に校舎は建てられないが、河川敷から学校敷地まで境界があるので河川敷にかからないような形で建てていくことは可能だと思う。全体としては今あるような形で、広い敷地ではないが、河川敷に掛からないで校舎の建設は可能だと思う。金額と日数については、色々な工法があって、例えばこの位置で建て替えということになっても、グラウンドに建てる、校舎の手前をグラウンドにすると、入ってくる時に必ずグラウンドを通りながら奥の校舎へ行かなければならないこともあるし、日当たりのこともあるのでやはりグラウンドの位置と今の校舎の位置は変えない方が良いのではないかと。詳しく詰めたわけではないが、考えてはいる。その中で考えると、児童がそのまま建て替える方法と工事をしている間、一旦、最上に移っていただくなど、誰もいないところで工事をすれば、1年程度ということもあると思う。この場所にいたまま少しずつ壊して、空いている教室に移りながらという方法取れば、2年かかるのではないかと。それからグラウンドの整備もあるので、2年ちょっとはかかるのではないかと。金額的な部分は、そこそこの状況はあるが、一番最近では菁園中学校の例があり、10学級規模で平成12年度から16年度にかけて、地質調査が12年度、校舎整備が13、14年度、15年度に屋体の整備、最後の年にグラウンドの整備となったが、それで大体17億程度。事業費で17億ですべて市が負担するわけではないが、国の補助金や起債で17億程度。稲穂小学校は16年から18年で小学校の13学級規模ということもあり、それより少し高めだったと思う。それぞれの学校で15億から20億くらいの間は掛かると思う。全部壊すかここだと屋体もすべてやっていかなければならないので15億から20億の間になると思う。</p> <p>工期の期間は、一番良い状態で、一旦平らにして1年くらいという話をしたが、その前に準備に設計や色々な調査ということもあるので、最短で1年ということではなく、その前に事前の準備、あるいは国の補助制度を利用することで、その申請なども1年ないし2年の準備は必要だ。そういう意味でいうと、こういう事柄は決めるのなら、早く決めないとすぐ統合ということにもならないので、是非真剣な議論をしていただいて、良い方向に持っていきたいと考えている。</p> |

| 会場 | 会場での発言（質問・意見・要望） | 教育委員会の発言（回答・説明） |
|-----------|---|---|
| <p>緑小</p> | <p>2</p> <p>ここはアスベストの工事をしているのですが、児童を通学させたままで工事をしてもその被害はないか。前にここを建て替えた時には、富岡小学校があったので全校生徒をそちらに移動し、1年くらいかけて建てていた記憶があるが、そのような形でできないかどうかということ、当初は、西陵中学校は耐震設計ということで残る可能性は大だったのが、ここに来て今のお話だと西陵中学校をゆくゆくは無くしていくと聞こえたのだが、プール施設もある、緑小学校を建てるとき色々考えると思うが、児童の健康被害がないように、かなり埃などがたつと思うので、それを良く考えていただきたいと思う。</p> <p>うちの子は小学校5年で、校区でいくと西陵中学校だが、学区が変わっていくのかということ、西陵中学校の懇談会の話を知ると緑1丁目は松ヶ枝中になる可能性がある聞いた。そうなった場合の校区はどのようになっていくのか、また、義務教育の課程が終わるまであと5年ほどあるが、その間に適正配置で中学校がどうなっていくのか確認したいと思う。</p> | <p>前段に、なぜ小学校先行で中学校は後か、複雑だということもあるが、緑小学校は三つの中学校、西陵、菁園、松ヶ枝に卒業生を送り出している。市内の小学校で三つの中学校に別れるのはここだけ。あとは1校のところと2校のところ。それから、菁園中学校は5校の小学校から受け入れている。これも極めて多い。</p> <p>今、全道的にも全国的にも「中1ギャップ」、中学校に上がると、授業も科目によって先生が変わる、勉強が難しくなるということでもなかなか馴染めなくなるという部分が出てくる。それをどうやって解消していくのかということ、小中の連携をきちんとやっていかなければならないということが一つある。そうすると、三つの中学校に行く、あるいは、五つの小学校から受け入れるとなると、小中の連携は現実的には大変なことになる。そういった中で今回、小中合わせて41校全部を再編していこうと考えているので、基本的に小学校の校区と中学校の校区ができるだけ連担するように、2校の小学校から1校の中学校に行けるような形、もちろん1-1でも良いが、そういう中で小中の連携をきちんとやっていきたいというのが、今回の再編の中で出している。しかし、小学校が6校もあることから、小学校の統合校3校にまず一定程度めどをつけ、そしてそのあと中学校に行くときの中学校の校区をどのように線引きしていくか、そういう基本的な考え方でいる。</p> <p>このプランの中では、あくまでも小学校をやってから中学校へ、結論的には、菁園と新しくできる最上にできる中学校、そこを統合校として考えていると示している。それは施設状況、西陵中学校も昭和57年築で28年経っていることから、その二つが適切ではないかという考え方をしている。まず、小学校の統合校の3校はどのようになるのか、そして、中学校をどのようにすれば良いのか、ここは一定の時間が掛かると思う。六つの小学校を三つにするだけでも相当な時間が掛かると思う。それを見極めたいうえで、より議論をしていかなければならない。ある意味、これから中学校に送り出すときに不安を感じるかもしれないがその辺はご理解をいただきたいと思う。</p> <p>アスベストのご心配もつもどと思う。工事をするに当たっては、細かく詰めていかなければならない。イメージ的に聞いていただきたいが、この校舎はL字型になっており、L字のところで遮断して、そしてアスベストの囲い込みをして取る時に、夏休みなど子どもがいないときに外に飛び散らないように教職員の方も中に入らないようにした上で、夏休み期間中に全部除去するとか、そういう形で段階的に進めていくことは可能だと思う。ただそうなるとうちでも工期で制約が出てくるので、時間的にはここに入りながらやると長かかると思う。</p> <p>先程の一旦最上に全部いけば、そういう意味では安心だし、もちろん危険のないようにやるが、そういう意味での心配はなくなるが、一度移るので煩雑な面はあるが、工期や健康という面ではクリアされると思う。</p> <p>今の部分は正式に統合校が決まった時にどのように統合をスムーズに何年かけて終わるか、そういう経過の中で、どういう選択をしていくのかは、また改めて保護者の皆さんと詰めていかなければならない課題だと思っている。ただ、選択肢としては今言った、ある程度の年数をかけても、きちんと区分をしながらやっていくというやり方と、皆さんの了解が取れば、統合校の場所は最上小学校ということにして戻ってくるという選択肢もある。それ以外にもあるかもしれないが、そのようないくつかのオプションを考えながら、大事業になるので教育委員会が一つの案を決めてこれで行く、というような内容ではないと思うので、時間をかけながら慎重にやっていきたいと思っている。</p> |

| 会場 | 会場での発言（質問・意見・要望） | 教育委員会の発言（回答・説明） |
|----|------------------|---|
| 緑小 | | <p>この地区の緑小学校、松ヶ枝中学校は施設の関係から建て替えという議論になるのでそういう意見を出されたと思うが、青いリーフレットの左側の下の◆がいくつか載っているところだが、今お話した部分では何となく最上小学校がこちらに統合されるのではないかということになるが、議論いただきたいのはこの地区でもそうだが、単に最上が来るとかこちらに合併してくるかということではなく、地域によっては三つの学校があるし、入船との関係もないわけではないと思っている。私どもの考え方としては、新しい学校を作っていくことも学校再編の一つの考え方として持っている。必ずそうするというのではないが、一番上の◆に「保護者や学校、地域の方などで構成した「学校統合協議会（仮称）」私どももちろん入るが、そこで統合が円滑に進むようにしていく。それで、どんな協議をするかといえば、通学の安全というのがある、からまつ公園の方から通ってくる子はどこが一番安全なのか。それから、事前に子ども同士の交流もしていかなければならない。それから保護者同士の色々な話し合い。それから、校名、校歌や学校の教育目標、そういった部分についての議論があっても、全然不思議ではないと思っている。一方では伝統ということがあるが、子どもの目線から見た時に、よその学校から来た子だということではなく、新しい学校を作ることによって色々準備をしていくことも統合をスムーズにいくためには、大きな要素ではないか。今、全道でやっている学校再編というのは、例えば札幌でも二つの学校を合わせて、全く新しい学校を作る。新聞でも取り上げられたのは、中心部の4校、大通小学校などを合わせて資生館小学校という新しい小学校を作ったというのが話題になったことがある。そういったことも考えていかなければならない。その意味では、施設の建て替え、改修の部分もちろんあるが、事前の準備、統合に向けて色々な協議ということも考えていかなければならないと思っている。</p> <p>新しい学校を作るという部分だが、平成19年10月に市民で構成された学校規模配置を考える検討委員会の組織を作って、そこからいただいた答申の中に「統合の視点」という項目がある。それを読み上げる「学校の統合に当たっては、ともすれば統合する学校規模等により、「受け入れる側」と「受け入れられる側」という意識が起きる懸念があることから、このことが児童生徒に与える影響に配慮する必要がある。したがって、統合を行う際には、関係者が一体となって新しい学校を作るという視点にたち、統合の事前準備段階はもとより、統合後の児童生徒へのケア対策などを進める環境づくりが大切である。」答申書の中にもそのような項目を盛り込まれていて教育委員会にいただいているものなので、そういった視点は今回の学校再編の中でも一貫して持っている。</p> |

中央・山手ブロック

| 会場 | 会場での発言（質問・意見・要望） | 教育委員会の発言（回答・説明） |
|-----------|--|---|
| <p>緑小</p> | <p>3</p> <p>今色々な話しが出たのは、決定後の話というか、ここは残るとい前提での話しだと思ふ。その前に話された、この地域は複雑だと思ふので、他の地域のように3校の中学校を1校にして、どこの学校を残そうか、どこの学校を使うかという考えではいけない区域だと思ふ。それが決まるのが、当初5年を目処にという記憶があるが、いつ頃までに、この地区の場合は松ヶ枝中のことを解決して、玉突き状態に小学校のことを解決していくのか、小学校のことを第一にやるのか。小学校の組み合わせを決めて緑小が残るのであれば、どういう形で最上小に、例えば一旦引越して、建て替えて、最上小から引越してきて、中学のことを考えると、順番が色々あると思ふ。区域とかよりも。その辺の回答がどのくらいの目処でできるのか。下の子は2年で結構先が長い。上は小学校5年生。その中で、無くなる学校へ行かせようか、例えば西陵中が無くなるのがこの先何年間でその間に中学校3年間を迎えるのであれば、保護者としての考え方、残る学校へ最初から行かせようという考え方も出てくると思ふ。</p> <p>おおよそどのくらいの年数を目処に教育委員会として、この形を整えていくのか。ずっと先の緑小が残るとい決定をしてからの話ではなく、だいたいこのくらいの目処でそこはきちんと決めたいという、色々な意見を聞いた上で、決めたいというところの話を聞きたい。</p> | <p>期待されている明確なお答えにはならないかもしれないが、まず、前提としてあるのは、去年策定した基本計画、全体では平成22年から15年間、平成36年までの極めて長いスパンでの計画期間を置き、前期、後期に分けている。その中でこの地区は、小規模な学校がたくさんあるので前期に位置付けている。前期の期間は平成22年、今年からこのような議論をしているおり、22年から29年の8年間というのが一つの括りとしてある。私どもの具体的な進め方というものは、前期のところを一遍にはできないので、地区ごとで一定程度の方向性、話がついたところから具体的に進めていこうと思っている。この地区については、まず小学校からやっていかなければならないと思っている。小学校にも色々なグループがある、ここ以外にも最上小学校でも懇談をしている松ヶ枝中の関係がある。先程、最上小学校での懇談会の意見も紹介したが、正直言ってここ緑小学校では「反対だ。」という意見は起こらないと思ふ。次の段階では、緑と最上と松ヶ枝中を含めて共通の議論を、この地域の部分でしなければならぬ。私どもとしてはそう遅くない時期には思っている。今年度やっていかなければならない。仮に、ここ緑小学校を統合校として建設となるとそのあとは、建設の日程とか準備などそういった部分というのは一定程度、明らかになってくると思ふ。中学校の部分までいくと、ここはBグループもしくはCグループとなっているが、Aグループでは、色内、稲穂となっている、それなりに時間がかかると思ふ。色内については手宮との関係も出てくる。それから、花園、入船というグループとの議論も出てくると思ふ。花園の部分には、量徳の一部との関係も出てくる。色々な要素が出てくるので、このグループの2校ということではなくて、この中央・山手地区全体の方向性というものをきちんと固めて、それから次に中学校の議論をさせていただきたいと思ふ。</p> <p>これも紹介になるが、ある地区では、小学校を先にやると、次に中学校に行った時にまた統合に会うという場合もある。私どもこれは、基本的に避けたいと思ふ。小学校と中学校で二回学校が変わるといことは避けたいと思ふ。だから、地区によっては先に中学校をやしてほしい、それから小学校をやるとい要望が出された方もいる。ただ、ここはどうしても小学校を先行しないと中学校の校区がなかなか整理しきれないので、ご理解をいただきたい。その意味では、小学校に手をつけてから中学校ということになると3、4年後に中学校が出てくるのは、ちょっと考えにくい。ただこのブロックでいえば次の段階は、松ヶ枝、緑、最上、そういう議論の場は必要ではないか、このように思っている。</p> |

中央・山手ブロック

| 会場 | 会場での発言（質問・意見・要望） | 教育委員会の発言（回答・説明） |
|-----------|--|---|
| <p>緑小</p> | <p>4 西陵中学校は無くなるという押さえでよろしいですか。石山中とかが無くなること決まっていた時に、新入生を入れていかなかった経過があって、卒業式を在校生が送られなかったという経過があったと思うのですが、廃校となる中学校は募集をしていかないという押さえでよろしいでしょうか。</p> | <p>中学校の件は、古い話ですが、その時教育委員会にいましたので良く覚えています。中学校3校、石山、東山、住吉の時も色々な議論をした。当初教育委員会で考えていたのは、1年から3年まで統合日を決めたらみんな一緒に移りましょうという案を出した。ただ、PTAの方と議論する中で3年生は受験を控えているから新しい学校に行って1年間だけで受験に臨むということにはならない。という意見が大変多くて最後の1年は3年生だけの学校になった、最後の一年は。最後閉校式を行うときは1、2年の子は移っていたので。3年生だけの卒業式、そして閉校式ということになったということで、1、2年生を取らなかったということではない。だから、今後具体的な議論になってくれば、中学校ほどそのような議論というのは少ないが、中学校ではやはり出てくると思うが、私どもの基本的なスタンスとしては、きっちり事前に準備をして、それで統合する時は一緒に統合、再編をやっていきたいというのが、基本的な考え方。確かに3年後にこの学校がなくなる、来年うちの子がその学校に入るのが、3年後になくなるのなら先に向こうの学校に行きたい、その気持ちも分かるが、それは柔軟に対応していかなければならないと思っている。ただ、教育委員会の基本的な考え方としては、やはり今ある学校に入って、統合に向けて色々な準備や交流をやって、行く時はみんなで手をつないでいこうというのが基本的だと思っている。</p> <p>それぞれブロックで様相が異なると思う。ここ中央・山手地区でいえば、小学校の学校規模、要するに子どもの人数は大体同じくらい。緑小学校も170人弱くらい、最上小学校でもちょっと大きいのが200人ちょっと、花園、色内も140～150人あるいは150人ちょっと。一つのかたまり、かたまりで一緒に五月雨式に移るのではなく、一つのかたまり、かたまりで統合ができるのではないかと、このブロックについては次の意見交換の中でも率直なお話を聞かせていただきたい。</p> <p>西陵の話ですが、一つご理解いただきたいのは、プランの表紙に書いてあるとおり、参加者間の活発な意見交換ができるようにという観点で作ったものだ。だから、この計画どおりいかどうかという部分からすると、ここでも二つも三つもプランを出している。そこは押さえてほしい。今日、この場では私どもの出しているプラン、緑小学校を統合校にということで、対立といったらおかしいが、どこも対立なくやっていきたいと思っているが、もちろんそうではないところはある。「なんでうちの学校じゃないの」というのがあるわけだ。あくまでも、現状ではプランなんだ、だから「昨日教育委員会が来てここ残ると言って帰ったよ」そういうものではないということはないということを押さえてほしい。何回も繰り返すが、これから、最上とも緑の保護者とも、色々な話をしていく。その中でやはり最終的に実施計画といっていいと思うが、そういうものを地区ごとの実施計画を作っていくというこいで理解してほしい。そのところは、理解をお願いしたい。これはどこの学校でも全部そうだ。プランを今日意見交換しているということだ。</p> |

| 会場 | 会場での発言（質問・意見・要望） | 教育委員会の発言（回答・説明） |
|---------------------------|--|---|
| <p>最上小・松ヶ枝中 6月24日</p> | <p>1 色々選択肢があり分かりにくいところがあるが、菁園中の懇談会に参加し、聞いたが、松ヶ枝中学校をここ最上に持ってくるという話があるが、その場合この児童と緑を合わせて、緑は古いので建て替えなければいけない。その間、緑の子はここに一時的にきて、新しく緑ができたならまた向こうへ移動すると聞いていたが、松ヶ枝がここに来るとするのが主要なプランとして聞いたので、小学校の再編はそういう考えがあると思うが、そこはまだ話としては進んでいないのか。</p> | <p>ポイントを補足させていただくが、初めに小学校のプランを説明した。五つのプランがある。この図面で白くなっている部分、ここに稲穂と色内がある。ここには書ききれないので、最上、緑を中心とした図面。前段申し上げたとおり、中央・山手だけで6校の小学校がある。そして隣接する、図面右下の量徳小学校の校区、ここを花園側に入れるというプランも出しているの、全体的に複雑なプランになっているのは事実。そういう関係もあり、まず小学校6校を3校にするという小学校のプランを基本的に固めていく。それを一定程度固めてから、その次に中学校の議論をする。中学校は3校を2校にしていきたいと、それが大きな流れだ。</p> <p>小学校の五つのプランは、最上と緑のプラン、最上と入船のプランで作っている。プラン1とプラン3で比較した場合、最上を統合校とした場合、緑を統合校とした場合、それぞれの最遠距離が1.7キロ、2.0キロと記載している。プラン3の最上と入船で考えた場合は、両方とも最遠距離が長くなる。最上を統合校とした場合も入船を統合校とした場合も両方とも2.2キロとか2.4キロになっている。</p> <p>教育委員会としては、距離を考えるとプラン1、緑、最上の方が優位性があると考えている。中学校との関連では、中学校は小学校が終わってから考えることを基本に持っているが、中学校の三つのうち、西陵と菁園は耐震はOKです。昭和56年以降に建てられた校舎で新しい耐震基準で建てられており、そこは大丈夫だ。松ヶ枝中学校は、昭和31年に建てられた校舎が一番古い校舎で、すでに54年経っている。施設のにも相当老朽化している。もう一度松ヶ枝中を新しく建て替えるという議論がないわけではない。ご承知のとおり、あそこの冬場というのは大変な道路事情があって、通りから学校まで上るあの道路は大変な道路ということを考えると、松ヶ枝中をあの場所で建て替える、あるいは耐震化して大規模改修するというのは考えにくい。そこで発言された方がおっしゃったように、一つの考え方として、小学校のプラン1の最上、緑の統合をベースにして、緑小学校も既に40年経っているの、緑小学校を建て替えて統合校にして、当面最上小学校を中学校にする。ここを中学校とした場合に、西陵から持ってくるのかそういうことは別にして、しばらくの間ここを中学校として使用してはどうかという考え方だ。</p> <p>先ほど言われた、一時、あっち、こっちという話は、最上小学校のグラウンドは小学校としては大変広い。資料にも書いたが7,300㎡くらいある。緑小学校はグラウンドも狭い。3,000㎡弱くらい、そういう条件があるから、緑小を建て替えると想定した時に、今の校舎を利用しながら空いてる所に建てて、建ててから古い校舎を壊すというやり方をとると、制約が多く十分な面積がとれない。</p> <p>一つの議論素材として、緑小に一回こちらに来てもらって、緑を全部壊して、建物の位置、グラウンドの位置をきちっと確保して、建て直して、ここから移って、ここを中学校にするという議論もあり得るのではないかと考えている。そういうやり方はお金かかるので、教育委員会だけでは決められなくて、市役所全体で議論していかなければならないが、一つの考え方としてはどうかと思っている。</p> <p>今日は、中央・山手地区の緑、最上グループ、松ヶ枝の老朽化対応ということで教育委員会の一つの考え方、一つのプランとして持っているの、ぜひそのことについてご意見をいただきたいと思っている。現状はもちろんわかっている。ここに書いたとおり、からまつから緑となると2キロと、相当長い距離になるので、今は1キロ程度だから。そういうことも含めてご意見いただければと思う。</p> |

中央・山手ブロック

| 会場 | 会場での発言（質問・意見・要望） | 教育委員会の発言（回答・説明） |
|----------|--|---|
| 最上小・松ヶ枝中 | | <p>小学校五つのプラン、中学校五つのプランのうち、特にここ最上小学校と松ヶ枝中学校の関係で、一つのあるプランを選択した場合このようなシミュレーションになるという例を出した。それがすべてということではないが、教育委員会の内部で検討した段階では、ある程度色々な形を想定する中では、そのような進め方も地域の了解が得られれば、検討する値があるのではないかと、そのように思っている。今の話にこだわらなくてもいいが、色々な形での考え方があって当然だと思う。</p> |
| 2 | <p>状況は良く分かるが、意地悪な質問で申し訳ない。ここ最上小と松ヶ枝中の親御さんが多いので特化して言うが、最上小と緑小を一緒にして、松ヶ枝中をここにもってくるというプランにした場合、逆に松ヶ枝中を緑小の場所に建ててということも考えられるが、その場合グラウンドは狭いから中学校としては難しいというの分かるが、そうなると最上小の児童は狭いグラウンドの緑小にいくのかという話になる。そこはしょうがないので我慢してくれという考え方なのか。</p> | <p>ある意味我慢してくださいということになるかと思う。今緑のグラウンドは3,000㎡弱。校舎をすべて取り壊して、校舎を建てて、そしてグラウンドを作ろうということで線引きができれば、4,000㎡くらいは取れるのではないかと思っている。もちろん、あそこは崖になっていて石がゴロゴロしているところもあるので、そういうところの整備も考えなければならぬ、うちの建設とも相談をしなければならぬが、1回更地にして、一番支障のない状態で校舎を建ててグラウンドを取ることになれば、4,000㎡は取れると思う。それでもここよりは圧倒的に狭い。ここは7,000㎡程あるが、市内の小学校の平均的な部分から言えば、4,000㎡というのはそこそこの面積だと思っている。ただことと比べると、我慢という部分は出てくる。</p> <p>直接的表現では我慢してくださいということになるかも。これはそうすると、松ヶ枝中学校の問題はどうなるんだ、今小学校に通っているお子さんもこのままでは、松ヶ枝中学校に通うようになるので、松ヶ枝中の厳しい自然環境の中で、昭和31年の校舎でそのまま存続するとなると建て替えということになる。そこでまた、校舎が古くなる50年後に、またそこで中学校という話になる。そうすると、少しでも、同じ中学校で勉強する環境となると校舎は新しくなるが、厳しい自然環境との戦いもまた続く。何年か前に、校門のところから200数十mの道にロードヒーティングを検討できないかと、現実に土木の担当者と現地の視察をしたことがある。その結果、ロードヒーティングはお金が掛かるということと、ランニングコストの部分の経費ということもある。松ヶ枝中学校の校門の下のところ、工業高校と同じ通りのところ、あそこから通学路が学校の敷地になっているのでその維持管理は教育委員会の所管となる。すると松ヶ枝中学校を仮にロードヒーティングにしたら、教育予算の中で、その維持管理費をみていかなければならぬ。それをまた50年続けていくことに対しても難しいところもあるので、色々な形で検討した結果、数年前のその話は先に進まなかったという経緯もある。</p> |
| 3 | <p>校区分けという難しい問題、良く考えていただいた案だと思っている。私は小学校ではプラン5が現実的な案と思うし、中学校は4か5か思っていたが、昨年もお話をさせていただいたが、既存の学校用地は原則ということで、原則であれば例外もあると、市有地である公園用地とかを使ってはと言ったが、昨年は大変難しいとの答えをいただいたが、難しいというのは頑張れば何とかかという話なのかと思っている。</p> <p>小学校についても中学校についてもそうだが、二つの校区を合わせて、今の話を聞いていると最上小学校を将来的には緑小学校の場所になってくる気がするが、そうであればシガスーパーの向かいの市の土地に学校を建てると、どちらの学校も開校、運営しながら新しい校舎を造ることも可能ではないのかと思っている。公園用地は、難しいというお話でしたが、桜小学校のグラウンドは現在公園だということを知ったので、その辺はどうにでもなるのではないかと、思っている。色々大変な問題だが頑張ってもらいたい。</p> | <p>今のお話し、シガスーパーの辺りという気持ちは良く分かる。市の建設部に聞いたところでは、公園用地になっていて、公園用地だと、都市公園になるので、公園法の縛りがあるということだ。公園の面積が決まっていて、その部分を削ると隣接する土地と同じ面積をどこかに足さないとだめだということだ。その分仮にシガスーパーのところに建てたとしても、その分をどこか小樽公園の中で足さなければならぬということ。緑小学校のところを足したらということもあるかもしれないが、現実的にはなかなか難しい状況だということも聞いている。桜小学校の話はおっしゃるとおりだが、あれはグラウンドのところ、桜公園のところを借りているということと、建物を建てているわけではない。建物の敷地は公園にはかかっていない。だから、公園の敷地をグラウンドとして借りている状況。</p> |

| 会場 | 会場での発言（質問・意見・要望） | 教育委員会の発言（回答・説明） |
|-----------------|---|--|
| <p>最上小・松ヶ枝中</p> | <p>4</p> <p>グラウンドを借りているということで、まさしく今駐車場になっているところ、冬場は雪捨て場になっているところに校舎を建てて、今の緑小学校の校舎のところに戻せば、公園用地として変化はないと思う。グラウンドは桜小と同じように公園用地をグラウンドとして使わせてもらえば、面積的には変化はないのかと思っている。</p> <p>もうひとつ、通学はバス通というのも視野に入っていると思うが、バス路線、プラン4でいえば入船小の下の方から最上小へ通ってくる場合に、現実的にそこにバス路線はない。子どもたちは2本バスに乗ってくるのかということにもなるので、そこのところもう少し現実にバスがどのように走らせているのか考えていただかないと、簡単には納得できませんでしたとは思わないと思う。</p> | <p>バス路線について、まさにおっしゃるとおり、入船側から来ると山手線で洗心橋の辺りでしか止まらない。教育委員会としては、色々な想定を考えているが、今現状では最上までの路線バスについてはそこでストップということになっている。最初に申し上げたとおり、プランというのはあくまでもたたき台ということで示している。入船側のことに関しては、もしかするとその入船側は、花園側に行った方がより近いというようなことも想定される、色々なパターンが出てくると思う。だから、私どもまずは一当たり、全市的に小中学校41校ということで、7月22日まで小中合同ということもあるので36会場で皆さんの意見を聞いて、それを1回で終わろうとは思っていない。何回も協議を重ねて、そういった意見をいただいて、どういったプランが一番良いのか。ここからだど花園に行った方が良いのか、最上に行くのであればそのような支障があるので、通学路を考えていかなければならないということをご意見をいただいて、積み重ねて次回に生かしていきたいと思う。また次回については、このような単独の、今日は最上と松ヶ枝中を対象にしているが、次は入船と一緒にだともっと広げて懇談会を持つという考え方もあると思う。だから私ども1回ここをくぐって、色々ご意見をいただいて、2回目に生かしていきたいと考えている。</p> <p>お話いただいたとおりだと思う。プラン1では最上、緑グループというのを設定していて、プラン3の方では最上、入船というのを考えている。逆にプラン2では、入船、花園というグループを考えている。これから入船小学校の懇談会もあるが、この中央・山手地区は、学校そのものの組み合わせで、いくつも考えられる。そしてまた、6校を3校にした場合の統合校がどこになるかで、当然校区の線引きも考えなければならない。このプラン1の図面を見ても良いが、左の奥沢小学校の区域と入船小学校の区域は道1本挟んですぐの位置にある、日成ヶ丘が上がっていく道だが、だから、奥沢・天神グループで奥沢小が残る場合はその辺の校区がある。特にそれが、中央・山手地区で色々なパターンがあるから、小学校を先行させよう、その小学校の校区に一定程度めどがつく、基本的に固まるという中で、中学校をやっていく、それでも数年かかると思う。こここの小学校をやっていく部分では。そうした時に、もうすでに54年たった松ヶ枝中をそのまま小学校が固まるまでということには、教育委員会としては考えにくい。ある意味綺麗な形ではないが、先程から説明しているプラン、考え方を示したということ。</p> <p>最上小学校はCグループだが、入船小学校の関係ではBグループとの関係もあるのでその辺の中で、どのような組み合わせが良いのか。今日の冊子の14ページから16ページにかけて、プラン別の検討、プラン1からプラン5までの特徴点と留意点を表にまとめてある。今日は時間がないので説明はしないがあとで見えていただいて、一番良いものがあればこのようにプランを五つも提示しないわけで、いいところと不十分なところそれぞれあるというのは考えておおり、その辺を比較しながらより良い形でのプランの選択ということで議論をいただきたいと思う。</p> |
| <p>5</p> | <p>松ヶ枝中学校は確かに古くて、娘が通っているが、おっしゃるとおり安全ということを最初に考えた時に、いつ崩れるか分からないというような建物だから、この部分は特にスピーディにやっていただきたいと思う。何より、一番負担になるのは学校に通う子どもたちで、小さい1年生が大きなかばんを背負って、長距離、山手地区ということで、本当に山で通学は大変だと思うので、小さい子の負担にならないように、中学生になっても大きな荷物を背負って、肩に食い込んだ状態で通学していますので、なるべく子どもたちの負担を少なくできるような方法を考えていただきたいと思う。</p> | |

中央・山手ブロック

| 会場 | 会場での発言（質問・意見・要望） | 教育委員会の発言（回答・説明） |
|----------|--|---|
| 最上小・松ヶ枝中 | <p>6</p> <p>先ほどのお話で、小学校3校を2校にするプランとおっしゃって、緑、最上とか、プランがいっぱいあって、話をごちゃごちゃになってしまったが、先ほどの質問にもあった入船の子が緑の地区まで通う場合に、スクールバスや路線バスの話が出ていたが、このグループ分けというのはもう変わらないのか。素朴な疑問だが、入船小学校と奥沢小学校の位置ってすごく近い。天神小学校もこの地図で見ると近い。山とか坂はあるのだろう、と思った時に、自分たちの区域としてはまとまるのかと思うが、こちらの小学校の方、ちょうどその線引きされたところの方達というのは、その区域を超えて必ずしもそこに行かなければならないという疑問はないのかお聞きしたい。</p> | <p>ブロック分けのところからお話する。今回の学校再編は市内41校を対象にして進めているが、そのブロックを考える中では、一つのよりどころとしては、小樽市の総合計画があってその中に、ブロック分けの考え方、その地域の特徴とか成り立ち、地区割りがある。そしてこの学校再編に当たって、ここまで基本計画を受けて作ってきているが、ここまでの間に、市民の皆さんの意見を聞く機会を設け、その中でやはり地区を分けていかないと全市一斉にすべて同時というわけにはいかないの、そういう中でこうしたブロック分けをしてやっていくのが良いのではないかとあり、このブロック分けを設けた。先程部長からも説明あったとおり、奥沢と入船の関係とか隣接した分は今後再編の中でどうするというのはあるかもしれないが、基本的には現状このブロックの中で何とか完結していかないと、色々なパターンが出てきて混乱してしまうかもしれないと思う。</p> <p>もう一つ通学区域の関係だが、通学区域はここで今便宜上、色を分けて既存の小学校の校区を合わせるとか、そこに中学校の校区の考え方も入れて校区分けを作ってお話をしているが、実際には統合に向けてという話になった時に、では通学区域をどこにするのかというのは皆さんとの議論の中で、最終的には教育委員会が決定させていただくが、そういう話をしていく場があるので、今示している案を何が何でもこれということではないということ、冒頭から言っているということをご理解願いたい。</p> |
| | <p>7</p> <p>小学校の再編を先にして、その後に中学校ということだったが、耐震化が必要な松ヶ枝中学校に通う子どもたちの安全面について市はどのようにお考えなのか、心配なので、お聞かせください。</p> | <p>繰り返しになるが、先ほども申し上げたとおり、小学校を先行と言っている。小学校の6校を3校にということでもとめていかないと次に中学校の議論には入りづらいと言った。ただ松ヶ枝中は築50年を経過して耐震優先度も①という校舎のため、松ヶ枝中学校は後ですということにはならない。それで、松ヶ枝中のここへの移転という一つのプランを出させていただいている。先程の小学校の施設状況3ページを見ていただきたい。学校の施設のところの二つ目、耐震優先度調査と書いてある。その上にいつ建てたかを書いてある。色内小学校が優先度調査で②なので、①の次に急ぎなさいということだ。ここも昭和32年、築53年経っている。稲穂は新しいので何も書いていない。花園は、30年ちょっと過ぎていて、優先度調査では③なので、ここは耐震の補強工事と改修で対応できるだろう。緑も昭和40年で築45年、ここも優先度調査は①で急がなければならない学校だ。そして最上は新しいからOK。入船を見ると昭和51年で築35年経っているので結構微妙な時期に来ているという学校。中学校では、西陵中、菁園中は耐震OK。松ヶ枝中は、昭和31年で優先度も①。おっしゃるとおり早くしてもらわなければ困る、というのはそのとおりだと思う。一つの学校を建てるのには、相当なお金もかかるし、すぐにはできないが、やはり松ヶ枝中、緑小といったところは、順番としてやっていかなければならない。そういった中でいろいろご意見はあると思うが、ここは中学校として活用して緑小を建て替えて、最上、緑ということでの統合校にできないだろうかと考えている。だから、安全、安心の部分、特に耐震化、それも含めて一つのプランを作ったということをご理解をいただきたいと思う。</p> |

中央・山手ブロック

| 会場 | 会場での発言（質問・意見・要望） | 教育委員会の発言（回答・説明） |
|--------------|---|--|
| 最上小・松ヶ枝中 | <p>8 今の話で、松ヶ枝中を早くやってほしいというのはとても良く分かるが、やっていく中で、地区の実施計画の策定を懇談会でプランの合意を得られたところから進めていくと載っている。この合意というのは何を基準にというのはあるのか。</p> | <p>どこの懇談会の会場でも言われる部分、すごく困るお答えしかできないが、ご承知のとおり教育委員会が平成13年、14年にかけて石山、東山、住吉の適正配置を行った。そのときの説明会にも私は参加をしていたが、こういった会場で皆さんに賛否を問う、数の多い方で決めるということではない。それから、最後までやはり反対だ、とおっしゃる方もいる。ただ、やはり何回か話していううちに、それではこれでいこうか、いくためにはどういう条件を整えるのか、先程出ていたバスの問題もあると思うし、通学距離は間違いなく長くなるから、歩道の安全対策とかそういうものも出てくると思う。やはり統合するに当たって、一番の問題は、何年かいた学校を移るわけなので、心の不安、そういった部分は当然ある。そういったものについては、どういった手だてをとってくれるのか。そういう意見のやりとりの中でやっていこうという流れになると思う。今ここで、半数以上の賛成があったらとかは言えないから、今日渡した青いリーフレット「統合進めるに当たって」とあるが、統合校が決まった後どうなるか、統合校をここに想定した場合どんな条件が整うのかという話と平行だと思うが、端的に緑と最上で仮にするとすれば、使っている教材の問題とか事前交流の問題とかPTAの保護者同士の話し合いとか色々な部分が出て来ると思う。私どもとしては2年程度の準備期間が必要ではないかと思っている。そういう準備期間を持ちながら子どもに負担のないよう、移ったあとに不安とか動揺が出た場合はそれに対応できるように、一般的にはスクールカウンセラーの配置になるが、そういったことの議論を取りしながら詰めていく流れになると思っている。</p> |
| 入船小 6月29日 | <p>1 教えていただきたい。例えばBグループの統合校として花園小と入船小となった時には、どちらとも耐震化工事が必要だと。学校規模から考えるとどちらも費用的には同じくらいかと思うが、緑小学校の場合は建て替えとなる。最上小の児童数を受け入れるとすると、その学校規模の建て替え費用と耐震化工事の費用というのはどのくらいか。</p> | <p>耐震化工事は、耐震化のやり方、校舎の造りによっても異なってくる。一番高くて2億円くらい見ておくと予算的にはいいと思う。一方、建て替えは、このブロック内で稲穂小学校が一番新しいという話があったが、もちろんクラス数によって変わってくるが、稲穂小学校を建て替えた時は約19億かかっているので20億まではいかないがそのくらいの数字にはなる。</p> <p>経費面から考えれば耐震化工事をやった方が格段に安い。しかし、耐震工事をやっても、校舎の寿命が伸びるわけではない。あくまでも耐震の補強工事なので、部屋を見ると柱が立っていて、ここを崩れないようにするには、その柱に筋交いを入れることになる。そういうことによって強度が増すことになる。強度は増すが、校舎の寿命自体はもうすでに30数年経っているので、寿命を大体50年とすると、耐震工事によって大規模改修も一部手はかけるが、寿命は若干伸びることになる程度で耐震化工事だけでは延命にはならないことから、早晚建て替えが必要になってくる。ある意味二重の経費とまでは言わないが、そういったことも含めて考える必要がある。</p> <p>今耐震化工事をやっている学校、具体的な例でいうと、朝里中学校でやっている。ただ全部の棟ではなく、一部分。面積でいうと、約1,500㎡で7,800万円。もちろん構造もあるし、診断して実施設計をやらなければ具体的な金額は何とも言えないが、今やっている一つの例とすればそのようになる。この学校だと3,400㎡くらいなので面積だけでいうと億単位の金額になると思う。あくまでも予想だが。</p> |

| 会場 | 会場での発言（質問・意見・要望） | 教育委員会の発言（回答・説明） |
|------------|---|--|
| <p>入船小</p> | <p>2 通学距離が長いという印象を持った。今、お話のあった最大で2キロ、最大ですが、ここは最近、不審者情報も結構あって、通学の部分はちょっと心配である。特に、入船の周りでも、今の校区でも心配である。そのような場合に、どのような形で考えられるのか。どのプランでも構わないが、2キロのプラン1、プラン2で入船中心でも花園中心でも良いが、通学の安全面はどのように担保するのか、考えがあればお聞かせいただきたい。</p> | <p>通学の安全に関して、現在の制度で申し上げると小学校で2キロ以上、中学校で3キロ以上、これについてはバス助成の対象になる。現在小樽市内の小中学校でバスで通学している子どもは約400名いる。プランで具体的に説明すると、プラン1では黄色い図面で㊸の地点、松ヶ枝2丁目になるが、ここから花園まで2.4キロという距離になる。例えばここをバス利用すると山手線周りで2.7キロ、徒歩で1.3キロ、バスで1.4キロになる。この位置から緑へとなると全体で2.1キロ、徒歩で1キロ、バスで1.1キロとなる。お示しているのは、通学に関してたき台ということで示しているが、そのようなバス助成も含めた形の中で、色々検討を重ねる形になると思う。</p> <p>バス助成の件は今担当が申し上げたとおりが、副会長がおっしゃったのは、安全性の面で、通学路で交通事故に遭わないか、安全な道はどこか、そういうことだと思う。もう一つは、事件的な意味での危険についてどのように考えるのかだと思う。例として適当かどうかとは思うが、通学距離が1キロより1.5キロが良い。ただその1キロがあまり人通りのない道、道路を渡るときに信号がない、そういったことがあれば、逆に長くてもそちらの方という考え方でいる。最初に担当の方から、2ページのところの三番目に読み上げたところの統合校の場所はということ、一つは区域全体のバランスからいって真ん中あたりが良いだろうということ。それから校地・校舎、グラウンドの面積、校舎の状況、古い新しいということ。その次に通学上の安全、ここの小学校でいうと松ヶ枝中学校の冬の工業高校の方から上がっていく道というのは基本的には避けたい道だということ強く思っている。ご承知かと思うが雪の降る前に砂を2トン上げておいて近所の方にお願いで毎朝撒いてもらい、それでやっとならしているというのが現状。文字どおり今回の学校再編に当たっては、近い遠いというのも大事な要件だが、今言われたようなことは、考えていかなければならない。それで前段申し上げたが、中学校の再編で3校を2校にやっていくといったが、目の前の課題として松ヶ枝というのがあり、一つのプランとして出したのはある意味そこを考えたということ。</p> <p>実は、ここで、去年説明会を6月25日にやっている。その時に、会長の方から発言があって、緑と入船を一緒にして新しい「小樽第一小学校」これは例だが、そういう考え方でいくのも一つのやり方ではないかと、提言をいただいた。基本計画の中に載せているが、A校を廃校にして隣のB校とC校に振り分ける、現実的にはそういう場合もあるが、基本としてはそういう考えではなく、それぞれのブロック、それぞれの地区の中に、2校が1校に、3校が2校という場合、その地区の中の場所としてどこが良いのか。先程会長が言われた交通安全の問題も含め、冬場の問題なども含めて、どこが一番良いのかということをもまず考えよう。そしてその地区の新しい学校を作っていくという考え方で、関係者の方と議論をしていくことを基本的なスタンスで持っている。その意味では、青いリーフレットに統合校が決まったらこういうことをしていく、ということは何点か書いてあるが、校名・校歌、校章の検討、選定。そういったことも課題にしていかなければならない。そういった意味で私ども学校統廃合というよりも、学校再編という言葉を使っているが、そういった立場で今後議論をさせていただきたいと思っている。</p> <p>今の議論の中で、通学経路はここを通った方が良いのでは、あるいは、それぞれの学校で安全マップを作っていると思うので、その関係校が安全マップを持ち寄って実際に統合準備の段階で、安全点検をしていくとか、そういう取り組みも必要。学校だけではなく保護者も、あるいは地域の方の協力ももらいながら、そのような点検作業をやっていく、そういうのを準備の段階で時間をとりながらやっていかなければならないと思っている。</p> |

| 会場 | 会場での発言（質問・意見・要望） | 教育委員会の発言（回答・説明） |
|-----|--|---|
| 入船小 | <p>統合学校にかかわって、教育委員会で長い時間かけて、慎重に検討されて、それぞれ、稲穂小、花園小、緑小が統合校として良いのではないかと書かれているが、その中で、三つ目のひし形のところに、学校立地の条件として「より良い環境であるかの観点も考慮します」と、書いてある。私は新聞報道でしか地域での話し合いの様子を知るすべはないが、忍路中央小、塩谷、長橋、幸地区での推移、様子を見せてもらっている。小樽はまだ豊かな自然が残っている地域だが、だんだんと子どもたちの通学の利便性や学校の改築の問題など、条件なども変わってきているのだろうが、学校そのものにして豊かな自然環境に触れるという学校が段々少なくなっているように思う。</p> <p>例えば、示された中央・山手地区の統合校3校を見ても、緑小は小樽公園がある、稲穂小は周りに豊かな自然はないが、花園小は後ろに子どもの国があるが、入船小学校の場合、校地内、学校の敷地内に絶滅危惧種になっているような日本ザリガニが生息している、春になるとウグイスの鳴き声が聞こえる、カッコウの鳴き声が聞こえる、6月になるとキツツキが巣づくりのために木に穴を掘るための音が聞こえる。色々な昆虫もたくさんいる、そういう自然環境というのは学校の立地条件として大事だと思う。小樽市の教育計画では、確かな学力も必要、豊かな心あるいは健やかな体、知徳体のバランスある発達は大事だが、非常に恵まれた条件の中にある豊かな自然環境を使っている体験学習なんか、学校を離れて、遠くまで行かなければいけないという状況の学校が段々多くなってきているような感じがする。確かに、校舎建て替え、耐震工事とお金がかかるということでは、経済的な効率、効果も考えなければならないのだろうが、教育面の効果についての配慮もしていただけたら、これからの次代を担う子どもたちを育成するためにも大事ではないかと思う。</p> | <p>今、話されたことは全然、否定すべきことではないと思う。小樽の学校の場合、横に長い坂の町で、わりと自然は近いところにあると思っている。なおかつ、その自然の中にある学校は、町の真ん中にある学校よりも、その教育活動においても、色々なメリットがあると思う。実は先日、豊倉小学校、ここでは長い間かけて周辺の昆虫の、観察というよりも博物館の学芸員と地域の調査しており、私どもも何回か懇談会に行っているが、やはり、地域の方からは、学校と地域のことも言われる。それから、豊かな自然を活用した今までの取り組みの評価についての意見もある。一方で、これも保護者から出た意見だが、今20数名という規模になって、確か2年生だったと思うが複式で男の子3人のクラスになっている。そうすると、何かがあると、そこから動きようがなくなってしまう。その意味では一定の規模、豊倉は極端な例だとは思いますが、そういった意見もあった。私どもも教育活動全般を見ていく、全般を考えていく中では、やはり1学年1クラスでは限界がある。ご承知のとおり先程担当からあったが、今年の新一年生は、平成16年に生まれているお子さんだが、その時は年間850人程の子どもが生まれている。去年1年間では720人。この6年間の中で100数十名減っている。そういった中でやはり再編はしていかなければならない。ただその中で、今ご意見のあった小樽の自然とか、色々持っている条件を教育の中で、それぞれ学校のクラスの中で、授業の中でどう生かしていくのか、そのことはそのこととしてきちんとをやっていかなければならないと思っている。</p> |
| | <p>学期ごとに、子どもたちの登校時にふれあいサポート活動をさせていただいているものだから、子どもの通学時に安心・安全という観点も大事なことだと思うが、入船の場合、小樽短大付近はこの校区だが、あの辺りはだいふ花園へ行っている。入船公園付近のお子さんは、校区は入船だが、緑へ行っている。こちらの住吉神社の手前の辺りは、校区は入船だが、奥沢小へ行っているということで、現実の問題として通学路というのは統合校を決める一つの条件とはなるが、さほど小樽市の場合は絶対条件ではない。一部遠距離はもちろん考えなければならないが、通学距離というのは、確かに考えなければならないが、現実にはそういう面もあるんだということの認識をしていただきたいということと、先ほど耐震工事と建て替え工事とのくらい違ってお聞きしたのは、本校の子どもたちが緑へ行く、緑のお子さんが入船へ来ても、そう距離的には問題はない。例えば、こちらの方の耐震工事が緑の建て替えよりお金がかかからないとすれば、より自然条件が豊かなところの入船が統合校としての考えはないのだろうか。確かに、冬期間の通学路の関係でいくと、本校は道路から少し入るから、その面では問題もあるのかと思うが、除雪費の経費の面では緑小が良いとは思いますが、41校がかなりの数が減るので、どこに統合校があったとしても、子どもの安全・安心から除雪はきちっとしなければならないとなるので、私の考えとしては今説明を受けた中では、プラン5しかないと思うが、こちらに住むようになって、入船小の自然環境の優れたところを知ったものだから、その辺も考えていただきたいと思う。色々なものを総合的に考えてみて、費用の面から、通学路の面から考えていただいて、地域の声を聞いていただければと思う。</p> | <p>今貴重な発言をいただいた。今回、教育委員会ではプランで出した観点、学校規模、通学距離、施設の老朽度、そういった観点を主にしながらプランを作っているが、それ以外にも今お話のあったことは重要だと思う。まだ今後も具体的なお話をいただければ、例えば通学区域の設定自体も、とりあえずここでこの地図で色分けをしているが、その辺のところは柔軟性を持って通学経路を検討する段階では、もう少し幅を持ちながらやっていかなければならないと思っている。</p> |

中央・山手ブロック

| 会場 | 会場での発言（質問・意見・要望） | 教育委員会の発言（回答・説明） |
|-----|---|---|
| 入船小 | <p>5</p> <p>皆さんおっしゃったとおり、統合されるのであれば、子どもの通学路の安全を守っていただきたいというのが第一です。この入船小学校は自然に囲まれた学校ですので、もし統合で入船小学校がなくなったとしたら、この場所はどのように変わってしまうのかお聞きしたかったのですが、本当に、周りは自然がいっぱいで、子どもたちが毎日外で休み時間に遊べるような学校なので、その自然を生かした活用をしていただけたら良いかと思うのですが、どうでしょうか。</p> | <p>今の、学校の跡利用も含めて、教育ではなく、企画サイドからお答えする。基本的には昨年11月に策定した学校配置の基本計画というのが出ている。この中に、廃止となる学校施設の跡利用ということで、基本的な考え方が示されている。</p> <p>「統合により廃止となる学校の建物や土地の利用については市民の共有財産として、全市的なまちづくりの視点で地域の皆さんの意見や要望を聞きながら検討します」ということになっているので、基本的には、こういう場で皆さんから出てくるご意見などを十分に聞きながら進めていきたい。それと学校の機能について、学校が教育の場としての機能だけではなく、例えば、子ども市の考え方でいくと地域防災計画というものを持って行って市内の41校すべてが避難所に指定されている。だから、学校の機能を失ったからといって、直ちに壊すということではなく、まず避難所としてどうするのかということになる。あと地域によって、小学校や中学校がコミュニティの場として使われている場合があり、そういったコミュニティ形成の場としての機能も残していかなければならないというご意見もあると思う。私はこの地域に住んでいるので、例えば少年野球のお子さんやサッカー少年団のおさんが使っていることは知っている。こういったものがなくなれば、練習の場がなくなる。それはそれで考えていかなければならない問題だと考えている。ただ施設を残した場合、例えば改修の費用とか、それを誰が維持管理していくのか、それはまた別の問題としてあるので、そういったものも勘案しながら、最終的には地域の皆さんのご意見に十分配慮しながら、市としても考えていきたいと思うので、学校としての機能がなくなるから、建物も壊して土地も処分してしまうという考え方は基本的にはない。</p> |
| | <p>6</p> <p>先ほどから話を聞いておりますと、今日は懇談会。私たちの意見がある程度出た時に変わるんですか、考え方が。変わらないような説明ばかり聞いているので、説明会というのであれば話は分かるが、懇談会という名前で呼んだのであれば、我々の意見というのを確実に一つ一つ評価してもらいたいと思います。今までの皆さんの答えは、初めからプランを言っているだけで、もう完成事実みたいなもので、説明会だったら分かります、今日の話は。</p> | <p>子ども今回はあえて地区別懇談会という形で位置付けさせていただいている。子どもの方針としては、説明会というのは一つの方向性というか、教育委員会なら教育委員会の考え方を持ってきてそれを皆さんに説明するのが説明会だろうというふうに考えている。今回は、去年いただいた意見も含めてだが、あくまでも教育委員会としてはたたき台をお持ちした。それも入船小学校の関係で言えば、プランは五つだが、入船小学校の関係で言えば、三つの案をお示ししてそれで、このプランが良い、あのプランが良い、ほかのプランも、ご意見をいただいても当然いいわけだが、一方的に何か方針を決めて、これを皆さんにご説明をするという場ではないということは、実際に進め方も含めてご理解をいただきたいと思っている。</p> |

| 会場 | 会場での発言（質問・意見・要望） | 教育委員会の発言（回答・説明） |
|----------------------|---|--|
| <p>西陵中 6月18日</p> | <p>今の説明で理解ができなかった点がある。小学校と中学校との統合の関係がごっちゃになってきて、ちょっとわからないのだが、腹案の中で中学校の部分については最上小学校の改修をしてというのがかなり有力のように聞こえていたが、そうすると小学校の方でも最上小学校が候補となっているような感じに聞こえていたのだが、そうすると小中学校ということになるのか、という単純な疑問が一つ。</p> <p>1 もう一点は、図面の方のプランで見るとそれぞれ五つのグループの中で、プラン1から始まって、2、3、4、5とそれぞれ区域がちょっとずつ違っている訳だが、これは特に区域を変更したというのは、メリット、デメリット当然あるわけだね。その辺をちょっとご説明いただきたい。</p> | <p>まずは、一点目の最上小学校の関係、ひとつは私どもが考えたこのプランの中でも現在ある学校を統合校とした場合にはどうなるかという観点から考えており、小学校の再編の中でも、最上小学校を統合校として考えているプランというのももちろんある。いくつか小学校のプランを作っている中で、最上小学校や緑小学校などどちらの学校を統合校とした場合に、今日見ていただいている表と同じように学級数がどのくらいになるという記述は同じようにしている。だから、最上小学校をなくしてということはこのプラン上はない。中学校のプランの14ページ「プランとパターンから見た場合の検結果」のところに三つ目のひし形がある。そこに書いてあるのは、松ヶ枝中学校を統合校の位置としたパターンが、今説明したプラン1から5の中にそれぞれ②⑥⑩⑭⑱と五つあるが、そこに書いてあるとおりの再編プランで、最上小学校への改修移転が含まれない場合にのみ有効という前提があり、最上小学校が統合校として残っているというのであれば、ここでいう松ヶ枝中学校をそこに下ろしてくるということは逆にならないということになる。そういう作りということでご理解いただきたい。小中一貫校を新しく作るということではない。この再編の中では、小学校は小学校、中学校は中学校という前提なので、小中の併置なども考えていない。</p> <p>もう一点、区域を色々分けて何パターンか示しているが、まずプラン1は、現行校区をそのまま組み合わせたものということをご理解いただけたと思うが、プラン2になった場合は、中学校の校区をベースにしているが、緑小学校校区のピンクになった部分は、今回の適正化基本計画では、2校ないし3校くらいの小学校から一つの中学校へ入ってくるようにできるだけすっきりしたい。一つの小学校から複数の中学校へ分かれて行くようなことはできるだけないようにしたいので、小学校の校区をベースにという考え方がひとつ出てくる。</p> <p>プラン3についてはプラン1とほぼ同じだが、違うのは色内小学校の校区のうち長橋1丁目、2丁目と色内小学校の付近を隣のブロックへ持っていこうと考えているが、これは小学校のプランとの連動で考えている。例えば小学校だと、稲穂小学校と色内小学校の校区を合わせるプランを考えているが、その場合、図面上に稲穂小学校の校区を示しているが、色内小学校の方から来るとなると、国道と臨港線を渡ってくることもあるので、それを避けて手宮方面と合わせることを考えられないかというプランを作った。これがプラン3の考え方になっている。プラン4は、今の切り取った所は同じ考え方になっているが、このようなことを主眼に整理をしているということでご理解を願いたい。</p> <p>これまで市で作る計画は、一般的にはほぼ固まった一つの案を示して、それについて「皆さんどうですか。」というお話をする場合が多かったが、このように五つも案を出して何を考えているのかと思う方もいるかもしれないが、市内41の小中学校全部を再編していこうということから、去年の素案説明会でも400件の色々な意見が出ていた。今回はそれを踏まえて、複数のプラン、特にここ中央・山手地区については、学校数も多いことから色々な組み合わせが考えられるのではないかと、議論は大いにやっていきたいと思うので、色々な考え方を教育委員会ですできるだけ考えてきたということだ。</p> <p>説明しているほうでもなかなか分かりづらいと思っているが、今日配りしている広報の写しをご覧ください。ここでは、市内の6ブロック全部まとめているが、中央・山手地区の小中学校と南小樽地区が載っている部分を見比べていただきたい。中央・山手地区のプランがどれだけ数が多いか分かっていただけたらと思う。</p> |

中央・山手ブロック

| 会場 | 会場での発言（質問・意見・要望） | 教育委員会の発言（回答・説明） |
|-----|------------------|--|
| 西陵中 | | <p>南小樽地区は、国道沿いに量徳、潮見台、若竹を小学校の一つのグループにしている。もちろん色々なバリエーションを考えているが、これが一つのグループになる。それから、国道393、天神方面へ上がっていく道沿いの奥沢、天神でもう一つのグループで考えている。</p> <p>この中央・山手地区に来ると、小学校のAグループは稲穂、色内で一つのグループになっている。色内は、隣のブロックとの関係が出てくるが、グループとしては稲穂、色内グループで作っている。ただ、B、CになるとBの一番上は花園、入船を考えている。他に花園、緑も考えている。もう一つは今の菁園の校区を考えている。Cグループでは、最上、緑として考えているが、他にも最上、入船も考えている。組み合わせ自体のバリエーションが色々考えなければならぬと作ったものだ。今の説明で最初に小学校を説明してそのあとに中学校に移ったというのは、そういうこと。この地区のある意味特徴ともいえるが、先程も学校の状況ということで資料の中にも示しているが、菁園中学校は、稲穂、花園、緑、入船、量徳と5校の小学校から上がってきている。ここ、西陵中学校も三つの小学校からきている。そこで教育委員会としての一つの考え方としては、一つの中学校にあまり多くの小学校から来る、小学校でも幾つもの中学校に別れていく、そういうことはできるだけ避けたいと思っている。菁園のように五つの小学校から来ると、「中1ギャップ」などを防ぐために小中の連携をきちんと作っていかなければならない。今でも先生方は頑張っているが、仮に菁園から見た場合、五つの小学校となると現実的には難しくなる。そのようなことも今回の小中を合わせた再編ではできるだけ解消していきたいという考え方だ。先程の広報に戻るが、南小樽地区を例にとると、小学校にしても、中学校にしても割合イメージしやすいが、中央・山手地区では色々なパターンが考えられるので、この地区についてはまず小学校を先行させる。小学校でも6校を3校にするので相当な議論は必要になるが、その小学校の議論が一定程度落ち着いてから、新たに決まった小学校の校区の中で、中学校3校を2校にする場合どこにするのが良いのか、そういう段取りで議論をしていこうというのが、この地区では、小学校を先行させていこうという理由になっている。</p> |

中央・山手ブロック

| 会場 | 会場での発言（質問・意見・要望） | 教育委員会の発言（回答・説明） |
|-----|------------------|--|
| 西陵中 | | <p>その中で、中学校3校のうち、西陵中は昭和57年と比較的新しく耐震基準ということからすればOKだが、松ヶ枝中学校が一番古い校舎が昭和31年で、耐震の問題がなくても一番古い校舎が54年経っている。もう建て替えの時期は十分に来ている。そう考えた場合に、松ヶ枝の手だては早くしなければならない。小学校が終わってから、中学校ということにはならない。それでこの中央・山手地区は、小学校を先行するが、松ヶ枝の対応はしなければならない。そのあとに中学校についてはきちんと議論をしていこうというのが基本的な考え方。先程、町会の方からご意見のあった、最上小学校を中学校にとなると、最上はどこに行くのかということで、小学校の方では、一つの考え方として緑小学校を統合校とする。そして最上小学校が空けばそこを中学校にするという考え方を示している。ただこれも、松ヶ枝中学校、最上小学校との懇談の場はこれからなので話をしていかなければならないが、そういう考え方が、この中央・山手地区だということをまずご理解いただきたい。確かに、小学校を中学校に使う場合、グラウンド面積など色々課題はあるが、最上小学校のグラウンドは結構広く、昨年、松ヶ枝中学校でも説明会を行ったが、その時の議論の中でも、もう一度今の松ヶ枝中学校の場所に建て替えて、一度学校建て替えると40年から50年使うことになるから、あそここの場所はなかなかそうはならないという議論もある。学校に向かうまでの坂はとても急で冬場は厳しいので、やはり今回の再編で考えていかなければならないということ。</p> <p>今後も色々な場面で議論をさせていただくが、大きな括りとしてはこの中央・山手地区の考え方、議論の進め方はこのように考えているということをごベースにさせていただきたい。</p> |

| 会場 | 会場での発言（質問・意見・要望） | 教育委員会の発言（回答・説明） |
|-----|---|--|
| 西陵中 | <p>2</p> <p>まずお聞きしたいのは、学校を少なくするというご苦労はすぐ分かる。ただ、単に今の学校、今の生徒数だけを見ての学校の移動というのか、それは教育委員会にいる皆さんはすべて分かっているということで、これは私たちに分からないことと言われることはもともとだと思っている。ただ、この町会からすると、税務署も出て行く、前の拓銀のあとの空き家が多い、生協の問題だとか、あのようなところももし空いた場合に、将来的にどのように張り付くのかということ、どのように頭に中に入れていくのかというのが第一点。基本中の基本で申し訳ないが、ちょっとそれを疑問に思っている。</p> <p>それから、学校が変わるということで、遠距離通学しなければならない生徒が出ると思うが、その場合にバスの利用は許されると思う。バスの路線のことまでも考えにいれて、こういうことを考えていらっしゃるのか、その点、基本中の基本で申し訳ないが、疑問に思ったので、お答えいただきたいと思う。</p> | <p>バスの関係について、統合されると距離が遠くなる。その場合のバス助成についてだが、今小樽市内には400人程のバス通学者がいる。小学校、中学校でスクールバス、路線バスを利用して通学をしている子どもがいる。中学生は部活があり帰りの時間が一定しないということで、路線バスを利用している人に対して定期代の助成を行っている。その中で現在の制度としては、中学生については、全体の距離で3キロ以上、その中でバス乗車区間が半分の1.5キロ以上の場合に対象になっている。今回のプランを見ていただくと分かるが、現在の制度に当てはめた場合、対象になるのは、西陵中の校区ではプラン1、プラン2、プラン3がある。統合校をどこに置くかにもよるが、具体的に見ていくと、プラン1の場合、先程、松ヶ枝中学校を最上小学校にという話があったが、そうすると、一番遠いところが②③となる。そこからは最上小へ3.9キロとなり約4キロの距離になるからこの場合だと、距離的にバス助成の対象になる。ここからは、最上線、天狗山線の辺りになるので、②③の位置から小樽駅前を経由して来るということになる。現在の制度に当てはめると3キロに満たなければ、徒歩通学ということになる。</p> <p>ある意味難しい課題で、どこの懇談会でも今のようなご意見はいただいている。実は私は、ここの富岡小学校の出身で、ここの中学校にも途中までいたことがある。その時には1学年10クラスあって1,800人くらいの生徒がいた。確かに、地域での学校は、一つの核になっているのは事実。中央・山手地区で言えば、隣の菁園中学校とも2キロも離れていない、わりとたくさん学校はある。ただ、蘭島方面や忍路方面、豊倉や張碓では、本当に学校が地域の核になっている。私どもが考えなければならないのは、教育環境という中で、忍路中学校の3年生は2人しかいないという現状だ。学校全部で15人くらい、中学校で複式学級になっている。そこだけの特徴的に言うつもりはないが、わりと中心部にある北手宮小学校も現在複式になっている。今年小学校1年生になった子どもは、平成16年生まれで、その時には950人くらいの子どものが生まれている。去年1年間に小樽市内で生まれた子どもは735人。寂しい話ではあるがこの少子化は続いている。ここの校区の稲穂小学校は1学年2クラスあるが、緑も最上もほとんど1クラス。その1クラスもこの間までは、30人前後、25、6人いたのが20人を切っていくという状況はそれほど遠くない時期にきてしまう。その意味ではやはり学校再編というものはしていかなければならない。だから、地域にとっての学校の位置もあるが、では果たしてこのまま市内41校を持ち続けていくことにはならないと思っている。ただその中で、それぞれの学校に歴史はある、思いがあるというのは十分に教育委員会でも理解をしている、そういう話はさせていただくが、現状は現状としてご理解をいただきたいと思う。</p> <p>私どもも今回の考え方は、ここの学校が小さいから統合しようということではなく、この地区で新しい学校を作っていこうという議論をぜひさせていただきたいと思っている。実は、中央・山手地区のこの3校は、平成13年に実施した学校再編のほとんどが受け入れ校だった。東山、住吉、石山なので一番受けたのは菁園だった。今でも菁園は、3学級から4学級を維持している。確かに特認も多いが、ここも、その時期には9学級になった。それから、末広も石山との関係で9学級になった。ただ、それからまだ十年経っていないが、もう6学級、7学級という形になっている。私どもが今回示した資料も、平成27年に一昨年生まれた子どもが小学校1年生になる頃には、小樽の学校がどのような規模になるかをベースにして今の計画を作っていることをご理解いただいて、気持ちは分かるが地域への影響だけを軸には小樽市内の小中学校の現状から、そこだけでは議論ができないと思う。もちろんそういう話はしていかなければならないと思うが、そこだけではなかなか教育委員会としても、学校のあり方を見る視点としては、この少子化の中でどうしていくのかも一つの大きな観点にしていかなければならないと思う。</p> |

中央・山手ブロック

| 会場 | 会場での発言（質問・意見・要望） | 教育委員会の発言（回答・説明） |
|-----|---|---|
| 西陵中 | <p>3 空き地が多いので、将来的にどのような考え方をしているのかという部分を含めて決めていただきたいと考えている。</p> | <p>皆さん地元の方なのでご存知だと思う。何年前かに日銀が所有地を売るという話があって、背の高い建物を建てられては困ると付近住民から出されて、日銀もちろん協力してくれたが、地区計画を作って、高さ制限をした都市計画上の整理が終えた。それが終わったので日銀も売ることができるようになったと思う。</p> |
| | <p>4 (提言) 改めて見たときに、市の方で最低一つの中学校は何人にしたいのか、実はこの資料をいろいろ見たら、西陵、菁園、松ヶ枝のこの区域を三つに、この区域ではなく、だいたい240人くらいになるような区域に分けるとちょうど良い。それこそ、3.9キロとかとんでもなく遠いところから来る必要はない。さきほど、バスの心配もされていたが、実際問題、西陵の端から松ヶ枝中、最上に行くとなると相当バスに乗っていかなければならない。逆に西陵の近くから、近いから歩いて行きなさいといっても、一回下に降りなければならない。じゃあ、それはどうなのか、直線的な距離しか見ていないので、山という部分ではおかしいのではないかというのもある。だから、今ある区域を三等分に分ければちゃんと収まっていくのではないか。先ほど町会の方も話していたが、もしかしたらここは人が増えるかもしれない。じゃその時どうするの。やっぱり遠いところへ行くのか、画一的に。全然関係ない話だったような話だったが、本当に、ここに色々な建物が空き地に建った場合に、そこに人が入ってくる。駅も近い。そういう場合に、人口が増えた場合にどうするのか。また慌てて再編しますか、という部分のような気がした。聞きながら。ですから、一生懸命これ作っていただいたのは分かるし、そういうふうに分ければ素人的に見れば、良いのではないかというのと、あと、プラン4のBグループの緑地区、緑の部分、それからからまつ公園の上には家はない。天狗山の上にも家はない。ものすごく広く感じる部分で、何か見て違和感がある。確かに区域としては、区域なんだろうが、実際人がいる区域で分けていただいた方が見やすいというのもある。そういうことも考えていただいたらどうか。</p> <p>あと、小学校の再編を先にやるということで、その中でまた変わっていくのですが、国道5号線を境に危険だからというのは、もうそんな話では、小学生みんなあそこを歩いていっているのだから、こういうのはあまり言わない方が良いのではないかと思う。それよりも、臨港線の方が危険なので、そっちの方の部分で色々考えていくというのは無きにしもあらずで。なんか区域が分からない。あまりにも切ったり、足したり。それよりも綺麗に等分した方が良いのではないかというのが素直な意見です。それをどう等分しても、稲穂小学校でうちの中学校でもそうですけれども、やはり中学校が良いということで来る方がいる。先ほど稲穂小学校の話があったが、稲穂小学校には50人が行っているという話があった。20人がどこか違うところに行っているという話もあったが、差を見ても30人が行っている。違う区域から。と考えると、こういったプランを作っても、やはり行きたい小学校や中学校に行くこともある程度、10人とか、十何人とか視野に入れておかないと、実際に三百何人になりました、改築しなくても良いですよ、蓋あけたら400人になりました。改築しなければ駄目。となるとおかしな話になっていくので、これから何回も何回も検討しながら、やっていくと思うが、そういう細かいところも見ていただけたら、ありがたい。</p> | |

中央・山手ブロック

| 会場 | 会場での発言（質問・意見・要望） | 教育委員会の発言（回答・説明） |
|--------------|---|--|
| 西陵中 | <p>5</p> <p>西陵中学校は比較的新しい学校で、何かもったいないと、正直思った。小樽駅から歩いて通える学校としてもこしかないだろう、まだまだ使える学校、うちの子もこの環境が、山の中だけれども、すごく気に入っている。なにしろ自校給食がすごく美味しいと話している。だから、ぜひ、残してほしいというのが率直な私の考えで、一応意見として言わせていただく。</p> | <p>意見としていただく。一つだけ、学校を残すとか、学校を潰すとかという発想ではないと分かっていたらいいと思うが、このブロックで子どもの数や施設の状況を考えた時に、どういう通学区域を作って、そして、小学校とのスムーズな連携を考えながら、それを考えればどこに新しい通学域を作って統合して、そこを統合校として使って、必要があれば改築をして、ブロックによっては建て替えということもあるかもしれないが、そのようなことを考えていくという発想だということをお願いをしたい。</p> |
| 菁園中 6月17日 | <p>1</p> <p>中学校は3校が2校になると聞いていたが、松ヶ枝中学校の今の校舎を最上小学校に引越したら、西陵中学校はどうなるのか。</p> <p>2</p> <p>ちょっと分かりにくいのははっきり言ったほうが良いと思う。15ページには、◆で「以上の検討の結果」というのが書いてあるが、結果的に中学校3校を2校にするのはどうなるかといえば、松ヶ枝中学校を最上小学校の後に移転させて、ここで一つ。その結果、その後、現在の菁園中学校が適切だということが書いてあるので、菁園と松ヶ枝中学校の最上小学校地域に移行した学校のこの二つでやるということだから、西陵中学校はなくなる。こういうふうに取り取れるが、こう言わないと今質問した方の意味が分からないのではと思うが、そのように説明した方が良いのではないかと。</p> | <p>この中央・山手地区は、小学校先行、でも松ヶ枝はやらなければならない。小学校が一定程度おさまってから、中学校をやるというのは、文字どおりそのとおり。当面は、こどもそうだが、西陵も残る。3年後4年後に無くなるとは考えていない。小学校の再編には一定程度時間かかるので、2～3年で出来るとは思っていない。ただ、松ヶ枝中は今のまま放っておくことはできない。この地区の中学校の3校は、小学校の目処がついてから中学校をやるということ。松ヶ枝中を最上におろす時に、西陵も一緒にするのかという疑問と思うが、教育委員会ではそのように考えてはいない。</p> <p>今、私の方で考えたのは、いつのタイミング、どういう年次でやるのかということに力点があったと思っていたので、具体的に統合校の位置ということで、プランの中で示しているが、それはまた後段の話と考えてそのような話をした。今話があったことについては、15ページの最後の方でそういう意味合いで書いて、まとめという形でプランの中で示している。</p> <p>今、言われた部分で、あえて小学校で一定落ち着きを見せてからと、考え方としてはそのように書いている。ただ、これを前提として、こういう言い方であるのは、最上と緑とが再編をして校舎を緑小学校で良しということができないと、松ヶ枝中学校を最上小学校に持ってくることはできない。だから方向的には、教育委員会はそう考えている。ただその前段、色々なことをしなければならないものだから、そういうことがあって先程言った松ヶ枝中学校と小学校のことが前提にあって、それからもう1回考えよう。そういう言い方をしている。歯がゆい、ある意味訳が分からないという部分があるかも知れないが、現実的な手立てとしてはそういう手順を踏んでいかなければならない。それで先程申し上げた、例えば、今日お示しているプラン3の部分、これも色内小学校の部分、小学校再編でどのようになっていくかも大きな要件になっていくと思う。実は今日、中央・山手地区での懇談会は、色内に続いて2か所目でまだ七つ残っている。私どもとしては、どこへいってもこのような説明をするが、一当たりしてご意見を聞いて、正直に言って、ここは菁園中学校なので、どのプランの中でも菁園中学校を残すことが適切という判断を入れているので、それ程のご意見は出ないだろうと思っている。ただこれが、松ヶ枝中学校や最上小学校、緑小学校では相当な意見が出るので、まずは7月22日まで、懇談会をやっているの、一当たり、当たってどこから積み上げていけるのかというところは、ご理解をいただきたい。</p> |

| 会場 | 会場での発言（質問・意見・要望） | 教育委員会の発言（回答・説明） |
|-----|--|---|
| 菁園中 | <p>話を伺っていると、この中学校は残るだろう、というのが前提で、ご安心でしょうという感じだが、どの中学校になろうとも、実際菁園中学校は、校舎自体も新しいというのは分かるが、ここの学校に入ってきてのメリット、今回の変わったことに対して何か菁園中学校に対して、良くなったことのようなものが全然見受けられない。例えば市内の中学校の中で、この菁園中学校は猫の額のようなグラウンドしかない、どの中学校に比べても、手狭でやっている。そういう中でこれから全市の中学校を少なくして、さらに子どもたちを大人数の中で、切磋琢磨させて、例えば部活動なりをさせていこうという考えを持っているのであれば、より一層、小学校とは違い、中学生が伸び伸びとしていけるような現場作りが必要ではないか。菁園中学校は、建物自体は新しいかもしれないが、全体の中で子どもたちはまだ物足りなさを感じているのではないかと思う。それを今後どのように変えていっていただけるのか。実際にこの学校に入学してくる子どもたちにどんなメリットが今回の統合によって現れるのかお聞きしたい。</p> | <p>今いただいた意見の中で学校施設の問題は、確かにここの学校、昨年までの説明会の意見の中でたくさん出ているのは事実。ただ一つは、子どもさんたち、平均的には、30人くらいの数になるということを書いてあるが、多くの子どもさんたちの中で、それぞれ交友関係ができてくるというのが一つあるかと思う。学校全体で考えると、財政的な面での話をして申し訳ないが、例えば全体に集約することによって、一つの学校に対して、お金の部分、そういう部分でも手厚くできていくことは考えられると思う。実際にそのとおりできるかはあるが、そのようなことも一つのメリットとして考えられる。子どもさんたちに対して、そういうこととしていけるということは、一定あると考える。</p> <p>なかなか難しいことだと思う。ご承知のとおり、平成13年に菁園を統合校にして東山中学校と住吉中学校が統合して、改築しますということで、その時にも議論になった。今、言われたとおり、中学校のグラウンドの広さは部活との関係から、相当大きな要素になっているのは、どの学校からも伺っている。ただ現状ここは、3,000㎡で小樽市内の中学校では一番小さい。今度の学校再編するのにそれも一つの条件だが、それだけでもならない。現実的に今、余っている土地が云々ということからしても、ここのグラウンドを広げるということはなかなか難しい部分はある。それからどこまで可能かという問題はあるが、ここを改築するときに、一時期、今、教育委員会のある東山中学校のグラウンドを授業にも使っていた。それ以来使っていないので、荒れていて、あのまま使えということにはならないが、きちんと整備をして学校グラウンドとして使えるようにして、当然この先菁園中学校を統合校として使うということになれば、今すぐということではなく、将来的には、他の校区から来るということはある訳だからそのことも校長と話をして授業のために、この山をわざわざ登って行く必要はないかもしれないが、具体的にいうと、野球部、サッカー部がそれなりのスペースを使ってやるという部分が、もし可能だということであれば検討してみたい。だから今言われたメリットと言われればどうかということもあるが、現実的に問題があるという中では検討していかなければならないことだと思っている。</p> |
| 4 | <p>先程緑小学校を建て替えると言っていたが、どこに建てるのか。緑小学校の今の場所に建てるのか。例えばそれが可能であれば、今の松ヶ枝中学校のところに、建て直すということも可能なのではないか。なぜそういうことを言うかという、緑小学校の敷地は狭いのではないか。緑小学校、花園と稲穂というのは非常に小さな三角形の地区だから、ここにまた建てる、稲穂、花園との兼ね合いを考えたら、最上小学校はそのまま残して松ヶ枝中学校を建て替えた方がよいのではないかと思う。そうすると、向陽の天神部分からも松ヶ枝に来られる人も出てくるだろう、将来的には、西陵、色内地区は、石山の末広中学校区という形にはしやすいのではないかと思う。またさっき前の方が質問されていた菁園中のことだが、例えば花園小学校を東山に持っていった場合、ここのグラウンドは確保されるのではないかと思う。それで最上小学校をそのままにしておけば、東山で緑の子たち、入船の子も来やすいのではと思うが、なぜ松ヶ枝中学校は土地、面積とも十分あるのに、狭い緑小学校を建て直さなければならないのか、疑問だ。狭い土地に建て直すことについてどう考えているのか。</p> | <p>一つのプランとしては、持っている。</p> |
| 5 | <p>だったら松ヶ枝中学校自体を建て直すということではできないのか。</p> | <p>それで最上小学校を統合校にするということか。</p> <p>ここ菁園はどのようになるか。菁園を無くすということか。今の松ヶ枝は、そのまま新しい松ヶ枝中学校になり、菁園を残して西陵を菁園におくということか。</p> |

中央・山手ブロック

| 会場 | 会場での発言（質問・意見・要望） | 教育委員会の発言（回答・説明） |
|-----|--|---|
| 菁園中 | 6 まず聞きたいのは、なぜ狭い土地の緑小学校に建てるのか。 | 質問ということか。新しいプランの提案をしてくれるのかと思った。 |
| 7 | そこで出てくると思うが、プランとして、松ヶ枝中学校の現状の位置に建て替えることによって、向陽中学が無くなり、松ヶ枝中学校に行った方が近いという人もいるかと思うが、松ヶ枝中学校の敷地も十分に使えるし、あわせて提案だが、花園小学校を移すことによって・・・ | そうすると今の教育委員会庁舎を小学校として再生する。そうすると、今の教育庁舎のグラウンドも一つの学校のグラウンドとしては広くはないが。 |
| 8 | 8 今の花園小学校のグラウンドよりは広いのではないか。 | 今面積に関するデータがないので。 大きいと思う。 |
| 9 | 9 土地も形がある程度四角いので使いやすいと思う。小さいというのであれば中学校の部活にはなおさら使えない。幾ら二つグラウンドがあっても、小さいのが2か所あっても使い道がなく、実質的に使えないグラウンドになると思う。そう考えると小学校を移し変えた方が今後の中学校生活には良いのかと思う。 | 提言としてお聞きする。 |
| 10 | 10 もう一つ付け加えると、これは個人の意見ではなく、菁園中学校の今のサッカー部の子たち、OBの子たちの意見でもある。 | 今日、小学校の再編プランも出しているが、「適切」という言葉で先程の松ヶ枝中、緑小、最上小の部分について言ったが、プランとして今言われた松ヶ枝中を残した場合、最上小を残した場合、というのも考え方としては入れている。ただ、私ども、今までの話し合いの中で、去年も基本計画の話し合いをした、一昨年は、「考え方」を示して中学校14か所で懇談会をやったが、過去2回とも松ヶ枝中学校の説明会では、「やはりここは通学には大変だ。」という意見が、今通われている方から相当強く出されていた。あそこは冬通うのは本当に大変だ。通りから門に入って、通る道は、冬場はものすごく大変で、実は、雪が降る前に砂を2トン程運んでおいて、毎朝近所の方にその期間だけお願いをして朝に砂をまいてもらって何とかやっているという状況がある。だから私どもも最上小学校を松ヶ枝中学校にする、小学校を緑にするとなった時に、現実的にはからまつ公園の方から通ってくる児童は相当距離があるが、この後、最上小学校と松ヶ枝中学校でも懇談会を行う。そこで十分話し合いを、もちろん緑でもやるが、していかなければならないと思う。ただ言われたように、緑小学校のグラウンドは決して広くはない。小学校でも3,500㎡くらいはほしい、運動会でも、このグラウンドは3,000㎡、だからそれも含めて伺っていきたいと思っている。ただ、言われたように今まで何回も説明会をしてきた中では、松ヶ枝中学校をまた新しく建てて、1回学校を建てると、40年、50年使っていく、そういったところとして松ヶ枝中学校にもう一度建てるということは、現状では、教育委員会としてはそうすべきではないと思っている。ただ先程の意見を全部否定するつもりはない、この懇談会で一つのご意見があったということでお聞きする。 今、松ヶ枝中の話をしたが、松ヶ枝中の自然環境は正直小樽市内でも幾つもあるが1、2を争う、自然環境、雪だが、なかなか厳しいところは実際問題としてある。 そういったこともこのプランの中では書けないが、そういったことも念頭に置いていることを含んでおいてほしい。 |

中央・山手ブロック

| 会場 | 会場での発言（質問・意見・要望） | 教育委員会の発言（回答・説明） |
|-----|---|---|
| 菁園中 | <p>11 緑小学校を建て替えた時に、グラウンドを3,500㎡はほしいと言っていたが、それは確保できるのか。</p> | <p>これについては建築の方とも、私どもがこういうプランを作るときに、もちろん、基本設計とか実施設計をきちんとやらなければ、正確には出ないが、校舎を4階にするとか、そういった部分を含めて考えれば、不可能ではない。その際、大きな土木工事は出てくるが。だから、緑小学校で懇談をするときに、その辺を含めて話をしなければならぬと思っている。一回休校にして、更地にして建て直すかわりと建てやすい、そういうことが可能なのか、そのようなことも頭にはある。簡単にいうと、一回最上に行ってもらおう。それで緑を建て直して、緑に戻して、松ヶ枝をおろす。色々なことを考えなければならぬと思う。2、3年大変でも、きちんと建てて、何十年と使う建物だからそういうことも議論をしていかなければならぬ。</p> |
| | <p>12 もちろんそうだ。それは長い目で見れば良いことだが、ただそこにぶつかる子の親はそうはいかないと思う。ちょうど6年生で修学旅行を迎えるのにか、全員そのまま緑小学校の。</p> | <p>だからそういうことも含めて、具体的なプランというか、バリエーションが幾つかある中で、皆さんとお話をしながら選択をしていこうということ。事例で言えば、今函館や室蘭でこういった再編をやっている。統合を先に決めて、そして、校舎を新しく建て替える場合は、先に統合を決めて、一回部長が先程例に挙げたような、もう一つの学校に行つて、そして自由な設計でフレキシブルな配置を考えながらやっていく。そのような形でやっているところもあるので、色々な場面で、色々な形での研究はより具体的になる段階で、ある意味、これはもう向こう50年の学校の配置の計画だから、皆さんと意見を交わしてやっていきたいと思っている。</p> |
| | <p>13 東山を使うのも、一つの案として聞いていただけるのか。</p> | <p>前にも、言われたのを記憶しているが、考えていただきたいのは、基本的には今ある学校施設を活用して再編を行うのを一つの前提として置いている。他の会場からも、公園に学校を建てたらどうか、という意見もいただいているが、なかなかそれが難しい、公園は公園の意味というのがある。確かに今の東山は私どもしか入っていない。教育委員会は適当なところがあれば、どこへいっても良いと思っている。</p> <p>ご理解いただきたいのは、ご承知のとおり1階は全部福祉部の施設で、子ども発達支援センターという施設になっていて、今、120～130人の子どもさんが登録され、療育を受けに毎日通って来ている。それから適応指導教室、要するに「ふれあい教室」不登校という形になっているお子さんの教室を持っている。それもあそこでやっている。だから、あそこは教育委員会がやって事務職の人間ばかりということではなく、東山に教育委員会が移ってから何年か経っていく中で、あれだけの器があるのだから、色々な用途に使っているのは事実。そうなれば、毎日全部の子どもが通っているわけではないが、発達支援センターは曜日を決めて、20人とか30人が曜日を決めて来ている施設なので、ここを学校に戻すから出て行ってください、ということにもなかなかならない。そういうことも含めて、私どもとしては基本的には、今ある41校の学校施設をもちろん建て替えや改修はあるが、それを活用してこの学校再編を進めていきたい、ということが基本的な考え方だ。</p> |

中央・山手ブロック

| 会場 | 会場での発言（質問・意見・要望） | 教育委員会の発言（回答・説明） |
|-----|---|--|
| 菁園中 | 14 校名についてはどうなるのか。 | <p>今日お配りしている青いペーパーの左側に統合が決まったとのスケジュールで協議していくことを下の方に書かせていただいた。統合が決まったということでその先に2年程度かけてということで、色々な準備をしていくことを書いている。この中に、五つ目のところに、校名、校歌の設定について統合協議会を作った中で、皆さんで議論していきましょう。そういうようなことでここに書かせていただいた。要はこれまでであった学校を吸収だとかそういうことではなく、今回は学校の再編ということを前提にしているので、2校ないし3校の皆さんが集まって、新しい学校を作っていくという主旨でやっているの中で、その中で、こういうことを協議して行っていただきたい、ということを考えている。</p> |
| | 15 校名だけではなく、制服も当然変わると思うが、例えば、3年生の時に制服は変わった場合制服の購入費について、助成は市が行うのか。 | <p>「統合が決まりました。それではここは2学期から制服が変わります。」という話にはならない。何年か前に統合が決まるので、統合が決まった段階で、制服、標準服をどうするかという議論が始まっていくので、そういった中で、時間的余裕の中で、ではどうするか、という話し合いになると思う。</p> <p>この菁園が東山の受け入れ校になった時も、違う制服でくる訳だが、それはよしとしましょうという話になった。もし、これが今言ったように統合校が決まる。統合の準備に向けて2年、3年の議論が必要という中の一つの議論に制服のことも出てくると思う。それから、校名とか、そうしたらこの学校の制服に決めようというのではなく、新しい制服も考えよう、という議論があっても良いと思う。ただそれまではそれぞれの学校の制服を着ていよう、それで良いのではないかと思っている。</p> |
| | 16 それでは私服の学校と制服の学校もある。 | <p>今、私服は向陽だけ。</p> <p>その辺のところは、今確定されないと思うので、これからの具体的な統合準備の話になると思う。</p> <p>逆にいうとそこの部分は教育委員会が、ああしろこうしろ、というのではなく、青いリーフレットにも書いているように、是非その地区、地区で統合協議会というのもぜひ作っていただきたい、ということも書いている。その中で色々な議論をしていただく、教育委員会としてはそのようなスタンスだ。</p> <p>建物はそのままかもしれないが、気持ちは新しい学校ということだから、新しい学校作りの中に子どもの意見、制服を考えるときにいくつかの候補から子どものアンケートをとって、それを決める時の参考にするとか、そういった形も考えられると思う。</p> |

南小樽ブロック

| 会場 | 会場での発言（質問・意見・要望） | 教育委員会の発言（回答・説明） |
|----------------------|---|---|
| <p>量徳小 6月25日</p> | <p>この教育委員会の区分けを見たときに、明治7年に学校が開設され、あと2、3年で140周年を迎えるこの量徳小学校、小樽教育発祥の地というのがこの場所だと思う。教育委員会とはそういった文化芸能を管轄するはずなのに、一切そういうことは入っていない。商業経済でいうなら、小樽運河を潰してしまえということではないか。そういう配慮があって、昔はこしかなくて、このまちの全部が集まった起点ではないか。ここの文章の中でどうして小樽の伝統的なものを配慮されないのか。自分の息子は、ここの量徳、住吉中を卒業した。住吉中を閉校にした一番の理由は、グラウンドが狭いというので全然、反対も出来た。この資料を見ると、量徳のグラウンドが一番広いのに、それは関係ないということか。子どもたちのことを考えてやってくれるのは、すごく良いことだと思う。だけど、そういう小樽の伝統とか歴史を大切にすることも教育委員会の仕事ではないか。なんでも一言もそういうことを書かないのか。方針は変わったのか。伝統とかは関係無く小樽運河を埋めてしまえという考え方と教育委員会の考え方は、同じという気がする。</p> <p>もう一つ、自分の考えだが、前回、量徳小学校もここに残って、小樽病院も隣に作る、隣の土地で工事ができると言ったら、そんなのためだと市長に言われた。第2病院があって小樽病院がある。そこの半分を何とかしようとしたときに、法律的なことはよく分らないが、今、教育委員会が入っている旧東山中学校はガバッと空いている。石山中学校もまだ小樽市のものだが、法律的にどうしたらいいか知らないが、グラウンドがでかくて何とでも対処できるのではないか。規模の問題にしても、380何人がどうのこうのと、室蘭市の市立病院もすごい借金をこいでいる。小樽だって20何年後かには、人口が十万人を切るという話があって、380何人がいいのか。教育委員会の誰でもいいから、どうして隣の土地で半分ずつ施工出来ないのか自分分らないが、あなた方は、この学校を潰す、廃校にするとやっているのだから、当然知っているはずだ。こういう理由で私も素人、あなた方も病院建設については素人のはずだ。この素人が納得して説明に来ているはずだ。私達素人が分るように、なぜ半分ずつ敷地の問題から、工法から色々なものがあると思うが、それを教育委員会の担当の方から説明してほしい。要は質問が二つ。小樽市は、明治7年開校のあと2、3年で140周年を迎える量徳を潰す。それが一言も書いていない、教育委員会は伝統とかそういうものを全部無視するのか、それが一つ。素人が分るように隣に工事を二期に分けてどうしてできないのか。あなたがたは、学校を潰すということに来ているのだから、当然誰かが知っていると思うのでこの二つについてお願いします。</p> | <p>この再編の考え方で、一点目に量徳小学校の伝統という話があった。今回の再編に当たっては、一つご理解いただきたいのは、これだけ子どもさんが減っている中で市内41校の小中学校があるが、それについて再編を進めていく、まずそれがある。昭和39年当時、4万人程いた子どもが、今現在、8千人程ということになっているので、そのような少子化に対応するため、また今日の説明でも、学校施設の耐震とか老朽化の話もさせていただいているが、学校施設のそのような課題にも対応していくため、今回は学校再編ということで、基本計画を作り、こういうプランを作ってこの懇談会を開催している。ただ私どもが再編を考えていくとき、ブロックごとにやっているが、そのブロックの中でどこが統合校としてふさわしいのかという観点をまず考えている。今日配りしている資料再編プランの2ページのところの囲みがあるが、◆で5項目書いているが、その中の三つ目のところに、統合校の場所について書いている。統合校の「通学区域内のバランスと、校地・校舎の状況や通学上の安全等の条件を勘案して決定します。」としているが、・・・</p> |

南小樽ブロック

| 会場 | 会場での発言（質問・意見・要望） | 教育委員会の発言（回答・説明） |
|-----|---|---|
| 量徳小 | <p>その説明は分る。通学距離は書いてあるから分る。敷地だってここが一番いいはずだから、だって体育館と新しい方は、耐震だってOKでしょ。だからそういうことは、分っているから、小樽市は量徳みたいな伝統のあるやつを無視して、要は、教育委員会は、さっきも言ったが、小樽運河を埋めていくのか。通学距離だってスクールバスを出せば何とかなる。建物だって金を出せば何とかなるんだわ。あなた方の声をこじ付けるのではなく、方針的に教育委員会は、伝統だとか発祥だとか関係無く、バスを出すと金がかかるから、安い方法で真ん中に作ります。それには伝統だとか文化を全部無視するんだと、そのことを聞いている。今の説明は全部分かっている。場所的に潮見台は近い。だけどグラウンドは千㎡違う。耐震だって全部ではなく、古い部分だけがだめなんだろう。この体育館は確か耐震になっている。だから大した差はないはずだ。だから伝統だとか文化を無視したことをやるという、そういう考え方を貫いているのなら、ああそうですかということだ。</p> <p>「教育発祥の地」の重みをどう考えるのか。あなた方が伝統を無視するという考え方であれば、それを言ってほしい。</p> | <p>今回再編計画を作るに当たって、6ブロックに分けている。それぞれのブロックの中にも、歴史的に古い学校、新しい学校、建物など色々ある。私ども今回、再編計画を作るに当たっては、一昨年から市民の皆さんにも入っていただいて色々な議論をいただきたいが、再編の考え方として、その地区で、ここも含めて、古い歴史のある学校を優先的に残すという考え方はこの再編計画の中には盛っていない。その意味は歴史を無視する、伝統を無視するということは少し違う。学校の再編に当たって、歴史の古い学校を残していく、そういう観点には立っていない。</p> <p>もう一つ、今の病院を半分ずつ壊して建て替えてもいいのではないかという意見があった。私ども前段申し上げたが、今回の量徳小学校、地域の方々との懇談会は去年の7月2日からこれまで6回やってきた。実はその中で、ご承知かと思うが、病院の担当者も参加してここにプロジェクターを持ってきてこういう位置関係で、今ある病院を半分使いながら、壊して建て替えていくことは工法的にも難しい、できないとお答えはさせていただいている。私は病院の担当ではないので具体的な詳しいところまでは話さないが、その部分についてもし疑問があれば、また病院の担当者に話を聞いていただきたいと思う。私がこの場で、もう一度お話をする場ではないと思っている。</p> |
| 3 | <p>小樽市教育委員会は、伝統文化を無視して学校の統廃合を考えます。もう一つは、よく分からないのに病院の方、上役の方から言われたから説明も出来ねえのに言うことを聞いたということで良いのか。</p> | <p>今おっしゃったこと、そう思われることについて、私は否定しない。</p> <p>誤解しないでほしい。補足するが、伝統文化を無視することではない。あくまでもそれぞれの学校で取り組んでいる教育活動の特色や特長は、再編の中でも、良いところはそれを伸ばして再編後の新しい学校に引き継いで行こう、そういう基本的な考えはある。それだけは誤解しないようにお願いしたい。</p> |
| 4 | <p>誤解でもなんでも無い。伝統文化を今140年、100年後には240年とか300年になったときに、これがどうなるか分からないが、そういうやつが残ってるということは、文化遺産として貴重ではないのか。だから基準をここから考えればいいというのは私の考えだ。あなたがたはそれを無視している。距離が潮見台から近いというのは分っている。だけど、あそこは住吉中学校で負けたグラウンドがここより狭いのではないかと言いたい。皆さん何人かもいたと思うが、住吉中学校のこのような説明会の時、このグラウンドでは、サッカーも野球も何も出来ない、というので、引くしかなかった。それとこの質問にもあったが、2年後の4月というのは、教育委員会は子ども第一に考えるのなら、1年9か月後に変更にするのではなく、子どもの心境を考えて、俺なんか手紙を出したと思うけど昔は4、5年だけど、予算かなんかで3年以上前に言ってくれとしくこく言っていたのだけれど、結局また2年を切っている。だからあなた方は、つくづく思うのは、子どものことを考えてねえって、小樽市の財政か、あんた方のプライドか何か知らないが、そっちを優先しているだけではないか。ちょっと言葉は悪いが、普段は普通にしゃべるが、だけど、あなた方としゃべると口調が強くなる。説明も出来ない、俺たちに納得も出来ない。よくまあ、あんた方持ってくるね。おかしいのではないかと言いたい。</p> | |

南小樽ブロック

| 会場 | 会場での発言（質問・意見・要望） | 教育委員会の発言（回答・説明） |
|-----|---|---|
| 量徳小 | <p>5</p> <p>PTAの再編プランに関する委員会への回答だが、1の回答の中で「統合の時期は地区の方々や保護者との協議のうえ」決めることとしております、とあるが平成24年度からの工事着手は、協議を求めている段階で決定されているのはおかしいのではないかと。</p> | <p>回答の1の24年4月の関係、前段でお話いただいたとおり、適正化基本計画では、統合校については、地区の方、保護者の皆さんとの協議の上決めていきますと、このように書いている。ただ、その中にも書いているが、量徳小学校を含むAグループの学校については、先程来、申し上げているとおり、昨年7月以降、新病院との関係ということで、ここの保護者の方に何回か説明会、懇談会でお話をさせていただいている。そのような中から、5月11日に市の方針として、なんとかご協力をお願いしたい。そういうことで5月11日の説明会を終えた。基本的には、このような期限は、ここの学校についての特殊事情ということでご理解いただきたい。</p> |
| | <p>6</p> <p>量徳小学校は別ということか。量徳に関しては、地域や保護者との協議の上、というのは意味がないということか。</p> | <p>地域の方と量徳の保護者の方を別だと考えたことはない。そのために、これまでも説明会や懇談会でいろいろお話をさせていただいている状況がある。私どもとしては、可能な限り皆さんのご理解をいただけるよう、資料も用意して、回答についても丁寧にお答えさせていただくということで、今日この場に臨んでいる。</p> |
| | <p>7</p> <p>多分聞きたいことは、今の1の部分では、「説明会、懇談会を開催して参りました」と先程から7回と言っているが、まず1回目にしたのも懇談会にもなっていないかと思う。自分たちの言ったことに対する回答も得られなかったし、挙げ句の果てには「あなた個人の意見でしょう」最終的にはそういう言われ方をした。それは懇談会になるのか。ただのそちらの時間だからこれまで、というのが懇談会だったのか。そのことをここにきている親たちは疑問に思っていると思う。一方的に言いましたよ、という会だったのではないかと僕たちにはとれる。違うか。一度も最後まで話をしていないでしょ。まして一度帰れと言われたこともあった。それが懇談会なのか。どうですか、教育長お答えください。</p> | <p>これまで何度か皆さんと、懇談会説明会を開いてきたが、私どもとしては、全員の量徳小学校の保護者が賛成している、そういう考えには立っていない。だからこのように何回も数を重ねて皆さんにご理解をいただけるような努力をしている。また病院との関わりで私どもとしては、今日皆さんにお示しをしているこの再編プランを練ってきた、市長部局、病院部局それぞれに色々な思いがあり、前回の5月11日のような形で出されたもので、私たちは皆さんにご理解をいただくべくこのようにして説明をし、また、ご意見を賜りたく、皆さんにご理解を何とかいただくようにこうしている。納得する、しないをどのようにおさえるのかというご質問があったが、とにかく努力はしているということをご理解願いたい。</p> |

南小樽ブロック

| 会場 | 会場での発言（質問・意見・要望） | 教育委員会の発言（回答・説明） |
|-----|---|---|
| 量徳小 | <p>8 私たちも、何とか理解をしようとの間から「再編プランに関する委員会」を二度程開かせていただいた。その中で子どもたちにどんなことができるのか、納得はできないけれど、再編に向けてどのような話し合いをしたら良いのか、例えば、病院を壊すとか、学校を壊すとか、ダンプとか重機が入るに当たって道路の安全（確保）などの話もするのかなということ、委員会に出席しましたが、結局、花園小になるのか、潮見台小になるのか、そここのところがはっきりしないものだから、どうも話し合っても意見が結局はその所に行くことになる。ブロック分けてプランを出されているが、結局のところ特認を認めて、兄弟の関係で花園小を認めるとか、いやいや、潮見台の方に全部行くんじゃないの、中には先程の意見にもあったが、住吉中学校の適正配置の頃からいわゆる地域のごたごたで辟易している保護者の方もいる。それで、どっちかに移るのだったらさっさと移りたい、と言っている人も中にはいる。その人も、潮見台なのか花園なのか決定できていない。だから、もし特認を認めるのなら、量徳小学校の子はほとんど花園に行くということになると思う。</p> <p>ホームページを見て、向陽中学校の説明会でも松ヶ枝中学校の方が潮見台中学校より地理的に近いから認められるのか、入船小学校の方が奥沢小学校より近いから認めてもらえるのか。若竹小学校でも桜の方が近いから認めてもらえるのか。そういう意見を見ても、特認で認めるというように書かれているし、懇談会でもそう説明している。そのようになると潮見台小学校が、こちらの方で提案されている人数になるのか、それと菁園中学校の人数が（施設的に）足りるのか、昨日の最上小学校で松ヶ枝中学校に替えてやると言っているが、その15年かけてやるというプランが本当に見えるのか見えないのか、私たち自身もそこが納得できないから、このように意見を言っているつもりだ。だから私たちも子どもたちがスムーズにごたごたしないで、さっさと決まるのだったら、そのようにいきたい。ただこのプランが、本当にそのとおりになるのかどうなのか説明していただきたい。</p> | <p>また不足の分があればご指摘願いたい、まずこのプランのとおりいくのかどうなのかということから先にお話をさせていただく。私も教育委員会としては、やはり今の少子化の現状からすれば、学校再編はしていかなければならないと考えている。その中で、教育委員会がこの案で決めるのではなく、いくつかの文字どおりプランをお示しして、それで、PTAの方々、保護者さんとも話をしながら最も良いものを選択していただくと考えている。だからその意味では、小樽市全部41校の再編プランについては、基本的にやっていく。実は今日で半分と少し懇談会を終えた状況だが、6月4日の懇談会の分までは、市のホームページでもどういった意見が出るかということはアップしている。地域によってはやるのであれば急いでやってほしい、という意見も現実的に出ているところもある。私どもとしては、一応この懇談会が一当たり終わるのでその次の段階に入っていきたい。</p> <p>それからこの南樽のAグループの部分、これは文字どおり私どもが申し上げた部分だが、プラン1と2を示している。それできつと色々な議論はあると思うが、量徳小学校の校区だけについて言えば、全部潮見台の方になるのか、今の中学校校区に合わせて、菁園と潮見台の方に別れるのかというその二つを示している。こういう乱暴な言い方をすると怒られるかも知れないが、私どもはどちらでも良いと思っている。保護者の方々なり地域の方々の考え方の中で、プラン1を選択する、あるいは2を選択する、そこはまずどちらでも良いと思っている。そのつもりで私どもはプランを出している。その中で特認のことについて申し上げたいのは、一応通学区域を決めた以上は、基本的にはそれぞれの通学区域でそれぞれの学校に行っていただくというのが原則だ。今現在も色々な理由で、これについてはこういう理由でということを示しているが、いわゆる特認の基準に合致するものは認める、という形でもやっている。今日渡した図面で申し上げたかったのは、今回このような学校の再編の時期に繋がると、例えば、今の一年生が15人。今のお子さんの中で、二つに分かれた時に、例えば、A君がこっちことになった時に、B君と別れるのが辛い、子どもにとってなかなか負担だということになれば、これについては統合、再編というのを一つの理由として特認の弾力的な運用はしていくと申し上げている。だから、境界が無くなるということではないということをご理解いただきたい。</p> |
| | <p>9 私たちは、具体的にプランを進めていくために、来年度1年間の行事予定、例えば、PTA同士の交流を各学年でやるのか、全体でやるのか花園小学校と1校だけとやるのか、ということを決めなければならないと思っている。それは、最短で来年の2月までには、だいたいおおよその目安をつけなければいけないと思っている。それでも、花園小学校や潮見台小学校の受け入れる側、若竹小学校に関しては、ついこの間、24年3月をもって再編になると聞いたとのことで、まだ意見もまとまっていない状態だ。その中でどういうふうにかこれからの交流なり、いつ、例えば、学校の中でやるのか、PTA主催で交流を図っていくのか、具体的な協議もその前に話し合わなければならない。だから、教育委員会で今おっしゃった「どちらでも良い。」では困る。具体的なことを進めるには、ある程度の指針みたいなものを出していただかないと、それで、どちらでも良いんですというのであれば、花園小学校にお願いするとなっても、花園小学校がこれから再編される中央・山手地区の、例えば入船小学校だったり、色内小学校だったり、緑小学校との兼ね合いも出てくると思う。そうなってくると要するに一人の子が中学校までに関わっている中で、再編にかかるといのは二度とないというふうになるとできるのか。そここのところだと思う。</p> | <p>今、若竹小学校の話もちょっと出たので、経過について話をさせていただく。6月1日と22日に若竹小学校のPTAの皆さんと二回程お話をし、こういう懇談会を開きました。南小樽地区のAグループについては、やはり24年3月という期間、目処というのがあるわけで、このAグループについてはそこに向けて、潮見台小学校を統合校として、新しい学校を作っていくというそういう視点での議論というか協議に入っていただきたい、ということでももちろん若竹小学校とも懇談会で話をしている。ただ、そこで分かったということには現状なっていない。</p> <p>それともう一つは、ストレートに申し上げるが、来週の月曜日に花園小学校との懇談会を予定している。花園小学校の懇談会の中でも、この南小樽地区との隣接ブロックということも含めてのお話を花園小学校でも当然する。仮にこの図面で言えば、グリーンの部分、プラン2でいけば、花園小学校との事前協議、交流の問題こういったことでの話は現実に進める。それからこれは私どもの考えだが、現在私どもが考えているのは、できればこの南小樽地区Aグループの3校同士の協議、話し合いの場というのは、できれば2学期早々くらいにしたいと思っている。ただ、それは当然、私ども教育委員会がそれぞれに呼びかけてそのような場を設定して進めていきたいと考えている。</p> |

南小樽ブロック

| 会場 | 会場での発言（質問・意見・要望） | 教育委員会の発言（回答・説明） |
|-----|--|--|
| 量徳小 | <p>10 今、具体的に2学期に3校の協議として話し合いを持ちたいと聞いただけでも良かったと思う。花園小学校の懇談会は、月曜日にあるということで分かるのだが、ホームページで去年の説明会を見ても、学校に通っている保護者が3人しか出ていない。あとはほとんど先生たちで前回、堺小学校の子どもたちを受け入れたのも、先生たちが大変な思いをしたと、そういう意見も出ている中で、今回の懇談会の中でも地域の保護者の方が何人出てくるのか、中には仕事の都合で、出席できない方もいると思う。それで、基本計画素案地域説明会の質問意見書をホームページにきちんと載せて質問とそれに対する回答も載せて、人数も載せているので、今回もこのような協議があったということきちんと載せてほしいと思う。7月22日まで懇談会があるというが、結局周りでどのような話がされているかというのが、すごく目安になると思う。来られない方についてはそちらの方を見てくださいということで、教育委員会がもっと学校を通じてプリント配るなり、新聞報道でどのように毎日どここの地区で懇談会がありましたと書かれていても、紙面の都合上、懇談会に行っていないニュアンスと新聞で読むニュアンスの記事がどうも違うなあというのがあると思う。ですから、そういうところはもっとホームページ、見られない方もいると思うが、もう少し丁寧に詳しく載せることが、地域に知らせて、今、学校に関係している保護者だけではなく小樽市民としても考えなければならぬことと思うので、もう少しそここのところ大変だと思うが、詳しく載せるようにしてください。</p> | <p>言い訳でも何でもなく、おっしゃっていることは良く分かるので、私どもできるだけ努力する。ただ、今こうして、ほとんど毎日やっているものだから、担当の方でもホームページに全部アップするということは、多少の時間が掛かる。特に、このAグループの部分とそれと隣接するブロックの関係あるところというのはどうなっているのかということを知りたいのは当たり前のことだと思っているので、その部分はまた違う形で情報をお知らせするという事は、私どもの宿題とさせていただきます。</p> |
| | <p>11 教育長の話の話を聞いていると非常に腹立たしい。あなたは、ここに出てきて量徳自身は、ここは閉校にするということは反対だと、そういう前提なんだろう。だけど、病院のために何とかお願いしますという立場なんだろう。それをご理解をお願いしますとか、新聞の方では、平成24年の4月閉校だと決めておいて、やっけることは何ですかこれ。時間をかけると・・・、他のところは24年4月なのか、優先順位があるだろう。ご理解くださいとはどれだけ妥協するかという問題ではないのか。もともと反対なんですから。ここに量徳残してくださいというのが、量徳小学校PTAの意見だったでしょう。病院も残し量徳も残してくれ、そこが前提にあるのに「ご理解願います。」というのは違うと思う。もっと頭を90度以下げて、これではどうですかという形で、PTAの方を説得しなければだめでしょう。他人ごとみたいですよ。ご理解くださいとかそして12年3月と決まっていると、聞いてて非常に腹立たしい。あなた方本当に教育委員会なの。子どものことを大事に考えているの。とてもそういうふうには聞こえない。反対なのに、何とか小樽市全体のことを考えて、何とか妥協しようとか、納得しようとしているのに、全部が全部ではないと思うが、だけどあなた方の態度は理解ができない。反対なのに理解なんかできないでしょう。そちらがどれだけこっちのことを考えて、例えば、潮見台に行くのなら、その道路に歩道を全部つけるとか色々なことを考えて提案してくるのが、閉校されるこっちの身になって考えるということではないのか。交通安全、小学校1年生が結構集まって歩くのなら交通事故の確率増えますよ。それなら、教育委員会が両側は無理だけど片方歩道ならつきますよ、という説明ならまだしも、「ご理解願います」理解なんかできるわけない。止むを得ず、仕方なく、のんでいるのでしょう。それが前提なの。閉校は反対なの。そこを前提として話して、何がご理解願いますなのか。理解できるようなことをやっていないじゃないか。もっと子どものこと、親のことを考えてください。</p> | |

| 会場 | 会場での発言（質問・意見・要望） | 教育委員会の発言（回答・説明） |
|------------|---|---|
| <p>量徳小</p> | <p>今、後ろのPTA方のご意見でもう量徳小学校が無くなるみたいな、雰囲気では進んでいるような気がしないでもないが、小樽市の教育委員会というのは、小樽市の職員か、そうであれば、札幌から通っている方はいるのか。今、小樽市が赤字になっていて、少しでも税収を上げたいという時に、市の職員が、星置に友達がいって、星置にたくさん市の職員がいるという話を聞いた。本来、会社なら自分の会社の利益を上げるために皆さん活動しているところだが、それなのに小樽市の職員でありながら札幌に住んで、札幌に税を納めているのは、どうい話なのか、疑問に思った。昨年にも言ったが、せっかく札幌がすぐそばにあって、札幌に勤めながら小樽に住むということができると思う。そういう人々たちを呼び込む方策を考えたビジョンのある配置を考えてほしい、と言ったような気がする。その時、拍手をいただいたような気もする。ところが、また今年になって2月から3回目、結局まるで5年前のように、市が突然持ってきた話を押しつけて、子どもが大変だどうしようかと焦っている親を言いくるめるように話を進めてきているようではない。稲穂小学校は、駅のすぐ近くにあって、新しく建て替えたおかげで、近隣の校区からも集まってくるという噂を聞く。実際に確かめたわけではないので分からないが、そういうふうにはっきりと集まれる小学校、それが量徳と若竹だと思う。せっかく南樽地区も若竹地区もマンションがたくさん建って、若い人たちが札幌に勤めながら、小樽から通えるという良い場所でありながら、それを生かそうとする考えが小樽市にまったくなく思っている。今度、何を思っているのか知らないが、小樽に新幹線と呼ぶと言っている。小樽市に人を呼び込める、そういうビジョンを持った統廃合はできないのか、という気がする。</p> <p>この地区が少なくなったから、こっちに集める。そんなことではなくて、せっかく札幌に隣接していて、小樽に人口を集める、北広島や石狩など人口が増えているところもあるのに、小樽はどんどん減って行く一方だ、何が悪いのか。小樽の政策が悪いのだ。こんな近くにいい経済活動ができる場所があって、後志の経済の中心を担ってきた過去の栄光にすがっていて、どんどん小樽の人口を減らすような政策を次から次とやってきた。南小樽地区というのはすぐそばに観光施設をたくさん抱えている。</p> <p>それで、その施設には若い人たちがたくさん集まっている。その人々たちを小樽に住まわす呼び込む政策をやっていない。なんでも聞いたなら札幌の方が税金が安いそうだ。若い人だけでも税金を安くして小樽に呼び込む方策を考えるとできないのか。それで、その若い人たちが、南小樽地区に来るために、ここに量徳小学校がある。こんな便利なのに量徳小学校と幼稚園もたくさんある。保育園もある。こんな素晴らしい場所にながら手放さなければならぬのか。おまけに、グラウンドも今、統合を考えている学校の中では一番大きい。花園を無理やり残すのなら、せっかくだから青園に明け渡して、青園のグラウンドをサッカーができるくらい広くしてあげたらどうか。青園のグラウンドでは野球もサッカーも試合はできない。やたら、いい砂を入れたらいいが、その砂も生徒には不評だ。そんな所に余分なお金をかけるくらいだったら、もっと本当に若い人を呼び込む方策を考えてほしい。そして小樽市の人口を増やすためのビジョンのある配置転換を行ってほしいと切に思う。</p> | <p>今の質問は、小樽市のまちづくりについての提言というところもあったので、小樽のまちづくりに対する考え方も含めて説明したい。最初に職員が札幌に住んでいるのはどうなのかという点だが、確かに札幌に住んでいる職員の方もいる。市長も副市長も職員には小樽に住んでもらって、その税収は小樽に入ってくるので当然小樽に住んでいただきたいということで、色々な場面でお話をしている。それから、職員を昨年何年かぶりに採用したが、その面接の時にも、小樽に住んでいただきたい、というお願いをしている。基本的には憲法に定められている居住の自由というがあるので、強制はできないが、色々な場面で職員に対してはお願いをしている。お願いをする以上のことはできないのではないかと。ただ一般的に高齢化社会で、私もそうだが、年とった父母もいるので、近くに住んでいなければならない、一緒に住まなければならない、そういった事情の方もいるので、すべての方が家賃が安いとか利便性が良いとかということでは札幌から通われているわけではないので、その辺はご理解をいただきたい。</p> <p>それからまちづくりについて、人口や経済政策のことについて話があったが、私も小樽の町をこれからどうしていくかを考えるときに、やはり人口は大きな問題だと思っている。新聞などでご覧になった方もいるかもしれないが、合計特殊出生率という言葉があって女性一人の方が一生の間に、産むお子さんの数をデータで出している。これが2以上にならないと人口の維持ができないが、日本は1.37という数字だが、小樽は1.2くらいしかない。小樽の人口は間違いなく全国平均より早く減っていくという状況にある。人口が減るとは、社会や経済が間違いなく小さくなる。人が減り、働き手も減る、税収も上がらない、そうするとまちづくりのどこかにひずみが生まれてくる。それが皆さんの周りでは間違いなく行政サービスの低下に繋がっていく。町が今、人口20万人の高度経済成長を経て町は20万人の時代の器になっているが、先程も教育委員会から話があったように生徒が一番多い時で4万人。今は8千人。5分の1になっているのに学校そのまま残していくということは、必ずしも良いことではないし、行政負担を伴うから私ども縮小する社会、経済の中にあっても、やはり一定程度の行政サービスというのは提供していかなければならないわけだから、その一環として、やはり学校の適正化についても合わせてやらせていただきたいと思っている。</p> <p>それで若い人を呼び込む、私は4月にこの職場に来る前は経済部にいたが、人口政策や雇用政策は単独ではあり得ない。やはり経済が元気にならない限り、人口も増えていかない、雇用も増えていかない。ある人が調べたことがあるが、小樽の人口の動きと、小樽の港が扱っているグラフは同じような動きをするということを見つけた人がいる。やはり小樽はこれまで港が栄えていて、それで経済的に発展してきた部分がある。やはり今どちらかというと港では、太平洋側に荷物が移って小樽のような日本海側にはないので、そういった意味で多少経済政策が、うまくいってない部分があるが、今言ったように人口が減って社会や経済が小さくなる、税収が入ってこないということもあるが、私どもとしてはその中でも、一定の行政サービスを維持していきたい。</p> <p>それから南小樽地区のまちづくりについてご質問があったが、やはり国道とJRに挟まれている地域だということ、一定程度利便施設があるということ、南小樽を過ぎると観光で栄える堺町地区と隣接するというので、非常にポテンシャルの高い地域だと思っているが、このような地区別懇談会を経てこの地区のまちづくりについても色々ご意見をいただきながら、考えていければと思っている。</p> |

南小樽ブロック

| 会場 | 会場での発言（質問・意見・要望） | 教育委員会の発言（回答・説明） |
|-----|--|--|
| 量徳小 | <p>13</p> <p>今の話で、小樽は段々人口が減っていく。だから学校再編が必要だというのは理屈としてすごく分かるが、それであれば今計画されている市立病院の規模というのはバランスが悪いように感じる。そこらへんは、整合性がないように感じるがいかがか。その辺を考えると、ポテンシャルの高い量徳小学校を残すという道も見えてくるように思うが。</p> | <p>教育の専門家でも、病院の専門家でもないが、企画政策室ということで、庁内の色々な会議に出ていて、私も聞いた話ということでお伝えをしたい。今回、市が建てようとしている病院の病床数は388。今400床代なので数十床減ることになるが、人口がこれだけ減っていくのにこの規模が必要なのかという意味のお尋ねだと思う。私どもが小さい時に習った人口の構造というのは、ピラミッド型になっていた。今は提灯型になっているので50代から上の世代にかなり固まっている。そうすると人口が減っても病院の方では有病者と言っていたが、病気を持っている方の数、高齢者の方が中心になると思うが、その人たちの数というのは、ここ十年くらいは、変わっていかないという考え方だ。人口は減っていくけれども、病気の方、高齢者の方は、減っていかないという考え方で、これだけではないがこういった考え方も一つのベースにして388という数字が計算されてきたと聞いている。</p> |
| | <p>14</p> <p>PTAの委員会の質問に対する回答で、「病院問題が白紙に戻った際のプランはあるのか。」という問いに対して、「最終的には小樽市としては、病院建設が白紙になることを考えておりません。」、その前段で小樽市会第2回定例会で予算案が通ったことについては、教育長もおっしゃっていたが、議会を通過してしまえば、100%病院は建つのか。小樽市民としてもそれは関心のあるところなので、100%建つのかということと、また、それはいつ決定するのか。予算が市議会を通過したことは分かるのだが、そのお金が出るかどうかということも複雑であると思うので、その決定もいつされるのか、それがされないことには病院が建つのかということが、私たち市民としても分からない。たまたま予算が通ったということしかないものですから、4番の返答が教育委員会としての返答ではないので、どなたにお聞きしたら良いのか分からないが、「白紙になることを考えていません。」という自信満々の答えの裏付けというか、それを伺いたい。その時期が分かれば、今年度に決定が出るのか来年になるのか。ということになれば、なぜ平成24年4月に先行して統合という、なぜ先行してやらなければならないのかという矛盾点とも合致するので教えていただきたい。</p> | <p>おっしゃっていただいたとおり、私の立場で話ができるということにはなかなかならないが、今回の議会の中でも、新市立病院計画概要という今後のスケジュールとか、そういったものの案が議会にも出された。相当、各議員さんからも質疑があった。議会に出した時は案だったが、近々それが案ではなくて計画概要というものにまとまると聞いている。ご承知のとおり、去年からずっとこの説明会、病院の人間もこの説明会に来ていた。実は今日この懇談会に来る前に病院とは話をしてきた。今日の懇談会は、あくまでも再編プランの懇談会だから、病院のことについては、具体的なことは言う訳にいかない。ただその概要の中のスケジュールでは今年22年度に基本設計をやる。そして23年度から実施設計を始める。24年から実際の工事を始めるというそういう日程になっている。そうするとそれなりの規模の工事にもなるし、これはPTAの方々だけではなくて地域の方々もどういう日程になるのか関心があることだと思う。実は私の方からも言ったが、PTA云々ということではなく、この地域の方々には、スケジュールなどの話をする場面があるのではないかと病院の方には言っている。病院の方でもそういう機会は必要だと思っているので、これについては病院の方でも計画すると思うので、その場で、色々な質疑をいただければと思う。</p> |
| | <p>15</p> <p>関連して、平成24年を目処にしているところを、教育委員会として、子どもたちを預かる側として、先行ですということではなく、他と同じ段階で病院を1年遅らせるなりそういうことをどうして言えないのか。子どもたちを犠牲にしながらそっちを優先させるのか。同じ市の職員とは思いますが、親側の立場に立って考えて、その意見を小樽市にぶつけていただくのも教育委員会ではないのか。先行でやるということで若竹小学校などこの近隣で採めている元ではないのか。全市一斉にやりましょうと言っている計画案であれば、この地域だけ先行というのは、全市を段階的にということにしても、この地域だけをというのは同じ小学校に通う者としてはどうかと疑問視するので、教育委員会としてそのような提案というのは、今まで一切考えたことがなかったのかどうか伺ってみたい。</p> | <p>一つ確認させてほしい。子どもの犠牲という言葉を使ったが、24年の4月にやる、統合時期がそこになる、ということは子どもの犠牲になるという見解か。それが延びることが、犠牲の緩和や解消に繋がる、という趣旨のご発言か。</p> |

南小樽ブロック

| 会場 | 会場での発言（質問・意見・要望） | 教育委員会の発言（回答・説明） |
|-----|--|--|
| 量徳小 | <p>16 受け入れ側についても、1段階、2段階と段階を経るということになる。先程の話で、入船があったり、緑があったりということで、他の小学校、中学校の説明会の中で大野部長が交流や説明に2年から3年というのを伺っている。ではなぜ2年を切っているのか。それぞれの学校で言っていることが違うという矛盾を感じる。</p> | <p>他の懇談会と違うところをまず先に説明させていただく。PTAの方から出していた質問の1番目のなぜ24年4月なのかということとの関連になるが、おっしゃるとおり、この基本計画の基本的な作りでは、遅くすれば良いということではないが、それぞれ地区で一定の合意ができたところから進めていくと申し上げている。教育委員会としてはこの地区では、Aグループでは潮見台が適切だ、ここところは他の地区と全く同じ作りになっている。このAグループで違うところはやはり、合意ができてから進めていきますということに、一つの24年3月という課題がある、そこはやはり他のブロックと違うところだ。それで逆に私どもとしても、4月から病院も来だし、市長も来だし、副市長も来だが、ご協力いただきたいということで申し上げてきたところがその部分だ。若竹小学校の懇談会でも24年3月が、南小樽地区のAグループの統合の時期としてあるわけだからそれに向けての協力をお願いしたいと、この間の懇談会でも相当強く申し上げた。6月1日と22日2回懇談会をやるが、1日の懇談会でもあるPTAの方から統合するにしても、例えば24年に量徳が来る。翌年に若竹が来る。そうはならない。それは逆に大変だ。可能であれば一生懸命協議をしていかなければならないが、一つの新しい学校を作る、そういう観点から、24年3月を一つの目処として、ぜひご協力をいただきながら、私どもとしても、それに向けての色々な議論、条件の整備、そういったことをさせていただきたいと思っている。</p> |
| | <p>17 お願いすると子どもたちはスムーズにいくのか。今の話で、お願いすれば子どもたちは短期間で問題無くできるのであれば、どこでもできるということか。今までも、短すぎるという話が出ていたと思うし、教育委員会には十分ご理解いただいたはずだし、その前の、前回の適正配置が始まる前の全体的な説明があった時には、4、5年かけてという話をしていた。忘れたとは言わせないが、それだけかかるものが、この学校は病院が建つからと、1年半でできる、という理由が、分からないというのは、さっきの質問で答えていただけてないということと、全く同じことだが、それについてお答え願いたい。</p> | <p>6月22日の若竹小学校の懇談会の時でも、この南小樽地区のAグループについては、平成24年3月という目処があるので、ぜひ統合に向けての時期についても、ご協力いただきたいと、若竹小学校の説明会でも言ってきた。私としてはそういう日本語を使つたつもりだ。それから、確かに、平成16年のこの小学校の適正配置の説明会で、私は当時教育委員会にいなかったのですが、それほど多くについては知ってはいないが、去年の7月から議論を重ねてきた時にも、その時の議論にも、前の質問状にもたくさん出て来ている。それについても私どもとしては、反省すべきところはしてきたし、そしてまた今回このような事態の中で、24年3月までだと、確かに1年9か月だが、ただそういった議論の積み重ねという意味では、私どもとしても去年の7月から様々な角度からの議論はさせていただいてきた、そここのところはご理解をいただけないかと思う。</p> |

南小樽ブロック

| 会場 | 会場での発言（質問・意見・要望） | 教育委員会の発言（回答・説明） |
|-----|---|-----------------|
| 量徳小 | <p>18 司会者には子どもがいないのか。俺が思うには、小学校一年の子どもにあなたが4年になる時には、学校が変わるんですよ、と言っていると自然と子どもがそういうふうになるが、それが1、2年だと、友達と離れるのが嫌だとかそういうことがあるんで、俺も4、5年だとか少なくとも、3年以上と言ってきた。あなたは、なんで3年だと子どもがあれなんですかと、トンチンカンなことを言って。さっき、俺はなぜ同じだと言った時に、あくまでも、なんとかこの量徳が残ることができないか。その時に380床ではなくて180床になった時に、今の敷地で間に合うのではないか。そういうことで、病院問題と量徳は学校の編成ではないから。あなた方は先ほど言ったように平成16年まででしたか、17年でしたか、ここで反対で3万人署名集まった時、あなた方はずっと病院問題は一切関係ないと言い続けてた。それが今回はコロッと変わって、病院が基本計画をやって、それが平成24年の4月だからそれに合わせて、前の説明会の時に病院は一切関係ありませんと言った教育委員会は、今回は病院だから。だけど病院にしたって、前回もう議会でもう築港地区の土地を買って、そこで建てるんだと、基本計画まで出して、半分金払ってストップしたんですよ。教育委員会も小樽市もブレしてくれるんで、何とか量徳が残る手立てはないか。地元のためには、向こうに行ってもらいより、ここに病院あった方が良いのだから、人口が減っていくと、20何年か後に10万人を切るというのを新聞で見た記憶あるが、そうしたら半分でも良いんじゃないか。半分の病院だと量徳は残るとというのが地域の気持ち、親の気持ちだ。それを関係ありませんとか、こっち立場何も考えていない。あなた方は、病院問題と学校適正配置とは一切関係ないと言ってたんだ。それがコロッと変わって、病院の基本計画があるからって、こどもの心のケアのことも考えないで、2年と3年何が違う。何言ってんですか。みんな大人しく言ってるけれど。そういう可能性が小樽市にはあるんですよ。前回議会で通って、基本計画まで出してコロッと変わった、あなた方教育委員会は適正配置と病院問題は一切関係ないと言ってきた。住吉、石山、東山の閉校から、その時から病院問題ありましたから、それがコロッと変わったんですから。そういうので、病院が半分の規模になったら今のところに出来るんじゃないのかというので、何とか、少しでも量徳を残す手立てはないのかというのが第一で、どうしてもやむを得ないのであれば何とか子どもがすんなり慣れるようにもっと期間がほしいと、前の時だってそうだったよね。もっと時間がほしいと。散々言ってたはずだよ。それを今2年と3年何違うんだって。本当にあなた方子どもの心理だとか考えたことあるのか。聞いてて腹立たしいよ。</p> | |

南小樽ブロック

| 会場 | 会場での発言（質問・意見・要望） | 教育委員会の発言（回答・説明） |
|------------|---|--|
| <p>量徳小</p> | <p>19 市教委の皆様には、プラン委員会に対する回答、お忙しいところ、ありがとうございます。私は昨年からの説明会に来させてもらっていて、他の学校の懇談会にも足を運んで来ました。ずっと話を聞いていると、保護者の皆さんは再編プランについては反対ではないです。基本的に反対ではなくて、なぜこのように揉めるかという子どものことをちゃんとやってくれる市教委の目が、市長であったり、並木局長であったり、そちら側に向いているのではないかと感じてしまう。量徳小学校だって、私は量徳出身ではないが、母校は1校無くなっていて、そういう経験を踏まえた上で、もし明治7年開校の量徳が本当に山の奥にあったら、ここまで揉めないと思う。やはり子どものことを考えて、クラスが多い方が良く、児童が多い方が良い。やはり切磋琢磨しながら、みんなが成長していけば良い、記念碑を建ててくれれば、町場に降りて来るという気持ちになると思う。ただ、ここまで揉めるというのは、再編プランにはとっっても賛成なのにかかわらず、教育部長もそうだと思うが、目がこっちを向いていない。私たちは、どこを教育の場として、子どもたちを預けることができるのか、というのがあるので、ここまで揉めることをどうして分かってくれないのかと思う。教育委員会に力があるのだったら、病院に待ってもらってもこの地域に大きな学校を建てるということをなぜ言えないのか。そういう力がないのかどうか私には分からないが、そういうのがもしあったら、本当に協力したいし、さっき質問のあったPTAさんみたいに、プラン1かプラン2、はっきりしてほしい。やはり子どもたちは迷うし、親たちも迷う。通学路も安全にしてあげたい。決めてくれないから分からない、決めるにしても、花園小学校にもし行ったとしたら、菁園中学校のグラウンドが狭い、私たちの子どもが菁園中学校に行ったら、こんな狭いところで中学校生活を送らせるのか、そしたらそれはおかしいと思う。距離が近いからこの学校が良いということではなくて、やはり子どもたちは広いところで活動とか、遊ばせたいとか、そういう部分を考えている。なぜ向陽中学校の8,800㎡を潰して、潮見台中なのか。私は花園小学校出身なので、無くなると思いはあるが、自分の子どもたちの将来のことを考えると、菁園中学校があれば立派になったのなら、グラウンドも立派にしなければおかしい話だ。きっと、こういう話をしても、今までのように話がつきました、説明しました、だから理解してもらっているんでしょうね、というふうに勘違いをしないでほしい。今まで理解をしてください、というのが流れでそれに納得できてないからここまで揉めるのであり、納得できていないから他校からお母さん方が来ている。興味ではなく、関心があるからこそ来ているのであり、とこれを言っても平成24年3月で統合になってしまうという諦めも半分あるが、子どものために諦めたくない、という気持ちも本当に分かってもらいたいと思うし議論を重ねていきたい。「説明しました」だからおしまいですが、ではなく議論だと思ふ。よろしくお願ひします。</p> | <p>今、菁園中学校のことも少し出ていた。それと小学校のプランについても、グラウンドのことに関連して話があったと思う。私どもとしては、この懇談会は、それこそ議論をする場だと思っている。その素材として今回このようなプランを作った。今日あまり中学校の話をしていないが、一つの検討の軸で学校規模と学校施設の状況、そして通学距離の三つの観点を大きく出して、統合後の位置について検討をしてお話をしている。そういった中では、先程から出ている、地域のこの量徳小学校という面で言えば、伝統の話も出ていたし、それからグラウンドの面積という特化した部分での話も統合校を決める場合の基準としてはどうか、という具体的な話としてはその辺だと思う。だから、逆にそういった形で、こちら側にぶつけていただきたいと思っている。ただ総花的に話をしても、議論はなかなか平行線でいったりきたりはしないのではないかという気がする。教育委員会はこのブロックの統合校、あるいはその統合年次も含めて、一つの考え方を出しているわけだから、そういった部分で、違う案、そういったものを、ある意味我々にヒントを出していただきたいと思う。</p> |

南小樽ブロック

| 会場 | 会場での発言（質問・意見・要望） | 教育委員会の発言（回答・説明） |
|-----|---|--|
| 量徳小 | <p>20</p> <p>この度PTAで再編プランに関する委員会を立ち上げた。先程何人かの保護者が言われたように、私たちは先程から議論をして、議論というのは、お互いの持っていることを意見としてこれからの参考として、反映するものを議論だと思っている。でも前回は前々回もその前も一番最初から話は聞かされるけれど、保護者からこんなのではないかと考えた場合、私たちや他の方も、プラン1、プラン2には賛成できない。プラン4を作ってくださいといったことに関して、それが議論としてされているのであれば、3、4として、提案されたものに関して「3、4のプランがありますがどうですか。」という議論をしていかなければならないと思うが、それもされず、いきなり24年の4月に決まりました。確かに病院が前提にあってここが潰される。親はそう思い込んでしまうと思う。学校に聞けば、病院に関する事は分からない、詳しく言えない。病院に聞けば再編プランとは関係ない、と言われるが、この二つはずっと絡んできたはずだ。それに関して、病院の規模についても、今、騒がれてきているし、小学校の再編プランと関係ないというのであれば、もし病院がなければ量徳が適切だとみんなが思うはずだ。だけど病院が絡んでいるからいち早く量徳の親を説得しなければならない。説明自体が焦っているとしか思えない。それを納得させるために、やはりこれから先3、4のプランをお持ちいただきたい。1と2のプランだけでは、納得できないと何回も言っているはずだ。今回質問を書いてこの回答を見ると教科書を読んでいるようにしか思えない。これは学校の教科書みたいだ。何回見てもこの回答の内容が同じだ。納得できるような説明をしてほしい。</p> | <p>一つは教育委員会でプラン1、プラン2ということで、通学区あるいはその統合校ということで2種類考えているが、それ以外に出してほしいということだが、それは以前の説明会でも聞いている。確認するが、学校規模と通学距離とそれから学校施設の現状、それ以外のファクター。先程から出ている伝統、南小樽地区のロケーションの優位性とかそういったものを基軸にして受けとめているが、それ以外に逆にプラスする要素というはあるか。</p> |
| 21 | <p>私たちは今まで何回も言っているはずだ。</p> | <p>申し訳ないが私個人の受けとめ方かもしれないが、100%受け止められないところもある。</p> |
| 22 | <p>教育部長に聞きたい。この前の奥沢小学校の説明会終了後、僕の意見として、プラン1、2は量徳の保護者は、納得できなかった。だから、保護者の言っている意見は、中央・山手地区と南小樽地区を一つに考えたプランを一つと、あと病院が万が一白紙撤回になった場合のプランを3、4として、作ってきてください、と言ったはずだ。僕は量徳小学校のPTA副会長として、個人の意見としてではなく、PTAの意見として部長に伝えたはずだ。それを今、次長も聞いていないようなニュアンスだったが、次の日の天神小学校でも同じようなことを言った。</p> | <p>確か私も奥沢小学校の後の立ち話で、そのようにおっしゃったのはお聞きした。正直言ってその時、PTAを代表してお話だったのか、個人のお話だったのかという所の判断はできなかった。ただ、私の方からお答えしたのは、私どもは今の懇談会、ここだけではなく色々なところの懇談会はこのプランについての説明をさせていただく。そして意見をいただいている。三つ目、四つ目のプランを示してほしいとおっしゃったのは記憶があるが、私は現状ではできないとお答えをした。「分かりました。三つ目、四つ目のプランを作ります。」とは言っていないと思う。それとどうしても三つ目、四つ目という部分については、もともとの議論から何回か聞いたり、他の方から言われたのも記憶があるが、ブロックの分け方そのものということだった。そこを含めての議論だったと思う。それで今回の委員会からの質問の中にも、そもそもブロック分けではっきりとした回答を得ていない。再度ブロック分けについてお伺いしたい、とのご質問もあった。私どもとしてはこの質問にも、再度と書いてあるが、私どもは今までお答えしてきたつもりだ。平成18年からのブロック分けについての考え方、ブロックの境界では色々な考え方があるだろうということで、基本計画の中では、一つの項目として、隣接するブロックでは、協議を進めていかなければならないということをつけ加えてきている。確かに再度ブロック分けについてお伺いをしたいという私どもの考え方としては、ここに記載をさせていただいた、ということしか説明のしようがない。</p> |

南小樽ブロック

| 会場 | 会場での発言（質問・意見・要望） | 教育委員会の発言（回答・説明） |
|-----|--|---|
| 量徳小 | <p>23 何回も説明会はあるが、毎回同じ説明会で、私たちが言った意見に対して、肉付けもなければ、ご理解もないということであれば、何度説明会を開いていたいても時間の無駄だ。何回も1と2のブロックについては、距離だとか場所だとか人口だとか、さんざん聞いて分かっている。でもそのほかに議論というのは、説明されたうえで、これはどうなるのですか、こうしてしてもらえるのですか、では検討します、これはできないけれども、この範囲でならお答えできる、というのが議論だと思うけれど、ただいま言われたようなものであれば、もう説明会など開いていただかなくても結構だと私は思う。</p> | |
| | <p>24 ブロックに関する今のことと同じかと思うが、花園小学校を基点として稲穂小学校、緑小学校は1km以内に3校が位置する。稲穂小学校0.9、緑小学校0.9、これは偏っていないか。こんなブロック分けはおかしいのではないか。それで、こちらの地区は、遠いところは2キロ以上生徒が歩く。その段階で、この3校はこんなに近くて、まして緑小学校は新築するという話を聞いたが、それはどういことなのか。3校が同じような場所にあって、他の所は離すというのは納得できない。</p> | <p>考え方としては、同じ要件の中で考えている。今、3校の名前が挙がったが、この3校についても、教育委員会としては、先程来言っている、距離、学校施設など3項目の中でやっているが、それが決まったということではない、冒頭でも言ったとおり、私たちとしてはこのように考えてその場で皆さんとお話をしてやっているの、3校がそのままということではないということでご理解をいただきたい。保護者や地域の皆様と協議をしているという段階だ。</p> |
| | <p>25 それでは、今の3校がこの状態で残るといことは、全くないのか。それともあるのか。どれが無くなるということはあるのか。</p> | <p>中央・山手地区は6校の小学校がある。その地区で残る3校が、稲穂と花園と緑ではおかしいのではないかとのご指摘だと思うが、この6校を私どもはグループということで分けている。南小樽地区でいえば、AグループとBグループに分けているようにグループ分けをして検討している。一つのグループは、色内、稲穂。もう一つのグループは、少し複雑になるが、花園、入船、量徳の一部を含めた案も載せているが、花園、入船という組み合わせも一つ考えている。それから花園、緑という組み合わせも考えている。このA、B、Cという三つのグループの中で。それで、Cグループでは、緑、最上という考え方も想定をしている。それから、最上、入船という考え方も入れている。それでそれぞれのグループ分けをした時に、通学距離、施設の状況、交通の安全とかそういった観点からみてどこを統合校にするのが良いか、そういう議論をしていただく仕切りでやっている。これはどこのグループも同じだ。だからその中では、それぞれのグループの中で、稲穂が適切だという場合、緑が適切だという場合、花園が適切だという場合になればそれが残るといことはある。</p> |
| | <p>26 ブロック分け自体が間違っているのではないか。だからこういうふうに、こっちの方ではこうで、こっちの方ではこうで、こっちの方ではこうだ、という中で話し合って最終的にこの3校が残ったとしたらおかしい問題だ。だからこのブロック分け自体が、子どものことを考えていない。ただ、図面を見て、地図を見て、そこで切り分けしているだけの話ではないか。もうちょっと考えて、ただ線を引けばいいだけのことでなく、それにはブロック分け自体が、多分量徳だけではなく、他のところでも、言われてきていることではないのか。それをなぜ変えようとはしないのか。なぜ考えようとししないのか。自分たちはこれで作ったからもこれで決定なんだ、だからもうこれ以上のブロック分けもグループ分けもしない、するつもりはないのか。それとも意見を聞いてもう少しブロック分けなり、グループ分けなりもう少し違う形に変えてみることはしないのか。意見はとらないのか。聞いてもらえないのか。</p> | <p>もう一回、ブロック分けの部分での指摘だったが、他の地区ではそれ程多くはない。ただ奥沢、向陽、天神での懇談会では、特に中学校の関係で、向陽の上の方であれば、松ヶ枝中学校の方が近いのではないかという意見があった。これは私どもの方で、一つ基本計画の中で考えているのは、文字どおり境界の部分になると思う。向陽が無くなって松ヶ枝が残るとすれば、それは潮見台中学校に行くより松ヶ枝中学校に行く方が近い。ただ中央・山手地区の中学校の再編の中では、松ヶ枝中学校は、もうすでに54年経っている学校で、これはあくまで案で、最上小学校を中学校として使おうかと出している。そうなった時には、向陽、最上間でどうなのかとそんな議論をしていかなければならない。だから、そこは色々な視点から、見ていただきたいと思う。これを言うともた怒られると思うが。ブロック分けについても、地図を見て、「えいやっ」と決めたわけではない。平成18年に「あり方検討委員会」を作って、そこで色々議論をいただいで、小樽市の場合こういう地形なり横に長いということもあるから、一定程度ブロックに分けて議論をしなければならぬ。</p> |

南小樽ブロック

| 会場 | 会場での発言（質問・意見・要望） | 教育委員会の発言（回答・説明） |
|-----|---|---|
| 量徳小 | <p>27 私たち量徳の親からしてみれば、この潮見台と若竹のブロックで一緒になるということは、小学校1年生の子どもがいわゆるウイングベイの方まで一緒にの校区になる。要するに人数を増やして交流ができるように、クラス替えができるようになった場合でも、隣の席になった子が、築港地区の子になって遊びたいんだけどと言われても、親の送り迎えがないと行けない。ましてや量徳小学校1、2年生の遠足で築港に行くような感覚だ。ウイングベイの人たちしてみれば、じゃあ今日は小樽祭りだから潮見ヶ丘神社もあるけど住吉神社のお祭りだからそちらの方にも行けるみたいなの、そんな感覚で違和感がある。いわゆる病院の建設で、工事中で危ないと、潮見台小学校に登校するに当たっても、5号線が南樽市場の橋か、それかもう一本下の方の歩道のないガードレール一本だけの狭い橋を渡らなければならない、そこを通過して子どもたちが、遊びに行かなければならないという状況がある。他の学校は若竹小学校にしても、地域の人と話して合って跡地利用をどうするかというふうな問題はできて、量徳の場合はその病院になって遊ぶ場所が無くなってしまふ。だから、線の上だけとか距離の関係だけでは、引いてほしくない。いわゆる子どもたちに目を向けて考えてほしい、というのはそういうところだと思う。</p> | <p>そのブロックの分け方については、総合計画に示しているブロックどかかを参考にしてやるべきだという答申を受けて、そのあと、一昨年には、「基本的な考え方」というものをお示して、そこで懇談会をやらせていただいた。そしてそれを踏まえて、基本計画を作って、6ブロックに分けて学校数をお示してきた。それなりの手順、それなりの相談は議論させていただきながら、今日を迎えている。ただおっしゃるとおり、隣接ブロックの議論はあるので、それは当然、私どもその議論はしていかなければならないように思っている。だから、昨日、今日、えいやと決めたものではないということにご理解をいただきたいと思っている。</p> <p>それと最後に、距離の関係だが、これはもう言い訳ではなく、小学校であれば27校あるわけだから、それを大きく再編していく、これはもう一般的にも通学距離が長くなるのは、ある意味当たり前、必ずそういう場面は多くなる。実は、若竹小学校での懇談会でも文字どおり築港のマンションや道営住宅から通っている子ども保護者から国道を渡る、あるいは臨港線を渡る、場所によっては踏切を渡らなければならない場合もあるわけで、そういうところについては、交通安全指導員の配置もできるのか、そういうご意見もあった。私どもそういった部分も含めて、検討していかなければならないと思っている。ただ、家に帰って遊ぶ場所が遠くなるというのは、校区そのものが広がるわけだから、その部分は、理解していただくというか納得していただかなければならないと思う。</p> |
| | <p>28 5年前にも、適正配置が降ってわいたのが、2年前ちょっとという話だった。その時にも、「早く言ってください。長い時間が取れるようにしてください。」と言いました。それだったら、賛成する方ももっと大勢いたかもしれない。教育委員会の方にも、それは耳にタコができる程それは言いました。長い時間をかけて交流して一緒になるのだったら良いですよ。そう言っている人もいた。なのに、また、何か知らないけれど今回の話、突然市長が量徳に病院を、それも2年ちょっと先、どうして、こういう横暴を許すのか。市役所の皆さんをそういう横暴を許さないようにちゃんと見張っていてくれないと困る。こんなことを突然言い出さなければ、多分、新しい病院がほしい人は一杯いるし、量徳のPTAの中からも賛成がたくさん出るかも知れない。なんで、急にやらなければならないのか。時間をかけましょうよ。前にも言った、3、4年かけてゆっくり、ゆっくり交流会ができれば、新しい校区探検とかいってみんなで違う学校の校区と一緒に探検して回ることもできる。それを3、4年も続ければ、小学生2キロ、3キロ、不安なのは1年生だけだ。1年生だって2学期になればそのくらい平気で歩くと思う、友達の家までは。だから、こういう上から無理やり、突然言われてきたことを、はいそうですか、と言って教育委員会まで一緒になって押しつけようとするのはやめるべきだ。5年前にも約束したのだから、もう少し時間をかけてできることを考えていただきたい。</p> | <p>おっしゃっていることは分る。前回の小学校の適正配置計画の時に、時間の問題で色々指摘されたということは、その時の報告や残っている資料を見た。今回の計画の中でもある意味では、期限を切っていない。繰り返しになるが、地域の合意の出来たところからやっていこうというのがこの計画の主旨になっているのは事実だ。ただ、ご承知のとおり、1年前の6月から、医療関係者そういった方々からもう1回病院の建設場所を検討できないかという話があり、私どもとしても、そこからではなくて、その議論の経過、どういことで量徳小学校の場所は病院が適しているかということ、この場所での説明会も何度もさせていただいた。そういった経過の中で、今日がある。そのことは、理解していただきたい。これについては私がいう立場ではないかもしれないが、平成19年だったと思うが、一旦築港の所に病院を建てると、市として決定をした以降、一貫してあそこではなく、現地での建て替えが出来ないのかという議論をずっとしてきたというのも事実だ。本当に繰り返しなるが、他のブロックと異なるところは、文字どおり病院建設の要望が強い中で、24年度から工事を着工したいという、そういう中でAグループについては課題がある、ここで文字どおり5月11日に副市長からもあったが、これについてはご協力をいただきたいということに尽きる。</p> |

| 会場 | 会場での発言（質問・意見・要望） | 教育委員会の発言（回答・説明） |
|------------|---|---|
| <p>量徳小</p> | <p>29</p> <p>先程病院問題で、病院のことは病院に聞いてください、と私の前に質問した人にそう答えていて、病院の問題を回答されると自分もついつい意見を言いたくなる。ここに病院を建ててくれという人は、昔の小樽病院のイメージを持っていると思う。でも実際、今の小樽の病院が、どれだけ機能しているか、どう考えているか。もし開放骨折して血管にいついた場合、小樽で診てくれるところはない。子どもが火傷をした場合、小樽で治療を受けられるところはない。そこまで知ってる方はいるのか。全部札幌に行かなければならない。そういう子どもが犠牲になって、この量徳が無くなって病院が建つ。それでも子どもを診てもらえない。それで先程企画の方が言いましたが、高齢者しかいない町になるということは、底辺で稼ぐ人がいなくなるということだ、ということは崩壊するだけということだ。そういう病院というのは、別に町の中心に無くても良い。向陽中学校が無くなれば、そこに建てれば良い。そういう施設的なものであれば良い。なんでここでなければならぬのかという病院になってしまう。将来的に、でも、小樽市教育委員会としては、小樽で子育てをするという環境を作ってあげないと、小樽で段々学校は小さくなり、グラウンドは狭くなる。皆、札幌で子育てをしようということになる。小樽の市立病院の先生も子育ては、札幌でしている。そういう環境になってしまう。だから僕がずっと言っているのは、良い環境を子どもに与えてくれと、それでこの回答の中にもあるが、子どものことを第一に考えた統合という素晴らしい回答があるが、教育のことを第一に考えてと書いてあるが、教育を第一に考えていない。何をもちてあなた達は教育というのか。困りがあって、雨風がしのげれば、そこが教育の現場か、自分は少年サッカーの指導をやっている。これだけ小樽の学校が減らされて、サッカーをやるところも減らされてとなると、子どもたちはすごく寂しがると思う。そういう環境をどんどん取り上げていく。一つの学校でサッカー、野球の二つをやらなければならぬという環境が生まれる。かと言ってどこかでできる施設もない。本当に教育を第一に考えているのは何なのか。最善の実施計画づくりを努めて参ります。先程教育長は、努力していますと言っていますが、僕から言わせれば、結果が出ていないのだから努力不足です、努力すべきだと思います。</p> <p>あとその下の方に統廃合の廃校になった施設をどう利用するのか、地域の皆さんと話し合っていくとあるが、東山中、住吉中、石山中、過去に地域とどのような検討があって、今の利用法になっているのか、分らないが、なぜ東山が教育委員会になっているのか。地域の皆さんはそれに対してどう言っているのか、石山中学校は前に一時北ガスが使っていたが、今はどうなっているのか全く分らない。今どんな良い使い方をしているのか、もし使っていないのなら、この前、青園で提案した東山中学校を花園小学校の代替にしてくれた方が良いのではないかと、そうすれば、石山中学校をもし使っていないのなら、今の東山で使っているすべてを引っ越せばいいのではないかと。再編を小規模な考え方でいるから、まとまらない部分があると思うので、もっと大規模に考えていったら、どんどん子どもの良い環境というのが生まれてくると思う。わざわざ緑小学校を4階建てにする必要はない。そうすればグラウンド面積は、4千㎡取れるかもしれないが、4千だとサッカーの試合はできない。あと、もしこうやって学校が減っていく、プールがある学校を減らす、もし将来的に小樽の学校に必要なだと判断した時に緑小学校ではプールは作れない。今後のこと、先のことを考えましょう。自分たちが死んだ後のことを考えましょう。そういう計画をお願いします。</p> | <p>今、色々な病気のことなどでもみんな札幌に行っている、その辺のことは話としてお聞きをする。それから、確かに学校のグラウンド、それは小中限らず、広い方が良いというのは十分分っている。ただ、今回このAグループで言えば、繰り返しになるが、担当の方からあったが、三つの要件、通学距離、施設の状況、もう一つはグラウンドというのも含めて、私どもとしては、このAグループでは潮見台小学校が適切だろうとそういう判断はしている。だから、この再編プラン全体のことで言えば、いろんな地域で進めているので、色々な意見が出てくると思う。例えば、手宮西と手宮でも統合した場合、手宮小学校を中学校にすれば、グラウンドが狭い。手宮西小学校を中学校にすれば、グラウンドが広いのでその方が良いのではないかと。色々な意見が出ている。十分ではないが、一定程度ホームページでもアップはしている。私どもとしては、基本的には、今こういった懇談会をしているので、統合に向けての色々な条件、文字どおり安全対策とか色々な条件については、それぞれ地域から色々な意見が出されているので、そういったご意見を聞きながら、できるものはやっていくスタンスでこの学校再編を進めて行きたいと思っている。</p> |

| 会場 | 会場での発言（質問・意見・要望） | 教育委員会の発言（回答・説明） |
|-----|--|--|
| 量徳小 | <p>30 先日、菁園中学校の説明会に参加した。菁園中学校は学校も新しく、統廃合のうちの無くなる学校にはならないのではないかと考えていたが、受け入れる方として、話を聞けるかと思って参加した。話をずっと聞いて、最後にこういうのが望ましいというのが、菁園は山手・中央地区と書いてあったので、そちらの資料をもらって一番最後に望ましいと書いているのを初めて読んだが、その時には中学校の説明会だったので小学校の説明というのを初めて聞いたが、中央・山手地区の小学校の統合では、緑小学校を新築して最上小学校と統合するのが望ましいとあった。あの狭い土地にどうやって建て替えるのかを聞いたら4階建にもできると。あれだけグラウンドが狭くて片方が崖で、一方は川で、あの狭いところに新築できるのなら小樽市内どこの小学校も新築の対象になるのではと思った。緑小学校をもし新築するのであれば、今、手元にもらった資料の中でもたくさんのプランが書かれている。プラン5までもあるが、説明会に出席して資料を見ないと何々が望ましいという検討結果、このプリントからは分からない。教育委員会が望ましいと思っているプランが多分、中央・山手地区でいうとプラン1か2に該当すると思うが、でもプラン5まで載せているのでたくさん選択の要素はあるが、この内の望ましいものが分からないので、望ましいというものが載っている資料を全部の説明会で配付してほしかった、と思うのと、全部の説明会に出ないと教育委員会が望ましいと思っている残す学校の展望というのを聞けないので、資料を全部もらって読むこともできないし、分かっている範囲で教えてほしいのだが、緑小学校以外で新築するのが望ましいという検討結果に終わった学校があったら名前だけ教えてほしい。</p> | <p>単体で緑小学校を新築して残すのが望ましいとだけ取られると、それは困る。菁園の懇談会に出席されていたので、ご存知だと思うが、いわゆる山手の方で一つのプランとして、最上、緑グループというのを想定している。あそこには松ヶ枝中学校がある。松ヶ枝中学校というのはあのような高台にあってすでに54年も経っている。それでも1回あそこに中学校を建てるとするのは考えにくい。それで一つのプランとして、松ヶ枝中学校を最上小学校におろす。そして最上小学校と緑小学校を統合して緑小学校を統合校にする。だから緑小学校も資料を見ていただければ分かるが、耐震の優先度は①になっている。急がなければならぬという数値が出てきているので、そこを統合校にするとすれば、建て替えということを考えなければならない、というのが一つの候補として出しているところだ。それといまストレートに建て替えとして出しているのは手宮地区だ。手宮地区でも統合して1校と思っている。そして、その場所は、手宮小学校か手宮西小学校が適切だと言っている。手宮を残すということになれば、ここは建て替えが必要になる。手宮西はわりと新しい学校だから一定程度の改修で良いと思う。ただもう一つの要件として、中学校で末広と北山がある。ここは、そこを統合してこの2校を1校にしようというのが、私どもの考え方だ。それで統合校をどこにしようということで、なかなか北山中学校も高い場所にある。末広中学校も相当高いところにある。そういうことから、手宮と手宮西の2校のうち、どちらかを小学校に使った場合、残った方の敷地を使って中学校にしようという、そういう考え方を示している。その考え方でいけば、手宮小学校は古くて使えないので建て替えをしなければならない。そういうプランを示している。今プランの中で、これが適切ではないかということで新築という形を出しているのは、その2校だ。</p> |
| | <p>31 今のプランもそうだが、各ブロックで特認してほしいという子どもがいて、その子たちが卒業するまでは再編はしないとなっていると思うが、例えば、量徳の子が花園の方に行かせてほしい、最終年度に入る子は23年度に1年生に入る子が、卒業する28年度までその学校は再編しないということになるのか。それとも、特認で行った子たちは、それとは関係無く、花園、緑、そういう中央・山手地区の中の再編の中に入るのか。だから、そういう意味でも特認で行っている子たちがいる限りそちらの方の再編には手をつけれないということだと思う。それが、ましてや最上小学校が中学校に再編するとすると、小学校を卒業して中学校で菁園中学校に行く子、松ヶ枝中学校に行く子が重なってしまう時期ができて、再編プラン、教育委員会が考えているような、いわゆる緑小学校を新築して、最上小学校にいつもらって、向陽中学校は潮見台の方が遠くなるから松ヶ枝中学校に行こうとしていた人たちは、最上小学校が松ヶ枝中学校になって、緑小学校を新築するという経緯を知っているのか。向陽中学校や天神小学校で通おうかという意見も出ているのに。だから、こちらの方のブロックでは考えられないのではないかとこのことを言っている。緑小学校を建て替えるということは、やはり色内小学校、稲穂小学校のからみもあるし、西陵中学校、松ヶ枝中学校、菁園中学校のからみもある。だから、来年度1年生が入る子が卒業する小学校6年間までと、緑小学校の子が中学校、菁園中に行くのか松ヶ枝中に行くのかをからめて考えるといつの時期にゴーサインがでるのか。ましてや、このように学校で説明会を開いても、自分たちの学校が対象になるんだというようにならないと保護者はピンとこない。私たちでもどっちになるのかということとずっと揉めてプランもどうだということになっているのに、じゃあこういうように提示しますよとなった場合、またそこどころでも地域で揉めて、今日にして納得した上で進めていきますというプランが15年の中で納まるのか。</p> | <p>おっしゃっていることは、そのとおりだ。ものすごい、ある意味、小中学校41校を前期、後期に分けて、合意をできたところからやっていきます。ざっくり言うとそういう言い方しかしていないわけだ。そうすると、色々なことが、この場合は繰り返してしまうとか、そういった部分というのが出てくる可能性がある。特に中央・山手地区は小学校と中学校の配置が複雑になっているので、それで、中央・山手地区でご覧になった方もいらっしゃると思うが、このプランの中で書いているのは、中央・山手地区でいうと基本的に小学校を先行します。それで小学校が一定落ち着いた、一定の段階で固まった段階で中学校をやる。ただ松ヶ枝中学校だけは、先程も言ったとおり、耐震化の問題、築54年の問題があるのでそこには手をつけなければならないということから、松ヶ枝中、最上小の関係は、先行して出しているということもそこに一つの理由があるということは、理解をしていただきたい。だから、最上小学校を中学校にする時点で、中央・山手地区の中学校が2校になるということにはならないと思う。要するに松ヶ枝中学校は、あくまでも耐震化、老朽化の問題を持っているので、松ヶ枝中学校だけは、先に対応して行こう。それプラス、前提として小学校をやって、時期を見てから中学校やりましょう。それがまず基本的なあの地区でいう考え方になる。ただ他の地区では、小学校を先行するとどうしても統合の経験を繰り返させないためには6年間いるので、先に中学校をやるという地区もある。司会の方からもあったが、懇談会はまだ1回目を当たっている段階なので、まず一当たりしてご意見なり、要望なりを聞いて次の段階に入ろうと思っている。ただ、一番最初に言われた量徳の部分の2のプランを選んで花園に行くと言った場合は、基本的に2年生の時に統合になると5年間になるが、それまでは残さなければならぬと思っている。それと、特認に関しては、特認でこられた方については、違う考え方を持たなければならないと思っている。</p> |

南小樽ブロック

| 会場 | 会場での発言（質問・意見・要望） | 教育委員会の発言（回答・説明） |
|-----|---|---|
| 量徳小 | 32 違う考え方は。 | 例えば、24年4月に、この子どもたちの何十人かが花園に移ったとすると、その子たちを対象にしての、28年までは花園は、まずある。花園を29年に無くすと言っているのではない。それは保証する。ただ、ほかの事情でそのあと特認で入って来る子たちの部分については、ちょっと、制度で行く場合と特認で来る場合は、ちょっと違いはある。特認というのは、24年の時に、本来、潮見台に行く子は一緒だから良いが。 |
| | 33 例えば、以前、堺小の子どもたちが、稲穂小学校や花園小学校に入った場合と今回の場合は違うと思います。ましてや学校名を変えとか、対等合併とか言葉は分かりませんが、そのように考えられていますよね。そうなった場合、この人数が花園小学校に行ったとして、花園小学校と量徳の再編でまず考えるのか、その後の花園小学校と緑小学校、入船小学校で考えるのか、それとさきほど28年度で区切られましたけど、もし29年度に、もう一度花園小学校が山手ブロックで再編がかかるとなった場合、その花園小学校の重複して、28年度に花園地域の子が1年に入ってしまうと、その子もまた再編になってしまうということになりますよね。その子が卒業する6年後となると33年度になるんです。そういうふうになっていると、いわゆる緑の方とかも関わってこないですし、ですからブロック、これは私が考えた中では、その子が33年度まで小学校を卒業する。じゃ、次の中学校を卒業するというふうになると、前期、後期の最終年度36年度にその子が中学校を卒業してしまうということになるんです。教育委員会の方が15年後に何人残っているのか分かりませんが、こうやって表を書いているうちに自分でも分からなくなってしまうんです。そして今日、緑小学校を建てなおして、最上小学校をどうのこうのと、本当にそれってどういうふうにするんですかと、こちらが聞きたいんです。できるんですか。 | さきほども少し触れたが、実施計画というのをブロックごとに、あるいは統合のグループごとに作っていくことになると思うが、ただこれは一つずつ作っていかばその矛盾が拡大すると思う。そういう意味で今回の地区別懇談会というのを、時期を集中して、1学期、5月から2か月かけて全ての学校で1クールやっている。第2クールは2学期ということになると思うが、その辺の所で、統合の時期、ブロックごとの統合の時期の目鼻というのも具体的な日程に上っていくという形で、お話を持っていかなければならないと思っている。ですから、矛盾がどんどん拡大していかないように、まず基本的な目鼻といったものはなるべく早いうちに、統合が実際に行われるのはまだ先かもしれないが、基本的にこのブロック、隣のブロックの姿というのは2回目、3回目の懇談会の中で、一定の形は作っていかねばならないと、十分今お話をいただいた部分を踏まえて考えていかねばならないと思っている。 |
| | 34 ですから、そういうふうをやっていかねばならないとおっしゃっています。量徳・若竹小学校の南小樽ブロックというのは24年度4月で再編をしたいと言われている時間がないんですよ。山の手ブロックの人達に、いわゆる危機感、ここのところは分かっていただけではないでしょうか。受け入れる側の方が本当は大変なはずなのに、受け入れる側の方の説明会の参加者が少ないというのはどういう気持ちなのか。受け入れる側としては、どういう学校で、どういう人数が来るのかとか、今まで運動会とかどんなことをしていたのかとかそういう質問が出てもおかしくないのに、なんでそういうことが出ないのか、やっぱり関心がないからだと思うんです。でも、私たちからすれば、24年3月で終わりなんですよと言われている親にしてみれば、本当は話を進めていきたいんです。本当にそれは、私たちもどうしたら良いですかとこちらが聞きたいくらいなのに、同じことの説明会の繰り返しで、もう9時を回ってて、子どもたちなんか留守番させているんです。本当に話を進展させるために。 | おっしゃる意味は良く分る。若竹小学校も6月1日の懇談会では、うちの学校も近々なの、という空気は感じた。こういう言い方は適当ではないかも知れないが、端的に言って、統合校になると思われているところの集まりは、やはり少ない。これは数回見て間違いない。繰り返しになるが、来週の月曜日花園小学校で行うが、その時には私どもも今日出たご意見も含めて、今の段階で来るという話ではないが、教育委員会も一つのプランとして、隣のブロック、このブロックとの関係で、花園との統合もあり得る。それも、想定としては24年4月ということがあるから、その時の統合校の体制、そこはきちっとやらしてもらわなければならない。これは、保護者にも、学校にもきちんと言わなければならないと思っている。今回、3番目とか4番目とか、統合に関連して要望が出されている。対等合併という言葉が適切かどうかはあるが、教育委員会が基本計画の中で言っていることから、統合するとか合併するとかいうことではなくて、その地区に新しい学校を作っていくというそういう視点から考えてもらいたい。これは今回の再編の一つの考え方だ。南小樽地区 Aグループでは、潮見台小学校を統合校とするというよりも、潮見台小学校の場所を統合校にして新しい学校を作っていく。当然ここで書かれている校名だとか校歌だとか、教育目標とか、こうした議論というのは、一定程度それぞれの関係者がいて、それなりの時間が掛かる部分だと思っている。先程もちょうと申し上げたが、私どもとしては、やはりこの夏休み明けくらいには、この統合へ向けての地区、1か所ではなくて、この対象地域の話し合いの場というのを設定していかねばならないと考えている。このようなスタンスでAグループはもちろんだが、可能性としては隣接する花園、若竹側でいえば桜、こういったところでの話し合いもしていかなければならないと思っている。 |

南小樽ブロック

| 会場 | 会場での発言（質問・意見・要望） | 教育委員会の発言（回答・説明） |
|-----|--|--|
| 量徳小 | <p>35 教育委員会の部長の話、説明ではなく言い訳だ。量徳小学校PTAとして3案、4案出してくれ、それが妥協案だと言ってるのに、理解をお願いしますって、なんでそのことを受けないだ。学校は、閉校にする、期間は1年9か月しかない、これじゃ飲めませんという、1案、2案しかない。それもPTA代表として出しているのに、なんだか委員会というのはこの地域、この量徳小学校を知らない人間が作った区域割をなんでそこまでこだわるんだ。こっち、妥協して、百歩譲って閉校に対して前向きにやろうとしているのに、部長あなたの答弁は、答弁ではない言い訳だよ。ご理解願いますというのは、こちらの意見も聞いて初めて成り立つんじゃないかい。おれからいわせれば、どこのだれだか決めたか分らない区域割か知らないけど、この量徳小学校の区域の父兄、児童、父母のことを分かってないんじゃないか。一方的にしゃべって、言い訳ばかりして、どうしてこっちが納得できるんですか。ご理解願いますと言ってもご理解できません。</p> | |
| | <p>36 先のことについての質問ですが、統合校が決まったとして、その統合校は、全部、校名とか校歌とか変えるということなんですか。</p> | <p>今日配った、要望に対する回答5ページで教育委員会の考え方を示している。一番上、適正化基本計画では、学校再編を行うに当たっての考え方の中で、「従来の通学区域を隣接する学校に編入する統合だけでなく、現在の小中学校の敷地を活用して新たな学校をつくる統合も視野に入れて考えます。」と、簡単にいうと、全部は新しい名前にするという考えでだけではない。二つの選択肢は持っている。今回は、基本的に学校の再編という考え方をしてるので新しい学校を作っていくという基本的な部分はある。</p> |
| | <p>37 そのこの学校に、ほかの学校の子たちが、受け入れるとか、受け入れないとかではなく、統合されるのであれば、全部変わるんですよね。</p> | <p>ある学校の懇談会では、新しい校名という話でしたが、逆に参加された方から名前というのは伝統があるから名前は残した方が良いのではないかと言われた。その辺は私どももどちらかでなければならぬというスタンスには立っていない。ただ、今回、この量徳小学校のPTAから出された要望には、新しい校名、新しい教育目標、新しい校歌という指摘も書かれているので、私どもとしてもこの視点は大事にしなければならぬ。今後、ここのグループの話し合いの中では言っていきたいと思っている。</p> |
| | <p>38 統合される学校、例えば量徳が無くなって、花園や潮見台に行く生徒が分かれて、としたら、量徳も他の学校と同じように、量徳という名前を残したいと思うのですが、そう考えると、皆の意見とか一つ取り上げるというのは不公平になってしまう。思うに、花園小学校の父母は、父母とかもあまりこういう懇談会に、その統合されないとか受け入れる側の親たちは関心がないという状態が起きると思うので、その辺をなんとか教育委員会も考えて、少なくともそれで良いではなく、量徳は無くなるからいっぱい来るけど、他の学校のお母さんたちが関心がないと私たちも不安ですし、どこが無くなるにせよ、ここだけでという話にはならないと思うので、そこをしっかりとやってほしいので、名前とか大事にしてほしいと思います。</p> | <p>そのとおりだと思う。やはり、校名、校歌の問題もあるが、今回の要望書にも出ているが、やはり統合の場所となる方がそこそこで、たくさんの子どもが来るわけだから、学校でも言うし、保護者からもきちんと言っていたかかないといけないと思う。その部分というのも大事なことだと思うので、そこは文字どおり、子ども同士の交流、PTA同士の交流、そういったこともきちんと言っていかなければならないと思う。おっしゃっていることは全く同感です。</p> |
| | <p>39 事前にいただいたプリントの青い紙について伺いたいのですが、教育委員会では今までの学校統合のときの経過や取組を踏まえながら、保護者の皆さんと協議します。となっていて、学校統合協議会(仮称)となっているんですけど、そのメンバーが保護者や学校、地域の方がメンバーとなっていますが、当然教育委員会の方もこの中に入るんですよね。であれば、事前にここに一筆入っていないと誤解を招くのではないのでしょうか。教育委員会の方もこのメンバーに入っているということで、これは刷り直しをしていただいた方がよろしいのではないかと思います、提案です。</p> | <p>当然教育委員会入ります。今日みたいに全部の人間ということにはならないが、それぞれ担当する人間がおりますので、必ず入ります。</p> |
| | <p>40 次回開催分から刷り直してください。即座にやった方が良いと思います。誤解を招きます。</p> | <p>お話の趣旨は分かったので。そのようにしたいと思います。 もし、いっぱい刷ってあるようでしたら、それぞれ懇談会の時にでも前段でお話をするということも考えたいと思う。</p> |

南小樽ブロック

| 会場 | 会場での発言（質問・意見・要望） | 教育委員会の発言（回答・説明） |
|---------------------|---|--|
| <p>奥沢小 6月2日</p> | <p>1 13ページのところで、小学校の校舎を統合校として、中学校に校種転換するところがあるのですが、このプランでいけば向陽中学校となるので、この地区では、小学校の統合校として向陽中学校の校舎の校種転換というのはあるのか。</p> | <p>13ページにありました、校種転換について、中学校の統合で整理したのは向陽と潮見台ということで、空く小学校を使えないかということで、手宮の方ではそういう検討もしているが、その際、天神小学校の位置と若竹小学校の位置、さらに、学校の敷地面積等考えると現在の小学校より狭くなる、そういうところを持っているということでその部分については考慮していない、ということで記述している。</p> <p>向陽中学校を小学校として使えないのか、という話ですが、小学校と中学校の学校の造りで、階段の上がり段の高さが違って来る。小学生の方が当然低くなっている、中学校を小学校では使えないということが出てくる。その逆では対応は可能だ。</p> <p>今の説明につけ加えると距離の関係も小学校の場合はあると思う。天神小と奥沢小の通学距離も考慮すると書いているので、向陽中学校ということになると、距離の関係も影響してくると思う。</p> |
| | <p>2 奥沢小になっても天神小になっても通学距離が結構長くなると思う。その場合、バスを利用することになると思うが、スクールバスのようなものを出すのか、それとも路線バスを出すのか。路線バスを使うのであれば、どのように便宜を図ってもらえるのか、その辺のところお話してください。</p> | <p>バス通学の関係だが、今現在小樽市内で路線バスやスクールバスを利用している子どもは約400人。基本的には小学生はスクールバス、中学生については路線バスという考え方を教育委員会は持っているが、例えば、中学生が路線バスというのは、部活動などでみんな一緒に帰るということができないので、中学生については路線バスとしている。先程質問のあった通学距離が遠くなることについてどう考えているのかということだが、基本的には小学生はスクールバスという考え方はあるが、小学生は距離にして2キロでバスに乗る区間が1キロ以上ということになれば、助成なりスクールバスの対象になるが、統合校が奥沢や天神になった時、対象児童がどのぐらいいるのか。また、その子どもがどこに住んでいるのかということもあるので、そういうことを考えた場合に路線バスが良いのかスクールバスが良いのか。やはりその統合校が決まった時点で、これはもうケースバイケースで考えていかなければならないと思う。詳しく個々に話を聞きながら、考えていくという形になるかと思う。</p> <p>バスの通学の利用に関して、小学校でも路線バスを使っている地域の学校がある。例えば張碓小学校がそうだ。JRバスを利用して、路線バスで張碓の子どもたちは、春香の方から通っている。そういうことで、その学校の、地域の実状とか、あるいはバスの本数とか、それから、バスの込み具合、そういったことも合わせながら、それぞれ地域に応じた考え方をとっている。</p> |

| 会場 | 会場での発言（質問・意見・要望） | 教育委員会の発言（回答・説明） |
|-----|--|--|
| 奥沢小 | <p>3 天神も奥沢もどちらも耐震基準を満たしていないということだったが、どの時点で、どちらかが決まった場合にすぐ工事に入って、工事が終わった時点で統合するという形なのか、おいおい何年かかけてやっていくものなのか。また、使わなくなった学校はどういうふうにも、今後利用していくのかというのものもある。元東山中学校は教育委員会が使っている。壊してしまうには惜しい学校がたくさんありますので、そこも何かお話があるのであれば、お聞かせください。</p> | <p>耐震について説明する。市内で五つの小中学校で今年から工事に入る。それから二つの中学校で耐震化工事をする前に耐震診断というのをやらなければならないので、いくつかの段階を経てやることになる。耐震診断をやって設計をして工事が終わるまでの期間を考えると2年。場合によっては3年くらいかかる。もう一つの要件としては、学校を普通に使い、授業をやりながら工事する。そういう構造の学校もある。ご覧になった方もあると思うが、よく学校の窓の外側にプレスというが、筋交いを入れて、耐震化をやるというそういうやり方でできる学校もある。ただ学校によっては、支柱が外側でなく、建物の中側に入っている学校もある。そうすると、プレスも外側と同じものではなく、細いもの、内側から。基本的には統合校になるところは、耐震工事もするし内部改修もしていくことになるが、その工法によって、統合校になってからやっても支障のないところと、規模が大きくなって内側から工事をするというのはなかなか難しくなるところと、それぞれある。だから、その辺は、この学校がそうとか、この学校がああだ、とか言えないが、基本として統合校については、工事は行う。その耐震工事の時期と、統合する時期は、その学校の施設や、あるいは工事期間などそういった部分も含めてご相談をさせていただく。文字どおり統合に向けては、建物の耐震工事だけではなく、教室の改装とか、この学校もたくさんの教室があるが、もうしばらく使っていない教室というのは結構ある。決まってからすぐ、来春から使えるかという、一定程度整備をしなければならない部分もあるので、その辺もお配りしている青いパンフレットで言えば、その統合準備の中で、どういうふうに使っていくかということをお話させていただかなければならないと思っている。これは一つの例だが、桜町中学校の耐震診断を始めるが、その学校は、先程述べた基本的な柱が内側にある学校なので、もしかすると一時期プレハブを作って、部分的に生徒に移っていただいて耐震工事をしなければならないという場面も想定している。</p> <p>学校の跡利用については、教育委員会が昨年11月に作った適正化基本計画という中に、跡利用の基本的な考え方が示されている。「廃止となる学校の跡利用」という項目があり、ここに「統合により、廃止となる学校の建物や土地の利用については、市民の共有財産として、全市民的なまちづくりの視点で地域の皆さんの意見や要望を聞きながら検討します。」ということになっている。それで学校の適正化については、今皆さんがお集まりになっているのは、地区別懇談会という位置付けになっているが、この後より具体的になってくると、説明会というものがある。その後、協議会というもの組織されてご意見をいただくことになっている。今後将来に向けて地域の皆さんのご意見を伺う機会というのが設けられているので、そういった場で皆さんのご意見、あるいは地域のご意見を伺いながら私どもは検討していかねばならないと考えている。ただ配慮しなければいけないことは、学校というのは教育の場としての機能だけではなくて小樽市の場合でいうと、各小中学校は、まず避難所に指定されている。それからやはり地域によっては、大事なコミュニティの形成の場になっているから、私どもとしてはそういったことにも当然配慮をしておかなければならないのではないかと考えている。現在私どもが考えているのは、本州では学校の跡地を非常にユニークな使い方をしている事例というのものもあるようですので、そういったものを私どもも調査、あるいは研究をしながら今後の参考にしていきたいと考えている。</p> |

| 会場 | 会場での発言（質問・意見・要望） | 教育委員会の発言（回答・説明） |
|------------|---|--|
| <p>奥沢小</p> | <p>4 今日、教育委員会からはっきりとした提案が出たわけだが、これから学校ごとに検討していくと、例えば明日天神小学校ですけども、色々な意見が出てくると思いますが。その時に、教育委員会としては、今日提案した内容を、突っぱねるといったらちょっと変ですけども、これをなんとかして理解してもらって無理やり持っていくのか、あるいはまた他の学校の意見ももう一度考慮しながら再度検討する考えがあるのか、その辺の柔軟性というのはどうなのか。</p> | <p>今日は奥沢小学校なので、説明は力点をどちらかという小学校のBブロックの話をしているが、説明で一部中学校の話もした。中学校の統合の考え方、その中では、こちらの奥沢、天神に近い向陽中学校と潮見台中学校の統合の考え方も少し説明をさせていただいた。そういうことからいくと小学校だけに限らず、この周辺で言えば、奥沢小学校が統合校としては良いということではあるが、一方、向陽中学校の問題も密接に絡んできて、私個人的には内心複雑な思いではないかと何となく思っているが、これからが意見のまとめ方ということになるかと思うが教育委員会の今時点の考え方を話す。</p> <p>おっしゃるとおり、明日天神小学校に行くので、ここで話したことで、天神小学校でいうことと違うと怒られるので、その辺気をつけながらお話をさせていただくが、まず前提に、先程この資料の説明に入る前に、今日お渡ししている冊子の1ページ目に、正面の近くの囲ってあるところに書いてあるが、「地区別懇談会で参加者の活発な意見交換ができるという観点から作成したものです。」ということプランという名前をつけているので、これで決まりじゃないということでは、まず一つ前提としてご理解をいただきたい。ただどちらでも良いというわけにもいかないので、私どもとしては先程見た、学校の規模、あるいは通学距離、あるいは施設面、そういったそういったことで奥沢小学校の方が適切だという、そういう一つの現状での教育委員会としての考え方を持っている。</p> <p>当然明日の懇談会でも意見がたくさん出てくると思うが、先程学校の概要のところでも話をしたが、今現在の奥沢小学校の児童数は129人。天神小学校は170人。40、50人天神の方が多い。これは天神小学校の方から見たら「なんじゃないな」という意見は出てくると思う。ただ私どもが考えているのは、天神と奥沢だけを統合するということではなく、ここでは結局、天神と奥沢の組み合わせというプランでしかないが、市内41校を対象として、文字どおり小中学校とも再編をしていかなければならない、そういう考え方である。そうすると将来的に小樽の子どもたちの分布はどうなるのかということも一つの要素になると思う。今だけということではなく、これは一昨年生まれたお子さんが、小学校に入る時ということで、数字上平成27年という数字を出させていただいているが、実は平成27年になると、今度は奥沢の方が151人、今129人だから、今いる子どもが出入りしないでそのまま大きくなれば、その数字になる。もちろん入ってくる子どももいるし、転出もあると思うが、151という数字になる。一方天神小学校の方は、今170だが、同じ平成27年は、137人になる。長いスパンでものを見た場合、一つはそういう状況がある。それともう一つは、やはり中心部に近い方が良いということではないが、学校の建っている立地条件、特に冬期間の部分で考えれば、正直言ってこここの元有成院の坂を降りてきて曲がるところはなかなか大変だが、天神小学校も上がっていくのは、特に冬期間は大変な部分がある、そういった現状がどうだということだけではなく、いくつかの視点から見てここが適切だということでの教育委員会としての現状の考え方を示させていただいた。ただ明日の天神小学校でも意見はたくさんあると思うが私どもとしては、今申し上げたことを同じように言って、そういった中で5年、10年さらにその先も含めて、どうしていくべきなのか議論をしていかなければならない、検討していかなければならないと思っている。だからどこかの時点では、Bグループの小学校2校を1校にという議論だからどこかの時点では天神小学校の皆さんと、この奥沢小学校の皆さんとで、一緒に議論していただく、もちろん教育委員会からの意見も申し上げるが、そういった場も作っていかなければならないと思っている。</p> |

| 会場 | 会場での発言（質問・意見・要望） | 教育委員会の発言（回答・説明） |
|-----|---|--|
| 奥沢小 | <p>5</p> <p>きちっとしたこういう提案出していただくと話しやすくて良いですけども、教育委員会がよく考えて出したと思うんですけども、ただ地域の人達からいろんな意見が出た時に、地域の人達の別な形の意見を受け入れる、若干の余地があるのかどうかと。ここばかりではなくて、全市的な形の中で、そういう気持ちはどうなのかと思って聞いた。無理やりなんとか通していきたいというなら、それはそれで良いですし、その辺どうかと。</p> | <p>おっしゃるとおりだ。これがどこの学校の位置でも、やはり長くそこにある学校だからどの方も自分の地域の学校、自分の通った学校は、残してほしい。という思いを持っているのはその通りで、それは私どもも否定はしない。ただ前段申し上げた通り、ここまで少子化が進んでいる、例を挙げると、今年一年生で入ったお子さんは平成15年に生まれたお子さんだ。今年の新一年生は865人。この平成15年とはどういう年だったかという、小樽市内で936人の子どもが生まれた、一方平成21年に小樽市内で生まれたお子さんは、723人だった。200人減ってしまっているという現状がある。来年、再来年と小学校に入ってくるお子さんは、どんどん減っていつてしまう。逆にいうと、市内全部の学校が先細りをしていく、どんどん小さくなっていく、やはり学校の再編をしなければならないと私ども思っているし、そこのところは、地域の方にご理解をいただかなければならない。そういう状況の中で、それではこの地区でどこの学校を残していくのが将来的にも良いのかという、そういう議論をしていかなければならないと思う。1から、学校の再編は反対だ、20年先も30年先もこのままでいいと言われてしまうと私どもも一言もないわけだが、決してそうではないと思っている。私ども一昨年、それから去年もここで、確か5月の18日に説明会をやらせていただいています。やはり学校再編をしていかなければならない、そういう状況にあるんだということをご理解していただいて、それであればどこの学校に今後も、30年40年先も学校を残すべきなのかというそういった議論をしていかなければならないと思う、というふうに思っているし、これは全部の学校でさせていただかなければならないと思っている。</p> <p>プランという言い方をしているが、教育委員会で考えたいいくつかのプランを検討した結果ということでまとめて、このBグループについては、奥沢小学校の場所が適切だ、そういう教育委員会の見解を記載して、それと合わせて、今回このような懇談会に臨んでいる。だから教育委員会の立場としては、このブロックのBグループについては、奥沢小学校の場所が適切だという判断をして、これが、私ども100%ではないと思っているので、視点というか、欠落している部分が万が一あった時には、このような懇談の場で、指摘をしていただいて、それが私どもが考えていた結論を一定出したものをもう一度見直さなければならないという場合が、万の一つあれば、それは受け入れなければならないと考えている。ただ、地域の方にここ2年くらい意見を聞きながら進めてきた、市全体の再編計画の中では、このような一定の見解を出して、説明も含めて、意見というかそれに対して参加した皆さんからのお話をお聞きしているということなので、それとは180度違う別なプランが出てきたときには、考えることは全くやぶさかではないので、そういう意味合いで最初からお話している。</p> |

南小樽ブロック

| 会場 | 会場での発言（質問・意見・要望） | 教育委員会の発言（回答・説明） |
|-------------|---|---|
| 奥沢小 | <p>6</p> <p>そういうことではなくて、委員会がきちんと提案してくれた内容に対し他の学校からも色々な意見が出てくると思う。その時に、ある程度、取り入れる気持ちはあるのか、ないのか。あるいは、またそういうのを取り入れてしまったら、またごたごたになってしまうので無理やりこれでもってやっていく、そういう腹積もりなのか。例えば、今回の沖縄の話みたいに、聞くだけ聞いて、あとはもう国の方でばつと意見出してそれで終わりという、そういうような形を、言い方は悪いけど、そのような形をとっていくのか、その方が一番きちっとすんなりいくと思うのだが、言いづらいかもしれませんが、その辺のところの腹積もりというのはどうなのかと思って。</p> | <p>私ども2年間議論してきて、今回このプランということでお示ししている、これをまたぐじゃぐじゃにするというのは考えにくい、そうはならないと思っている。ご存知かと思うが奥沢小学校は、このすぐ向かい側、入船小学校の校区と近くこの図面を見ていただければ分かるが、奥沢小学校のすぐ前の所が白地になっている。ここは入船小学校の校区になっている。実は、入船小学校より奥沢小学校の方が距離的に近いということで、10数人くらいの子どもが奥沢小学校にきている。私どもは色々な意見を聞いて、見直すところは見直す、特にブロックとブロックの境界になっているところは出てくると思っている。中央・山手ブロックの方では、今日お配りしている広報を見ていただくと思っているが、中央・山手ブロックの小学校は6校を3校にする計画で幾つものプランをお示ししている。その中で、入船小学校がなくなり、奥沢小学校が残るとすれば、今でもこういう状況なので、そういうところの協議とか見直しも当然あるだろうと思っている。どうしてもあまり、たくさんシミュレーションもできないので、こういう形で出しているが、ブロックとブロック同士の境界、そういった部分での通学区域の調整というのは出てくるだろうと思っている。</p> <p>今の話は、通学区域の設定の部分で、例えば道路1本挟んで、教育委員会では今の小学校の通学区域をそのまま使っているが、具体的に今後隣のブロックの学校との関係で、通学区域の道路の線引き、言葉は乱暴だが、線引き自体を実際にそこに住んでいる子どもたちが通うことを考えれば、こちらの方が良いという具体編になれば、話があれば、それはそれで一つの妥当性があれば、そういう線引きをし直すこともあるのではないかと考えている。</p> |
| 天神小 6月3日 | <p>1</p> <p>区割り自体を違う形でやるということも考えているのか。天神小学校は入船小学校とも近いので、入船、奥沢、天神の3校で新しく作るなどの案はないのか。根本的に小学校と中学校を分けて再編を考えているようだが、例えば、小学校は通学距離が短い方が楽だと思うので、小学校の位置と中学校の位置を入れ替えて、半径何km以内という出し方で区割りをした方が良いと思う。</p> <p>2</p> <p>昨日、町会の役員会で、総連合町会と市長と語る会の中で、市長のほうから、量徳小学校のPTAとか他のところが病院建設について、了解をしたというような話をしたが、その辺はどうなのか。当初、かなり量徳小学校のPTAの間でももめていたと思うが、昨日の話だと自分は了解をしたという話を聞いたがどうか。</p> <p>3</p> <p>同意をしたというふうに役員会で聞いたが、そういうことではないのか。勝手に量徳小学校の跡地を、建てたらどうかということを調査することなのか。</p> <p>4</p> <p>きちんと答えてほしい。ぐたぐたはいい。はっきりと。市長が昨日の話の中で、6項目のいろんな話が出た中で、量徳小学校について「同意を得た」というふうに自分は役員会で話を聞いたが、それが事実であるのか、事実でないのかだけ聞きたい。いろんなことをぐちゃぐちゃ言わなくていい。はっきり、それだけ聞きたい。</p> | <p>今日はプランを一つ議論のたたき台として用意している。このプランは教育委員会としていろいろな角度から検討し示したものだ。入船小を入れてのプランという話だが、この地区別懇談会は、5月17日から7月22日まで36会場で、市内の小中学校全校を対象に始めた。1回目は、皆さんからの色々な意見をお聞きして、当然1回で終わるとは考えていない。2回目以降は、この意見を踏まえて、どういった形で行うかを整理して次回に生かしていきたいと考えている。</p> <p>量徳小学校の位置に病院を建てるということで、市としてはこれまでも何回か量徳小学校のPTAの方、また地域の方とお話をさせていただいて、市としてあの場所に病院を建てるという方針を決めた。そこに、今回の第2回定例会で病院を建てるための基本設計の予算を提案していくということで説明をした。</p> <p>病院の関係では、量徳小学校の地域での懇談会を5月11日に行っている。その時は、合意とか同意とか、どういう形での終わり方では正直なかった。やはりいろいろな意見が出たので、その場では市のほうの考え方、そういうものについてお話をした。</p> <p>自分は昨日の町会長との定例連絡会議に出ていたが、6項目の中にはそういう話はなかった。</p> |

南小樽ブロック

| 会場 | 会場での発言（質問・意見・要望） | 教育委員会の発言（回答・説明） |
|-----|---|--|
| 天神小 | 5 町会の役員は違うことを聞いていたということか。 | 量徳小学校のPTAの皆さんが了解したということ話であればしていない。 |
| 6 | その中で量徳小学校と病院の関係について、市長のほうから何か話はあったのか。もしあるとすればどのような内容の話をしたのか聞きたい。その場にいたということであれば一番よくわかっていると思うので聞きたい。 | その場にはいたが、病院についての話がどの程度までと言われると、教育委員会の立場としては、逃げるわけではないが、市の話、病院局であれば…。 |
| 7 | 聞きたいのは、昨日の市長とのやり取りの中で、量徳小学校のPTAとか地域の方がたが量徳小学校の跡地に病院を建てるということに同意はしていないということか。そういうふう理解してよろしいのか。 | そういう理解は困る。そういうふうには言っていないし、合意をしたとは言っていない。 |
| 8 | 学校の統廃合のプランと話は違うが、同意もしていないのに基本計画プランを量徳小学校の跡地でお金を出して、またやるのか。築港でもお金を出して基本設計をやったが。 | 病院の関係については言われたとおり、色々と経緯があるが、今日は南小樽地区ブロックのBグループの再編についてどうするかということで皆さんのご意見を聞きに来た。 |
| 9 | <p>量徳小学校も南小樽地区だ。ここと同じグループなので聞きたい。量徳小学校のブロックの統廃合が進むということになれば、同じ南小樽地区に入っている天神小学校も進んでいくということだと思ふ。この奥沢、天神だけやるということではないと思ふ。分けてやることは可能なのか。同じ南樽地区でありながら、量徳小学校の話は違う話だというのは変だと思ふ。</p> <p>なぜ学校の統廃合のために、ブロックに分けて行ふのか。バスで通わせて、もっと大きな範囲でブロックを形成しても良いと思ふ。人口も子どもも減ってきて、また同じことを何十年か後に繰り返して学校の統廃合をするのであれば、もっと大きなブロックでの統廃合が可能ではないのか。銭函や塩谷方面は別として、同じ南樽地区でやるのであればプランと違うやり方もあるのではないのか。国道5号線で分けなくても良いと思ふ。子どもがたくさんいた方がよいのであれば、南樽地区全体で新しい学校を建てたほうが良いと思ふ。そうすれば、2回も統廃合をしなくて済むのではないのか。耐震化されていないのだから校舎はどうにかしなければならぬ、それであれば思い切って、病院に150億もかけるのであれば、きちんとしたグラウンド、きちんとした体育館を建てて、生徒の安全を確保できるような学校を建てた方がよいのではないのか。そういうことから南小樽地区の量徳小学校の件を聞いただけだ。ぐちゃぐちゃ言ってもらわなくて結構だ。</p> | <p>このブロック全体で考えてどうかという話だが、私どもとしては、今回たき台としてプランを示してみんなで議論をしていこうということなので、色々ご意見をいただき、今後の協議の材料ということで話は聞いていきたいと思ふ。</p> <p>今の意見は、ここのブロックでは、Aグループ、Bグループに区分せずブロック全体5校で考えた方がよいという意見ということによろしいか。</p> |

南小樽ブロック

| 会場 | 会場での発言（質問・意見・要望） | 教育委員会の発言（回答・説明） |
|-----|--|---|
| 天神小 | <p>5校でなくてもいい。花園小学校や入船小学校を入れても良いと思う。地域にこだわってはいない。道新記事では、「量徳小学校の統合の時期が2012年の3月と明らかとなった。」と書いている。「このため、量徳小学校、潮見台小学校と同じグループの若竹小学校で1日にも地区別懇談会を開催することになった。」ということも言っている。たたき台だと言っているが、自分たちのプランを押し付けるのと同じことだ。札幌のような大都市でさえ学校の統廃合を行っている時代だ。そうすると、もっと将来を見据えた形で、花園グラウンドを学校のグラウンドにしてもいい、総合体育館を小樽中央小学校の体育館にしてもいいではないか。そういうふうにもっと大きな目で、児童がどんどん減っていくと、小樽市の人口も14万人切ってから、今、13万3千7百人くらいしかいない。ものすごいペースで減っている。この状態でいけば、総務省かどこかで出した小樽市、何年か後に8万人というのも現実味を帯びてくるような話だ。今、統廃合しても将来にわたって本当にこれで良いのか、またやるのかという話になる。同じたたき台でも、皆さんどうですかと、率直な意見で、こういう地域を大きく囲ってしまって、バスで通うのも大変だと思うがどうでしょうかというプランも出しても良いと思う。なるべく小さくこちょこちょとやるのも手だろうし、大きく包んで本当にみんなに同意してもらって、子どもたちにも迷惑をかけるかもしれないがバスで通ってという気持ちでも良いのではないかと。素直にやれば良いと思う。大人の論理でやるのであればやらないほうが良いと思う。小学校は6年、中学校は3年で終わるが、小樽市の将来も考えたもっとおおきなエリアで囲っても良いのではないかと。銭函の人を小樽市内に来说いは言わないが、3校を統廃合しても結局3クラスにならない時期もあったわけで、そう考えると、やっぱり教育委員会がいろいろな児童が集まって和気あいあいと学校生活を送りたいというのであれば、そういうのも一つの手じゃないかと思う。いろんな意見を聞いてからプランを作ってやってくれた方が良かったのではないかと。自分たちが考えている以上に13万3千人の小樽市民の意見を聞いてからプランをつくったほうが一番良かったのではないかと。やっぱり自分たちの意見ではないと思う。</p> | <p>今の方の発言は、ご意見としてお聞きする。今、6ブロックに分けてプランを示しているが、例えば塩谷の方では、長橋中と塩谷中と忍路中、小学校で言えば幸小、長橋小、塩谷小、忍路中央小を統合すると考えた時に、教育委員会が示したプランとしては、かなり広域になるので、バス通学にしても10kmを超えるような通学になる案も出している。先程からお話している色々な視点、広域的なもの、市全体として考えた上で6ブロックに分けて考えた。その中でBグループも色々な観点から考えた時、実態としてバスが天神町から国道まで繋がっているという部分と、その下というのはまっすぐバスが繋がっていないわけで、やはり、グループを二つに分けて考えるというプランに行き着いたということだ。先程あったが、全くこのプランを押し付けるという姿勢ではないということを御理解願いたい。</p> |

南小樽ブロック

| 会場 | 会場での発言（質問・意見・要望） | 教育委員会の発言（回答・説明） |
|-----|---|---|
| 天神小 | <p>このプランを見ても、ただの数合わせにしか見えない。天神町の天神小学校、向陽中学校の2校ともがなくなる。ただでも高齢化率が高いこの地域では非常に寂しくなる。毎朝、子どもの通学時間には、交差点にボランティアが立って子どもと話をしながら送っていくという姿は見ていてもとても微笑ましいし、それが地域の一つの活力に繋がっていると思う。単純に数字合わせのプランはいらない。視点がおかしい。数合わせでいえば、天神と奥沢の統合のメリットは何もない。校舎は新築しなければならないし、最長通学距離は変わらない。人口は天神が減っていくので奥沢にしますというが、奥沢と天神は絶対的な人口が違い、現行の通学路を考えても、奥沢小を残すという根拠は何もない。</p> <p>11 量徳小学校に病院を建てるために、量徳小学校のPTAを黙らすために奥沢小学校と潮見台小学校のどちらでも良いと、もし奥沢小学校がなくなれば、選択肢が潮見台小学校しかなくなるから、量徳小学校のPTAの合意をとるために、天神小学校をなくす案を作ったという噂がある。数字合わせで天神小学校なくすということは、私は反対だ。天神小学校では野球やサッカーで地域が子どもを支えている。このようなことがなくなれば、老人だけの寂しい地域になってしまう。</p> <p>それから青色のパンフレットで、「以前の統廃合の時には次のような事をしました。」ということで、子ども110番の家、防犯ブザーの貸与、通学路の白線、カーブミラーの設置と書いているが、これは消していただきたい。なぜなら統廃合には全く関係ない、逆にこれに手をつけてなかったということに驚いた。</p> | <p>最後の意見の通学路の安全については、全くそのとおり、市全体で取り組んでいかなければならない問題だ。去年の説明会で、この会場では除雪の問題でお話をいただいたが、学校再編にかかわらず、学校の環境の整備についてはやらなければならないのは、当たり前のことだ。自慢げに言っているつもりはなく、なかなか日常的にそれが気づきにくいことから、今回、再編を契機にしてより一層こういったことにも取り組みます、取り組みました、という例示をした。</p> <p>それと先程、噂話ということであったが、そういう噂は本当にあるのか。そういう話があるのなら、私は言っている人と一対一で話がしたい。またそのような疑問を持っている方がいたら、教育委員会に聞いていただきたい。量徳小学校の病院の問題とこの通学区域の問題については、そういう発想は全くない。</p> <p>あと学校がなくなることで、その地域が寂しくなる、再編をすることが、逆に地域の活力をそぐことになるという話だが、それはある程度否定はできない面はある。今回の教育委員会の立場としては、学校の小規模化が進んで、施設も老朽化している。それを何とかしなければならぬ。広く言えば教育環境の整備と言っているが、そういう観点で今回の再編計画を進めている。地域の寂しさについては、十分承知をしているが、その問題と子どもの教育をどう考えていくかは、ある面では、両立できないかもしれないが、逆にそういう子どもを思う気持ちを通学区域が広がったことで、周りで包んでいただくように協力していただく、それは私どもとして、お願いをしていきたいと考えているので、根本的に地域の活力をそぐということをスタートにして学校の再編を考えているということではない。このことはご理解いただきたい。</p> |
| | <p>12 小中一貫校で、小学校で英語を教えるとか、小学校の音楽や体育は、今は1人の先生が教えているが、専門の先生がいたほうが子どもたちにプラスになるのではないか。この地区であれば天神小学校と向陽中学校、潮見台でも小中でというのは可能かを聞きたい。</p> | <p>過疎化が進んで学校の小さなところは、小中一貫というより小中併置という形があり、一つの器の中に、小学校と中学校が一つになっているという学校があるが、小中一貫校というのは一つの目的を持って、例えば今の6・3制を4・3・2制にするなどの仕組みづくりをしないと、学校一緒にして、小中を一緒に入れてただ先生が小学校、中学校お互いの生徒を見るというやり方は認められていない。小中一貫となると、校舎が二つの一貫校もあるし、一つの校舎の中で、例えば国語で独特の教育を先生方が3年も5年もかけて色々やった結果、小中一貫教育を進めるというのが一般的なやり方になっている。私立の学校ではそれがかなり進んでいて、小学校6年生の時に中学校1年生の勉強をやるなどの独特のプランを持ってやっているもので、例えば小樽でそれを導入するとすると、市民や保護者の合意を得てそのプランづくりに汗を流してやらなければならない、というのが小中一貫校の考え方だ。現在の段階では、ブロックに分けて学校を再編しようと考えているので、現段階で、小中一貫校という考えは別の課題だと思っている。将来的には小中一貫校を考えていかなければならないかもしれないが、今導入すると余計複雑になるので、その考えを今は持っていない。</p> <p>また先程説明した小中併置校についてもその考え方を計画に入れると、また複雑になるので、私どもはプランに基づいて示している。</p> |

南小樽ブロック

| 会場 | 会場での発言（質問・意見・要望） | 教育委員会の発言（回答・説明） |
|-----|--|--|
| 天神小 | <p>13 教育委員会は実際に学校に子どもを通わせている保護者の方に統廃合について意見を聞かずに計画づくりを始めていると思う。今ここにきて具体的なものを見せられ「参加者との活発な意見交換ができるように」という話だが、この会場でも参加者から述べた意見が出ているが、これについての回答が「ご協力ください。」「ご理解ください。」ばかりのような気がする。感想としては、単にお願いをしに来たように思える。 ここで出された質問や意見は、教育委員会が持ち帰って検討をされる可能性はあるのか。</p> | <p>学校の再編について意見も聞かずにままにプランの説明が始まっているという話だが、冒頭の教育長の話のとおり、学校の再編については、今年の6月の基本計画の素案の説明会をこの会場でも開いて、意見等をいただいている。さらにその前の年には、少子化が進むに当たって、学校の再編をしていかなければならないという考え方について、市内14校の中学校を会場として説明をして、そのあとに基本計画の素案ということで、41校の小中学校すべてを回って、意見をいただいて、そこでの意見が400件という話をさせていただいた。さらにその素案説明会をやった後に、何回か皆さんにはHPなどでお知らせをしながら基本計画の原案をまとめた。素案説明会の際には、具体的な案がなければ議論ができないという意見をいただき、実際にここここの学校を再編した場合に、どのような組み合わせで行って、規模はどの位になるのかを作ってきたものだ。決してこれがすべてというわけではないし、今の区割りの中でどういうことが子どもたちにとって良いのかという観点で作って示して意見をいただく場ということで、今日こういう場を設定している。この懇談会は、一回で終わるわけではなく、今日ここでこういう話をして終わりということではない。今いただいたような意見については、今後検討するものは検討していくという姿勢できている。</p> |
| 14 | <p>末広中学校の懇談会で費用のことを聞かれたようだが、奥沢小にしても天神小にしても、耐震工事が必要となっている。今の校舎を耐震化することだと思いがその時に1校当たりはどのくらいの費用がかかるのか。</p> | <p>22年度は、5校の耐震工事をを行う。長橋小学校、桜小学校、朝里小学校、朝里中学校、銭函中学校。耐震化工事について、費用的なことでは様々。耐震化の工法にもよるし、校舎によっては、一部耐震基準を満たしているところもある。一番かかっているところでは、概算で工事費は約2億弱かかっている。</p> <p>概算で2億円位という数字が出ていたが、その中には、暖房の工事など色々なものが入っている額だ。耐震化で言えば、施工面積にもよって変わるが、1億前後となると思う。</p> |
| 15 | <p>学校を建て替えなければならぬと。総計でどのくらいの費用がかかるのか。</p> | <p>こういう財政事情なので、最近では建て替えしていない。一番新しい部分では、中学校では菁園中学校で17～18億円。その場所によって、グラウンドの造成などに手をかける場合もあり、ばらつきはある。中学校ト小学校でも必要な施設に違いはあるから、その場所で状況が違うが、少なくとも十数億かかることになると思う。</p> |
| 16 | <p>先程あった耐震化の費用について、潮見台中学校では、3億近くかかると聞いていたが、さっきの金額は古いのか、具体的な数字は出ていないのか。</p> | <p>今、私がお伝えした金額は、今年度工事にかかる学校の部分で、円単位まで細かく言っているわけではないが、実際の契約した金額。3億というのはどこから出てきたのか分らないが、トータルすると何校かやっているのでそのくらいにほなるかもしれない。</p> |

南小樽ブロック

| 会場 | 会場での発言（質問・意見・要望） | 教育委員会の発言（回答・説明） |
|-----|--|--|
| 天神小 | <p>17 市内の小中学校は避難所になっている。統廃合を繰り返していくと、どんどん避難所が遠くなっていくが、その辺は市の総合計画と照らしてどうなのか。</p> | <p>避難所も含めて、学校の施設をどう使っていくかということについて、いわゆる跡利用の基本的な考え方について説明したい。教育委員会が昨年11月に適正化基本計画というものを策定している。この中に「廃止となる学校施設の跡利用について」ということで記載されている。「統合により廃止となる学校の建物や土地の利用については、市民の共有財産として、全市的な街づくりの視点で地域の皆さんの意見や、要望を聞きながら検討をしていきます。」という基本的な考え方がこの中に示されている。私ども学校の跡利用については、今日は、地区別懇談会という位置付けになっていてこれが何度か開催される。そのあとに説明会が開催されて、皆さんの意見が出されるので、当然議論が進んでいくと、地域によっては学校の跡利用はどうするのか、というように議論が進んでいくのではないかと考えている。そこで配慮しなければならないことは、市内の小中学校はすべて避難所に指定されている。これは小樽市が定めている防災計画というものがあって、その中できちんと位置付けをされている。それと学校の役割というのは、避難所だけではなくて地域によっては、コミュニティーの場として使われている学校もある。だから、直ちに学校が統合になったからといって市がそれを壊したり、処分したりということではなく、防災計画に位置付けられている避難所としてどうするのか、あるいは地域の方々が、それ以外にどういった使い方を望んでいるのかということから色々な段階を経て、お聞きする場面というのがあるので、そういったものを踏まえて私どもとしては、検討していきたいと思っている。将来的に施設を、具体的にどうするかになると、それを改修するためにどの位になるのかというお金の話になる。また、誰が運営するかという運営主体の問題も当然出てくると思うから、将来的にはそういった課題を解決しながら、施設をどのように使っていくのかということになるかと思っている。避難所としては、防災計画に位置付けているので、私どもとしては、全市的な配置などを考えながら、十分配慮していかなければならない問題だと考えている。</p> |
| | <p>18 量徳小学校のPTAの者。天神小、奥沢小、入船小を一つにするということが出ていたが、ブロック分けについては量徳小学校の懇談会でも見直してほしいとの意見が出ていた。他の地区と比べてこの南小樽地区と中央・山手地区は学校が近隣にあるため、このブロックで区分をしなくてもっと違う見方でプランを出してほしい。昨日奥沢小学校の懇談会に行き、終了後教育部長と話をしたが、量徳小学校の場合は病院の問題も絡んでいる。量徳小学校の保護者としては、小樽病院に関しては同意はしていない。量徳を閉校するというについては諦めていないので、もし小樽病院の量徳敷地の建設がなくなった場合のプランも作ってほしいと要求をしている。市がどうしても病院を建てるとなると、量徳小学校も来年いっぱいになってしまうのでもう時間がない。子どもたちにも動揺が広がっているし、新聞報道を見て泣き出す子どもたちも出てきている。市も教育委員会も早急に、慎重になって真剣に考えてほしいと思う。今まで量徳小学校から色々な質問や要望が出ているが、プランには一つも肉付けされていない。そのままで5月17日の潮見台小学校の懇談会に入っている。何のために量徳小学校の説明会を何度もやったのかと思った。先程、避難場所のことも出ていたが、量徳の地区も病院のために避難場所がなくなってしまう。双葉中学校のグラウンドだけでは、あれだけ広範囲の地域の人は避難できない。前回、市の説明会でもその話はしたが、何も回答をもらっていない。病院問題での市の説明会も強制的に終了された。このままで終わって良いのか。真剣にプランを立て直してほしいと思う。6月25日の量徳小学校の懇談会では、この内容でプランを説明する必要はない。違うプランを待っている。量徳では、委員会を立ち上げて話し合いの場を持っていきたいと思っている。</p> | <p>今の件で、一つだけ話をさせてほしい。量徳小学校のPTAから市の方で、アンケートをまとめてそれに対する回答を要求された。その中には、避難所のこともあり回答はしていると思う。書類で回答していることを確認したい。PTAから話があったことについては、可能な限り、誠実にということとは適当ではないが、答えられる範囲のことはやっていると、教育委員会では認識している。この話はまたあとで話をしたい。</p> |

南小樽ブロック

| 会場 | 会場での発言（質問・意見・要望） | 教育委員会の発言（回答・説明） |
|-------------------------|--|--|
| <p>天神小</p> | <p>19 40年近く前の話だが、昔、奥沢天神に生徒が多かった時代天神の終点から小樽市駅へ松ヶ枝緑経由でバスを通してほしいという要望を出したが、いまだにバスは通っていない。案としてあげても答えも帰ってきていない状態だ。その頃私は子どもだったが、親に聞いても答えは返ってきていないとのことだ。そういうこともあるので、きちんと述べられたことについては最低限答えてほしい。</p> <p>20 先程の避難所の話だが、総合計画がどうだとか訳のわからないことを述べていたが、学校がなくなれば、維持管理をどうするということよりも、避難所自体がなくなるんですか、どうなんですかと聞いたのだ。けがした人が奥沢小学校まで行くことになるのかと聞いたのだ。維持管理の話はどうするのか聞いたわけではない。何も答えてないような気がする。</p> <p>21 学校全部を残すのか。</p> <p>22 私は量徳小学校の卒業生だが、学校が火事になって避難したことがあり、その時は潮見台小学校に一時仮住まいをした。避難した時に小学校6年生のお姉さんが点呼をとっている時に泣いていた。それはよく記憶をしている。自分の学校がなくなる、焼けてしまうということだけで、小学校6年生のお姉さん方は泣いていた。それだけ学校とは離れても愛着のあるものだ。ただ人がいないからといって勝手に大人の論理で潰していくようなことを本当にして良いのか。お金をかけるべきところにかけてやっていく。小さい学校は小さいところなりに良いところがある。大規模な学校はそれなりに良いところがある。今の世の中、人がいなくなれば、コスト削減で何でも切ってしまうのか。新しい病院が出来たら良い先生が来ると市長は言っているが。意見を聞くのであれば、新しいプランを作って持ってきてほしい。プランを押しつけるのではなくて、いろんな意見が出てくるので、もっとそういうのもって話を持ってきてほしい。多少犠牲を払わなければならないというのなら、なくなってしまうこともあるだろうが、そこはみんなで素直に話し合っていけば良いと思う。</p> | <p>量徳小学校のPTAからアンケートで寄せられたものについて回答していることは知っている。市としては、基本的に答えはお返しているはずである。ただ、なかなか実現できないものもあると思うし、市が主体でやれるもの、やれないものがあるので、すべてのご要望に答えられるものではないということをご理解いただきたい。</p> <p>総合計画の中ではなく、防災計画の中に、市内の41校の小中学校が避難所に指定されている。学校が廃校になったからといって、直ちに解体をして処分をしてしまうということではなく、地域に避難所としての機能は当然置いておかなければならないので、学校の跡利用として、地域によっては避難所として残しておかなければならない場合が出てくるのではないかと思う。</p> <p>詳細については私どもこれからどういった形で残していくのかということも含めて、検討をしていきたいと思っている。</p> |
| <p>潮見台小・中 5月17日</p> | <p>1 資料の3ページについてお尋ねする。耐震化優先度の①とか②-2とかの記述はどのような意味か。</p> <p>2 子どもが潮見台中学校に在籍している母親です。なかなか突然質問と言われても……。他の方の意見を聞いてから意見を出したいなあという気持ちもあります。少し潮見台中学校の関係の方とお話させていただいて、意見を言うというのは難しいでしょうか。</p> | <p>耐震化優先度を付けるというのはある程度学校の数のある町の場合、耐震化を一遍にはなかなかできないので、どういう順番で次の耐震診断をやっていくかという順番をつけるための一定の指標があって、構造やコンクリートの状態とか古さなどから、この学校から早く耐震診断をしていったらどうかと言う順番付けだ。○で囲んだ数が少ない方が先に診断をしていったら良いのではないかという順番付けをしている。①の中でも量徳小学校や奥沢小学校で②-1とか②-3がある。②-1の方が優先度が高くなっている。あくまでも、これは次の耐震診断を行う順番を決めるための指標なので、必ずこの数字が少ない方が構造的に弱いというものではない。それは次のもっと詳しい診断を試みないと分からない場合もある。</p> <p>こういう場を設定したのは、例えば、PTAの役員の方であっても、PTAを代表して意見をいただくという場ではない。当然地域の方も入ってくるし、あるいは町会役員という肩書きを持っている方も、いるかもしれないが、まず率直に会場に来ておられる1人として、ご意見あるいはプランに対しての要望、これからのことも含めて、感想でも結構ですが、いただければと思う。教育委員会は今日は、何でも聞いていこうという姿勢ですので、あまり格式ばらずにお願いをする。</p> |

| 会場 | 会場での発言（質問・意見・要望） | 教育委員会の発言（回答・説明） |
|---------------|--|--|
| <p>潮見台小・中</p> | <p>3</p> <p>潮見台中校区で量徳小学校の方が、皆さん菁園の方に行かれる方が多い。本当は潮見台中学校に通うはずの子どもが少なくなっているように思われる。この計画を進めるに当たって、潮見台中校区の方は、潮見台にいらしてください、ということで進めないかと再編計画が今の状態だと、菁園に行きたいというお子さんは、そちらに行かれるので、中学校は潮見台が残るように聞こえるが、そうなった場合生徒数が計画どおり集まるのかという心配がある。</p> | <p>今、発言された方、お子さんが潮見台小学校卒業して本来であれば潮見台中学校の校区だが、いわゆる特認で、菁園中学校に行くお子さんが多いという・・・。今日の図面にもあるが、菁園中学校に行くお子さんと潮見台中学校に行くお子さんがいるが、多くのお子さんが菁園中学校に行くということをおっしゃると思う。特認申請は、そういう傾向が極めて強いということがある。特認の部分について、基本的には決められた校区の学校に行ってください、いくつかの理由はあるが、その理由に合致すれば、他の校区の学校に行っても良い、という仕切りになっている。それで、量徳を卒業したお子さんが、潮見台ではなく菁園に行くのが多い理由というのは、量徳の卒業生に限らず、菁園中学校は、特認を受ける例が極めて多い。その理由は、女子では圧倒的にプラスバンド、男子ではサッカーで部活動が理由に挙げられる。菁園中は、グラウンドも狭くて大変だというのは、一方であるが、他と比較してそういった理由が多い。ただ、街の中心部にある学校では、稲穂小や花園小もそうだが、ご両親の勤め先の関係で、全体としても多い傾向はあるが、それにしても多い。</p> <p>市内の中学校は、14校あるが、1学年あたり子どもさんの数がずっと減ってきている。そうすると、野球部はできるけど、サッカー部はできない。またその逆の面もある。多くのお子さんが、小学校の時代から少年団で活動していて、中学校に入ったら、部活動をやろうと思っていて、自分の通う中学校にその部がないとなるとそのお子さんにとっては大変なショックになると思う。それでその希望する部活のある学校に行くということになる。そういう流れは、もう十年近くと言っても良いかもしれませんが、すごく多くなってきている現状はある。だから学校再編ということではないが、小学校ももちろん、中学校では部活を考える時、一定の規模の学校を作って、選択肢のできるように体制を作っていくかなければならないと思う。今の中学校の部活では地域の方々のご協力をいただきながら、いわゆる外部指導者に教えていただく、確か潮見台小学校では、野球で外部指導者の方にお手伝いをいただいていると聞いている。ですから、教育委員会としても、特認を良しとしているわけではないが、市のホームページにも載せているとおり、いくつかの特認の条件を認めている、合致すれば、だめということにはならないというのが現状。ですから私どもとしては色々な学校活動が一定程度できるような形の学校作りを進めていかなければならないと思っている。今いただいたご意見の対応にはなっていないかもしれないが、誰でも好きように学校に行って良いということではなく、やはり、いくつかの理由というのを掲げていて、その理由に合致する部分については、特認を認めるというのは、基本的なスタンスであるので、そこのところはご理解をいただきたいと思う。繰り返しになるが、それぞれで活力のある学校づくりによって遠くの学校に行かなくても、それぞれ自分の校区の学校で色々な活動ができるような、そういった体制というのは作っていかなければならないと私どもとしては考えている。</p> |
| <p>4</p> | <p>地域の者としてご質問したい。当然統合ということで学校が減ると、資料の中にも、一番遠いところからの通学距離というのが述べられているが、全体としてお聞きするが、例えば新一年生になるお子さんが、通うと、それが、学校にいる時間が短かろうが長かろうが、登下校の距離については、保護者の方も、ご心配な面があるかと思う。バスの停留所の距離もあるかと思うが、将来的にスクールバスで学校に入ったばかりのお子さんだとか地域的に、限定的に、出てくるのではないかと危惧をしているのですがその辺はどのようにお考えですか。</p> | <p>通学の手段ということで現状をお話しする。現在バス通学で児童生徒にかかる通学支援制度があって、路線バスを利用する方には通学距離によって、小学生では片道2キロ以上、中学生では片道3キロ以上の区間があると、バスの通学費の助成制度を受けることができる。その他に路線バスを利用できないお子さんがいたら、スクールバスを将来的に考えていかなければならないと思うが、現状ではスクールバスは、銭函小学校と長橋小学校と忍路中央小学校の3か所で運行している。今後の部分については、皆さんのご意見を聞きながら、路線バスかスクールバスかの協議をしていきたい。</p> |

南小樽ブロック

| 会場 | 会場での発言（質問・意見・要望） | 教育委員会の発言（回答・説明） |
|--------|--|---|
| 潮見台小・中 | <p>5</p> <p>（意見） 全国的に少子化の傾向にあつて、小樽だけでなく、どの地区も小中学校の再編成は避けて通れない道だと思うが、小樽市の教育委員会を始め市の皆様が大変御苦労なさって計画を立案されているということが大変よく分かる。ここを皮切りに、全市的に説明をしていただくということを大変ありがたく思う。今日プランを見せていただいて、具体的なことについてこうとはなかなか言えないが、このプランを見て感じたことは、プラン1とプラン2を見比べて、小学校のグリーンで、示された区域、それから、中学校のピンクで色分けされた区域が大きく差の出るところだが、私が見て、通学距離それから将来の学級数で言うと、プラン1では、27年度の中学校では9学級、それからプラン2の方では、12学級編成が可能と見て取りましたが、そのような学級数から見ても、できれば9学級よりも12学級の方が私は望ましいと思いますので、通学距離、学級数の面からプラン2の方が望ましいのではないかと個人的には十分勘案されて、将来決定していただければありがたいと思う。</p> | |
| | <p>6</p> <p>現在中学校に通う娘がいる。3年生なので、今回の再編にはかからないと思うが、2年後に下の子が小学校にあがる。先程の方が言われた色分けされた区域に住んでいて、話を聞いていても、プラン1が良いのかプラン2が良いのか本当に迷う。この色分けされた区域に住む人達に対する説明会を別に開くなどの対応が今後あればと思う。</p> <p>もしこのプラン2となった場合、朝里ブロックになるのですが、朝里ブロックではさらに数年後に中学校の再編成があることを考えると、どうにも悩ましい限りです。親として、どちらを選択すれば良いのか。今、上の子は、境界線にいるものですから途中で引っ越ししたこともあつて、特認を使って潮見台へ通わせていただいている。潮見台が慣れているものですから潮見台が良いのかという悩みがある。今後、この悩みを解決したいので、この区域の人にどうですかと話す機会があつたらと思う。</p> | <p>今日は量徳小学校の保護者の方もこられているようだが、量徳とはこの間何回か話し合いを進めて来ました。それ以外の学校では、こういった案を出して、懇談会を開催するのは、私どもは今日が初めてで、皆さんも資料をご覧になったのは、今日が初めてだと思う。ですから、前段で司会の方からもあつたが、私ども基本的には学校再編は進めていかなければならない。それで我々、教育委員会の人間が考える案として、一つではなく二つのものを出しました。正直言って私どもどちらが良いのか今の段階では考えていない。この図面を見ると文字どおりそうですが、潮見台小中の方は、どのプランでも動きがない。ですが、若竹校区それから量徳校区の方は、小学校区と中学校区の間でどちらかの選択になるか。極端な言い方をすると、例えば、小学校の緑色の二つの部分があるが、もしかしたら、この部分が、両方とも、中央・山手地区と朝里地区のブロックに行くこともある、だけでも、一つのブロックがこの南樽ブロックにきて、片方は、朝里ブロックの方に行くということで、これだけではない、私どもが示している二つのプランだけではなく組み合わせについては、三つも四つも出てくることはある。ただ、それを私どもがこの冊子に全部載せるわけにはいかないの、その基本的なところを作つたということにしている。</p> <p>今日から各学校でのこうした懇談会を開いて、こういう言い方が適切ではないかもしれませんが、今日は潮見台小中の懇談ということで、教育委員会のお示ししているたたき台としては、小学校中学校とも潮見台としているのでそれほど意見は出てこないだろう思っている。これが若竹、中学校で言えば向陽とかそこへ行くとき相当色々な意見が出てくるだろうと思う。ですから、私どもは、この懇談会を一当たりやって、それぞれ地区から出てきた意見を飲み込ませてもらい、場合によっては次の話し合いは、Aグループ皆さん全体での話し合い、あるいはBグループ全体での話し合い、そういったことも当然あり得ると思う。個別でもあると思う。それから今ご発言にあつたとおり、この緑色のエリアの人だけで、もし話し合いが必要であれば、言っていれば私どもは行きます。今日は、こんなに一杯来ていますが、こんな人数では行きませんが、担当者が、この地区の人たちだけで懇談会を開いて欲しいというオファーがあれば、私どもは相談します。ただ、7月一杯まで夜は、このような形で懇談会を開いていますので日程調整をさせていただかなければならない部分はあるが、ここの会場でも1回で終わるわけではないのでぜひお帰りになった後でも、周りの保護者の方とも相談をしていただいて、どんな場所でも言っていれば、私ども何うので、そういうことで、お願いしたいと思う。</p> |

南小樽ブロック

| 会場 | 会場での発言（質問・意見・要望） | 教育委員会の発言（回答・説明） |
|---------------|---|---|
| 潮見台小・中 | <p>7</p> <p>この資料を見て、かなり時間を使われて努力されていると思う。ただ正直言って少し分かりづらいという印象を持っている。お願いだが、もし27年度の人数の把握ができているのであれば、住んでいる人数を地図に落としただけであれば、ここには人がいる、ここにはいないというのが分かる。確かに範囲は広いけれども、住んでいる分布がよく分らない。ひょっとして5年後にはその人が卒業すれば、この地区に誰もいなくなるかもしれない。もし可能であればそういう資料をいただければと思う。</p> <p>あと先程から話が出ているが、緑色やピンク色の区域に関しては、隣接ブロックの情報が欲しいと思う。それがないとなかなか判断しにくい面がある。今後の流れとしてそのような資料があればと思う。</p> | <p>今のお話の中に2点程あった。一つは住んでる方の居住分布、年度を特定すれば、現在の住所ごとにこのように拾っていますので、ただそれを落とした際に、どの位のものに見えるのかということもあると思うので、今の話は、承って検討させていただきたい。もう1点、隣接ブロックの考え方ですが、プランそのものは、市内6ブロックに分けたものを市のホームページ等で公開はさせていただいているが、今日、受付で資料として「広報おたる5月号」の関連記事をお配りしている。この中では、ページ数の関係でなかなかすべては書ききれないが、考え方として、このブロックで言えば、先程の小学校のプラン2の関連、量徳小学校の関係、桜小学校の関係は資料として整理をさせていただいている。例えば、小学校のAグループのプラン2の若竹小学校校区を朝里地区へ行った場合、これにつきましては、7ページの⑤として表現させていただいている。ただそこで、切り取っていく子どもさんの部分とか、数ということに関しては、この冊子にしか書いていないので、手元には、この冊子全6ブロック分ある。資料としてお渡しすることはできるので、言っていただければと思う。</p> |
| 若竹小 1 6月1日 | <p>1</p> <p>2年程度かけてとあったが、それは決定事項か。若竹小学校は2年のうちに統廃合になるということか。全くの白紙の状態から考えていくのではなくて2年後なのか。</p> | <p>「学校の統合を進めるに当たって」のリーフレット、この中で2年程度と書いている。全市的に41校を21校にするという計画であるから、実質20校が減ることになる。経験的に言って、3中学校を統合した時の準備期間、それから堺小学校を統合した時の準備期間、当時の関係者の声を聞くと、少なくとも1年、できれば、もう少しという声をたくさんもらった。結果としてそれだけの準備期間が確保できない中で統合したという形になったが、今回は助走期間をある程度取っていきたい。ということで全市的な統合を進める上での考え方として2年程度ということで打ち出している。ただ、このブロックに関しては、病院問題があり、量徳小学校が含まれるグループで若竹小学校もAグループという考え方を持っているので、病院の工事が始まる、その中で、ある程度の年限を決めてこのブロックの再編を考えなければならないと思っている。では量徳にすべて引きずられるのか、という声が当然出ると思う。教育委員会では今回のプランの中で、学校の位置として、色々比較、検討した結果、潮見台小学校が適切だという一定の判断をしているが、それに至る経過の中では、適否については、一つは若竹小学校というパターンを出していることで、そういうこともあるかも知れない。教育委員会では潮見台小学校ということを出していることで、そのプランの是非について意見をいただきたいのと、量徳小学校の閉校の時期と、同時タイミングで潮見台小学校を統合校とするという形になれば平成24年ということで実質的な準備期間は1年半ぐらいという形になると思う。</p> |

南小樽ブロック

| 会場 | 会場での発言（質問・意見・要望） | 教育委員会の発言（回答・説明） |
|-------|--|--|
| 若竹小 1 | <p>2 先程の質問は、白紙からのスタートではないのか、ということだと思ふ。これについて イエスカノーかということだ。</p> | <p>このグループ3校の中で、潮見台小学校が適切だという表現をしている。ただ、これは一つの案として出しているもので理解をいただきたい。このAグループの中では病院問題があるので、量徳小学校で言えば、平成24年度の段階で移るとことになる。潮見台小学校に統合しなければならないと思っている。潮見台になるか、一部花園小学校になるかという選択肢はあるが、統合はしなければならない。その時に若竹が同じ時期なのか、もう少し準備期間を置いてやるべきなのかは、議論のあるところだと思ふ。準備ができないということであれば、準備なしでは行えないと思ふ。先程2年と言ったのは、この地区別懇談会で全校の会場を回っているが、統合校が決まるのであれば、あまり長い時間をかけないで必要な準備をやって統合を迎える方が良いのではという意見も出ている。統合校を決めてから3年後、4年後に統合となれば、毎年1年生は入ってくるので、その1年生の保護者は迷うと思ふ。だから、決まった以上は準備期間を一定おいて統合に向かうべきだ。それでは、今決めて来年すぐに行えるかということとはいかない。具体的な準備はある。例えば、学校によっては教材が違うかもしれない。そういったことは事前の準備の中で、先生に他にも色々議論をしてもらって、教材は同じものでスタートして行こうとか、そういった部分が必要だろう。それから子どもたちの交流も2年も3年も交流をするわけにもいかないので、例えば統合が24年と決まれば、その前の1年間、同じところに遠足に行き交流する、お互いに学校訪問をしあうとかそういったものをして統合に向かう。PTA同士の交流も同じだと思ふ。その意味で2年程度の準備期間というのを考えている。言われたように、量徳の関係で24年だから絶対に24年なのかということもあって、まず今日懇談会を開催させていただいて、6月22日も予定をしているから十分話し合いをさせていただきたいと思っている。</p> |
| | <p>3 今の話の中で、確認だけしておきたい。私たちは新聞報道に今の説明をあわせて聞くと24年度には新病院を建て始めたいということだと思ふ。そう考えると量徳小学校は、新病院を建て始めることで統廃合することを確認して潮見台小学校を中心として再編することが望ましいのではないかと教育委員会は考えている。それで、色々な経験を踏まえると、2年程度の時間をかけていきたいという思いもある。それでは教育委員会が24年度の病院建設に向けてベストと考える、量徳小学校にも確認はできている。そういうことからいくと、若竹小学校もあまり時間を掛けすぎないで同じような時期に潮見台小学校に移ることが教育委員会としては、子どもたちにとっても地域にとっても良いと判断しているという受けとめ方で良いか。</p> | <p>基本的にはそのように受けとめていただいて良いと思ふ。ただ教育委員会として思っているのは、リーフレットに統合後どんな協議をするのかを載せているが、左側の方に7、8点書いている。今度の再編計画は、市内41校全部やるということなので、今回の再編の基本的な考え方として、ある学校がこの学校に吸収統合されるという考え方だけではなく、それぞれの地域で新しい学校を作るという視点も持ちながら進めていきたいと考えている。その場合は文字どおり今日からの議論になるが、可能であればこのAグループの中で一つの学校を作るとした場合、例えば校名はこの学校の名前で良いのだろうか、違う名前も考えられないだろうか、そういった議論もしていかなければならない、するべきだと思っている。そのようなことから、まず量徳と潮見台が先行し、後発に若竹ではなく、同時期に可能であればやっていきたい。ただ、もちろん選択肢としては、今の小学校を3校全部ということも視野に入れて示しているが、量徳小学校で菁園中学校に通う校区は隣のブロックへということについては、議論をしていかなければならないと思っている。同時にできればその方が良く私どもは思っている。</p> |

南小樽ブロック

| 会場 | 会場での発言（質問・意見・要望） | 教育委員会の発言（回答・説明） |
|-------|--|--|
| 若竹小 1 | <p>若竹小学校では統廃合するのに教室の数が少ない、そして数年のうちに建て替えが必要だとあった、であれば建て替えをして欲しい。若竹小学校に説明に来てプランやパターンを示しているが、若竹小学校が物理上無理だとしても建て替えという道があるのであれば、プラン3や4として、若竹小学校存続の提案があっても良いと思う。これは統廃合の説明ではなくてブロック別学校再編プランの説明なのだから学校名を変えることよりも、若竹小学校に来てせっかく説明してもらっているのだから、若竹小学校を建て替えて残すというプランもあり得ると思う。そういう示し方もしていただけたら、若竹小学校の子どもたちのことを大事に思っていると私は感じる。</p> <p>統廃合を二度重ねないよう期間を置く、もし私が潮見台小学校の保護者だとしたら、今回は量徳が来た、今回は若竹が来たというようになれば、潮見台小学校は迎える側として2度経験することになる。そういうことをきちんと話してほしいと思う。</p> <p>量徳小学校の保護者には何回も説明をしてきて、今日ここに樽病のことを質問されたら答えるように病院の担当者も来ている。量徳では色々なことを説明してきて、若竹の保護者は新聞報道でしか分らない。同じグループであれば、量徳と同じく病院の今後や見通しについてももっと具体的に話をしてもらっても良いのではないか。量徳ではそういうことをしてきたから一定の協力を得ることができたのだと思う。私は前のPTA会長として教育委員会からこの5月、6月に懇談会を開催したいという話を聞いた時に総会の時にも呼びかけを受けたところだが、これだけのことを話そうと思ってきているのなら、呼びかけするところも親切にしなければいけないこのブロックでは、病院のことは切り離せないのだったら、この資料の説明に限らず、病院の見通しについてきちんと話をしてもらわなければ、何のために私たちは協力をするのか分らない。以前、私たちは協力できることはすると言ったが、その代わり子どもたちに関わる安全の問題などについては教育委員会が、最後の砦となってほしいということも話をした。これが実際に最短の2年間でできるということが私たちにしっかりと納得させられなければ、2年間で量徳に追いつくために急かされることはないと思う。前回の小学校適配案の白紙撤回後、教育委員会が量徳小学校の保護者と話をしてきた時間というのは大変貴重な財産として残っていると思う。私たちにもその時間は必要である。もしそれが2年に限らず数年間かかったにしても、後になってその時、そう判断して良かったと思えるような納得のいくものにならないといけない。若竹小学校の子どもも歩幅というもある。先程部長が言われたように、統合まで何年もということであれば、新入生は入ってくる。ただその側面だけではなく、病院の問題を私たちが本当にそうだったと思えるように、量徳小学校と同じように私たちに時間と情報を流していただきたい。</p> | <p>今の話の前半部分で、若竹小学校存続のプランが欠落しているという主旨の話があったが、教育委員会では今回の検討資料を作るときにこのAグループの通学区をどう考えようかということ为先程の図面の黄色い部分で説明をした。小学校のプラン1、プラン2で統合校の位置として、潮見台小学校、若竹小学校、パターンと言っているが、その中で、若竹小学校を全く度外視して最初から検討しなかったということではない。基本的な学校再編の考え方についてまず話をするが、ある学校を存続させるのか、あるいはどこかの学校を残すのかという議論をしたくはなかった。これは去年あるいは一昨年の説明会や懇談会でも再三言ってきたが、ある学校を、ある学校に移して吸収統合するという考え方ではなく、学校再編はしなければならないと言え、当然一つの地域に行けば、特に小さい学校の地域では、学校をなくさないでくれという議論に終始してしまう部分が、あながちないとは言えない。地域に学校があった方が良いのは十分理解するが、もう少し大きなエリアで子どもたちの教育環境を考えていこうという提起をここ2年やってきた。今回そういうことを踏まえて、ある学校を存続させるのか、残すのかという切り口ではなく、一つの通学エリアの中で、どこが統合校の場所として相応しいのか、そういうことを考えればその施設が使用に耐えられるのか、耐えられないのか、耐えられないとしたらどう補修が必要なのか。場合によっては、建て替えということも他のブロックでは、統合校の位置を決めた後に示しているところもある。そういう中で、この南小樽ブロックについては潮見台小学校を統合校にする中で、通学上の安全をどうするか、という議論に進むような道を作っていきたいと考えている。このプランを見ただけであれば分かるが若竹小学校をなくすという構成にはしていないつもりだ。</p> <p>病院問題が全市的に大きな問題だということは間違いない。ただ量徳小学校と病院敷地ということからすれば、以前の小学校の適正配置の時も一つの大きな議論があって、一度築港に行って、そしてまた量徳に戻ってきたという相当複雑な要件というのが重なりあって、量徳校区の皆さんにご理解をいただかなければならない比重は極めて高いものがあつた。昨年の7月2日に第1回目の説明会をやって5月11日に一定の方向性を出した。10ヶ月程度の中で議論した。病院の方向性について知りたいということは、どここの地域の方も思っていると思う。理解いただきたいのは、この会は学校再編の議論の場であり病院がメインではない。ただ、市の出前講座の中でもメニューにあがっているので、地域やPTAで病院の現状や病院建設について知りたい、意見を言いたいということがあれば、病院の担当者と呼んで話を聞いていただければと思う。南小樽地区のAグループということで、量徳との関係はあるが、量徳の病院問題を含めてこの場でのやりとりは、避けさせていただきたい。</p> |
| 5 | <p>量徳に関しては、平成24年の3月に閉校ということで考えて良いか。量徳のPTA、地域は反対もあるかもしれないが、基本的には同意をしていると考えて良いか。南小樽地区ブロックについては、病院問題を切り離して考えて欲しいとあったが、どうしても病院問題に引きずられているところがある。病院の建設で平成24年着工は難しいという話も聞くが、実際平成24年3月で量徳を閉めた後、病院建設が何かの事情で1年、2年遅れたとなった場合もあり得ない話ではないのではないか。そうなった時に若竹小学校も引きずられてしまうという可能性がある。そういうことから私たちも、病院の話について聞きたいと思っている。その辺を包み隠さず話をしてほしいと思う。</p> | <p>隠すということではなく、教育委員会から病院について話すことはできない。ただ、今の話でいうと、平成24年から量徳敷地での建設工事を始めることの意味決定はしている。具体的にいうと今週から始まる6月議会で基本設計再開の予算を計上する。一番大きな問題は百億円を超える建設事業だから、起債を起すために国から許可をもらわなければならない。国から許可をもらうためにクリアしていかなければならない色々な条件があるが、今回財政状況などについて見通しが立ったことから基本設計に着手をしていく、そういう流れである。</p> |

南小樽ブロック

| 会場 | 会場での発言（質問・意見・要望） | 教育委員会の発言（回答・説明） |
|-------|--|---|
| 若竹小 1 | <p>6 上の子が潮見台小学校、潮見台中学校ときて今中学3年生。途中で若竹に引越してきたので特認で潮見台小学校に通った。先日潮見台小学校での懇談会でも発言したが、潮見台は受入校ということもあって参加人数もあまり多くなかった。今日、多くの人が参加していると思ってここにきたが、そうでもない。在校生すべて、これから子どもを学校にあげる家庭のすべてから意見を聞く方法はないか。親としては下の子がこれから入学するので、今後どうなるかということが不安だ。保護者である以上それぞれたくさん意見を持っていると思うが、発言がなかなかできない中で誰かが言った意見で話が決まってしまうのは嫌だ。保護者や地域を含めて、すべての人から意見を聞くようにお願いしたい。</p> | <p>「受入校」とか「廃校」ということは、抵抗があるということからこのプランでは「統合校」という言葉を使っているのでご理解いただきたい。 話合いの仕方については、一昨年に基本的な考え方を示して地域懇談会を行い、昨年は市内42ヶ所で基本計画素案の説明会を開催した。そして今回は、プランについて懇談会を行っている。結論からいうと一人一人の意見を聞くというのは不可能だ。実は昨年、平日の夜の説明会に来られない方を対象に、日曜の昼に開催したが3名しか参加しなかったという経験がある。当然、できるだけ多くの意見を聞きたいので、例えばPTAの会合にも呼んでいただければこちらから出向いて話をするということが可能だ。ただ、こういう形の懇談会ですべての方に来てもらうということには限界はあると思う。開催のお知らせについても学校、幼稚園・保育所の保護者、地域に知らせていることをご理解願いたい。</p> |
| 7 | <p>特別支援学級についてはどのように考えているか。うちの子どもは現在特別支援学級に通っていて、2年後では6年生で他の学校に通うことになるので、先生や中身についてどのようになるのか。</p> | <p>基本的には、準備期間での交流とか大括りの部分での考え方については持っている。ただ、特別支援学級に通っているお子さんの場合、人との接し方の面で相当気を使いながら、考えながら持っていかなければならないと思う。統合校と同じ種別の学級があれば、事前の交流もやっていく、先生にお子さんの状態等を十分理解してもらうことが必要だと思っている。ただ、移る学校にその種別の学級がなければ、開設をするという基本的な考え方は持っている。</p> |
| 8 | <p>特別支援学級と通常の学級の子どもは、交流する場が少ないが、若竹の場合は通常の学級で活動させてもらっている。これが変わるのには困る。</p> | <p>若竹小学校には今3人の子が特別支援学級にいるが、潮見台小学校にも量徳小学校にも特別支援学級はある。潮見台小学校を統合校の位置として、三つの学校が集まるとなれば増えることになるので、スムーズな移校について配慮する部分と考える。</p> <p>子どもさんの疾患や体の状況に応じて、個別に対応していくというのが基本になる。交流ができない状況もあるが、交流が前提なので統合校でも同じように交流はしていく。</p> |
| 9 | <p>指定校変更の弾力的運用については、図面で色分けされている境界にある場合については、子どもの交友関係を考えて、意思是尊重してもらえるのか。</p> | <p>指定校変更の弾力的運用については、資料でも在校生、新入学生それぞれについて触れている。統合が決まって何年に統合ということになれば、それを先取りして事前に新入学の子どもについては、全員がそういうことではないが、先取りして新しい学校に行くことができる。在校生については、交友関係や新しい通学区域になった時に、こちらの学校が近いとなった時、これは通学距離が遠い近いで通学区域を決めないため場合によっては逆転現象が起きることもあるから、そういった場合は「特例を設けて学校指定に関する弾力的な運用を行います」。先程具体的な事例を地図で示したが、プラン2の方の緑色の部分、若竹小学校の一部が朝里ブロックの学校に編入という場合、友達と別れていくということになれば、その子どもが卒業するまで、友達と一緒に指定された学校ではない緑の区域の子どもが通う学校にと、特例を設けて弾力的に行う、という趣旨だ。</p> |

南小樽ブロック

| 会場 | 会場での発言（質問・意見・要望） | 教育委員会の発言（回答・説明） |
|-------|--|--|
| 若竹小 1 | <p>10 廃校すると決定した学校の校舎については、老朽化している部分については、一切手をつけないということか。</p> | <p>施設面について統合校とならなければ一切手をかけないのかという質問だが、統合校とならない場合でも、他の学校と同じように手をかけていきたいと思っている。具体的に洋式トイレについては、全校各階について1ヶ所は洋式にするということで全校進めている。地デジ化については、6月までに全部のテレビは新しくできないが、放送設備を利用して各教室のテレビが見られるようにということで進めている。水のみ場についても、赤水が出た場合はすべて直していく。大規模な改造は難しいが、子どもの安全や健康に関わることについては、これまでどおり統合校になる、ならない別にして進めていく。</p> |
| | <p>11 教育予算の要望で何度も出しているが、若竹小学校では網戸も入れられない。色々な要望を出しているが、どれ一つとして受け入れられない。昨年7月には壁が落ちたが、直ったのは9月だった。教育委員会が若竹小学校に注ぐ愛情がどの程度のものかが知れる。病院建設については、起債の話もあったが無理やり黒字を作ってきたのではないか。学校には、網戸も入れられない、トイレの要望も受け入れられない、赤水も出ている。それすらも手をかけてもらえない。信頼関係のないところから話が進んでいけないということ意見を言いたい。</p> <p>病院の問題をここで説明するのがメインではないという言い方。「出前講座を使えば良い」ではなんで病院の担当者が来ているのか。量徳小学校では、何度病院関連の話をしてきたのか。南小樽ブロックでは、病院建設という問題を抱えていると言いつつ、5月11日から1ヶ月半の間が空くから不安に思っていると思いきや急遽説明にきたと言いつつ、病院の話は出前講座で聴けというのは随分お粗末な話だ。量徳小学校で出来たことがなぜ若竹小学校で出来ないのか。潮見台小学校がベストと考えるという説明があった。だったら若竹小学校にも手をかけて欲しい。子どもたちは無限大の可能性を持っていて柔軟性もある。これが1年先延ばしになれば、若竹小学校で卒業できる子もいる。6年生で、たった1年間、潮見台小学校に行かなければならない子も出てくる。しっかり議論する2年間という時間がもうスタートが切られているという気持ちが強い。南小樽地区では病院問題が特に大きな問題だと言っておきながらそれを出前講座に任せるとするのはとんでもない話だ。それに対して教育委員会の感想を聞かせてほしい。</p> | <p>病院問題の関係について、今日来ているのは、企画の担当者で病院の方ではない。この懇談会の意図は、基本的には学校再編の問題だということをご理解を願いたい。病院についての、病院の是非などについては、それぞれの思いはあると思うが、それについての議論は、病院を議論する場ではないとさせていただきたいというのが基本だ。ただ、量徳では自分たちの学校のあるところに病院を建てるかどうかということもあったため、文字どおりその病院がどうなのか、必要性がどうなのか、なぜこの場所でなければいけないのかも含めて議論はさせていただいた。そのことと、学校再編は関連があるが、そのものではないということをご理解願いたい。</p> |
| | <p>12 22日も説明があるということなので要望だけ伝える、質問はしない。24年3月に統合になる、その時6年生になる子はどうなるのかという質問があったが、それに対する答えが通り一遍だ。どうしてもっと親身な話ができないのか。交流をやるということは前段の説明で聞いている。残り1年をうちの子どもはという質問ではないか。統合校にも先生がいるから事前に交流をします。その人が3月までに転勤をしたらどうするのか。もう各論の段階だ、このような回答では、教育委員会に任せるという気にはならない。保護者は不安に思っている。22日の懇談会では、そこを酌んでいただいて、分かりやすい、丁寧な説明を要望する。</p> | <p>「総論ではなくて各論で話せ」ということだが、私どもも今日初めてこのプランを持ってこういう場を持たせていただいた。通学路でここから桜小学校に行く場合は、ここが危ないとか、潮見台に行った場合は、道はどうだという課題が特別支援学級の場合、たくさんあると思っている。お願いになるが、今日プランを出させていただいて、6月22日もあるので、今日来られていない保護者の方に出ればPTAの方からも話をさせていただいて、次の時にたくさんご意見ご要望を聞ければと思う。</p> |

南小樽ブロック

| 会場 | 会場での発言（質問・意見・要望） | 教育委員会の発言（回答・説明） |
|------------------------|---|---|
| <p>若竹小 2 6月22日</p> | <p>1 この会議に出るのは初めてだ。今、統廃合という枠組みで進んでいるが、統廃合の目的を教えてください。</p> | <p>学校再編の目的ということで質問があったが、まず、今回の学校再編に当たっては、現在の小樽市の少子化の現状が一つ。昭和39年当時は小中学生が約4万人いたが、現在では8千人程度になっている。まずはこの少子化に対応していくというのが一つ。もう一つは市内の小中学校の施設の老朽化もあって、これらを合わせた中で、学校再編を進めていって、結果として子どもたちの教育環境の向上を図っていこう。そういう観点からこの学校再編に取り組んできている。</p> <p>今回このような形でプランとしてお示しをしているが、このプランを作るに当たっては、昨年は「学校規模・学校配置適正化基本計画」というものの素案を作って、昨年42会場を回って意見をいただいてきた。さらにはその前年には、「学校再編にあたっての基本的な考え方」というものを作って14会場で皆さんのご意見を伺った。</p> <p>そのような経過があって、これらを踏まえて現在お示ししている「たたき台」というようなものをお示しながら、このような意見交換、懇談会をやっていこうということだ。</p> <p>その中で今回示した「たたき台」というのは、昨年の規模・配置適正化基本計画の素案の説明をしている中で教育委員会がどういう考え方を持っているか議論の「たたき台」を示すべきだろうというご意見もいただいたので、この再編プランというものを示して皆さんとこういう協議の場を設けてきているという状況だ。</p> |
| | <p>2 今の話を聞くと、教育環境の向上と言っているが、コストの削減とか一切関係ないということよろしいか。</p> | <p>去年の6月だったと思うが、基本計画の素案をお持ちしてここでも説明会をさせていただいた。その時に学校を再編していかなければならない必要性として、担当からの説明の繰り返しになるが、一つは小学校でいえば、市内27校の小学校があるが、現状でも7割の学校が1学年1クラスになってしまっているという現状がある。</p> <p>教育委員会としては、小学校については、クラス替えだとかそういったこともできるようにと考えていて、1学年2学級、12クラスの学校を作っていきたいというのを基本的な考え方として持っている。</p> <p>それからもう一つ、今の方からお金のことは関係ないのかという話もあった。端的に言って、お金を節約するために学校を再編するという言い方はしていない。ただもう一つ、今の市内の小中学校の現状として相当古い学校が多くなってきている。実は、手宮小学校、色内小学校、量徳小学校ではもうすでに築50年近くになっている校舎がある。それでこの若竹小学校ももうすでに35年経っている。だいたい学校というのは40年から50年くらいで、新しい学校に建て替えていくという考え方で進めてきているが、これから大量に建て替えを迎える学校が出てくる。そういった意味では、今回の学校再編というのは、少子化と学校施設の老朽化に対応していくために、この学校再編をしていかなければならない。簡単に言うと今後もずっと小樽市が41校の学校を持ち続けるというそういう実態にはない。子どもの数から言っても施設の状況から言っても。そういう意味では、この学校建設というのは、相当お金が掛かるわけだから、お金の部分も間接的には関わる問題だと思っている。</p> |

南小樽ブロック

| 会場 | 会場での発言（質問・意見・要望） | 教育委員会の発言（回答・説明） |
|-------|---|--|
| 若竹小 2 | <p>現在1年生の子どもの親である。今までそういった認識がなく、こういった問題があまり大きくなっているという認識がなかったので、大変申し訳ない部分もあるが。</p> <p>3 今2クラスについて話しがあったが、1クラスであるということのメリットもあると思う。そのメリット、デメリットをきちんと教育委員会はまとめられているのかというのが1点、それから建物のコストの問題というのであれば、この小学校は、例えば他の老人も使って費用を賄うような形にするとか、そういった色々な発想の仕方ということではできないのかどうか。お答えください。</p> | <p>1クラス、2クラスの部分の話だが、繰り返しになるが、この基本計画はご覧になったことはあるか。この学校再編を行うに当たって、教育委員会としてはなぜ2クラスなのか、単純にいうと、1クラスの小さい学校でもメリットもある。ただ、このままどんどん少子化が進んでいく、(学年)1クラスであっても、そのクラスがさらに20人とか15人とか少なくなっていく、そういった中では、やはり学校の再編というのは考えていかなければならない。それを考えると、やはり1学年2クラスというのが、学校を運営していくには望ましい姿だろうと考えている。後で見たいと思うが、私どもの考え方としては、例えばクラブ活動とか、学校行事、小学校では、運動会とか学芸会とか色々な学校行事があると思う。そういった部分では、やはり一定の規模の人数が必要だと思っている。</p> <p>それから教員の配置にしても、6クラスの教員配置と、12クラスの教員配置は当然違うわけで、特に中学校については、専任免許の関係、要するに数学の免許持っている先生が数学を教える、その数学の先生が、音楽も社会も色々教えるということはやはり避けていかなければならない。そういった考え方を持っている。それから子ども同士の交流の部分だが、やはり一定の人数がいることによって、クラス替えだとか、そういったものの色々な経験を積んでいける。今まとめて申し上げたが、その基本計画の中には、そういう視点のことも書かせていただいている。</p> <p>学校の利用の関係だが、現状では教育委員会としては、学校の建物を学校として使いながら、その場で、どういった施設が想定されるかは分らないが、例えば、老人施設だとかそういったものを併設するという考え方には立っていない。</p> |
| | <p>4 2クラスのメリットは分かるが、1クラスのメリットは考えたことがないのか。</p> | <p>繰り返しになるが、この基本計画の中で書かせていただいているが、小規模な学校の特長としていえることは、例えば児童生徒一人一人に全部の先生方の目が届きやすい。逆の意味で、子ども同士の間でも緊密な関係が作りやすいというのがある。これはある意味、裏と表の部分も出てくる。それから、郊外にある小さな学校、小樽でいえば豊倉とか張碓とかそういったところでは、周囲の自然を生かした色々な取り組みができる。あるいは体育館や教室などの施設が割と自由に使いやすい。どこの学校でも体育館は一つずつあるわけだから人数が少なければ使いやすい。そういったことを小規模校の長所というかメリットという部分でこの計画にも記載をしている。</p> <p>この話は実は、平成18年から教育委員会、市民の皆さんも含めて、議論を重ねて積み上げてきている。18年に市民で構成される組織を作って、そこで1年程度、色々な11回の会議を開いて一つの方向性を出していただいて、教育委員会に答申をいただいた。そのあと平成20年にその答申をベースにして教育委員会で、「学校規模・学校配置の基本的な考え方」というのを作った。これはあらあらのものだが、そういったものをまとめて、これについては当時小学校、中学校の全保護者、それから、幼稚園や保育所にも概要版を作って、お配りをして、なかなか目に触れる機会がなかったと思うが、そういう形で、このようなことをやっているということをお知らせしてきた。それから、去年の説明会の中でも、そういった一つの考え方について、これも概略版を作って、同じように小学校、中学校、それから、幼稚園、保育所全部の保護者にお配りをした。また、新一年生の家庭にも、同じようにそういうリーフレットを作って家庭に配布をして、今までの議論の経過ということで、お知らせをしてきた、というつもりだ。ただ、その辺のところ、なかなか目に触れる機会がなくて、少し唐突だという印象があったのかもしれないが、今説明をしたような経過だ。</p> |

南小樽ブロック

| 会場 | 会場での発言（質問・意見・要望） | 教育委員会の発言（回答・説明） |
|-------|--|---|
| 若竹小 2 | <p>5</p> <p>最後に確認をさせてもらいたいが、昭和48年ごろに過疎法というのができて、それに沿って、当時の文部大臣から全国の教育長に通達が来ているということで、その流れで進んでいると思うが、地域の紛争等を防ぎながら、お互いに理解をして進んでいっているということによろしいか。こういった会議を何度も重ねて進んでもらえる、これからもそうしてもらえるとということによいか。</p> | <p>お詳しいようなのでお話をすると、昭和30何年か(昭和31年11月17日)に当時の文部省で通知が出されて、学校統合に関する一つの考え方を出した。ただそのことで全国でトラブルというか住民と軋轢が出ているケースがあったということで、昭和48年に文部省がよく住民と話し合っってこういった問題は慎重にやっってくださいという通知が出ている。</p> <p>教育委員会は、現在その通知が有効になっているので、それに基づいて平成18年から色々な形で議論を積み上げてきているという経過になっている。</p> |
| 6 | <p>現在在学中の子どもたちは、交友関係などを考慮して特例という形で、対応していただけるということだが、再編後に入学する兄弟については、校区外でも同じ学校に行くことができるか。</p> | <p>結論からいえばできる。今でも学校の再編とは関係なく、特認の要件というのを何点か掲げている。学校にもあるし、市のホームページ、教育委員会のホームページで指定校変更の手続きというところを見ていただければ出ている。何らかの事情で兄が他の学校へ行っていた。今度妹が行くときに兄と同じ学校へ行っって良いかというのは、OKという条件になっている。今4年生で、仮に平成24年にどちらかの学校へ行っって在学中で、その後に妹さんが入って来る。その場合には許可される条件になっている。</p> |
| 7 | <p>先日幹事会を行い、この懇談会に出られない方に、ぜひ聞いていただきたい意見はないかと募ったところあったのでお聞きする。先程と重なる点もあると思うが、統廃合のメリット、デメリットについて教えてほしい。メリットについては先程、説明があったので結構だが、デメリットについて教えてほしい。</p> | <p>今、会長さんが言われたのは、統合に当たっってのメリット、デメリットということで小規模校のメリット、デメリットではないと思う。</p> <p>メリットは先ほどのことと関連するが、一定の規模の学校になることによって、小学校の場合は学芸会や運動会、クラス替えなどにより学校が活発になるといった面がある。在学中のお子さんにとっては、3年、4年この学校にいて、よそへ移るということであるから、見だ目のメリット、デメリットではなく、気持ちの問題、心の問題はあると思う。今まで仲の良かった友達と別れる、違っ学校になるとか。私どもは特認の対応はするが、どこでもそうだが、2年、3年いると愛着が育まれるわけだから、転校というデメリットは一番大きいことだと思っ。私どもとしては、出来る限り統合に向けての一定の準備期間を設け、子どもさん同士の事前の交流をする。新聞でも御承知かと思っが、今、どこの町でも学校再編はやっており、先日木仁木の80人くらの小学校と10人くらの小学校が統合する。10人の小学校の子が、毎月1回統合校へ行っって、交流をするというのを新聞で見た。そういう取組は事前の準備の中でしっかり取っ組んでいかなければならない。繰り返しになるが、デメリットの大きなものは、途中で転校しなければならぬということが子どもにとっての一番大きな負担だと思っ。</p> |
| 8 | <p>資料の関係で聞きたい。前回、Aグループのプラン1というのがあったと思っが、今回は配られてないようだが、これはもう没になったのか。</p> <p>それともう一点、量徳小学校の保護者に聞いた話だが、量徳小学校では若竹小学校も統廃合になることが決定になったような文章の25日のお知らせが配られているという話だが、それはどういふことか。</p> | <p>前回お配りしている小学校のプランを今回はお配りしていない。だからなくなったということかとのことであるが、1日に参加した方には、資料を配付していることから、今日プラン1やプラン2の説明を求められた時には、今日配付した居住分布の資料で代替できることから配付しなかつたものである。プラン1は取り下げたわけではない。</p> <p>量徳小学校の懇談会の案内の件だが、24年4月の統合に向け協議をという表現をしており、若竹小学校が無くなるという記述はしていないので、理解願いたい。</p> |

南小樽ブロック

| 会場 | 会場での発言（質問・意見・要望） | 教育委員会の発言（回答・説明） |
|-------|---|---|
| 若竹小 2 | <p>9</p> <p>前段の部分に戻ってしまいが、例えば、若竹小学校が廃校になったとして、学校の再編というのも色々心配はあるが、学校は災害があった時の避難場所に指定されていると思う。この学校が無くなった時、その代わりについてはどうなっているのか。逃げる場所がなくなるという不安がある。</p> | <p>避難所のことは後ほどお答えするが、跡利用の基本的な考え方は、先ほど来教育部から説明している昨年11月に作った適正化基本計画という中に、跡利用の基本的な考え方が示されている。「廃止となる学校の跡利用」という項目があり、今お手元にはないと思うので、読み上げるが「統合により、廃止となる学校の建物や土地の利用については、市民の共有財産として、全市的なまちづくりの視点で地域の皆さんの意見や要望を聞きながら検討します。」というのが基本的な考え方。そういったこともあり、私はこの地区別懇談会に同席しているが、まず跡利用については皆さんの意見を聞くというのが基本的な考え方である。</p> <p>避難所の関係だが、小樽市地域防災計画が定められており、市内の全ての小中学校が避難所に指定されている。学校の統廃合に当たっては、地域防災計画に位置付けられている学校の避難所としての機能を残せるか、十分に慎重に考えていかなければならない問題とと思っている。各地区で同じような質問があるが、私どもとしては、地域防災計画に基づき、慎重に考えていきたい。</p> |
| | <p>10</p> <p>前回の説明を受けて、今日、第2弾ということで話があったが、後段、資料に戻る形で申し訳ないが、このブロックの再編プランの8ページにAグループの4年生の欄を見ると、児童数が40名、学級数1、合計11クラスになっている。先程大野部長さんからのお話があったが、1学年1学級というのではなくて12学級の学校を作りたい。そしてそれが子どもたちにとって、「大変良い環境だ」「教育委員会としても、12学級という環境をぜひ作りたい」という話をいただいたところだ。ただ、今までの意見交換の中で聞いてみると、柔らかく対応はします。子どもたちの交流関係など、そういうものも鑑みながら、移動させるというふうになれば、このAグループの4年生の40人、学級数1という数字が崩れる可能性もあると思う。このことについて私たちにどのように説明していただけるのか。</p> <p>それから、先程、量徳小学校の25日の説明のお知らせでは、もうすでに統合時期云々というお話があったが、案内文を読ませていただくと、「南小樽地区ブロック小学校Aグループ量徳小学校、潮見台小学校、若竹小学校の統合校は潮見台小学校とし、統合時期を平成24年4月とすることについてご説明をいたしました。統合に向けては通学安全上の課題、児童や保護者の交流、施設の整備、教育活動に伴う、云々というふうにつき、統合に向けてのご意見や、ご要望をお聞かせいただくために、懇談会を開催いたしますので、参加いただきますようお願いいたします。」という文章が量徳小学校の方には配られているわけだ。私たちは6月の初めに説明を受けた時には、統合時期は24年の量徳と一緒にできれば良いという案だという説明を受けたが、統合時期を平成24年4月とすることについてご説明をいたしましたということには、私たちは全く合意をしているわけではないし、ましてやこの前の会議では、24年という数字を期限切って説明されて、私たちに期限切りで、見切り発車されて、尻を叩かれるつもりはないということで、発言をしてお願いしたにもかかわらず、このような説明の文章が25日の開催に向けて配られるということは誠に遺憾だ。この二つについて教育委員会の考えをお聞かせ願いたい。</p> | <p>まず、学級数の関係だが、先程部長の方から学校規模、小学校の場合は12学級ということで、クラス替えができるという話をさせていただいた。ここに書かれている27年度の推計ということで、このとおりになるというものでももちろんない。私どもが基本計画を作っていく中では、色々な意見をいただき12学級にならないということも、子どもさんの推移によりあり得るということを基本計画の中にも謳っている。何が何でも、がんじがらめでなんでも12学級ということではないということでは理解願いたい。</p> <p>量徳小保護者に配付した25日の懇談会の案内に関してだが、ここに書いたのは南小樽地区ブロック小学校Aグループの再編についてのくだりは今お話のあったとおりだが、私どもの意図としてはAグループをもう一度確認というか、ここに3校の名前を書いた。5月11日の説明の際には、南小樽地区小学校Aグループの統合時期は24年4月に向けて協力をお願いしたいとの副市長の発言もあり、そこを引用した形でこのように書いた。今お話のとおり、了解したわけではないというのは、先日のこの会に参加し、意見を聞いているので、そこは理解している。</p> |

| 会場 | 会場での発言（質問・意見・要望） | 教育委員会の発言（回答・説明） |
|-------|--|---|
| 若竹小 2 | <p>要望の部分も入るが、くれぐれも量徳小学校に25日に説明に行くときには、この文章が、誤解のないようにしっかりと教育委員会の方で、ご説明を冒頭していただければというふうに思う。それから、もしこのような文章が、量徳小学校に配布されるのであれば、本当は私たちにも、具体的にきちんともっと分かりやすく、危機感を持てるような案内文章が、6月1日の時にお願ひしたが、そういうものが本来であれば作られても良かったのではないかと思う。主旨も何も分らないまま、子どもから受け取ってない保護者もいるということを教育委員会の方には私はこの場所で伝えたいと思う。なので、これから子どもには何も責任がない。教育委員会が招集している会議で懇談会であるのであれば、あなたたちが責任をもって保護者の手にしっかり届く手段をとるべきだったのではないか。そして子どもの目にはなかなか私達は、触れさせたくないシビアな中身でもある。それは教育に携わる教育長初め皆さんであれば、その辺のところはお察しいただけると思う。ただ単に、学校再編といっても、学校が若竹の地域から無くなるかもしれないということが、子どもは文面を通して分かるので封筒に入れるなり、郵送するなり、色々な工夫を講じていただかなければ、帰って子どもたちの不安を煽ることになるし、私たち保護者に手紙が届かない問題も出てくる。これは私の要望だ。</p> <p>私は今日あまりお話をするつもりではなかったが、もうこの時間になると教育委員会の皆さんは、質問を集約して一方的に答えて時間になりましたのでここで打ち切らせていただきます。というのはこの間の流れだと思うので、私たちも仕事が終わって子どもたちにご飯を中途半端に食べさせて、大事な会議だと思っっているから来ている。なので、私たちがしっかりとこの時間を有意義に過ごせるまで親身にこの時間を、時間が8時だからといって区切ることなく、きちんとある程度、私達も節度を持つので、そちらから一方的に切るようなことはしないでお答えをいただきたい。そして先程、お父さんからの話もあったとおり、1クラスのリットがあるのかどうなのかというところでは、具体的な答えが何一つ帰ってきていない。私たちは、そういう具体的な話を聞いて自分たちの身に寄せてこの懇談会を成功させて、それこそ皆さんがいう次のステップにつなげたいと思う。それなのに皆さんがどうにでも取られるような大ざっぱな言い方しなないから質問してくださいと言われても、しょうがない。その辺も配慮していただければと思う。</p> <p>それで最後の質問になるが、資料に沿って言うと、桜小学校との兼ね合いが出てくるが、緑色と黄色の図面で、桜小学校は、後期見直しということになるが、単純な発想として、若竹小学校が今日配られたようなものでいくとしたら、若竹小学校の子どもたちは、桜小学校に、私は桜に近い方だが、単純に桜小学校に転入生として入ることになるのか、隣接校であっても、前期と後期で違うだけで統廃合、適正配置にかかった時、転校生として行くのか、それとも途中編入された時に、その学校がすべてシャッフルされて、私たちは新しいリニューアルということで、子どもたちが移ることが出来るのか、そういう具体的な素案も皆さんの中では、持っていると思うので、そういうものを持っているとか持っていないとか、私たちは具体的な話を聞きに来ているわけだからそういうところを答えてほしい。そして、皆さんが本当にこの計画をやりようとしているのだったら、熱い思いで、こういうところにこういう危険な場所があって、ここは安全だけれどもここには危険な場所があるということを調査した上で、このパターンを出されているのかどうかということをイエスカノーかで答えてほしい。</p> | <p>今、最後の方に質問、意見という形でまとめられていたと思うが、より具体的な部分での検討経過、そういったものはどの程度まであるのか、というようなお話だと思う。この懇談会は何回か繰り返していかなければならないと思うが、基本計画のその前の話も今回質問として出てきた。そういうことで、行きつ戻りつかという印象を持っている。そういった中で、具体編だけが先走っていくと、全体の流れといったものを皆さんと一つずつ合意をしながら、確認をしながら、共通の認識を持ちながら進めていきたいという思いもあるので、そこをうまく整理しながら進めていきたいと思っている。</p> <p>先ほど、話があった量徳小学校の関連と平成24年の関係について話をさせていただきたい。ご存知かと思うが、5月11日の量徳小学校の説明会の中で、市の方から文字どおり病院建設の関係で、平成24年度から具体的な病院建設の工事が始まるので、24年の4月をめどに、量徳小学校の統合をお願いしたい、ということで11日にお話しを申し上げた。その意味では量徳小学校については、24年の3月というのが一つの時間的なめどとして現実にある。</p> <p>それともう一つの議論として、この南小樽地区のAグループについては、私どもとしては通学距離とか、学校の施設状況、そういった中で潮見台小学校を統合校とすることが適切だと判断をしている。その中で、若竹小学校の位置付けということが出てくる。端的に言って、量徳には病院という問題があるから、若竹小学校には直接、敷地の問題についての病院というのではないから、例えば再編をするにしても、25年でも良いのではないかと、26年でも良いのではないかと。この議論というのは成り立つと思っっている。ただ、私どもの考え方としては、この南小樽地区のAグループの中では、やはり潮見台小学校を統合校の場所にして新しい学校を作っていくと、この基本計画にも考え方として述べている。そうした場合に24年に量徳が、量徳も花園に行くパターンと潮見台に行くパターンと両方あるのでどちらに行くのかは議論になるが、24年に量徳が来る。そのあと、1年後、2年後に、若竹が来るという形もあり得るが、新しい学校を作っていく。あるいは学校そのものとしても、毎年一定程度の人数、何十人という子どもたちが来るということは、学校運営上もこれはなかなか大変なことだから、私どもとしてはこの若竹小学校としても、その24年3月ということも、一つの目標にして、まだ2年弱あるが、議論ができないだろうか6月1日にもお話をさせていただいて、保護者の方からも「毎年来るというのも統合校も大変だ。」という議論をいただいた。確かに、若竹小学校には量徳と違う要素もある。ただ、新しい統合校に向けてどう議論をしていくのか、という部分で言えば、私どもとしては是非若竹小学校も、そのような日程の中で議論をしていっていただきたい。このところはご協力をしていただきたい、というのが私ども教育委員会としてのお願ひだ。</p> |

南小樽ブロック

| 会場 | 会場での発言（質問・意見・要望） | 教育委員会の発言（回答・説明） |
|-------|------------------|---|
| 若竹小 2 | | <p>それと桜小学校との関係、図面の緑色の部分が、仮に桜ということで選択した場合の扱い。一つは、今言われたとおり、桜小学校を朝里ブロックにしているので、そちらはどうなるのかという議論も当然ある。ただ、朝里ブロックについては、4校の小学校を3校にしていく考え方でいる。大きくいうと、朝里川で、桜と朝里、望洋台、豊倉は区切られているので、私どもの立てているプランでは、桜小学校はそのままになっている。長期になっているが、そのままという押さえた。昨日豊倉小学校で懇談会をやったが、豊倉と朝里との組み合わせ、豊倉と望洋台との組み合わせということで提案しているが、桜小学校は単独という状況で、後期の期間の中で動くかどうかという部分については私どもの持っているプランではそういう形では示していないはご理解いただきたい。</p> <p>それから通学路の安全の関係について、以前に何回も事故があったことも含めて、お話し合いをさせていただいている。今、桜小学校でも桜小学校から少し上がったところに、見通しの効かないところがあり、信号機設置ということで話が出ている。この図面の緑色の部分が、桜に行くとするれば、そこを通ることになるお子さんも出てくる。そういう課題について私どもは一つずつ対応していかねなければならない。交通安全上のことは、それぞれ学校でも安全マップなどで危険箇所を載せているので、私どもも一定程度は知っている。ただ今回の再編の中では、大きく通学路が変わるわけだから、仮にこの図面で言えば、黄色い部分のこの地点だけれども、潮見台に行く場合新しい通学路になる道路の具体的な危険箇所についての情報はたくさんお聞きしたいし、市としてもできることはやっていきたいというスタンスでいるので、是非具体的にそういった部分での要望や提案をお聞きしたい。</p> <p>今のやりとりを聞いていて、今日、大版の緑と黄色の資料しか出てなくて、先程、質問もあったが、「これで決まりなのか。」と思われているかもしれないが、そういうことではなく、あくまでもプランが二つあって、ここ若竹小学校の通学区域全部が新しい統合校に行く案と、桜小学校方面に行く案と、二つあって、ある意味、地域の方の選択だと。選択といっても全部預けるわけではないが、それについてじっくりと話を聞いて教育委員会で判断をさせていただきたいと考えている。そういった中で通学上の安全などについて率直に「それを考えると、分割案の方はよろしくない。」とか「分割案の方がより良いのではないか。」などの意見を、こういった話し合いは今日で終わりではないが、せつかくの機会なのでお聞かせ願えればと思う。</p> |
| | | <p>このブロックに限らず、隣接するブロックとの通学区域の見直しをするところは他にも幾つかある。今回この南小樽地区ブロックの中でも、この図面でいうと、左側の方の量徳小学校の校区に関しても、プランの中では、若竹小学校と同じような、中学校の校区を考えてはどうかという提案のプランという形になっている。先程もそれに関連して同じような質問があったが、関連してお答えはしているが改めてもう一度話をする。</p> |

南小樽ブロック

| 会場 | 会場での発言（質問・意見・要望） | 教育委員会の発言（回答・説明） |
|-------|---|---|
| 若竹小 2 | <p>12</p> <p>どういプランになるか分からないし、これから先どうい話になるか分からないが、例えば桜町中学校区の子は桜小学校、潮見台中学校区の子は潮見台小学校に行くというプランを出されているが、そうなった場合、例えば、潮見台中学校区の子は統合校として新しい学校を作ることになるかもしれないが、桜小学校に行く子どもたちは、統合校ではない。今同じ小学校に通っている子どもたちが、方や新しい統合校と方や桜小学校にお邪魔しますというように別れるというのはおかしい話だと思う。若竹小学校の子どもたちのことを考えてきちんとプランを出しているのか、ということ質問したい。</p> | <p>包み隠さず話をするが、おっしゃるとおり大変難しい問題だと思ひ、どのように整理ができるか考えている。今日はプラン2の方で出しているが、もう一つのプラン1で言えば、この図面の緑色の部分も黄色になるので、この地域全体として作るので議論として分かりやすいところはある。まだどちらかは決めていないが、通学距離などから見れば、この若竹小学校校区から見れば、学校より上の方の方々に潮見台小学校に行くというよりも桜小学校に行った方が距離的にはずっと良いだろうと思っている。そうなった場合、桜小学校と若竹小学校のグリーンの部分で、新しい校名、新しい教育目標、そういったものの議論がどこまでできるか。私どもとしては一切してはだめ、全部桜小学校にあわせてほしい、そういうスタンスではない。ただ、基本計画の中でも、新しい学校を作るとい一つの基本的な考え方。それともう一つは、今言われたように、その区域を統合するという考え方。その二つの中での議論をしよう、そういう言い方をしている。だから桜小との関係の中で、全然議論がないということではない。このグリーンの部分が桜小の方に行くということになると、準備はしていかなければならないから、そこの中でやはり議論はしていかなければならないだろう。ただ、黄色の部分との濃淡というのはどうしてもあると思う。</p> |
| | <p>13</p> <p>ここに学校があるという良さはたくさんある。例えば地区に学校があるから私たち保護者は、子どもたちを学校に安心して通わせることができる。もっと言うと、子どもたちが近くにいることによって、この若竹地区は活性化される。こんな良いこともあると思う。そして例えば、ここに住居を構えたいと思ひ人は、なぜ住居を構えるかという近くに学校があるから。子どもたちが大きくなって学校に進むときには、ここに通学するというこで、ここに住居を構える。若竹地区の皆さんは、そうして生活を送っていると思ひ。例えば病院が建つ。その都合によって、大人の都合によって、学校を統合するということは子どもたちにとってどれだけのデメリットがあるのか。もっと言うと環境が変わる。子どもたちには環境に慣れるのが早い子もいるし、遅い子もいる。そういう意味ではたくさんのデメリットをはらんでいると思ひ。数字上、各学校で12学級を維持するための学校再編であるのであれば、まだまだ見直す点がたくさんあると思ひ。個々にいる子どもたちのことをもっと考えてほしいと思ひ。前回は参加させていただいて、今日も話を聞いていたが、何か忘れ物をしているような気がする。安全面も大切だが、それよりももっと大切なものをもう1回見てほしいと思ひ。今までずっと聞いていてそう思った。</p> | <p>今、保護者の方から出された意見、否定する何ものもない。ただ教育委員会の一つの立場としては、やはりこれだけ子どもの数が減ってきている、そしてこのまま小樽の小学校27校をそのまま持っていくのかと、やはりそうはならないと思ひている。ある意味そこにあたる子どもさんたちの負担は十分分かる。ただもう一方でご理解いただきたいのは、私どもも平成13年、14年で中学校3校の適正配置をさせていただいた。そして前回、小学校で色々な議論になったが、堺小学校の再編をさせていただいた。そして、その当時から見てもさらに少子化が進んでいるという中でどこかでやっていかなければならない。そのことは、理解していただきたいと思ひ。</p> <p>それぞれ小学校27校を作ってきた経過というのは色々あるわけだが、直近で言えば、望洋台にも団地を作って、学校が必要だということで望洋台小学校を作っているし、中学校も作った。そのような経過の中できているが、現実にこれだけ減っている中では、学校再編は手がけていかなければならない、ということで教育委員会としては考えているし、一般論としては一昨年からのような懇談を何回もやってきており一定程度理解をいただいていると思ひ。ただやはり、自分の地域、自分の学校となると、それはやはり出てくるのは当たり前だと思ひ。私どもとしては、何とかこのような場で話をしながら、こういう形での議論をしながら、他の学校で出てきた意見などもホームページなどで載せているので、そういった部分で、できるだけもっと広がるようにご協力をお願いしたいと思ひている。言われていることは分かるし、子どもが大事だということは私たちも全く異論はない。</p> |

南小樽ブロック

| 会場 | 会場での発言（質問・意見・要望） | 教育委員会の発言（回答・説明） |
|-------|--|---|
| 若竹小 2 | | <p>今改めて学校再編の観点というか、基本的な立場といったものの説明をした。ただ、今お話をした方の発言に拍手が起こったが、そのことから見れば、やはり子どもの伝え方がまだまだ足りないのではないかと感じている。冒頭の説明の中でも、この学校の施設の状況について触れている。昭和47年建築で、もうすでに38年経っている。学校というのはさっきの説明の中にもあったが、最長でも50年くらいで1つの建て替えの時期が来る。今38年経っているからあと10年くらいで、建て替えの話をしなければならない。これは若竹小学校の問題だけではない。昭和50年代に建てた学校が小樽市内にたくさんあるが、それに次から次と建て替えの時期が到来する。そういった時に、今から10年後、20年後にどういった学校の配置になるのか、その辺のところもぜひ議論を深めていただきたい。今日はそういうことに多くの時間をとることもできないが、また改めてこの懇談会の中でお話をする機会があれば話をしていきたいし、逆にその辺のところをもっと詳しく話してくれということであれば、全く話することはやぶさかではないので、そのような立場だ。</p> |
| 14 | <p>今までの話を聞いていたが、私たちの意見を聞いて教育委員会としては、どういった決断をする考えなのか。ただこうやって集まって、意見を聞きますというふうに集まるが、統合はいたします。という話し合いのような気がしてならない。その辺を聞かせていただきたい。</p> | <p>最初に「統合するのか。」という部分についてのお答えだが、子どもは統合を進めていかなければならない。その意味では、極めて事務的な言い方をさせていただければ、プランで二つお示しをしている、そのどちらかを選んでいただく。選んでいただくプランによって通学路が決まってくる。それに対しての安全対策、事前交流といった部分について進めていきたいと考えている。ただそのめどがいつなのかということについては、中学校での統廃合も経験しているし、小学校も経験している。正直言って全員の方が賛成しているとはならない。極めて大ざっぱな言い方をすれば、それではこの時期に具体的に準備を進めていこうか、という流れのようなものはある。その部分で言わせていただければ、私どもは24年の4月に向けて、何とかご協力をいただけないか、その部分については基本的なスタンスとしては持っている。ただ、昭和48年の文部省の通達の話があったが、やはりこの学校の再編というのは、このような話し合いを何回もやっていくことがまず必要と考えている。最初から絶対反対、最初から話を聞かないということではなく、交通安全上の対策がきちんとされるのであれば良い、とか色々な条件があると思う。そういった部分でこれからは何度も話し合いをさせていただきたいと思う。</p> |
| 15 | <p>内容が全然変わるが、もし潮見台小学校と一緒にすることになったら、他の量徳小学校の遠い方も変えようということになると思うが、もし仮にそうなった場合、高学年だとすんなり歩ける場所と思うが、遠い人たちにすると、5号線の交通量の多い場所や線路があって踏切があるが、うちは築港だが、低学年だと歩いて見ても、とても危険な場所で、道路の下をぐったり暗い場所を通ったり、歩道もなく、踏切を通して、大きい子だと慣れて行けると思うが、1年生では通えないような距離の方でも築港に限らずいると思うが、その辺は危険なところに、若竹でも交通指導員がいるが、危険なところには交通指導員をつけてくれるのか。ちなみに、うちの子はこのまま統廃合になれば、3年生から通うことになるが、危なくてとても通わせる気にはなれないと思う。道路を新しくするとか、交通の面も考えてほしいと思う。</p> | <p>交通安全の関係だが、交通指導員が、ここの入口のところにも配置されているが、これから通学路を確定していく中で、信号の問題とか、確かに築港から上がってくる車のスピードもあるのですが、そこところは現実的に話をさせていただきたいと思っている。どの経路が一番安全でどうしてもここを通らなければならないときはこういう状況が一番安全で、ここを通らなければならないときはこのような道路事情だから一定の指導員になるのか、交通安全対策というものはあるのでお伺いをしていただけることはしていかなければならないと思っている。</p> |

南小樽ブロック

| 会場 | 会場での発言（質問・意見・要望） | 教育委員会の発言（回答・説明） |
|-------|--|---|
| 若竹小 2 | <p>16</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プランの決定はいつどうやってするのか。 ・私たちが合意したとかまだだとかいうのは、誰が決めて、どういうふうに私たちに教えるのか。 ・桜町中学校はなくなるのか。次いつにしようという計画を立てているのか。 | <p>桜町中学校については後期に入れている。ご承知のとおり、桜町中学校と望洋台中学校と朝里中学校の3校が朝里地区にあるが、計画では2校という位置付けにしている。ただ難しいのは、一つの大きな要件としては望洋台が今後どのようなようになっていくのが今のところ見極められない。1工区、2工区と家が建ってきて3工区に建ち始めている。計画としては4工区として潮見台の方までいく大変大きな団地になる。単純に桜町中学校と朝里中学校だけで言えば、基準にしている9学級以上というのは、まだしばらく確保されることになる。当面、望洋台を中心にした子どもの動向がどのようになるのかを見極めて考えていかなければならない。その意味では桜町中学校を今年耐震診断が終わって今耐震化工事の実設計をしているので、後期は平成29年からだが、今の段階で桜町中学校がなくなるということはこのプランでもいいきれない。もう少し子どもの人口動向を見ていかなければならないと思っている。</p> <p>それと、今日お示している図面では、単純に言って、中学校区で分けてこのような色分けになっている。議論の中で、この緑と黄色のラインがもう少し動いても良いのではないかという議論があれば、それはまたもう一つの課題になると思う。実は私も若竹町に住んでいて、中学校は桜町中学校だったが、当時はずっと潮見台側の方が桜町と潮見台の境界だった時代もあったので、この線引き自体もこれで完全に固定ということではなく、もう少し潮見台側に線引きをしたほうが良いとか、この辺は桜町中学校の方にいれた方が良いとか、そういった議論があれば私どもとしては当然話し合いをしていきたいと思っている。</p> |
| | <p>17</p> <p>今話を伺って、どれも全部不安だ。例えば、私たちが、この若竹小学校がなくなること反対しても2年後にこの計画を実行されるのか。</p> | <p>私どもとしてはこういう形でお示しをさせていただいて、今現状でも色々なご意見をお持ちの方がいらっしゃると思うが、私どもは、このプランにご理解をいただいでご協力をいただけるよう、できるだけこういった説明会を続けていこうと思っている。</p> <p>皆さん反対なのにやるのかと聞かれて、みんなが反対だがやるぞ、とは言えない。そういうことがないようにするために、こういった懇談会をやっている。そのところはご理解いただきたい。</p> |
| | <p>18</p> <p>まちづくりの観点ということから、この若竹町をどうしていくのかということが非常に大きいと思う。築港再開発という形で、大規模な開発をして道営住宅もありマンションもある。そして古い道営住宅も直している。また、開発の官舎の跡地も空き地のままになっているし、こういったまちづくりという観点で、ここは築港駅の近くだから、非常に通勤の便もよく、実は私は札幌に通勤をしているが、そういった部分で、JR 1本で通勤できるという非常に魅力的な街だが、将来的に小学校がなくなれば、この地域のまちづくり自体がどうなってしまうのか。そういったことは教育委員会とは別に、小樽市の政策の部分になると思うがそれをどのように考えているのか。</p> | <p>今お話された方、おっしゃるとおり、この地区は小樽築港駅に大変近く札幌への出入りも便利な地区だということで、ある程度国道に沿った形で、住宅も張り付いていると考えている。若竹地区の土地利用、あるいは、ここの学校の今後のあり方、そういったものについては先程お話をしたとおり、まずは皆さん方のご意見を聞いて、最終的には学校の統廃合とは別にこの若竹小学校今後どのような形で使っていくかというようなことで、これまでも、過去に何校か学校の統廃合を経験してきたが、それと同じく私ども企画政策サイドとしても、その地区のまちづくりをどう考えていこうかと意見交換会を設けているので、そういった中で皆さん方のご意見をいただきながら、今後の若竹地区のあり方を一緒に考えていきたいと思う。</p> <p>特に学校というのは、教育の場としての機能だけではなく、先程も質問があったが、避難所としての機能を持っているし、地域によってはコミュニティーの形成の場としての機能を持っている学校もある。こういった希望を今後当然出されて、今はまだ個人レベルの意見が中心になっているが、地域としてこういった形にさせていただきたいということも当然出てくると思う。そういった形で私どもはご意見をいただく中で、当然配慮していくものは配慮していかなければならない。一方、行政としては残して利活用する施設をどう改修していくのか。これには当然費用が掛かる。誰が今後維持管理をしていくのか。運営主体の問題もあるから、そういったことを総合的に考えながら地域のまちづくりを考えていきたいと思う。</p> |

南小樽ブロック

| 会場 | 会場での発言（質問・意見・要望） | 教育委員会の発言（回答・説明） |
|--------------|--|--|
| 若竹小 2 | <p>19 今日とは前回に比べると、ストレートな回答が聞けたと思う。皆さんも前回よりは良かったかと思っっていると思う。適正配置の資料を読ませていただいて、懇談会を重ねていって、皆さんの同意が得られた学校から順に実行していきたいという文言があったが、懇談会を数多く開いて意見を聞いて、そしてあくまでも教育委員会の方で、最終決定を判断するということが良いか。どこかの段階で何を持って合意を得たということではなくて、あくまでも教育委員会の方で、最終的に判断を下すというようにこちらはとらえてよろしいのか。</p> | <p>今、会長が言われた部分、大変難しく、どこで見極めるのかということがある。繰り返しになるが、私どもも皆さんに一生懸命丁寧な説明をしながらご理解をいただいた上でやっていきたいというのが基本的なスタンスだ。 一方では先程申し上げたが、この地区では、量徳との関係で24年3月という一つの時間というものもあるので、精力的な話し合いをさせていただきたいと思う。どこで見極めるのかというのは、大変難しいが、今日量徳小学校のPTAの副会長も見えているが今週の金曜日にまた量徳のPTAとの懇談会を行う。</p> |
| 向陽中 5月24日 | <p>1 資料の2ページで、平成27年度の人口推移について町別に示しているが、奥沢、天神、真栄から向陽に通っていることを考えると、この数字自体違ってくるのではないか。この数字は、あくまで町別の人口推移ということか。</p> <p>2 プラン1プラン2とあるが、これを根本的に変えていくということはないのか。例えばここだと、天神小学校と向陽中学校2校があるが、ここ何年も避難所として利用したことないが、もし何か起きた時に両方がなくなった場合どうするのか。地域にとっては避難所として必要だと思う。</p> <p>3 向陽から潮見台へ向かうことを考えた時、天神方面から奥沢十字街へ出て、潮見台の方に曲がっていくバス路線はない。バス会社と話をしてそういったことも考えていただけるのか。</p> <p>4 小学校、中学校を一つにするということを考えていないのか。</p> | <p>今言われたとおり、奥沢の場合は、潮見台と向陽に分かれているので、これはあくまで住所で整理したものと理解してほしい。学校別に分けたものではない。</p> <p>一つ確認したいのは、今日お配りした資料の表紙の部分で検討のために書いてあって、その下の囲みがある。担当の方から、この地区は2校の中学校を1校にして検討の結果、潮見台中学校が適切であるという言い方をした。ただ今回、私どもがお示しするのは、まずは皆さんから色々なご意見をいただくために、教育委員会の考え方をお示ししたということだ。一つの案ということだが、潮見台、向陽どちらにしても、バスは使わなければならない。バスの流れだとか、そういうものから潮見台が適切という言い方をしているが、あくまでもこれからの協議になる。</p> <p>中央バスからも、乗客がいればバスを出します、と言われていた。今でも市内で400人くらいの子供がバスで通っている。小学生はスクールバスを出しているが、中学生は部活などがあるため帰る時間が一定ではないので、路線バスを使ってもらっている。路線バスでも中学生が通う時間帯は、学校へ向かう時間は混み合うのでスクール便を出してもらおうような話はしなければならぬ。担当からの説明の最後に、統合が決まれば、どのようなことを協議していかねばならないか、という説明の中に、通学路の選定なども書いているが、当然今、話されたこともその中に書いている。</p> <p>ここも含めて中心部では、割とその議論は出てこない。忍路などでは、小中を一緒に場所にした学校とするのはどうなのかということでご質問を受けている。私どもがお答えしているのは、今回学校再編を全市的に行う中で、今申し上げた例で言いうと、忍路小と中は現実的にあわせても50人くらいだ。それが小学校1年生から中学校を卒業するまでに、一度もクラス替えがなくて小学校の場合だと複式編成になって9年間を過ごしていく、先生方の配置も少なくなっていく、単純に小中を合わせれば多くなるのではという議論もあるが、基本的な考え方は、この学校再編を進める理由は、一定程度の学校規模でクラス替えも、教員の一定の配置もできる。特に中学生だと、専任の免許以外の教科を教えないといけないという状況がそこら中で出てくる。あとでまたお話ししたいと思うが、例えば中学校で6クラスであれば先生の数は、校長も入れて11人となる。教育委員会が望ましいと考える9クラスになれば16人。基本的に専門の免許で教えることのできる体制を作ることができる。そこが教育委員会では、小学校では12、中学校では9クラスを一つの基準で考えている。</p> |

南小樽ブロック

| 会場 | 会場での発言（質問・意見・要望） | 教育委員会の発言（回答・説明） |
|-----|--|--|
| 向陽中 | <p>5 教える側からすればそうかもしれないが、生徒にすれば、通学距離が遠くなるのは大変だ。それが、強いては、学校に通うのが大変だから小樽から出て行ってしまおうと思う。通う生徒の立場に立って、どうにかならないのか、要するに通学距離をなるべく短くして、小学校、中学校を全部ひとまとめにしてその学校から半径2キロくらいの通学区域を新たに組めないのか。小学校は小学校で、中学校は中学校でやるとできないと思う。だから、今まで小学校だったところを中学校に変えてしまうという方法をとれば、その通学距離でもっていきけるから、その辺も考えていただきたい。</p> | <p>それはまた違うプランの話の参考にさせていただきたい。この地区で、小学校と中学校を一緒にということだが、当てはまる地区になるかどうかは、また別として、小学校と中学校を同じ施設でということになれば、体育館は2ヶ所作らなければならないとか、グラウンドはそれなりに広くなければならないとか、物理的な課題もある。そういうことで小樽市内にそういう場所があるかどうかということだ。</p> |
| 6 | <p>(要望) 向陽と天神のうち片方が残るのであれば、中学生は大人より時間がかかるかもしれないが、体型も大人に近くなっていて歩けるかもしれない。小学生は、低学年の場合、歩いて通うと2キロを超えれば、おそらく1時間かかると思う。そういうことを考えてほしいと思う。</p> | |
| 7 | <p>13ページに書かれている、施設面での特徴で、潮見台中学校のこのことについて書いているが、グラウンドのことについて書かれていない。4ページには、4,800㎡とあり、すごく狭い。グラウンドに関しての考えを聞きたい。</p> | <p>確かに潮見台と向陽を比べると、向陽のほうがはるかに広い。中学校のグラウンドの基準からいうと、プラン1で言えば、4,000㎡ちょっとあれば、面積としては基準を満たして、プラン2の388人だと5,000㎡くらいが基準になっている。市内の中学校で見えていくと、実面積は、広いところもあれば狭いところもあるが、向陽が8,800㎡、狭い学校は、菁園の3,000㎡だとか、桜町3,700㎡。銭函中学校や向陽では、1万を超えており、基準面からいくと、最低基準は満たしているが、向陽と潮見台を比較すれば、潮見台の方が狭いのは間違いない。</p> |
| 8 | <p>グラウンドに関して言えば、狭いということだけの回答ということか。</p> | <p>校地の面積でいうと、潮見台中では、1万3千㎡程。向陽中で2万程ある。必ずしも、崩していけるかどうか、法面や斜面もあるので、改善のある部分をこの統廃合に向けてやっていける分はあると思うが、それに限界はあると思う。どこまで削っていけるかということについて、計算はしていない。</p> |
| 9 | <p>グラウンドが狭いと、人数が多ければ1人当たりの面積が小さくなるが、改善はするのかもしれないのか。</p> | |
| 10 | <p>今グラウンドの話が出ているが、最低どこまで面積が必要なのか。潮見台中学校のグラウンドも見たことがあるが、はっきり言って野球をやるとしても、ほとんどできない。ほとんど球は道路に落ちてしまう。広い面積はあるが山側を削らなければいけない。物理的にできるのか、やる意思はあるのか。向陽中学校以上とは言わないが、面積を作るというのであれば、どれだけの費用がかかって、どれだけ削るのか案を示さないと、ただ口で「できる、できない」と言っているのならば開かない。これだけやるのだったら、これくらいの費用がかかるというのが、普通ではないか。色々学校を見ているが、グラウンドの広さはまちまちだ。どこどこを比較するという話自体がおかしい。向陽と潮見台の話をするとき、向陽に合わせるのか。やるとしたら費用がどれくらいかかって、それが本当にできるのか、土地があるのは山側か。それなら、校舎をどけなければいけない。そこまでやる意思があるのか。</p> | <p>今の話は、プランに向けての検討結果で、このブロックの中学校の位置としては、潮見台中学校と向陽中学校を比較してそういった中で先程話のあった、施設面からの検討の部分で、グラウンド面積が触れられていない、そういったことがきちんと触れられて、かつ、必要最小限の面積も比較検討する材料としては重要なことではないか、という主旨のプランの検討結果についての話だと思う。その後の男性の話も同じ主旨だと思う。プランの検討結果の表現に盛り込んだ方がいいという最終的にはそのような話だと思う。</p> <p>まず面積の基準についての話だが、文部科学省の方で、中学校の設置基準を持っている。その中で、運動場の面積について、生徒数が240人以下の場合は、3,600㎡、241人から720人までは、3,600㎡×生徒数から240人を引いた数の10倍となっているので、これを当てはめると、295人のプラン1の場合では4,150㎡になる。388人になると5,080㎡になる。それから、どこまで削るのかとか校舎をどかせてという話もあったが、今簡単に答えることはできないので、話し合いもこれが最後ではないので、ご意見として伺っておいてどこまでやっていけるのか検討していきたいと思う。</p> |

南小樽ブロック

| 会場 | 会場での発言（質問・意見・要望） | 教育委員会の発言（回答・説明） |
|-----|---|--|
| 向陽中 | <p>11 新聞報道で、平成24年度、南小樽地区の量徳小学校の廃校の記事があったが、ここも南小樽地区なので同時進行するのではないかという懸念や色々考えることがある。前期8年の計画には入っているが、小学校、中学校全体的に具体的な策は考えているのか。</p> | <p>去年の11月に適正化基本計画を策定する前の5月26日にこの向陽中学校で素案の説明会を開催した。あまり集まっていたけなかつた経過がある。この計画の中には南小樽地区だけではなく、小樽市全体のことが書いているが、計画期間は15年という長い時間をとっている。その中でも、学校の設置状況であるとか、子どもの減っていく状況などで、一定の区分をしているが、前期で取り組んでいかなければならない地区と後期で取り組む地区に大きく分けている。後期は朝里地区と銭函地区、それ以外は全部前期という書き方をしている。平成22年から平成29年の8年間を前期の計画としている。</p> <p>ここは前期の中で学校再編をしていかなければならないということだ。では、前期の地区は平成29年までやらないのかという疑問が出てくると思うが、この基本計画の中にも書いているが、学校の問題は保護者や地域にとってもとても大きな問題なので、このような懇談会をきちんとやって、一定の合意ができたところ、まとまったところからやっていく扱いにしている。そして、合意ができたところから行うとなった場合に、先程の説明の中でも、赤い部分で示している、いわゆる隣接している部分、量徳小学校では、中学校に行くときに、潮見台中と菁園中に行く。若竹は桜町中に行く子どもと潮見台中に行く子どもがいる。それでこういう分けたプランを示している。隣のブロックと隣接するところは、そこの調整をしていかなければならない。それを含めて、前期の8年間の中で、方向性を出していく。先程の量徳については、平成24年3月で統合校を決めて実際に統合するという方針を決めさせていただいた。もちろん病院の問題もあるので、一定の時期に区切ってやらさせていただく。この基本計画全体からすれば、この地区は何年までとの区切りはない。一定の合意ができて、統合校を決めるか、それと、中学生では制服の問題もある。</p> |
| | <p>12 統合を4月からやるのであれば問題ないが、途中からやる場合は。</p> | <p>年度途中でやるという選択肢はない。また後でお聞きする。この計画の全体的な位置としては、いつやるということは決めていない。ただ量徳は、先程言ったように、この南小樽地区のBグループの天神、奥沢、それで中学校はこの地区全体についても決めてはいない。全市的に24年3月で議論をさせていただいているのは、この南小樽地区のAグループと考えていただいて結構だ。</p> <p>この懇談会は、今日が6ヶ所目だ。今までの5ヶ所の中でも、やるのであればあまり時間をかけないでやってほしいという意見もいただいている。</p> <p>潮見台小学校での懇談で、潮見台中学校の保護者の方から今話のあったピンクの部分の若竹小学校との兼ね合いで、ピンクの部分に住んでいる保護者の方から発言があり、「非常に悩ましいところだ。」と言っていた。ここに実際に住んでいる保護者、あるいは、その関係の保護者と話し合いをしたいという率直な話もあった。これからは色々な形での懇談、あるいは、意見交換の場を作っていかなければならないと考えている。</p> |
| | <p>13 学校を直すということになれば、改修にある程度の期間がかかるから夏休みや冬休みの工事になる。そうすれば、4月からの統合にならないのではないか。</p> | <p>工事の騒音などを考えて、夏休み、冬休みの期間の施工になる。特に冬は雪が降るので学校校舎の改築になると、夏休みに大きな工事をやって、雪が降るくらいまでに、大きな工事を進めておいて、細かい工事を冬休みにやって次の年度に間に合わせるというのが一つのパターンだ。</p> <p>施設面からだけではなく、教育の部分からも1年間の勉強の進め方を計画を立ててやっているのだから、2学期から一緒になるとかそういうことは現実的には難しい。</p> |

南小樽ブロック

| 会場 | 会場での発言（質問・意見・要望） | 教育委員会の発言（回答・説明） |
|-----|---|---|
| 向陽中 | 14 昔、小学校の時に天神小学校と奥沢小学校で2学期から、人員の異動がありクラスがなくなった、増えたということがあった。 | 40～50年前には、手宮から北手宮に移っていたという話を聞いたことがあるが、今の話は聞いたことがなかった。 |
| | 15 天神の方のプランとして松ヶ枝中や菁園中との組み合わせは考えていないのか。この形で行くとあくまでも、小学校を主体にした校区なので中学校は中学校の新たな校区をこしらえて、もし松ヶ枝中が残るのなら、その方が近いし、奥沢から実際に潮見台中に行くよりも菁園中に行くという人もいるし、実際に奥沢の上の方でも菁園に行く人もいるし、プランとして偏ったものでなく松ヶ枝や菁園も考えたプランというものはないのか。 | <p>ブロック分けの考え方は、総合計画の中で使っているブロックがあつて、その中でこの南小樽地区を考えて、それとの関係の中で、縦に長い部分というのがある。あと、もう一つは、先程小学校の話もしたが、中学校に入ってくる子どもの学校の関係というのもあり、基本計画の中でも連携ということで整理しているが、菁園中学校では五つの小学校から入ってきている現状がある。今回考えた統合の組み合わせでは小学校が二つ、そこから中学校へ行くということで、小学校の校区に合わせた形での再編というものも考えている。ただ、今のあった松ヶ枝中学校の話では、境界の問題はあるが、六つに分けたブロックの中でまずは議論させていただいて、隣のブロックとのやり取りについてはあると考えている。</p> <p>図面を見ると、向陽中学校は松ヶ枝中学校と直線距離では大変近く見えると思う。向陽や天神、奥沢の上の方もそうだが、松ヶ枝中学校まで徒歩で通うには無理があると思う。</p> |
| | 16 無理ではない。潮見台より近い。 | 通学距離が長くなるという意味でバス通学を考える。それと、広報や道新の特集記事でもあったが、中央・山手ブロックを見ると松ヶ枝中学校は築50年を過ぎている。また、私も松ヶ枝校区に住んでいて、子ども3人を通わせたが、相当厳しい通学環境にあることは事実だ。下から上がってくる坂はきつい。冬は特に大変だ。この再編計画の中では、町の方ともいろいろな議論をしているが、通学距離のこともあるが、冬の雪のこととか、交通安全上の問題だとか、そう言ったことも含めて統合校は選定していかなければならないという考え方を持っている。その意味から、築50年という学校は建て替えの時期を迎えているからもう一度、あそこに学校を建て替えて、このまま、40年、50年そこで中学校をやっていくことは、教育委員会として持っていない。 |
| | 17 生徒が増える見込みがないからか。 | <p>それもあるが、あそこの立地からして。</p> <p>似たような趣旨で、去年、地域説明会をやった時に、朝里方面の説明会では、将来計画、特に新幹線とか、そういった部分でのものも加味して考えているのかという質問もあった。</p> <p>小樽市のHPで「新幹線」で検索していただくと、3年ほど前に作ったものがあるのですが、山から出てきてすぐに山に入って、その間が500mくらいしかない。その間に駅を作って、またすぐに(トンネルに)入ってしまう。あのような地形だ。もちろん、今後どのような開発になるのかということもあるが、小樽市で一定のイメージ図は出している。地形を見ると分かるが、当然大規模な宅地造成とかそういったことはあり得ない。</p> |

南小樽ブロック

| 会場 | 会場での発言（質問・意見・要望） | 教育委員会の発言（回答・説明） |
|-----|---|--|
| 向陽中 | <p>18 その敷地に住宅が増える要素は考えていないのか。</p> | <p>私は、教育委員会の前は新幹線を担当していた。住宅地を増やして定住人口を増やすという計画を持つ自治体もあるが、小樽の場合の立地条件から考えて交流人口、新幹線で色々な人を呼び込んで、その人たちにお金を落としてもらうという人口は見込めると思うが、定住人口はなかなか難しいのではないかと。計画の中では、今はストップしているが、望洋台の4工区、潮見台側の方を住宅というよりは、東京から小樽に来て別荘地として開発できないかを計画しているが、大幅な宅地とすることはなかなか難しいと思う。</p> <p>参考までに、征里にベイビュータウンが宅地造成されたが、あそこは朝里小学校の区域で、全部が張り付いているわけではないが、今の状況では学年で5人から6人でしかない。だから、よほど大規模な宅地造成がない限り、クラスがどんどん増えててんてこ舞いになるような状況にはないと思っている。</p> |
| | <p>19 （要望） ただ、ここに学校がないとなれば、初めからここに学校がないからやめようということになる。そういうことも考えてもらわなければならないと思う。全く施設がなければ住む人がいなくなる。施設を残しておけば、住み着く可能性がある。その辺も考えてほしい。奥沢5丁目から2、3分上ると宅地造成だけやってそのままになっているところもある。そうすると、こっち側の学校になってしまう。向こう側よりこっちの方が近いということになる。著しく増えなくても、そういうものを残しておけば、可能性があるということも考えてもらいたい。</p> | |

南小樽ブロック

| 会場 | 会場での発言（質問・意見・要望） | 教育委員会の発言（回答・説明） |
|-----|---|--|
| 向陽中 | <p>町内会の仕事をやっているが、この計画案の全体的な部分は、どうしても色々な数字が積み重ねられた経過の中で、こういう形で提起されるということは時代的にやむを得ないと思う反面、一抹の寂しさを感じるというのが本音だ。「学校の統廃合を進めるに当たって」というパンフレットに地域との連携について書かれている。この地域の人は天神小学校と向陽中学校に通うという概念ができています。統廃合がダメということではなく校区が広がっていくことにより、子どもたちと地域の関わりは今後どうなるのかなと思う。</p> <p>例えば、交通指導でもそこに学校があるから町内会や色々な人たちにお手伝いをいただくということがある。また、地域の歴史ということがかつては大変なにぎわいだったとか、あるいは、味噌屋があったとか、そういった地域の歴史を子どもに教える機会は、学校でもあるだろうし、町会でもあった。今度は別の学校が教えるわけだから、地域の子どもや孫に対する歴史などを教えることをこれからどのように作り上げていくのか。と考えることもでてくると感じることもある。</p> <p>町会でも色々なことをやっているが、子どもと町会とで時季になると野菜を植えたり、そういう交流とか、天神小学校では、「雪明かりの路」を子どもと地域とPTAを含めてやっているとか、そういう意味では校区の中に子どもがある程度少ないことによりできる色々なことがある。それは、数字を捉えて大規模になっていくときめ細かい地域との交流やそういうものが、抜けてくるのではないかという危惧がある。これから5年、10年後に校区の見直しが行われて進められた場合。そういう地域との役割、地域との関係をどう持っていくのかということに対する教育委員会の考えがあるのか、時間があるのでこれから交流もいいと思うが、聞かせてほしい。</p> | <p>今、地域の子どもを守る会の方の活動を長くされている方からのお話をいただいた。今回は再編プランで具体的な案を示したが、去年の地域説明会で基本計画の説明をしたときに、ここの会場ではなかったが、他の会場からも、地域の見守りなどをやっている方からのご発言もあった。</p> <p>今、ご質問のあった部分で特に、地域と学校の密着度の強いところ、例えば忍路や祝津などでは、運動会なども町のメイン行事としてやっている部分もありまして、そのことについてのご意見もたくさんいただいた。基本計画でも保護者や地域住民とのこれまでの取組をどのようにして行くのかということとは本当に大きな課題だと思う。それと、もう一つは、定型的なもの、決まった形のものはないと思っている。この地域はこういう形、この地域はこういう形ということで、地域でさまざまな取組をしていると思う。今この時期で、ああしろ、こうしろ、ということはないが、今日お配りしている一枚ものの資料に統合校が決まった後に、こういう議論をしていきます。という中に「(仮称)学校統合協議会」というものを載せている。ここでは、単に制服とか教材とかということではなく、それぞれ今まで地域でやっていた取組。地域のお祭りなどもあるが、ここの地区を一緒になった場合、どういうものを残していくとか、拡大していく、あるいは、一緒のものとしてやっていくのかについてご相談をしていかなければならない部分が出てくるだろうと思っている。この地域は「お父さん学級」もあった地区だということは知っていた。母親だけではなく父親の取組も色々されていたという経過があるものですから、是非この地区でこれは続けていこうということは、隣の地区に来て、隣でも色々なことを考えてやっているわけですから、今日の段階では、そういうことを、協議会の中でも大きな一つの課題として協議する項目となるのではないかと考えている。先程も触れたが、教育委員会の考え方を持って入ったのは今日が初めてで、何回も単独のPTAの皆さんとの話もあるし、隣のPTAとの話、あるいは、小中という形での話もしていかなければならないと思う。教育委員会としてもこのような取組は極めて大事だという認識を持っているということをご理解願いたい。</p> |
| 20 | | |
| 21 | <p>中学校2校を比較する上での数値のようなものはあるか。例えば、向陽中学校が潮見台中学校に統合された場合に、通学距離を数値にあらわして、この人数で行くと延べ何キロになる。向陽に来た場合は延べ何キロになるということを出さないのか。それから、校舎の年数についても向陽の方が新しいので、それを数値に換算してどちらがいいのかというような、色々な要素があると思うが、最初に言ったグラウンドの面積など、数値にしたものはあるか。</p> | <p>数値については、この図面でも示したが、①で4.1キロとか②で4.4キロとか話をしたのは、これは平成27年時点で住んでいる子どもがいる、その子が一番遠いということで示したものだ。ご意見では百人の子どもがいれば、その子どもたちの通学距離すべてを合計するということが。</p> |
| 22 | <p>比較するには何か数値に直すと比較しやすい。例えば、校舎が古いから改修が必要だという要素を数値に直したのものがあるかということだ。</p> | <p>今日示した資料で、一番遠い子どもはどこになるのかということを示した。これは直線距離ではなく、基本的な道、普通ここを通って行くだろうということを示して距離を入れた。私どもも一定程度のものは持っているのですが、この辺だったら何キロくらいというのを調べたものはある。</p> |

南小樽ブロック

| 会場 | 会場での発言（質問・意見・要望） | 教育委員会の発言（回答・説明） |
|-----|--|---|
| 向陽中 | <p>23 先程からおおむね合意を得てから統合すると言っていたが、どの時点で合意があったとみなされるのか。</p> | <p>どこの会場でも聞かれる部分だ。このような懇談に今日はたくさんの方にお集まりいただいているが、全員が集まるということはなかなかないし、こういうものだから、多数決で決めることでもない。私どもも平成12、13年に東山中学校、石山中学校、住吉中学校を再編した経験を持っている。結果としては計画を取り下げざるを得なかったが、小学校では堺小学校を花園と稲穂に校区を変更した経過もある。そう言った部分からすると、このような話し合いを何回かして行く中で、そうしたらこういう形だということは、話し合いの中で出てくるものだと思う。だから、一定の時期に多数決をとって決めるということではなく、私どもこのように具体的なプランをもって地区別懇談会を始めたのが、先週の月曜日からですから、7月22日までまず全部の学校を対象にして行って、また次の段階と考えているので、今の段階でどういう時が合意の時なのだと言われれば、今までの経験でいえば、やはり何回か話し合っていく中で、そうしたらこれという、いわゆる「潮目」というと変かも知れないが共通理解、共通認識を持っていけるような議論、話し合いをしていかなければならないと思っている。</p> |
| | <p>24 資料の9ページと10ページの大きな改修の必要性というところで、向陽中学校は改修の必要性が特に必要ないとあるが、潮見台中学校では耐震化工事が必要と書かれているが、大体いくらかの費用がかかるのかを何故載せていないのか。プールの設置について潮見台中学校にはないので、潮見台中学校に設置を考えているのか。</p> | <p>施設の部分では、先程から議論してもらっているが、施設の面だけから言うと潮見台とここを比べた場合、圧倒的に向陽の方がいいと思っている。まず新しい、今、小樽でも耐震診断をやって耐震工事を手掛けているところがある。校舎全体ということからすれば、その構造とか大きさにもよるが、耐震補強工事というだけで一つの学校につき全部行くと2億くらいかかる。この学校は新しい基準で建てられているので耐震補強の必要がない。それから、プールという他にない特徴もある、グラウンドも広い。そこも、統合校をどこにするか考えるときの大きな要素だと思う、施設面ということ。</p> <p>もう一つは、今後子どもの数がどのように推移して行くのか、ということも一つの要素だと思う。今、現在は潮見台とここではそれほど変わらない。ただ、将来的に見ていくと、そんなに大幅ではないが、こちらの方が少なくなっていく傾向にある。それと通学の仕方、今後色々な議論はしていかなければならないと思うが、いくつかの要素を見た中で、現状で教育委員会としては、潮見台小学校の方が優位ではないのか、適切なのかなという考え方を持っている。ただ、今日いただいた議論、奥沢小や若竹小での懇談でこのような討論をしていこうと思っている。そういった中で出てきたご意見、ご要望を踏まえながらまた第2ラウンドの話し合いをしていかなければならないと思っている。</p> |

朝里ブロック

| 会場 | 会場での発言（質問・意見・要望） | 教育委員会の発言（回答・説明） |
|-------------|--|---|
| 桜小 6月30日 | 1 この地区には直接関係のないことだが、潮見台小学校に統合されるという前提のもとで、プラン1とプラン2の潮見台小学校の児童数はどのようになるのか。 | プラン1の方だと、27年度時点の推計で436人、学級数では13学級になる。これが全部黄色の方の大きな部分。両サイドのグリーンの部分を取り切ったところでは276人、11学級規模になる。160人くらいがグリーンのところにいることになる。 |
| | 2 潮見台小学校的には、プラン1の方がにぎやかで良いかもしれない、ということになるのだと思うが、桜町中学校のことを考えるとプラン2の方がPTAで、若竹から来る方がどうせ桜小学校の方でやるのだらうと、どうしてもそういう雰囲気になりがちなので、プラン2の方が中学校的には良いと思う。 | 今後の議論になるところだが、今の意見は大変貴重だと思う。今回は41校の小中学校全部のプランでお示しをしている。これはどこの地区でも出てくる問題だが、一つ特徴的な例で、青園中学校は五つの小学校の校区から子どもが来ている。小学校から中学校へ行くときのいわゆる「中1ギャップ」と言われていて、これは小樽だけではなくて全道的、全国的に議論されている。そういうことを解消していくために何が必要かという、基本的には小学校と中学校の連携。お互いに普段からやりとりをしていく。そうすると今の青園の例で言えば、五つの小学校から子どもを受け入れるというのは大変なことだ。だから、私どもが1学年2学級にしていきたいといっているが、先程のプラン1では436人で13学級、プラン2では潮見台を統合校とすると11学級、12学級にはちょっと届かない。27年度推計なので統合した時からすぐというわけではないが、小学校と中学校の連携という部分からすると、プラン2の優位性もあると思う。もちろん通学距離の問題もあるが、この部分も含めてプラン2というものを考えていきたい。どこのブロックでもこのような考え方で作っている。だから、言われるように小学校から中学校への流れをきちんとし、小樽はこういう地形なのでそういかないところは出てくると思うが、そのような考えの中で小中学校の校区の再編をしていきたいと思う。豊倉小も同じだ、距離的には望洋台の方が近いが、中学校は朝里に行っているからどうするかという議論。 |

| 会場 | 会場での発言（質問・意見・要望） | 教育委員会の発言（回答・説明） |
|-----------|--|--|
| <p>桜小</p> | <p>3</p> <p>先日、桜町中学校の懇談会にも出席したが、地図を見て立地条件や施設の面から考えて、この中からどの学校を選ぼうかと考えた時に、今の場所であろうと、朝里小学校、朝里中学校、望洋台小学校、望洋台中学校、桜小学校、この五つを立地条件と施設面で使用するべきではないかと思う。それは、小学校は小学校に、中学校を中学校に使うかは別として選ぶと良いのではないかと思う。園長先生には申し訳ないが、桜町中学校は学校としては不適切ではないか。私も、桜町中学校が近いから、100mくらい離れたところに家を建てたが不適切ではないかと思う。望洋台小学校、望洋台中学校の面積その他は、十分すぎるくらいのものであるので、ぜひここを使ってもらいたい。それに関連すると、桜町中学校の校区を前提にプランが出ているようだが、桜町中学校が変わると、小学校のプランだが、中学校と一緒に考えるべきではないかと思う。そうなれば、桜町中学校の場所が望洋台小学校に移った場合、校区が変わるのではないか。それであれば、若竹小学校は、(桜町中学校に替り)望洋台小学校が中学校になってしまふのであれば、距離が離れてしまうので、校区から外れるのではないか。私が考えるには、できれば、後期の部分でもあるし、色々なことが複雑に絡むのであれば、若竹小学校は今の地区の状態でご検討いただいで(朝里地区と)、分けてしまった方が良いのではないか。私は札幌出身なもので、スバツとものが言えるということもあるが、愛着がないと言えそうだが、子どもの様子を見て、親なりに判断したことだが、そのように割り切っていくほうが、施設のにも、校区的にも、通学路的にも良いのではないかと思う。考えれば考える程、複雑になるが、私の今の子どもたちの様子を見た場合、このようにしたほうが良いのではないかというのが実感だ。</p> | <p>今の副会長さんのご意見は、桜町中学校の懇談の時にいただいた、興味深い発想だと思う。実は私も桜町中学校の卒業生なのであのグラウンドがどういう状態かは知っている。ご存知だと思うが、今桜町中学校の耐震診断が終わり、実施設計にかかっている。実施設計をやるということは当然、耐震補強工事をやることになる。その意味からすると、桜町中学校はもうしばらく中学校として使うことになる。耐震補強工事をしなくてもなくなるということは当然ならぬので。</p> <p>中学校との再編プランの関わりが出てくるが、ここの3校の中学校を2校にするというのが基本的なプランだ。2校にする場合、どこにするかというのはここには書いていない。今現在、3校ともそここの規模がある。朝里が一番大きく、その次に桜町、そして望洋台。ただ3校を2校にする場合、2校はどこが適切かというのはもう少し、文字どおり将来的にもう少し先の子どもの数を見てから判断しようと、ある意味宿題にさせてもらっている。ご承知のとおり、望洋台の宅地造成が始まって、1工区、2工区と家が張り付いて学校が必要になった。色々な時代背景があって住宅建設も一定程度進んでいるが、1工区、2工区のようなスピードでは全くないし、計画全体としては、3工区、4工区まであり、全体の都市計画から見極めなければならぬと思っている。</p> <p>それから今副会長さんが言われた桜町中学校が難しいのは、今の校舎は細長く建っていて、市道を1本挟んでグラウンドがある。普通、校舎の建て替えをするときは、どこでも、グラウンドに新しい校舎を建てて、それで子どもを移してから校舎を解体してグラウンドに整地するというやり方でいっていきが、桜町中学校で考えると、今のグラウンドに校舎を建てるとすると、あの細長い土地はグラウンドにならない、土地が傾斜地でそこに建物を建てているので、ここについては、もう少し先の議論になると思う。資料の施設の概要にも桜町のグラウンドは3,700㎡、望洋台小学校のグラウンドは11,000㎡、やはり中学校のグラウンドとしては7,000～8,000㎡はほしいという希望はある。一番新しい中学校で青園は、3,000㎡しかないというのは苦しいところだ。どうしても中心部にある学校は狭くならざるを得ない。ただこのような再編やそういうことを考えていくときには当然校舎が古い新しいということだけではなく、グラウンドや校舎が高いところにあるという立地も含めていかなければならぬだろうと思っっている。答えになっていないかもしれないが、このような懇談会で出された意見として記録させていただく。</p> |
| <p>4</p> | <p>いずれにしても、桜小学校的には、あまり憂い悩む必要はないのか、というふうに聞かせていただいている。今、副会長が言われたことは、ごもっともだと思う。来年から桜町中学校が耐震補強の工事に入るの、これはもうなくなるのだな。と、勝手に安堵していたが、そうでもないのかなという感じだ。</p> <p>本題とずれるかもしれないが、今、校地が市道を挟んでという話があったが、私も桜町中学校のOBで、僕らが通っていた頃は、前の坂にも家が一軒もなくそんなに車の通行量も激しくなく、のどかな中学校だった。最近では、周りには本当に家が建ち、車も市道をスピード出して走っている。非常に危ない所だと思っっているし、事故になりかけたということも聞いているので、もし残るのであれば、スクールゾーンにさせていただきたいと思う。もし残るのであれば、</p> | <p>繰り返しになるが、あの立地は、今すぐ見直すといわれて場所をどこにしたら良いかというものは持ちきれないが、やはり後期の中で考えていかなければならないと思っっている。ご理解いただきたいのは、現状では、桜が9クラス、望洋台が6クラス、朝里が12クラスとそれぞれ、そここの規模を持っており、今すぐ桜町中学校の子どもたちをどこかに移すといっても、どうしようもない部分がある。この再編プランの後期の部分では真剣に検討していかなければならない。</p> <p>桜町中学校を耐震補強する時も市の内部でも色々議論があった。あのような建て方なので、耐震補強にもお金が掛かる。それでは、後期の10年先まで待てるかというやはりそうはいかない。それはそれでしなければいけない。学校の安全、安心ということと、再編という形にはならないという中で、耐震補強はやっていこうという一つの判断をしたということにご理解をいただきたい。あとで担当課長から耐震補強工事がどのようになるのか少し話しをさせていただきたいと思っ。これから中学校に子どもを通わせる保護者さんもいると思っるので。</p> |

朝里ブロック

| 会場 | 会場での発言（質問・意見・要望） | 教育委員会の発言（回答・説明） |
|----|---|---|
| 桜小 | | <p>耐震補強工事にも色々あって、桜小学校の場合は、外から付ける形になる。鉄のプレスではなく、コンクリートの枠になるが、他の小学校でもやっているのは外にプレスをつける形だが、桜町中学校は、構造上柱が中側に少し入っているため、教室の中にプレスをつけなければならない。だから、普通教室は、8m×8mだが、どうしても狭くなって、不自由をかける部分もある。それで中をいじるのと、空き教室がたくさんあるわけでもないで、プレハブ教室を作って、一時出してもらって、学校につけて作りたいとは思っているが、とても1年ではできない。1年でやるとしたらグラウンドに全教室分のプレハブ校舎を建てなければならない、そういうわけにもいかないで、2年に分けてやりたいということで市の建築とも相談をして実施設計の段階に入っている。中の部分をかなりいじる形になるので非常に不便をかけるが、工法が決まったら、PTAの方にも説明はしたいと思っている。今、桜小学校とは違う形になってしまうのが、桜町中学校の耐震補強の状況だ。中は少し狭くなってしまい、床や壁などもいじっていかなければならない。工期が夏休みだけというわけにもいかないし、中を一度移動してもらわないとならない状況だ。まだその程度の段階だが、設計業者に出しているところで、なるべく不自由をかけないようにしたいと思っているが、最低それくらいはかかるという状況。</p> |
| 5 | <p>先程の説明の中に、青いリーフレットに「仮に統合が決まった後のスケジュールはどうなりますか。」と書いてありその矢印の先に（仮称）学校統合協議会というものが設置され、以下のようなことに取り組みます、という説明があった。</p> <p>仮の話で申し訳ないが、朝里地区のプラン3で動いた場合、それで統合スケジュールが決まりました、あるいは、南小樽地区で若竹小学校が朝里地区の方に動いた場合、本校においても、以下のような統合協議会、あるいは若竹小学校の方で、やはり統合するのであれば、新たな校歌や校章を制定してほしいという動きになった場合、そのようなときには、統合協議会で話されることになっていくのか。</p> | <p>今の質問と同じ質のものが、動く側の若竹小学校の懇談会の中でも出ていた。一つ図面を見ていただきたい、南樽地区のプラン1になった場合、これは三つの校区をそのまま合わせて一つの校区にしていくことになるから、新しい校名、新しい校歌、そういったものの議論というのは、自然な流れでいけると思っている。それからプラン2の方の黄色の部分、ここもそれなりに新しい校名を考えようという議論も出てくる。このサイドが、それぞれの統合校に行く場合に、その議論があるかとのことだが、若竹小学校の懇談会の時、基本的にはその統合協議の中で校名や校歌は協議の対象にはなるだろうと思う。最初から協議はしない、極端な言い方をすると、「桜小学校に来るのだから桜になりなさい」ということは、どの統合の場合でもいうべきではないと思う。やはり議論はさせていただかなければならない、ただ濃淡は違うと思う。その議論の深さは違うと思う。</p> <p>変な言い方かもしれないが、このプラン2の若竹小学校の桜側というのは、桜町中学校に来ており、その場合に、小学校で新しい学校を作るかどうか、新しい名前にするかどうかという感情論はなくなってしまいが、その部分で濃淡は違うと思う。ただ教育委員会の立場として、受ける側、来る側となると、来る側として色々な不安などがある時に、最初からこの議論はなしですとはならない。ただ来る側の言いなりになるということではない。これはもう協議だと思う。ただ、最初から一切この議論はなしということにはならない。その辺をご理解いただきたいと思っている。</p> <p>実際に統合ということになれば、それは来るところだけが大変だということでは全然なく、統合校となる側もこれは文字どおり先生方も、保護者の皆さんも色々ご議論をいただかなくてはならない部分が出てくるということをご理解いただきたいと思う。私どもとしては、他のブロックについては、一定合意になったところから進めていくという言い方をしている。繰り返しになるが、最終決定をしたわけではないが、この南小樽地区のAグループについては病院問題がある。そういった中で、24年4月ということにご協力をいただけないかということでここ1年話をして説明会や懇談会をやってきた経過がある。そここのところは、違う意味で時間的な意味でのご理解を合わせていただきたいと思っている。</p> |

朝里ブロック

| 会場 | 会場での発言（質問・意見・要望） | 教育委員会の発言（回答・説明） |
|----------------|---|---|
| 桜小 | <p>6</p> <p>今の話を聞いていて、とにかく大変だという感じはする。話はそれるか分らないが、先程言っていた、菁園中学校の場合、小学校5校から子どもが来るということで、学力差があるとか色々な学区の差があるということだと思う。話が進んできている中で受けるのは、今後経費的にどうするかということがあってこのような問題が出てきているということが大きいと思う。教育ということの根底から考えれば、孟母三遷という言葉もあるように、統合される学校の教育環境はどこが良いのかということも十分に考えて、今話が出なっただけではないだろうか。ただあえて言わせていただきたいのは、5校が集まって、差があるんだ、それが問題なんだ、ということであれば、その方向からも早急に統合ということの検討に併せて考えていかなければならないのではないかと。それから、こんなことをいうと失礼かもしれないが、聞くところによると決して全国学力調査の結果を見ると小樽はレベルが高くて1、2番を争うということでもないということであれば、統合という一つのキーが、そのような方向に大きく示されることが、また保護者についても、そういうメリットがあるので仕方がない、ということでは納得できる部分があるのではないと思う。これから大人になっていくと、小樽の中の小学校、中学校、高校だけの競争ではないから、超一流の高校と小樽市出身の人がライバルとして一流企業に入る、入らない、その前に大学があるが、そのような中でやっていかなければならない。その大きなものを背負っているのは、大きな方向づけとして、その辺も十分に考えていただきたいと感じた。ちょっと違うかもしれないが、話させていただいた。</p> | <p>おっしゃることはそのとおりだと思う。ただ誤解していただきたくないのは、菁園中学校は皆さんが自由に来ているということではなく、現状の校区そのものが五つの小学校から集まって来ている。ご承知かと思うが、確かに部活の関係、特にブラスバンドが菁園中学校の特色としてあるので、それをやりたいということで広く来ているのは事実だ。それから学力の問題だが、教育委員会も学力だけの物差しを持つわけではないが、それが大事だとは思っている。指導室や学校でも頑張っているが、我々事務屋は教え方というのはわからないが、やはり一定の教員数を揃えて、一定の教師集団を揃えてやっていくことは、絶対に必要だろうと思っている。単純に考えても1学年、私の時には7学級、8学級が当たり前だったが、1学級で2クラスあれば、担任の先生は2人いる。そうすると、小学校でも相談ができる。中学校は特に専任免許があるから国語は国語の先生に、数学は数学の先生に教えてもらいたい、というのが保護者の希望であり、先生自身も、生徒もそうだと思う。</p> <p>是非私どもこの学校再編、単に学校が多いから、41校全部を建て替えるお金が大変だから、もちろん税金を使っているわけだからその部分はないわけではないが、ただやはり、広い意味での学力も含めて、子どもの教育環境を向上させていくという視点からなんとしてもやっていかなければならないと思っており、そういう意味で、おっしゃっていることが全然違うとは思っていないが、ご協力お願いしたいと思う。</p> |
| 望洋台小・中 7月5日 | <p>1</p> <p>18ページの◆の四つ目、「A、Bの通学区域については、小学校の再編と合わせて検討することが必要です。」と、これは至極当然のような気がするが、あえてここに載せた理由があるのか。</p> <p>もうひとつ、(中学校の再編の考え方)◆の二つ目、桜町と望洋台で、それぞれ施設面で望洋台、地区的にいうと桜町という、教育委員会の今の考え方で、「望洋台地区の年少人口の推移をみながら検討するのが望ましいと考え」とあるが、後期(計画)は30年度から36年度まで、その間での推移をみながら、どちらが優位なのか検討するという理解でよろしいか。</p> | <p>一つ目に小学校の再編と合わせて検討するのは当然ということだが、今回の学校再編に当たって、基本計画では小学校と中学校の連携ということを考えている。この地区の場合、比較的小学校と中学校の数というのは、一つの小学校から中学校へ上がるケースは多いが、豊倉小学校の関係をどうするかというがあるので、豊倉小学校を望洋台小学校と合わせることを考えるのか、それとも、朝里小学校と合わせることを考えた場合に、その行った先でそのまま中学に上がるのが良いのか、それがまた入れ違うことにならないかということもあるので、小学校の再編をみながら中学校との関係も整理していく必要があるとこのことで記述した。</p> <p>もう一点、施設面では望洋台中学校が優位、居住分布では桜町中学校が優位としているが、この地区全体は30年度以降、後期の部分で検討していくこととしているが、ここはまだ一定の規模の学校があるので、後期計画に位置付けている。望洋台地区についても従前のように子どもさんの数が増えていくという時期ではなく、もう望洋台地区についても残念ながら減少していくことが一定程度見込まれると思う。ただ、まだ開発しているところもあるので、そこにどのように住宅が建って、そこに人が張り付くかということもあるので、現時点ではそこを見極めながら、この先7～8年後の議論と、この地区ではなるが、そこをみながらやっていく必要があるということでここに記載した。他の地区であれば、このような学校が適切だと書いているが、朝里地区の望洋台中と桜町中の関係では、人口推移の動向をみなければ、今の時点でどういう方向性を出すか書けないので、そのような表現とさせていただいた。</p> |

朝里ブロック

| 会場 | 会場での発言（質問・意見・要望） | 教育委員会の発言（回答・説明） |
|--------|---|--|
| 望洋台小・中 | <p>2</p> <p>小学校の方についていえば、私が見ても、望洋台、朝里地区は中心部と違ってそれほどモザイク状に小学校があるわけではないので、地域的なことを考えると、小学校についてはこうならざるを得ないという気がする。しかし、問題は地域性というか、豊倉の皆さんの小学校に対する思い入れだ。これをどう受け止めて、豊倉の場合、これをどうやっていくのか、というのがやはり焦点なのかという気がする。その辺りは、やらざるを得ないとなれば、そこの辺りが焦点となるので、その部分はしっかりやっていただきたいと思う。</p> <p>中学校についても、こういうプランにならざるを得ないと思う。人口の推移をみなければならないとあるが、推移をみた結果、私も当然現状では人口が増えるとは思わないし、年少人口も増えるわけではないので、後期になった時に、地理的な面から桜町となった時に、その施設を、グラウンドからしても3分の1程度の中で、まっとうな教育活動が今の施設の中でできるのかということを見ると、桜町に移すとどうなるのか、施設面でどうするのかというのを、なってからではなくて、それも今から考えていかなければならないと思う。</p> | <p>子どもの考え方も、実は今、発言いただいた内容、それに尽きる。冊子の3ページをご覧いただきたい、一目瞭然で、21年度現在、この地区の4校のうち、桜、望洋台、朝里はどれも12学級以上、1学年2学級以上を確保している。豊倉小学校だけが極めて少ない、小さな学校。去年は26人だったが、今年20人の学校になっている。地区全体としては、後期なので、平成30年度以降の議論ということにしているが、実は、先日豊倉小学校の懇談会で、町会役員の方からは、小さくても地域とのつながりの強い学校だから、このまま残しておいてほしいというご意見をいただいた。豊倉小はあと3年、平成25年に100周年を迎える学校。</p> <p>もう一つ、保護者の方からいただいたご意見は、ある学年は男の子が3人しかいない、3人の学年。少ないということでの緊密さやつながりの強さはあるが、何か問題とまではいかないが、何か課題が出てくると、中々ゆるくない面が出てくる。もう一つは、20人の小学校から、市内で一番大きな380人の朝里中学校へ行くと、格差というか、人数の部分でどうしても馴染めないという課題を持っている。地域の方々の意見もあるが、今の親御さんからは、豊倉の現状がこの先も同じように推移していくのであれば、後期ということに限らず少し議論をさせてもらえないだろうかという発言もあった。それぞれブロックごとに前期、後期という分け方をしているが、地域事情や個別の事情の中では、前期という中で行うことも考えていかなければならないと思っている。</p> <p>その場合、豊倉小学校は現状では中学校は朝里中学校へ行くが、小学校はここ望洋台小が近い、先ほど担当が申し上げたが、小学校の組み合わせは、朝里と豊倉というパターン、望洋台と豊倉というパターンの中で中学校も考えていかなければならないと思っている。場合によっては、ここは後期だが、前期の段階でこと豊倉小学校との事前協議や交流とかもあり得るということ、望洋台小学校の保護者の方々にも頭に置いておいていただきたいと思う。</p> <p>中学校の件、望洋台中学校は昨年6学級だったが、今年は1年生が道の研究事業の関係で1学級増えて、7学級。今日示しているのは27年度推計で、中学生の場合は小学生より長く将来推計が可能で、平成32年には望洋台中学校もこのままでいくと4学級の学校になってしまう。もちろんこれは、今お住まいの方が動かないという前提のもの。以前ほどのスピードはないが、今でも住宅が建っている、増える可能性はあるが、現実的には、そういう状況も一方ではある。</p> |

朝里ブロック

| 会場 | 会場での発言（質問・意見・要望） | 教育委員会の発言（回答・説明） |
|--------|------------------|--|
| 望洋台小・中 | | <p>桜町中学校はお話しいただいたとおり。桜町中学校は、校舎とグラウンドの間に市道が1本走っていて、交通量も多くなっている。グラウンドも大変狭い状況にある。桜町中学校は古い校舎もあるので、中学校の施設としては、この地区の統合校の一つとしては相当考えにくい面があると思っている。一方、望洋台中学校はグラウンドが11,000㎡と市内の中学校でも一番大きいので、施設面、特に中学校の部活等を考えると桜町中の3,700㎡では本当に狭いと思っている。今の段階で、私どもとしては結論は出せない。先日この地区の懇談会で一つの提案としていただいたが、望洋台小学校を中学校に、将来の人口がどうなるか分からないが、桜小学校に小学校を集約して、望洋台小学校を中学校にしてはどうかと言われた方もいる。施設状況を見るとそういったことも先には考えていかなければならないとの提言をされた方もいる。私どもも、その会場で出たご意見ということで承らせていただくと申し上げた。</p> <p>この地区、新光、朝里、望洋台という市内でも若い町ですので、今後どのようになるのか、文字通り見極めなければならない。その意味では、先ほど言われた後期の部分、平成30年段階で子どもさんの居住分布がどのようになっているのか、その段階での将来推計はどのようになっているのか、そこを見極めてこのような協議、相談をさせていただかなければならないと思っている</p> <p>ただ、豊倉小学校については、前段での議論が必要な要素も考えている。</p> <p>今、お話しがあった小学校については、豊倉小学校の懇談会の様子もお話しをしたが、必ず後期という設定、朝里地区ブロックは後期と位置付けているが、話し合いの進み具合によっては前倒しのような形もあるというお話しをした。中学校については、先ほどお話ししたとおり、もう少し人口推移などをみながらということがあると思うが、これについては引き続き検討していかなければならないと考えている。</p> |

| 会場 | 会場での発言（質問・意見・要望） | 教育委員会の発言（回答・説明） |
|----------------------|---|---|
| <p>豊倉小 6月21日</p> | <p>今、説明があったが、四つのパターンの中から一つ選べというふうにしかなれないのだが。私どもは、前々から小規模校の中でも、豊倉小学校は複式だが、新聞報道、学校の体験発表や研究会などでも複式学級の良さが大変評価されている、全国的にも色々な賞をとって、全国的な記事になっている。そういった観点から、たとえ人数が少なくても、複式学級の良さはあることは、これまでの豊倉小学校を存続させたいといった観点から、第一回の案が出た時に、新聞報道によると複式学級は教育上困難なので解消したいという記事が道新に出た。これは大変だということで、私ども守る会を作って検討して、豊倉小学校を存続させたいということで署名も作って、運動を行ってきた。複式学級、小規模校を、4パターンのほかに複式・小規模学級の特殊な学級の配慮はどのようにされるのか。また、今まで私たちが、守る会で取り組んできた運動などをどのように評価をされているのかというのが一点目。</p> <p>まだ、守る会の署名運動は続いており、70名ほど集めてきたが、地域の方の要望は豊倉小学校をぜひ残していただきたい。温泉町内会地域から豊倉小学校がなくなったら町の灯が消えたようなものだという声もある。</p> <p>私は学校評議員をやっているが、平成20年の第2回豊倉小学校学校評議員会資料があるが、その中に本校の教育活動「広く外部に開き、信頼される、開かれた学校づくりに努める」ということで、学校評議員と職員の方でそれぞれ評価をしている。評価の観点があって、学校の教育活動を広く地域に開き、理解、助力を得る、これはBランクで、評議員、職員ともに100%。2として、学校に対し、外からの声を聞き、双方向の開かれた学校づくりを目指す。これも100%。</p> <p>3PTA、学校評議員会、町内会などと連携し、安全管理を含めた教育体制を作る。これもBランク。そして、まとめの中で、本校の教育活動「広く外部に開き、信頼される、学校づくりに努める」取組については、一定の評価があった。これは、学校行事やPTA活動など様々な行事を通じ、学校と地域が協力して、子どもをより良く育てようと努力していることが大きな要因であると考えている。その意味で、今後も双方のこれまでの努力を継続し、学校、家庭、地域が連携を密にし、取組を決めていきたい。これは、豊倉小学校の第2回評議員会の地域と学校の取組です。まさに素晴らしい実践をされている学校です。そのほか、地域での餅つき大会とか、七夕祭りの行灯行列、朝里が丘祭りなど色々あるが、地域と連携して、子どもをわが子のように思い、まちづくり、学校づくりということで、地域も頑張っている中で、4パターンの中から一つを選ぶという形に取らざるを得ないが、このような優れた実践の豊倉小学校は意義があるということで、考慮されて、その点についての何かのコメントもあって良いのかなと思う。以上2点をお願いします。どのように評価し、どのように取り組まれてきたのか、陳情書も出しているの、その辺も含めてお願いします。</p> | <p>2点ということでお話いただいた。私の聞き取りが不十分かもしれないが最初の部分と2点目が同じように聞こえてしまうが、要するに包括的にお話をさせていただいたということによろしいか。最初の方で言った部分の複式学級の良さがあるというお話があって、途中で小規模校となっているが、今回は去年の11月に基本計画を策定しており、その中では複式学級についてどのようにしていくか、あるいは、複式であるがゆえに統合の対象とするというようなことでは位置付けていない。確かに数年前の議論の中では複式学級の教育活動の困難性について議論してはいたが、基本的には現在、小規模な学校ということで12学級に満たない学校という形での基本計画での整理をしている。複式学級だけを特出して学校再編の中で何か特別な観点を加えるという作りにはしていないので、それだけ私の方からお話をする。</p> <p>それと陳情の部分だが、陳情は小樽市議会の方に提出されていて、PTA会長から陳情の主旨についても市議会の席でお話をされていて、私どももその委員会に出席していたので、経過については承知している。ただ、それについては市議会の方で引き続き審議をさせていただいていると認識している。</p> <p>教育活動について豊倉の様子を見てきているのでお話ししたい。ここの学校では表現力について5年も6年も、もっと前からこの体育館で、当時は子どもの数は今と違ってもっと多かった時、堂々と胸を張って子どもたちが自分たちの調べたことについて発表する姿、それは他ではまねできない素晴らしい姿があった。例えば、私たちは大人でも子どもでもしゃべる時自分の思いが全部伝わらないと困るので紙に書いてしゃべるものだが、当時、今もそうだと思うが、皆原稿を持たずにしゃべっている姿は素晴らしいと思って見ていた。また生物関係では、この校舎周辺の色々な自然を博物館の職員と一緒に昆虫の調査。またボランティア活動では高い評価を受けている。総合的な学習の時間の発表会では子どもたちは常連で大きな学校の子どもたちに負けないう一生懸命やっている姿をとでも評価している。今、私どもで心配しているのは小さい学校で先生方と子ども、保護者が一体となって一生懸命やっているが、大きな学校へ行ったら、子どもたちの活動はどのようになるのか追跡はしていないが、やはりこの良さは認める、評価はしているが、その子どもたちがこれから学年が段々上がって行って、中学校にいった時、ここの学校の良さを発揮してもらえるかどうかは、私も見ていないので、少し心配をしている。ただ、今の状態は少人数中で、先生、子ども、保護者、地域が一体となって素晴らしい教育活動を行っているというは分かっている。しか、このままいったら、段々子どもが減っていくと、少ない中で一生懸命やっているが、子どもの不安も多くなるという危惧は、私指導者としてはそう思っている。冒頭申したように活動は十分認めている。</p> |

朝里ブロック

| 会場 | 会場での発言（質問・意見・要望） | 教育委員会の発言（回答・説明） |
|-----|--|--|
| 豊倉小 | <p>2 四つのパターンが示されました。その他に私小規模校のことを言ったが、複式学級を持つ小さな学校の、今の四つのパターンの他に再編を考えられるということか。。そのほかに考慮する余地があるというように聞こえた。違うのか。</p> | <p>この地区、あるいは豊倉小学校という個別の対象だけではなく、今回の再編全体についてお話をさせていただく。昨年6月29日にここで基本計画素案の説明会をさせていただいた。ここ豊倉小学校も平成5、6年では確か5、60人の子どもさんがいたと思うが、今現在20人。この先もそのような数字で推移していく。これはもう小樽市内の大きな学校、この近くの朝里小学校でも、あと7、8年すると、100とか150という単位で少なくなっていく。これはどこの学校もそうだ。そういった中で小さいままというわけにはいかないだろうと、やはり再編をしなければならないというのが、まず一つの考え方。それで再編するに当たっては、一定程度、地区ごとの特徴というものがあるからブロックに分けて考えていかなければならない。それで6ブロックに分けて考えた。そこで、この朝里地区でいうと、平成27年度の状況を見ると一つの学校で1学年2学級、12学級の学校を作っていきたいという考え方を持っているので、この朝里、桜地区では三つの小学校が必要になる。そうした場合に今四つあるが、三つにするには、どこの場所が一番適切なのかとの資料として、今回これを出している。だから、豊倉小学校をなくそう、どこの学校をなくそうとか、出発点はそういうことではない。ただ、現実として、先程担当からお話した資料の15ページのところに結論的に、桜小学校、望洋台小学校、朝里小学校の3校とすることが適切と考えていると書いている。豊倉小学校は書いていない。それは、先程の図面でも説明をさせていただいたが、通学距離の関係、校地面積、全体の敷地の面積などから、なかなかここを統合校として想定することは現状では難しいということで、適切だという言い方をさせていただいている。だからといって、決めたということではなく、あくまでもこれは、1ページ目にも書いているが、皆さんから色々なご意見をいただくためのたたき台ということで今日お出しをしているということが基本。豊倉を3校のうちの1校として残す方法はないのか、そういう議論があっても全然構わないと思う。ただ、この先も4校の小学校を全部残してくれという議論になると、ちょっとそれは長いスパンで考えていった場合にそうはならなくなってしまふ。逆にいうと、小樽の27校を全部残していくことはできない。そういう視点で議論をしていただきたいと思う。</p> <p>私は去年のこの説明会で、今日も会長さんがこられているが、会長さんの発言の中で、会長さんは守る会の代表者でもあって、PTAの会長でもある。地域の人間としてはこの学校を残してほしいという気持ちはある、ただ去年の話だが、今年の新入生は3人でみんな男の子だったと、そういうことを見るとやはりこの先もずっと、新一年生が年によって6人いたり、2人になったりというばらつきはあるものの、平均すると大体20数人ということで推移をしていく。その中では毎年一年生を迎えるときに2人や3人という場合、全部女の子というパターンもできるし、男の子と女の子1人ずつというパターンもできる。ずっとそういう教育環境のままで良いのかということで、会長さんが言われた部分というのはすごく印象に残っている。だからある意味、ここは前段でも触れているが、来年にしようとか再来年にしようとかいうわけではないが、やはり今後どうしていくのか、どういう学校のあり方が良いのかということも含めてご意見をいただければと思っている。</p> |

朝里ブロック

| 会場 | 会場での発言（質問・意見・要望） | 教育委員会の発言（回答・説明） |
|-----|--|--|
| 豊倉小 | <p>今、2年生は男の子3人。男の子だけなのでまだ遊ぶ相手がいるが、でも3人です。ですから、ちょっと喧嘩があっても、でも3人しかいないという状態。学校的には、やっていること、学習内容に関しても豊倉小学校は素晴らしいと思っているが、逆に人間関係の面では、今現在でもちょっと厳しいのではないかと考えている。上の子はある程度誰とでも仲良くできる子だが、下の子は人見知りであったり、新しい環境に慣れるのに時間がかかる子なので、そういう子たちが新しく入って、1クラス2人しかいない、3人しかいないという中に入ってくる。先ほどお話のあった中学校に入った時に、朝里中学校の100人くらいの子どもたちの中に、たった2～3人だけが入っていくのに、入っていけるのだろうかというのが親としてとても心配。守る会、地域の方が言ってくれていることはすごく分かるし、この学校を否定するつもりはまったくないし、大好きだけれども、ちょっと今の状態は子どもの負担があると。親も正直、出来る限りの協力はしているが、何せ15世帯20人、なおかつ仕事を持っている方もいっぱいいるので、その中で協力できることは親もいっぱい、いっぱいの状態になっているのは確かだ。</p> <p>このブロックの再編は後期になっている。この桜、望洋台、朝里を残したいという気持ちは分かる。豊倉のこの校舎の現状を見れば、無理だろうと。では、それを後期にやるとなると、自分の子どもを考えた時に卒業するか、しないかです。それだったもって早くしてほしいという話もある。他のお母さんは分からないが、私のまわり、私は今でもいっぱい、いっぱい。子どもたちも、5、6年生が生徒会とかやっているが、生徒をまとめているのもいっぱい、いっぱいだと思う。子どもたちの負担があまりにも大きくて可哀そうだという気がするので、後期ということに関しても、本当にこのパターンでいくのであれば、もう少し考えてほしいという気持ちもある。この三つにした場合、豊倉は望洋台にしる、朝里にしる、距離が遠い。朝里小学校であれば路線バスはあるが、望洋台小学校の場合路線バスは無い。例えば望洋台小学校と統合になって、校舎が望洋台小学校となった時に、その2キロ以上の子どもたちはどういうふうに通学していけば良いのかということも、どのように検討しているのかお聞きしたい。</p> | <p>前期、後期の部分からお話をする。ご承知のとおり6ブロックのうち四つを前期、二つを後期にしている。後期はこの地区と銭函地区になっている。わりと機械的な決め方で、例えば、その地区に5校あれば、そのうち半分以上が小さな学校になっている時には急ぐので前期になり、そうではないところは後期にする。ただ、ここはそれぞれの議論の仕方だと教育委員会は考えている、というのは、前期の場合であっても、今回は小中両方のプランを作っているのだから、小学校、中学校とも全部前期にできるかという、なかなか難しい面もある。</p> <p>逆に中央・山手地区で言っているが、あの地区は小学校が6校ある。そうすると、小学校をまずやって、小学校の校区を一定程度整理してからでない次の中学校に進めないという考え方で説明している。そうすると一つの考え方として出てくるのは、小学校で1回統合の経験をする。要するにA校からB校に移った子どもがいる。この後の今度、中学校に行った時、そこでまた、A校からB校に移るといって、要するに2回経験することは基本的には避けたいと考えている。だから、小学校を先行した地区の中学校は一定程度期間を持ってやらなければならないと思っている。逆に中学校を先にできれば、小学校は期間を置く必要はなくなる。銭函地区や朝里地区についても完璧にその地区の統合配置が決まるというわけではないが、部分的に、個別的に後期に含まれているところであっても、前期でやる部分については、この協議の場の中でやらなければならないと思っている。</p> <p>会長さんを目の前にして例にとってばかりで申し訳ないが、去年ここに来た時も、会長さんはその部分も言っている。前期後期という言い方ではないが、地域の人間としては残したい20人とか一つの学年が2人、3人になっていく中では、考えていかなければならない。ただ考えていくに当たっても、やはり一定の時期、いつやるんだと目標を持って考えていかないと何となく議論が進まないのではないかと。もし違っていたら言うていただきたいが、確かそういう趣旨の話もされていたと思う。だから今日この場で、どのプランにしよう、時期はいつにしようなど決めようとは全然思っていないが、ご意見をいただいたが、この部分も含めて、例えばプラン1でいけば朝里、プラン2では望洋台、そういう形をやるにしても、事前に色々な準備をしなければならないと思っている。</p> |

朝里ブロック

| 会場 | 会場での発言（質問・意見・要望） | 教育委員会の発言（回答・説明） |
|-----|---|---|
| 豊倉小 | <p>4 後期になった場合、下の子が真ん中の学年くらい。そうなったときに、例えば朝里小学校と統合になってそちらに通う。中学校の時は、豊倉の校区の子は望洋台中と一緒になくなった場合には、女の子なのでそちらの方に歩いて通えとは言えない。決まってしまった場合は、希望として申請を出せば朝里中学校に行けるのか。</p> | <p>ご覧になった方もいると思うが、今日、仁木で10人規模の学校と80人規模の学校が来年統合しようということで小さい方の学校のお子さん方が毎月1回、統合校の方に行って交流をしているという新聞を見た。今決まったから来年からということではなく、一定の期間を置いて子ども同士の交流もある、PTA同士の交流もある。先生方で事前に学校ではこういう教材を使っている、教科書は同じだが違う教材を使っている場合は、前段の準備の中で統一していこうという、色々な議論があると思う。一定程度、前期、後期ということではなく、やはり一定程度の期間を持ってきちんと準備をしてやっていくというのが基本だろうと思う。</p> <p>それからバス通学の分も出ていたが、この区域の方々中学校は基本的にみんな朝里なので路線バスを利用するという形になっている。実際に在籍している方々の最遠通学距離は出した、マンションを含めて学校周辺に住んでいる方が多いと思うが、小学生であれば2キロというのが通学支援の一つの基準になっているが、地区全体としては2キロ以上離れている方もいるし、望洋台とした場合2キロより近い方もいると思う。定期という形になるのか、小学校の場合どうなのということもあるので、スクールバスを用意するという部分もあるのかそこは統合準備の中の協議の中で色々話し合いをしていかなければならないと思う。中学校は、文字どおりどういう形が良いのか協議をしなければなりません。小学校なら望洋台の方が近いと思うが、今現在、中学校は朝里に行っている。今回は再編なので、小学校も望洋台にする、同じく中学校も望洋台にする、そういう選択もあると思う。ただ、ぐるっと回って行くことになる。この辺がある意味では、小学生のスクールバスという選択肢があるとすれば、朝は中学生も含めてという選択肢があるのかどうなのか。帰りは中学生の場合は部活があるので難しい部分がある。もちろん朝里中学校という選択肢もある。今現在の校区なので、もう一つ頭の中にあるのは、小学校と中学校の連携、1例を挙げると菁園中学校は五つの小学校からきている中学校。先生方は大変だ。その連携についても、私どもも色々な判断をするし、子どもさんの意見も当然あるだろうから保護者の方にも、子どもさんの意見を聞いてもらいながら、色々な相談をするということも必要だろうと思っている。</p> |

朝里ブロック

| 会場 | 会場での発言（質問・意見・要望） | 教育委員会の発言（回答・説明） |
|-----|---|---|
| 豊倉小 | <p>正直に言って、後期になればうちの子たちは卒業してしまう。そういう意味では関係ないと言ってしまえば関係はないことになってしまうが、ここ5年もPTA会長をしていますので。前回と違ってお母さん方の率直な意見が出た。正直、PTA会長と言うと、事務局会議とかPTA総会を開くと、お母さんたちの意見としては男の子しかいないとか、今年の新入生に関しては66%がうちの子もだというのがどうかと思う。1学年の3分の2が一家庭から出ているというのが、かなり問題だと思うので、そういうことから子どもは多い方が良いと思う。こういった再編プランが出てきてしまったことで、実際にマンションに住んでいる方でお子さんもいて、本来は豊倉小学校に通われる子どもさんが朝里小学校に通っているという家庭もあって、思った人数が豊倉小学校に入っていないということも、人数が少ない理由の一つだと思う。</p> <p>あと、頭が痛いと思うのは、小さい学校なのでとても仲の良い子どもたちが6年間一緒に過ごしてきて、市内で一番大きい朝里中学校に入って、中々クラスに馴染めなくて、学校に行けなくなってしまいうちの子どもが出てくるということも実際に聞くので、小学生を持つ親としては心配だ。せっかくこの学校から巣立った子どもがそのようになるのは悲しいことだと思う。かといって、板挟みではないが、地域の方々から見ると、この学校がとても良い活動をしていることは、さきほど教育長がおっしゃったように教育委員会の方でも評価していただいていると思うが、地域の方々にも評価していただいている。最近だと、すぐ近くの朝里ファミリアという老人ホームのような施設があって、そこから運動会をやるのであれば寄付していただいたり、その代わりではないが、夏休み期間中に子どもたちが運動会でやっているヨサコイ、見ていてとても感動するものなので、それを披露してくれないかというお話をいただくわけ。子どもの姿を見てると、お爺ちゃん、お婆ちゃん達は元気になるのでぜひ来てほしいと、ケアハウスの方からも良く夏まつりの時に来てほしいと言われるので、この地域というのは住民、住んでいる人達以外にも、施設に入所されている方々も住人としているわけで、そういった方達はご老人で、家族がいるわけではないので、子どもたちと触れ合いたくて、そういう実情もあるものだから、そういった地域の実情もありなんとか触れ合いの機会を持たせてあげたいと、地域住民だけではなくて、そういった方々にも。今年も本当に運動会にたくさんの方々の施設の入所者の方々に来ていただいた。</p> | <p>今、PTA会長さんから会長としての心情をお話いただいた。やはり地域と学校、先程町会の方からもお話いただいたが、地域があつての学校、学校があつての地域というようにお互いに支えあう部分、特にこのような小さな規模の学校とはおのずからそういう形を取っていく、小樽市内でもそのように続いてきている学校も、特に小学校だが、あるというように思っている。ただ、再編の部分で言えば、新しく再編をすることによって、ここで培ってきたノウハウ、その地域の教育力あるいは学校の地域力、そういったものを少しでも広げていって、それがこの再編を契機に大きな輪になっていっていただければと、そういう思いも教育委員会としてはある。</p> <p>小樽市内でも例えば読み聞かせのグループが核になって隣の学校にそういった運動を広げていって、そのような取り組みもあるので、この豊倉小学校の先程言った地域との関わりの部分も私ども十分承知をしているし最大限尊重していきたいと思う。そういった議論と今回の学校再編の議論を平行して今後も継続してお話をしていきたいと思う。</p> |

| 会場 | 会場での発言（質問・意見・要望） | 教育委員会の発言（回答・説明） |
|-----|---|-----------------|
| 豊倉小 | <p>この部分と、子どもたち、教育長が言われたように、はきはき元気に話をするとか物おじしないとか、自然とかかわる環境の中で6年間過ごすという部分がすごく心身に影響しているというのがあるので、これがこの地域に住んでいる子どもたちだけだと、いまこの人数だけだが、もう少したくさん人間関係に悩んでしまうような子どもたちが、こういった学校にいった時にのびのび発言できたり、いつも仲良くしている友達と一緒にいられたりという点で、この学校が何か、そういう環境の子どもたちにとって良い対応になるのであれば、ある程度人数が確保できて、地域の皆さん達との触れ合いも出来て、そんなことが可能になればとても素晴らしいことだと思う。</p> <p>PTA会長としては、皆さんの意見を踏まえて、みんなが良くなるためにはそんな方法があればと考えていて、できればそういう活動も今後して、今回の学校再編、学校の数を減らさなければならぬと、子どもの数が少なくなって減っているの、そこところは重々理解しているし、この地区は子どもたちが少ないわけで、私も1学級は良いとは思っていません。やはり1学年1クラス確保は良いと思っていますから。ただそういった間に入ってみんなの橋渡しをしている役としては何とか皆さんが納得できるような形でこの先進んでいって、この学校も残れば良いし、子どもたちもある程度集まってみんながノビノビ勉強できれば良いし、地域の皆さんと学校が緊密な関係を持ちながら続けていくことができればと。</p> <p>3年後にこの学校は100周年を迎えますので、まずはそこが一つの目処で、そこまでは何とか存続させて、地域の皆さんと100周年を祝いたいと思っている。無くなるということであれば、寂しいことだし、今みたいな現状でいえば、お母さん方みんなこうやって心配する。本当に15家庭しかないから、両親だって30人しかいないので、実際にはほとんどお母さんしか来てくれない、僕を含め16人の中で運動会を運営したり、本当にもう大変です。15人の子ども、30人の親ですが、実際に運動会をやればたくさんの方が来てくれて、先ほど町会の方からもあったように、餅つき大会とか地域の人々がお手伝いをしてくれる、お金も協賛してくれるので、それでお米を買ったりしているので、そういう意味で僕の希望としては、これは理解して、今このようになるのはしょうがないが、ただ豊倉小学校というのはとても地域とも密接に関係している、子どもにとっても全員とは言わないが、この学校を必要としているという子どもも小樽市内には他にいないかなというようなことも含めて、こういう立場ですから少し教育委員会とも連絡を取りながら、なんとかこの学校が存続できればと、最終決定が決まるまではずっと思っていたいと思っている。心に留めておいていただきたいと思う。</p> | |

朝里ブロック

| 会場 | 会場での発言（質問・意見・要望） | 教育委員会の発言（回答・説明） |
|-----|---|---|
| 豊倉小 | <p>6</p> <p>先ほど教育委員会の方が、実際にこの再編、統廃合にかかわっている方なんかは当然だが、直接的には子どもだと思っている。その子どもが、親はうちの学校からどこかの学校に統合される、それは心配でしょうけれども、子どもたちは統廃合についてどう考えているのか。何か統廃合は地域と保護者と教育委員会で決めるのか、そういうことにはならないと思う。子どもたちがきちんとどのような考え方をしているのかということを知りたい。保護者とのディスカッションは大切だが、学校は学校単位、学級規模だと小規模学級は別として、学校としてきちっと時間をとって子どもたちに聞くことは大事だと思う。そういう観点から、この再編計画に子どもの声が出てきて、保護者の声は今このようにやっているので、この点はぜひお願いしたい。</p> | <p>今子どもさんに学校再編に対して話を聞く機会を設けたら良いのでは、というご提案だと思うが、それから統合後にどういうケアが必要なのか、そういったことも極めて大事な問題だと思う。ただ前段の部分の話、子どもさんの意見を聞くという部分からすると、私たちみたいな人間がきて「君たちどう思う。」という話にはならないと思う。これがまず基本だと思う。だから、そのところはまずお母さん方からどういう様子なのか見ていただく。そういう話が出てきたときに、「こういう話があるのだけれど」と話をしていただくというのが、一義的だろうと思う。</p> <p>あともう一つは、どこの段階と言えないが、現状では20人のお子さんがあるわけで、そうするとみんなとクラス単位という形だけではなくて、みんなと学校統合という言葉が適当か分らないが、堺小学校の時の経験もあるが、当然、事前に統合する学校とお子さんとの色々な交流だとか、前にやったことがあるのは、両方の学校が遠足の場所を同じにするなど色々な取組をした経過はある。もちろん先生方のやりとりもあるが、そのところは色々なことを考えなければならない。今私の頭の中にあるのは、こういう形で教育委員会の人間がお子さんたちに直接何かを聞くというのは、想定しづらいと思う。</p> |
| | <p>7</p> <p>教育委員会が小学生や中学生に聞きなさいということではなく、学校が聞いてみたらどうですかということ。</p> | <p>私は堺小学校で教頭をしていた。その時の様子をお話させていただこうと思う。まず基本的に親が納得して、理解して、そして、子どもにお話する。親が納得していないと子どもも不安になるのでそれが前提だと思う。その中で、子どもの中には小さな子もいるし、判断するという部分では、非常に寂しい感情が強いと思う。なかなか判断できなくてその先という部分では親とか大人が責任を持たなければならないと思う。色々な面で今お話のあった先生方も事前にケアするという部分では、統合される学校の方と色々な事前の事業をしたり、色々和交流を深めている。その中で、少しでも不安を和らげて進めてきたという経緯があるので、その中で子ども大丈夫だ、いけるんだ、という気持ちに少しずつ段階的に進めてきたということがあるので、前提として保護者の方々が、理解して進めるということが大事だと思っている。</p> |
| | <p>8</p> <p>必ずしもこうした方が望ましいということではなくて、子どもが最後判断できないという前提を持たないで、判断を持たないという考え方、判断を持たないという考えでそういうことを聞いてみる。そうすると色々子どもから出てくると思う。そういうことを子どもたちはどう考えているかということを知りたいと言っている。</p> | <p>今のお話は参考とさせていただきます。</p> |

朝里ブロック

| 会場 | 会場での発言（質問・意見・要望） | 教育委員会の発言（回答・説明） |
|----------------|--|--|
| 朝里小・中 7月12日 | <p>現状認識として、誤解を受けると良くないので、訂正を願いたいと思う。3ページ、朝里小学校の最寄りのバス停とあるが、豊倉方面から来ると「新光1丁目」が一番近いバス停で、昨年出来ました。桜町方面から来ると「朝里町」というバス停が一番近いバス停です。訂正いただきたいと思う。</p> <p>地勢的な説明をしていたが、これに歴史を加えていただければと思う。旧朝里村は四つの大字があり、熊碓村が現在の桜、望洋台、豊倉を含んでいる。そのような歴史的な形から見れば自然に納まるのではないかという思いもある。若竹は、平磯岬を越えて行く別世界であったという背景もあるので、その辺をかみ砕くと違った流れの説明が出来るのではないか。</p> <p>1 今、望洋台、桜、豊倉の統合の話が出ているが、朝里にある国の官舎の構成なども大きくからんでくる。市の関与、道の関与、道営住宅、市営住宅の構成によっては、大きく人口比が変わってくるだろうと思う。豊倉に至っては、一つのマンションが建ったことにより存続した、逆に言えば、年限が過ぎてそろそろ人が引き始めているが、10年先を考えると自然消滅してしまう可能性も考えなければならぬ。</p> <p>現段階で、豊倉小の親御さんたちが早めの統合を望まれているのであれば、いわゆる教員の数を減らす、あるいは新しい建物を建てなくてすむのであれば、後期などと言わずに、早めに対応するのも一つの方法だろうと思う。</p> | <p>資料について最寄りのバス停ということでお話があった。他のブロックでもバス停すべてを網羅しているということではなく、なるべく本数も多いものを抽出しながら皆さんが分かりやすい資料づくりをされており、欠落があったということでは改めて資料づくりには注意して参りたい。また、会場でご発言をいただいているが、ご自身の立場からも、皆さんにそういう訴えをしたという形で、この会場の中でも、意見交換の場というフランクな場ということで考えているので、他の参加された方からも意見交流をしていただきたいと思う。</p> |

朝里ブロック

| 会場 | 会場での発言（質問・意見・要望） | 教育委員会の発言（回答・説明） |
|-------|---|---|
| 朝里小・中 | <p>2 先日、豊倉小学校のお母さんに会ってお話を聞いたが、団体の中でうまくいかない子どもたちが集まって来る学校が札幌にあると、豊倉もそういった位置付けにできないのかと言っていた。そういった考え方もあると思うが、その可能性はまったくないのか。</p> | <p>小樽市議会でもそのような議論はされている。私ども知っているのが、札幌で5校程ある、例えば、盤溪小学校、それと江別の野幌小学校この両方とも自然豊かなところであって、そういう自然のあるところで子どもを過ごさせたいという子どもさんを受けるといことで、一定の条件はつけながら、確か1学年8から10人までといことで、小規模特認校という言い方をしているが、一般的な特認ではなく、自然環境の中で育てたいという形で、よその校区からも受け付けるという取り組みをしているところ。</p> <p>これについては私も議会の中で言ったが、例えば、不登校の問題とか、そういうお子さんを集める学校ということでは、それは教育委員会としても良しとはならない。変な言い方だが、その学校に小樽市中から学校に行けないという子どもたちばかり集める学校には基本的にはならない。ご存知のように教育庁舎の中には、「ふれあい教室」という、どうしてもなかなか学校に行けないお子さんに来ていただいている教室があるが、一般の公立の小学校をそのような位置付けにすることはなかなかできないと思う。ただ、小規模特認校という部分は小樽でもどうい小学校を作るかという議論になるだろうと私も思っている。そのようなことをやっている学校もあるので。ただ今回の学校再編というのは、やはり一定規模の学校を作っていこうということなので、この再編とストレートにはならない部分はあると思う。</p> <p>小規模特認校については相当議論をしなければならないというのは、例えば、ここは小規模特認校だから小樽市内どこから来ても良いとした時に、2、3人は来ることはあり得ると思うが、もともとの校区の人はいるわけで、例えば豊倉校区の人がそこをそのような学校づくりにしていくということで括れるというか、新一年生が小規模特認校に来た場合、その子の6年間責任を持たなければならない。途中で特認校をやめましたとはならない。だが、一方では、ご紹介したように1学年3人、4人という中ではなかなか難しいというのも、あるのが現状。だから、今言われたように、豊倉小学校は後期に位置付けてはいるが、そのような話がきているので、現実には、後期の何年後ということではなく、今の懇談会が7月いっぱいまで一当たり終わるので、次の段階の一つの議論として、豊倉とはやっていかなければならないと思っている。ただ、小規模特認校については、相当慎重に色々な角度から見ていかなければならないと思う。</p> |

朝里ブロック

| 会場 | 会場での発言（質問・意見・要望） | 教育委員会の発言（回答・説明） |
|-------|--|--|
| 朝里小・中 | <p>3</p> <p>以前教員をやっていた。町会の中でこのような会合があるという、この場合もう決まったようなものと言われる。地域の方はそのように考えている。</p> <p>一つ目は、学校の統廃合の問題について、一般の人達は市の財政上から統廃合をしているという感じを強く持っている。そうではないと、目的はこうだという説明をしていただいた方が良いと思う。教育的な面からこうですということ、色々な隘路はあるのだろうか。</p> <p>二つ目は、色々な説明会を開いて、地域の方や関係者の意見を聞いて統廃合をする最終年度はいつなのか。目処を持っているのか。</p> <p>もう一つは、14ページの小学校で学級人数が30人前後です。理想の人数に近づいてくるとの感があるが、新聞に出ていた(少人数学級)のに近づいていくのか、その辺の状況が分かっていたらお教え願いたい。</p> | <p>学校再編の目的について、市民の中には小樽市の財政状況それが行財政改革の一環かという捉え方をしており、それに対する説明不足ではないかというご意見だと思う。昨年作った基本計画の中で、学校再編の必要性について計画そのものは作っていく過程の中で、市民の皆さんにはホームページを通じたり、情報は出しているつもりだ。今後とも学校再編の必要性、先程おっしゃった子どもたちにより良い教育環境を作っていくということがもちろんあるので、その部分はこれからあらゆる機会を通じて市民の皆さんにお知らせしていく必要性はある。今回のこの懇談会でいただいた意見もブロック単位でできるだけ速やかに公表をしていくことを考えているので、その中で、市民の皆さんのご理解をいただけるようにやっていきたいと思っている。</p> <p>それともう一つ、統合の目処というお話をいただいた。先程来、こちらは後期の計画ということで、お話をさせていたが、前期の22年から29年までの8年間ということになるが、今各会場を回っていて、先程豊倉小の保護者の方のお話もさせていたが、それから塩谷の方でも、例えば統合という方向性が出るのであればあまり期間を置かないで早めにやったほうが良いのではないか、というご意見もいただいているので、そのブロック、ブロックで若干進め方は異なるかもしれないが、そこの話の中で、一定の方向性が出るということになれば、今日お配りしているリーフレットの左側の方に2年程度かけてということを書かせていただいているが、児童の交流とか保護者の交流ということもあるので、そういう期間をとりながら、できるだけ、そういう方向が出たところについては取り組んでいきたいと思っている。</p> <p>あと、30人程度ということで、今回このプランの中に1学級当たりでいくと、だいたい30人弱というところに来ているかと思うが、国でも今、中央教育審議会です人数化の提言ということで、このことだと思うが、まだ詳細は見えてないが、30人ないし35人、そういうところでの調整ということが出ているので、そこはこれからもそういう動きを見ていながら、対応していきたいと考えている。</p> |

朝里ブロック

| 会場 | 会場での発言（質問・意見・要望） | 教育委員会の発言（回答・説明） |
|-------|------------------|---|
| 朝里小・中 | | <p>昨年、一昨年このような説明会を開催してきた。その時にも、小樽市の財政事情は一切関係ないとそういう言い方はしていない。今回この学校再編を進めるに当たって、ポイントを三つ掲げている。一つは小樽の少子化だ。7割の学校が1学年1クラスになっている。今年の小学1年生は、平成15年に生まれた子どもで、平成15年ではまだ小樽市では、930人の子どもが1年間で生まれていた。しかし去年1年間では、730人程しか生まれていない。その今年の1年生が生まれた年と去年の6年間の違いだけでも200人も減ってきている。そういった中で、やはり少子化に対応していく形での学校再編をしていかなければならない。このことについてはおおむねご理解をいただけたと思っている。</p> <p>それからもう一つのお金の関係でいうと、今赤字があるとかということではなく、今学校を41校持っているが、これだけ子どもが減っている中で、市としてこの先ずっと41校を、古くなれば建て替えもしていかなければならないわけだが、そういったことをしていくべきなのか、そのことではやはり、学校再編をしていかなければならない、その意味でお金のことと関連があるといえば、あると思う。この学校もそうだが、お金がないから耐震化できないということではなく、一昨年からはじめていて、必要なことはしていかなければならない。お金がかかるのは事実だが、41校をこの先ずっと持つていくということはないだろうということについても基本的にご理解をいただいている。今担当からも言ったが、41校の説明会もあと4校で終わる、私どももそれぞれの懇談会で、話していく中でも、やはり再編はしなければいけない、する場合に、統合校を決めていくわけだから、統合校としてどこが一番条件が良いのか、議論をしていこうというそういう流れでされている。</p> <p>実はこれは一例だが、手宮地区で北手宮、手宮西、手宮3校があって、ここは1校にしよう。その時に、手宮小学校を建て直して小学校にする案も出している。それから、手宮西小学校は新しいのでその間使えるという案も出している。ただ、高島・手宮地区で中学校は2校あるが、それを1校にするという考え方。普通であれば、北山中学校を使うか、末広中学校を使うかというのが普通の考えだが、私たちがプランとして出しているのは、手宮西か手宮の小学校として空いた方を中学校として使おうというプランも出している。それはやはり通学路の関係で、北山中学校もすごいところにあるし、末広中学校もどちらから登ってもすごいところにあるから、バスを使っても通学条件の良いところを通していこうという議論もしている。一般的に金がないから統合ということではなくて、この先長いスパンで見えていった時、学校として適地なのか、という議論をやっていく、そしてその中で必要であれば、建て替えをしていこう、そういう流れでご理解をいただきたいと思う。</p> <p>それから30人学級の関係だが、教職員定数の改善計画が7次までできていて、8次のところで中教審から考え方は出されたものの、国の財政の関係で中断になっていて、それがまた復活して35人なのかどこになるのか、全学年一斉になるのか一定程度学年ごとに順番にやっていくのか、まだはっきりはしていないが、今の文部科学省の考え方では、新年度に23年度に向けて、一定の方向性を出すと言っているの、私どもも大変期待をしている。</p> |

朝里ブロック

| 会場 | 会場での発言（質問・意見・要望） | 教育委員会の発言（回答・説明） |
|-------|--|---|
| 朝里小・中 | <p>4</p> <p>町会の会議をやっていると、高齢者ばかりで、学校再編にあまり関心がない。良く分からない。話をするとああそうかと、そういえば新聞に出ていたなという程度。その人達には子どもさんがいないので、現実が分からないから、財政が逼迫していることからの発想ではないというPRをした方が良いのではということ。その方が理解してもらえるのではないか。</p> | <p>色々などところから質問いただき、毎日このように懇談会をしているので、それぞれの地域でどのような議論になっているか把握しているが、皆さんにとって情報量は多くない。だから、一つはホームページという形でこのような懇談会で出された意見を公表していきたい。また、年に何回くらいになるか決めていないが、6ブロックに分けてやっているから、それぞれのブロックでどのような進展をしているか、ブロックで協議会が立ち上がって色々な議論をしています、とか、例えば、手宮地区の小学校はここが、統合校になりました。それで、地域で色々な議論をしています。など情報は、学校もちろんだが、町会にもなるべく出していく。保育所や幼稚園はもちろんだが、学校再編は小樽市全部の地域でやっているんだということを是非知っていただくということも必要だろうと思っているので、今後、そういう形で回覧の依頼などをさせていただくこともあると思うのでよろしくお願ひしたい。</p> |
| | <p>5</p> <p>（要望） お願ひをしたい。朝里小学校、朝里中学校から見て、豊倉小学校が小学校では入ってくる、中学校では出ていくといっても、正直大きな変化はない。豊倉小学校の子どもたちを最優先に話をぜひ進めていただきたい。（豊倉の）保護者の意見優先でお願ひしたい。 今、生まれた子が誰一人として小樽から出ない想定をされているが、逆に周辺から小樽の学校は良いと言われるような、魅力的な学校づくりを、今もされていると思うが、さらに、他から小樽の学校に入れたいという学校づくりをどんどん進めていただきたい。以上要望2点です。</p> | <p>要望という形で言われたが、一つやはり、小樽の学校を魅力のあるものにしていこうという部分というのは、この再編ということとは関係なくとも、やはり、一生懸命私ども教育委員会としてはやっていかなければならない。</p> |
| | <p>6</p> <p>以前、統合した中学校に勤務していた者。その時は、数字だけで話が進められたような気がする。それぞれの学校や地域には歴史があって、例えば、学校がいつ、どのような状況で出来たとか、校長は子どもたちに話をする事で、自分の地域を大切に思うし、学校も大切にしなければならない。そのためには、人間関係も大切にしなければならないという教育をしているはずだ。ところが、人数がどうこうとか市の財政がどうだとか、そんな話を子どもたちにしても、中々理解できない。人数だとかで(再編を)やられたら、子どもたちは可哀そうだ。自分の町は、こういう良いところがある、この学校にはこのような特長があるということ認識して、そこで学習することによってその地域や学校に愛着を持つと思う。親にもそのような歴史を感じながら生活する人もいると思う。朝里に関する本は色々出ている。それを読むと朝里の歴史が良く分かる。私も明治9年に朝里に学校ができた時の発祥の地の数メートル近くに住んでいる。そういうことを含めて、地域の人々にどうして今こうしなければならないかということ、歴史のことを含めて話し合いをしていかなければ、そっぽ向かれては大変だ。町会の老人たちだけではなく、子ども、孫、この地域は古くから繋がっている家庭が多いので、もっと子どもだけではなく、親をも含めて学習を進められるような教育委員会であってほしいと思う。本当に、大切に、大切にしてきた地域や学校をどうしてこうしなければならないかということ、できるだけ時間をかけて説明して、意見を聞いて進めてほしいと思う。</p> | <p>今、お話しいただいたこと、まったくそのとおりで思う。私どもが取り組んでいるのは、それぞれの学校の伝統や歴史を決して軽視しているということではなく、大事にしながら新しい学校を作り上げていこうというそういう観点なので、大きな学校に統合されるとか、そういう思いは決して持っていない。家族、おじいちゃんおばあちゃん、子どもに対しても、その学校の歴史は十分教えながら、よりよい環境に向けて、そういう思いで進めている。末永先生にお聞きしたら、朝里は明治2年か3年に私塾としての一番の発祥の地だということ聞いた。そういう面ではこの地区の朝里なり豊倉、さらに広げて銭函、そういう歴史を十分踏まえながら、これから子どもたちにどうして学校が合わさって行って、授業を受けなければならないかということは、教育委員会としても、保護者にも説明してこれから参りたいと思う。そういった意味で今日の懇談会も考えは十分分かったので、この次に来るときはそのような話もさせていただきたいと思っている。</p> |

朝里ブロック

| 会場 | 会場での発言（質問・意見・要望） | 教育委員会の発言（回答・説明） |
|--|--|---|
| <p>桜町中 5月28日</p> | <p>1 中学校と小学校を併せて考えたいが、プラン的には、中学校は1が良いかと思うが、使う学校を桜町中学校と望洋台中学校を望洋台小学校へやったらどうかと思う。学校的には望洋台小学校を望洋台中学校に使うと。小学校は中学校を使うということで、桜町中学校はグラウンドのことも含めて狭い、部活動のことを考えると、設備の良い望洋台小学校、望洋台中学校を使うようなことを考えた方が良くはないかと思う。</p> | <p>後期、長期的な中でみていく課題ですから、今いただいたご意見も、ひとつのご提言として受けさせていただきたいと思っている。 ちょっと申し上げたいと思うのは、実は、今回のプラン、今いったような形のことも具体的なプランとしてお示しているところもある。今週懇談会で行ってきた手宮地区。あそこは、大きくいうと、手宮3校と祝津・高島という小学校のグループで、それから中学校は、北山と末広というのを1校にしたいとしている。私どもが示した一つのプランとしては、北山中学校というはある意味大変なところにあつて、末広中学校も位置的に手宮の真ん中らへんにあるが、手宮側から上がつても、北山の方から上がつても、相当急こう配もある、懇談会でも、夜、中々子どもが一人で帰るにはゆるくないというご意見もあった。私どもの出した一つのプランとしては、手宮小学校と手宮西小学校このどちらかを小学校、どちらかを中学校としてはどうかということでのプランを出して、色々ご意見をいただいた。そうではないというご意見もいただいたし、そういう考え方もあるというご意見もいただいた。その意味では、今回のプランというのは、小学校の統廃合により空くところが出てくる、中学校の統廃合によって空くところも出てくる、それを地域全体としてどのような学校配置にしていくのかということ考えている、作っている、今いただいたご意見も今後の再編議論を進めていく中での一つのご提言として受けさせていただきたいと思っている。</p> |
| <p>2 耐震工事は、一つ一つの教室を工事していくのか。1階、2階全部。</p> | <p>そこら辺を今設計してして、いくつ筋交い(プレス)をつけなければならないかというのをやっているところ。一つずつというのではなく、だいたい校舎を半分に分けて、半分ずつ一気にやっていく形になると思う。ですから半分のところを移動していただいてという形になると思う。</p> | |
| <p>3 使っていない教室、美術室とかそういうところに、子どもたち移動して、工事に当たって、資材とか、そういうのは子どもに害はないのか。</p> | <p>もちろん工事車両も入って来るので、子どもさんの通学路と重なる部分も出てくる。そこら辺も学校と十分注意して、なるべく支障がないようにしていきたいと思うが、どうしてもおっしゃるとおり資材などは搬入するので、時間をずらすなど、登校時間にももちろん持ってきたりはできないので、実際の工事業者が決まったら詳しく学校と打ち合わせしてやっていきたいと思っている。</p> | |
| <p>4 使う、資材、体に害があるかどうか。人それぞれ、子どもの体質も違うから、それは前もってこういう物を使うということを、私たちは来て説明受けているので良いが、来ていない家庭には、一応そのようなことの説明が必要なんではないかと思う。</p> | <p>札幌の保育所で問題になった。塗装も、色々の建材なんかもそうで、そういうところは念には念を入れて、事前にももちろんきちんと調べるけれども、さらに説明するとともに、子どもさんの移動、どのように動かしていくか、言われたとおり空き教室を使うということもある、空き教室だけで足りない部分あればプレハブでやっていかなければならないが、そこら辺も慎重にやっていきたいと思う。</p> | |
| <p>5 それでなければ、勉強に差し支えがあると困るので。うち、来年は3年生なので、高校受験とかあるから、そういうものも考えていただかないと。1年生だから良いという問題ではないが、教育面にも、考えていただければと思う。校長もここに居るので、3年生の勉強に差し支えない程度にお願いしたいと思う。</p> | <p>全然支障が出ないということにはどうしてもいえないと思う。何年生をどういふふうにかかすとか、そういうことは校長先生を始め学校の方と相談してやっていきたい。 今、お母さんおっしゃるとおり、子ども安全のためにやるのに、勉強ができませんでしたというのは話にならないので。</p> | |

朝里ブロック

| 会場 | 会場での発言（質問・意見・要望） | 教育委員会の発言（回答・説明） |
|-----|---|---|
| 桜町中 | <p>6 3年生だから特に5教科は力を入れてもらいたいというのが親心なんで、ちょっと来年にかかるというのが、今引っ掛かったところ。</p> | <p>おっしゃるとおりだと思います。今年、実施設計やるので、年内にどういう工法で、どのくらいの工期がかかる工事なのかというのは、はっきりしてくると思う。また、学校には、私どもの方もご説明と相談をさせていただくので、言われたとおり、例えば音楽室を普通教室に使って、音楽の授業はプレハブでやってもらおうとか、そういうこともあり得ると思う。通常やる、普通の授業にはなるべく影響のないように、どのクラスもやるけれども、週に1回とか2回だとかやる授業は、プレハブだとか、いろんなことを工夫しながら、極力授業には影響の出ない形でやっていきたいと思う。</p> <p>それと、シックの関係ですが、これは私どもも相当気は遣っている。夏休みの間に検査もしているし、ちょっと改修したとか、そういう教室は必ず検査をしている。もちろん建材とか、そういったものも含まれていないものを使うというのが前提ですが、100%何も入っていないというものは、実は中々難しいです。現実的には、それぞれのお子さんによっては、程度の差があるから、工事が終わった後に、シックの検査をやって、レベルが超えていないことを確認してやっている。実は昨年小中学校全部ですが、パソコンを入れ替えました。実はああいうものからも出るということがある。全部の学校ではないが、どこの学校も同じ台数入れているので、いくつかの学校をピックアップして、そのパソコンを入れた教室もシックの関係を調べようと思っている。その部分は、私どもも十分気を遣いながら進めてまいりたい。</p> <p>今日、菁園中学校で検査をした。学校薬剤師に正確に判定してもらおうと思っているが、おそらく大丈夫だと思う。</p> |

銭函ブロック

| 会場 | 会場での発言（質問・意見・要望） | 教育委員会の発言（回答・説明） |
|----------------------|--|--|
| <p>張碓小 7月20日</p> | <p>1 只今説明いただいたが、平成27年度の小学校の学級数が13学級とのこと。現在の銭函小学校の学級数が12学級ですが、この学級数については、まだ余裕があるのか。資料では、銭函小学校は改修と書いてあるので、もし足りなければ増築ということもあり得るのではないかとということで、お聞きしたい。</p> | <p>27年度の推計で13学級になる、銭函小学校の校舎の関係だが、資料3ページの各学校の概要の銭函小学校の欄をご覧ください。二つ目の区分のところは学校施設の状況を書いている。四つ目の欄に保育教室の内訳を記載しており、普通教室は学級増による転用を含むと表記しているが、現状で銭函小学校は普通教室が12あって、さらに特別支援学級が2教室あるので14教室まで転用が可能となっている。特別支援学級がどうなるかということはあるが、現状としては、普通教室として今の建物の中で14学級分までは確保が可能であると考えている。</p> |
| | <p>2 意見ではなく要望であるが、よろしいか。先ほど、担当者の説明があったが、5ページに書かれている「銭函小学校は優位である」との説明と、統合校として銭函小学校ありきではないとの説明も聞いたが、それを踏まえて要望をしたい。 二つあるが、一つ目は、張碓、春香地区の学童数は以前から見ると増加傾向に向かっていると思っている。今後についても、春香地区には比較的安価な未分譲地も残っており、若い方の居住の可能性もあり、学童数の増加が見込まれると考えられる。また、校舎は耐震構造であるし、通学路の歩道の安全柵の整備がきちんとされている。冬期間においては、校舎周辺の除雪も万全である。 二つ目は、子どもたちが心豊かに学習できる自然環境が整っている張碓小学校は、銭函地区で類を見ない学校であると過言ではないと私は思っている。まさに、小樽市学校教育推進計画に盛り込まれている「心豊かに学び ふるさとに夢と誇りをもち たくましく生きる 小樽の子どもの育成」と謳った小樽市の学校教育を支える基本理念と合致する教育環境がこの張碓小学校にはある。以上二つの要望をお願いするが、人口割合からいくと銭函小学校が大きいのかもしれないが、もう一つこの地区においても自然環境に恵まれた学校を残すということも再考していただきたいと思い今日参加した。よろしく願いたい。</p> | <p>私ども今日これを持ってきて、これでやるんだから賛成か反対を聞いているという懇談会ではないということ、会長さんが言われたことと同じ気持ちで来ているので、そのことを前提としてお話をさせていただく。 昨年の張碓小学校での基本計画(素案)説明会は、7月21日に開催している。ちょうど1年ぶりのお邪魔となる。その時も地域、PTAの方27人と学校規模の割にはたくさんの参加をいただき、その時も地域の方々から色々な発言を出していただいた。後段の方で、もう一方からあったように、昨年の説明会でどんな意見が出たのかというのは、市のホームページに400件ほど出たご意見、ご要望、ご質問を基本的には全部アップした。それに対して、教育委員会がその時点でお話をしたことも全部書かせていただいている。全部で100ページにもなる。今言われたように、反対、賛成、やるのであれば時期をきっちりと示してほしい、前段教育長の挨拶にもあったが、ただ意見をくださいでは議論がしづらいので、教育委員会で叩き台のようなものを作って次話をしようという意見もあって、今回示しているのは叩き台としてお持ちしたもの。 数が減るから統合は仕方ないのだという考え方、あまり数の問題だけで考えなくてくれという発言かと思うが、私ども小さい学校だから無くしようとか、単純に数が減ったからなんとかしなくてはならないと単純に考えているつもりはない。昨年も言ったが、現実には、小樽の小中学生がピーク時は四万人を超えていたが、今現在すでに九千人を切っているという現実の中で、市としてこのまま小中学校41校をずっと維持していくということは考えにくい、やはりそれはできない。このことはご理解いただきたいと思っている。小さいところから無くしていく云々ではなく、やはり見直しはしていかなければならない。今回の基本計画では統廃合という言葉ではなく、小樽市内の小中学校を再編成していくという立場でお話をさせていただいている。まず、このことはご理解いただきたいと思う。</p> |

| 会場 | 会場での発言（質問・意見・要望） | 教育委員会の発言（回答・説明） |
|-----|--|---|
| 張碓小 | <p>私は、この学校再編の問題点について、いくつか考えがある。教育長の挨拶で言われたように、昨年このような懇談会を開催し400件の意見があったとのことだが、そのいくつか、賛成、反対や建設的な意見も含めた話があったと想像する。その中のいくつかでも今日の懇談会で披露していただき、私どもも参考にしながら、学校再編とはいかなるものかということも深めた考えをしていきたいと思うので、差し支えない程度にお教えいただきたい。400もあるのでそう簡単にはいかなさと思う。</p> <p>私はこの張碓に生まれ育ったわけではなく、遠くは岩見沢の方で生まれ育って、地元の小学校を出て高校というようにして今日に至っている。この張碓には20年から25年くらい住んでいる。学校の存続、廃校という問題は地域にとっては大変大きな問題である。残念ながら私の故郷の学校もすでに廃校となって、部落の会館か何かに使われているようだが。張碓や桂岡においても統廃合されるということは、その地域の問題として大変重要な内容を占める。この数字の中身でも小樽市の学級が何年か後に、この学校に入学する生徒が減少していくという推計があるようだが、我々地域で生活する者あるいは学校が地域のために必要かどうかと言えば、活性化するため、あるいは小学校に来るような教育環境、地域環境をいかに作っていくかという観点からの学校問題を考えるということも非常に大事ではないかと思う。ただ子どもの数が減ったから統合する、廃校にするのではなく、良いものがあればそれは残していく、それを残すためにどういう施策が必要なのかを検討していくことが、教育に携わる人や小樽市を活性化させていくことの重要な中身になっていくのではないかと思う。先ほど言ったが、私の故郷の小学校は廃校になったが、多くの方が経験されているかと思うが、子どもがいない地域の将来は何となく寂しい感じがする。私の子どもはこの学校を卒業したが、孫もこの学校に通わせたい。できることなら、もっと魅力、色々な条件を考えながら他の人もとても良いところだと、先ほど会長も言っていたが、環境も大変優れている、小規模校といえどもその利点が生かされ、そのことが教職員やPTAの方が力を合わせて良い学校を作っていく。そこでの子どもの育成、将来立派な社会人になっていくような基礎を作り上げていく上でも、繰り返すが数が減っていくから統合やむなしということではなく、良い学校を作っていく、良い学校を残していくためにどういう努力をしていくのかが見えなような気がする。それは教育委員会だけの仕事ではなく、我々学校にかかわっている、学校を良くしたいと願っている人達と一緒に考えていく問題としても、前に戻るが400の意見の方もどのようなことを言われていたかということを知りたいと思う。</p> | <p>もう一点、小樽市内に複式の小学校はここを含め5校ある。教育委員会でも色々な分析はしているが、この張碓小学校では子どもさんの数はそれほど変わっていない。20年前の平成元年では、忍路中央小学校では150人の子どもさんがいたが、今現在では20人になっている。祝津小学校でも平成元年に78人いたお子さんが、今は12人になっている。現実には昨年生まれた子どもさんが730人くらいで、少なくなっているが、この張碓、春香地区だけを見ると少子化が進行しているといえない現実にあるのは私どもも理解はしている。昔から、この地区の学校は50人から60人くらいでずっと推移してきたというのは、まったくそのとおり。だからというわけではないが、この地区は計画の中で平成30年からの後期に位置付けて、その推移は見えていかなければならないと思っている。冊子の2ページを見ていただきたい。張碓小学校は、張碓町と春香町の二つの町から入学してくる。平成27年度推計で中学校は37人だが、小学校は51人だ。中学校は3年間、小学校は6年間だから、減らないということになれば中学生の倍の小学生がいれば減らないことになるが、現実的にはそのようになっていない。これは昨年の5月1日現在の数値で、今現在は転入、転出の関係もあり変わってきているかと思うが、最近の住民登録上の資料でいうと、こしばらく張碓小学校に入学してくるお子さんは、年によって7人であったり、10人であったり、おおむね10人くらいで推移していくが、27年度4月に入学するお子さんは4人という数字が出ている。次の年の28年度、昨年生まれたお子さんだが、これも4人となっているので、そういった推移を見ていかなければならないと思っている。</p> <p>それから自然環境の部分これは否定しない。特に、この地域の運動会やまた朝の団地からバスで通ってくる子どもさんたちのバス停での見守りなども知っているので、極めて地域との接点の広い学校、運動会も子どもの数より皆さんの方がずっと多いということも知っているので、そういう取組は十分承知している。ある意味どこの学校でも、特に小さい学校ではそのような取組は盛んです。</p> <p>ほかの学校でどんな意見が出ているかとあったので一つだけ紹介させていただくが、わりと地区的にも自然環境面でも似たような条件の朝里川温泉にある豊倉小学校での懇談会で、地域の方からは、地域の学校ということで地域の方々の色々な交流をやっていると強く意見が出された。小さいからということではなく、残してほしい。もう一方で、ある保護者さんからはこのままで良いのか。小さいクラスは親密度はあるが、ちょっとうまくいかないと中々難しい関係になるといった発言もあった。豊倉小学校は朝里中学校校区だが、20人の小学校を卒業して、市内で一番大きい何百人もいる中学校へ行くのは心配だという発言もあった。私どもとしては、その意見があったからやるとか、地域に残してくれという意見があったから残すとか、それだけではなく色々な思いというのはあると思っているので、ぜひそういった部分も含めて、色々な角度からご相談をさせていただきたいと思っている。昨年のここでの説明会はどちらかと言えば地域の方々からのご意見が多かったかと思うが、今日は保護者さんも参加されているので、こう言ったからどうだと言うことではなく、色々な意見を出し合うのがこの場、ぜひ保護者さんからの発言もできればお願いしたいと思う。</p> |

銭函ブロック

| 会場 | 会場での発言（質問・意見・要望） | 教育委員会の発言（回答・説明） |
|-----|--|--|
| 張碓小 | <p>4</p> <p>今まで出た意見と重複するかもしれないが、PTA会長をやり始めて良く感じるが、張碓小の子の数は少ないが1年生から6年生までの縦の関係が良い。上級生は下級生の面倒を良く見る、礼節もわきまえている。私たちが学校に来ると、必ず子どもの方から先に挨拶がされる。思いやりのある子ども多い。何を言いたいかと言うと、小規模校だからできることだと私なりに考えている。大きな学校はクラスがたくさんあるので横の付き合いはあるが、上下の付き合いはない。この学校は非常に良い環境にあると思う。統廃合は社会の情勢で必要だというのは良く分かるが、一つのモデルケースとして小規模校の良い特長を残す考えを持ってほしい。要望として願っている。</p> | <p>将来的な動きを含めてどう見るかという話だが、銭函3丁目の工業団地の部分については、今日企画政策室も来ているので、何かあればコメントはしてもらいたいと思う。もう一度2ページの表をご覧ください。平成27年度のこの地区の子どもの数を書いている。一番下の合計欄、小学生は396人、中学生は269人で、昨年現在の住民登録からとった数字だから出入りはあると思うが、今年の5月1日現在の数字では小学生が558人で、この5年間で百数十人減っていくこととなる。中学生も303人現在いるのが、269人だから、仮に人の出入りが一定程度あったとしても現状ではこういう状況になっている。</p> |
| | <p>5</p> <p>銭函小学校は平成元年に改築され、平成2年に張碓小学校が改築された。桂岡小学校が昭和52年に建てられており、この張碓小学校が改築される段階ですでに桂岡小学校は老朽化し、その時点で再編などを勘案し、張碓小学校の規模を少し大きめに建てるという考えはなかったのか。</p> <p>この地区は中学校が1校だが、銭函地区は小樽市内と離れているが、札幌市と隣接しているにもかかわらずこの地区は人口増が見込めないと考えているのか。もし、星野、銭函3丁目、春香ニュータウンに人が流れてきた時に、銭函小学校1校で対応できるのか。3校を1校に再編し、銭函小学校が飽和状態になった場合に、その受け皿となる小学校1校の対策は考えているのか。工業地帯が住宅地になっていないが、小樽市の事情であそこを住宅地に変えていくという考えが変わったら、張碓小学校の存在が出てくるのではないのか。桂岡小学校を改築して大規模に建て替えとなると相当の費用がかかる。ここは、耐震は大丈夫、増築で済むのであれば安く上がるのかと、平成2年の段階から複式ありきの規模で建て替えているので、小樽市はそういうことを考えていなかったのかと思うが、もし考えているのであれば複式4学級のような作り方をせず、6学級規模で必要な特別教室も備えて建てていて、人口が減少したから、仕方なくここを閉めるということであれば分かるが、そういう計画もなく小さな学校を建て、これだけの税金を使って建てている学校であるので、銭函地区の学校の在り方、人口の在り方とか余力を残して考えているのかお聞きしたい。</p> | <p>人口増対策というのは、小樽市の最重要課題と言われてもう何十年となる。中々難しい問題だが、特に平成17年から日本国中が人口減少社会に突入していった中では、中々増加というのは難しいだろうという気はしている。手稲でも20年ほど前1,400人いた小学校が今統合の対象になっている状況。銭函のこの辺は割と入ってきているが、今は一つの団地が出来ても、ほとんどが一世代で終わってしまう。20年、30年経つとどんと落ちてしまう流れにある。小樽市内6ブロックに分けてこのプランを示しているが、前期と後期に分けて、朝里地区とこの銭函地区は後期に位置付けている。ご承知のとおり、朝里、新光はまだキャパがある、望洋台もまだ奥の方、3工区、4工区はまだ計画はある、新光でもベイビュータウンなどまだ新しい家が建っているところもあるので、今後の推移を見ていかなければならないと考えている。この地区も今後どのようにしていくのか、そこは見えていかなければならない。特に、張碓地区は小樽全体の少子化とは異なり、どんと増えるわけでないが、ずっと維持してきているということを見極めながら再編の議論をしていかなければならないと思っている。</p> <p>平成2年にこの学校を改築した。その時の学級数は4学級。校舎を改築する場合、先ほど来出ているように多額の費用を要する。当然税金を投入するが、これには国の補助金が出る。国の補助金の仕組みとして、国だから余計なところにお金は使わない。プラスアルファでやるのであれば、自前でやってという話になる。張碓小学校はその当時の4学級の規模で補助金が出てくる、国補助制度はそういう仕組みになっている。例えば、将来を見込んで、将来の備えのために6学級の規模でここを改築すると、その2クラス分の経費というのは全額小樽市独自で全額税金を投入しなければならないということになってしまうので、その後クラスが増えて増築ということになれば国の制度を使って補助金を引っ張って来るということもできるから、その時点で建て替えをした時にはそういう状況の前提で国の補助制度を使ったということ。</p> <p>先ほどから何度か、会長さんからも小樽市学校教育推進計画の2次計画に基づいた教育ということでお話があった。本市では「心豊かに学ぶ ふるさとに夢と誇りを持ち たくましく生きる子どもの育成」小樽の子どもの育成を掲げている。この言葉の一つに「たくましく」というのがある。私も勤務したことあるが、小規模校は子どもたちが少ない人数の中でそれぞれが責任感を持って、その中で礼節というものを学んで、これは地域や先生方、保護者の方の力だと思う。その中で大事に、大事に育てられ身につくのだと思う。</p> |

銭函ブロック

| 会場 | 会場での発言（質問・意見・要望） | 教育委員会の発言（回答・説明） |
|-----|--|--|
| 張碓小 | | <p>併せて、私が最初に話した「遅く」という部分だが、これはこれから先、子どもたちが大人になっていく中で大きな集団の経験をしながら徐々にそういった社会性というものを身につけていくということの大切さだと思っている。学校が大きくなったから礼節が無くなる、責任感が無くなる、心がすさんでしまう、そういうことにぜひならないように、学校の規模に関係なく進めていかなければならない私どもの課題ですので、その部分は、それぞれの学校に十分やっていただくということで、私どもも頑張っていきたいと思っている。</p> <p>規模が小さい、大きいということではなく、その面ではどの学校も小樽市の学校ということで、対応していきたいと思っている。</p> |
| 6 | <p>今日、30数年前ここにいた時の保護者の方にお会いした。その時は100人くらい児童がいた。その時、運動会や学芸会など色々な行事について地域の方に一緒になって協力してもらい、とても楽しい教員生活を送った。今でも良い思い出。恵比寿島のところで海水浴までやったし、大変良い思い出をたくさんいただいた。今でも先生方と地域の方の協力は続いているかと思うが、そういう伝統的な学校について、大きい小さいではなく、規模の問題ではなく、地域と子どもたち、教員とのつながりを大切にすることを基本にした学校づくりを教育委員会にはしてもらいたい。</p> <p>確かに、児童数の多いメリット、デメリットはあると思う。小規模もメリット、デメリットも説明会でも話されており、私も経過は知っている。そこはお互いに認めあう共通点だと思うが、地域の人と子どもたち、教職員がどのように学校を作っていくかというのが一番大切だと思う。そういう点で伝統のある学校は残してほしい。</p> <p>もう一つ残してもらいたいポイントの一つは、銭函小学校に編制された場合、春香の団地に若い人が結構来ているが、もし銭函小学校になれば春香に若い人は住むのか。遠いところにわざわざ家を建てて、そこから子どもをスクールバスで通わせるということは普通しないと思う。そうなったら、この春香地区、張碓地区はどうなるのか。子どもたちの遊ぶ声が聞こえなくなる。寂れてくることが目に見えてはつきりしてくる。桂岡に住む、小樽市長さんは昔20万都市を作ると言った。住んでいる桂岡が段々寂れている。確かに少子化は一人の力では止められないと思うが、教育に携わる教育委員会の方々、小樽市の方々には観光で小樽に人を呼ぶのではなく、小樽に住んでもらいたい、小樽で良い教育を子どもたちには学んでほしいという環境づくりのためにどう頑張るか、ここが大切だと思う。小樽は自然に恵まれている。それが第一だと思う。海、山とか。地域とつながった教育を重視していくということも併せて、もちろん基礎学力も含めてだが、そういうところをもっとアピールしながら、小樽に住んでほしいという宣伝をさらに強めてやってほしい。小樽の教育環境を良くしていくことに努力をお願いしたい。</p> | <p>小樽の教育がこのように進んでいるという話をさせていただく。先生から、家庭と地域と伝統というお話があったので、そのことについてご理解いただきたいと思う。</p> <p>実は今から4年前、小樽市の学校教育の推進のために、小樽市の鳥でもあり、この皆さんご存知の「あおぼと」というのを名前にした「あおぼとプラン」で、学校教育を進めていこうと、大きな五つの柱を持って、それぞれの学校の先生方、校長先生方、教頭先生方の協力を得ながら、大きい学校も小さい学校も活力あふれる学校にするために3年間取り組んでいただいた。その成果は大きなものがあったが、せっかく3年間取り組んできたので、さらにそれを発展させる意味で、昨年、5年計画の第二次小樽市学校教育推進計画を立てた。その一番基になるのは、五つあるが、小さい目標、重点が四つあって、それを全部含めて「信頼にこたえる学校づくり」を私どもも進めている。信頼を得るのには、子ども一人ひとりの学力をつけなければ駄目、豊かな心にしてもらわなければ駄目、何よりも健やかな体づくりをしてもらわなければ駄目、また時代がどんどん変遷しているので、当然社会の変化に対応したそんな教育をしてほしい。それらを全部ひっくるめて、四つを一生懸命取り組むと、つまり「信頼にこたえる学校づくり」になる。</p> <p>私どもは、現段階ではどんな小さい学校でも、朝里や桜の大きい学校も、どんな学校でも先生方が一生懸命取り組む毎日の努力を踏まえて、信頼にこたえる学校づくりに取り組んでいる。その信頼できる学校づくりの第一として皆さんのご家庭に、この張碓では10年も20年も前からやっていると思うが、学校便り、色々な学校の行事に参加してもらって、信頼を得る、開かれた学校づくりに取り組んでいると思うが、これは小さい学校だけではなく、大きい学校もインターネットホームページを使いそれぞれの学校で取り組んでいる。ここの学校の取組は、皆さん自信を持って色々話せると思うが、ここの学校の取組以外にもインターネット等があったら、よその学校の取組を参考にしながら、当面後期に当たるが、今の取組をさらに充実して子ども達がこれからの社会に羽ばたいてもらう、そういう想いを込めて進めているので、ぜひそのところはご理解いただき、その上立ってこれから学校の再編をどのようにするのかをまた皆さんと十分に話し合っていきたいと思う。そこはご理解いただきたい。</p> |

銭函ブロック

| 会場 | 会場での発言（質問・意見・要望） | 教育委員会の発言（回答・説明） |
|-----|--|--|
| 張碓小 | <p>もう一つ、これから考えていかなければならないことは、中央教育審議会では30人学級という話が出ている。それが実際には計画されていないから30人学級で編制されていないが、30人学級が近々行われた場合に、小樽で編制した時に教室が足りなくなるところがあるのではないかと心配している。銭函小学校の場合、先ほど14学級は確保していると言っていたが、特別支援の学級は二つ必要だろうと思う。そうすると12学級の普通学級が必要だ。それが30人学級になると、増える学年が二つくらいあると思う。足りなくなると、潰されるのは特別教室か、プレハブを活用することになると思う。プレハブでの学習は夏には大変だと思う。特別教室を潰すとすると、子どもたちが特別教室で自由に勉強できる環境が壊されていくことになる、その辺は配慮していただきたいと思う。少し専門的になったが、そういうことを考えた編制をした方が良いと思う。</p> <p>最後、朝里地区、銭函地区は8年後、後期ということで、平成30年度ということだ。ここには、現在の保護者はいるが、8年後に通ってくる子の保護者はいないのではないか。銭函、桂岡と三つの懇談会に参加したが、ちょうど自分の子が入学される時期の保護者の参加はおそらく無かったのではないか。来ない人が悪いということではなく、今編制のプランを立てているのは分かるが、結論はもう少し先延ばして、5年後くらいにどうなっているのかという説明会を開いてほしい。要望になるが、朝里地区、銭函地区については、5年後に情勢が変わった段階でプランを出して、もう一度話し合っていたきたい。そこで地域の方々の意見を聞いて、委員会としての結論を出してほしいと思う。長い間教育委員会はほとんどの小中学校でこのような懇談会を開いて大変だと思うが、ぜひそういう努力も後々に残してもらいたいと思う。それと前にも言ったが、小規模校は数ではなく、地域とどのように教育を作っているかという歴史的なことを十分に考えて検討していただきたい。</p> | <p>中教審の話が出ていた。考え方について先日の新聞等々でも出ていたが、30人か35人かはまだ現状では出ていない。小学校低学年は30人程度という記事が出ていた。先日桂岡小での懇談会の時にも教育部長から少人数学級は期待をしている旨お話をさせていただいた。そこには期待をしているが、一方では今お話しのとおり、児童数の推移によって学校規模がどうなるのかという問題もある。先ほど普通教室は14は確保できるとお話をしたが、これは現状の中での問題であり、規模がこれを超えると特別教室の転用などそういった部分は一定程度考える必要は出てくると思う。ただ、その際にも子どもさんにはできるだけ負担のないように、最善の努力はしていかなければならないと考えている。</p> <p>懇談会の参加者の関係で、ここは後期という位置付けをしているので今から8年後というお話をいただいたが、幼稚園や保育園に通われている保護者の参加がないというお話、確かに私も小中学校に懇談会のご案内をすると同時に町内会にも回覧板という形をとっており、幼稚園、保育園についても懇談会の案内、さらに昨年基本計画を作るまでの過程、経過も一緒に配付して、ぜひ懇談会に参加いただきたいと、お配りしたのは事実。その面では、残念だと思っているが、今後このような懇談会、ホームページの中では当然いただいたご意見、今後教育委員会がこのようにお話をしている内容も含めて示したいと考えており、それ以外の手法も使って、保護者、まだ入学前の保護者の皆さんにこういった情報が伝わっていくように、色々な手段を講じていきたいと考えている。</p> |
| 7 | <p>今答えていただいたが、ホームページで今までの経過を示すと言ったが、後期だったら8年後だからホームページではなく、もう一回5年くらいでもいいから説明会を開いてほしいと言ったのだが、それについて回答願いたい。ホームページで済ませようというように聞こえたので。</p> | <p>計画全体としてここは後期に、具体的には平成30年度と位置付けている。私もこれまで、前期、後期を含め41校でこのような懇談会をやってきた。地域によっては、統合するのであれば時期を明確にして急いでくれというところもある。先ほど紹介した朝里地区の豊倉小学校のように残してくれという意見と20人という児童数の中では一定程度目処をつけて考えていきたいというご意見、それぞれの方からいただいている。こういう中で皆さんどっちにしますかと、決を採っている訳ではないから。私どもとしては、ブロックごとに出された意見をまとめて、今後このブロックではこういう進め方をしていくことをまとめて、相談させていただく場面を作らなければならないと思っている。8年後までもう来ない、5年後にまた来るということではなく、この懇談会の中で出された意見を取りまとめて今後どうしていくのか、ブロックとしては後期になっていても、個別の学校としては少し急いでほしいという意見も出てきているところもある、その逆もある。ブロックとしては前期だが、うちの学校はというところもあるので、全体の取りまとめをさせていただいてから、またそれぞれの地区とのPTAはもちろん、地域との話し合いをさせていただきたいと思っている。</p> |

銭函ブロック

| 会場 | 会場での発言（質問・意見・要望） | 教育委員会の発言（回答・説明） |
|-----|--|---|
| 張碓小 | <p>8</p> <p>45年前にここに嫁いできた。なんでこんな田舎に来たのだらうと思った。その後、この町が大好きになり、この張碓小学校みたいに良いところはないと思う。私たちとしては本当に残してほしいと思う。PTA会長さんたちが住む春香ニュータウンはまだ半分以上が空き地で、5年後、8年後にはきっと満杯になると思う。それで、もしこの張碓小学校が無いとなれば買う方は誰もいない。なぜここが拓けてきたかと言えば、春香ニュータウンを買って、海が近い、山近い、お金はかからないというのが魅力で来たんだと思う。今、南極に行っている方もこの張碓小学校に入学させたいということで、昔で言えば、札幌の盤溪小学校がありました。その学校は、昭和29年に廃校にするとなっていました。ところが、学校を特色として、越境して来る生徒がどんどん増え、今まだ盤溪小学校はあると思いますが、私たち住民はいかにして張碓小学校を今後残していくには、地域の方々も一体になって、張碓小学校の特色を生かしながら皆で協力し合って、この小学校を他の方がおっしゃったように、8年後に児童が多くなった時に張碓小学校が無くなって、あの銭函小学校の面積の中に、それだけの土地の中で学校を増やすことができますか。やはり私は張碓小学校を絶対に無くしてほしくないと思います。桂岡会館まで行くことがあるが、本当に空き家が多い。なぜかという、国道5号線より奥行きが深いからです。ここは、間口が広くて奥行きがありません。来るとなれば皆さん5号線のバスを利用しなければならぬので、地域的には本当に交通には便利だと思う。地域に住んでいる者としては、五代この小学校に入りましたので、ここに住みたいと言う子どももいるかもしれませんが、こんなに良いところは絶対にない。お金のかからないこんな良い学校はない。絶対存続させたいと思う。</p> | |
| | <p>9</p> <p>先ほどは銭函小学校の学級数を懸念して質問した。その間、保護者や地域の方から学級数について色々質問があった。私もその辺が一番気になっている。というのは、銭函小学校も10年くらいまでは、翔洋台の団地から小学生が来ていたが、6年間過ぎてガラッと少なくなった。その時には教室が足りなく、今プレハブが建っているがあの中で音楽をやったり、子どもたちは暑い中で過ごしたそう。銭函小学校へ行くと校長先生も大変だと言っていた。そういう中で、小樽市の今後の人口推移というか開発に関して、望めないのであれば断念することになるかも分からないが、小樽市としてはそんなことは考えていないと思う。これから一番発展するのはこの銭函地区が中心ではないかと思っている。</p> <p>先ほど14学級の教室があると言っていたが、子どもの定員数が30人学級になる、あるいは地域の小学生の人数が増えた場合に、今の段階で満杯ではないかと思う。そういうことが追い打ちになると、あの当時も校舎を上に乗ばすことができない、横にもできないということで、またプレハブで凌ぐのかと思っている。ここから行った子どもたちのそのような教育を受けてもらいたくないということもある、一つのクッションとしてこの学校がその役を担うようなことも考えていただきたいと思う。</p> | <p>人口の問題と銭函地区のまちづくりについてご質問あったが、人口について、今の統計上でいくと少なくとも30年から40年は減少が続くと言われている。これは全国的な傾向。このデータの平均値よりも小樽の数は悪いから、全国平均よりも速い速度で人口が減っていくというデータが残っている。これは、女性が一生の間に産むお子さんの数からだいたい算出できるが、そういったものからは少なくとも何十年かの間は人口が減り続けるだろうと推測はしている。ただ、人口の増というのは、ヨーロッパでは人口の増に転じたところもあるが、国の政策によるところも大きく、一自治体が人口増に結び付けていくというのは難しいかと思っているが、そう言っても、私ども何とかこの小樽に人口を定住させたい、あるいは外から移住していただきたいという政策は常々としており、この何年かでも本州から小樽の自然環境にあこがれて移住されている方も少しずつ多くなってきている状況にある。この銭函地区のポテンシャルとも関係するが、他の地域から小樽に移住されてくる方は、小樽の自然環境の良さみたいなものを求められて来ているので、この銭函地区のポテンシャル、先ほど来出ている、一つは自然環境の豊かさ、あるいは銭函に工業団地があって働く場所もある、札幌に隣接しているといったこの地区のポテンシャルがあると認識しているので、この地域の特色を生かしながら、この地区のまちづくりは進めていきたいと考えている。</p> |

銭函ブロック

| 会場 | 会場での発言（質問・意見・要望） | 教育委員会の発言（回答・説明） |
|--------------|---|---|
| 張碓小 | <p>10</p> <p>先ほどから、張碓町会長さんからもそれ以外の立場の方々からも、素晴らしい張碓の町の良さ、あるいは小学校の素晴らしい実践報告といったものが出されたが、こういうものが良いと皆さんに認められれば、あるいは市教委の方々に認めていただければ何とか残す方法があるのではないかと考えている。私は残す方法の一つとして、先ほど盤溪小学校の話が出ていたが、盤溪小学校は今120～30人くらいいるのではないか。これは越境入学を認める特認校という形で大きくなってきている。この張碓小学校も特認校という形で、さらに素晴らしい子どもたちを育てていくということで、ぜひ特認校という形で残していただきたいと思う。特認校の認定は市町村の教育委員会が行える。何も道教委が良いとか、悪いとか言う筋のものではない。ですから、ぜひ今日お見えになっている教育委員会の方々に張碓小学校は特認校でもやっていけるんだ、持っていけるんだと、そういう形でぜひお願いをしたいと思う。</p> | <p>先ほども少し触れたが、張碓小学校でのこのような懇談会になると、ほとんど地域の方、町内会の方から、学校との関係、地域の素晴らしさなど色々発言をいただく。私どもも、子どもが少なくなれば良い、人口が減れば良いとは全然思っていない。できれば、このような学校再編はしなくても良いように、子どもが増える、人口が増えてほしいと願ってはいる。そのための施策は今担当から申し上げたが、やっていかなければならないと思っている。</p> <p>おっしゃるとおり、ここは減っていないというのがある。今の時代で減っていないということは新規にきているということだと思う。固定するとすぐ減っていくので。私どもも、この地域の住環境の良さも含めた部分というのを今後見ていかなければならないと思っている。</p> <p>小規模特認校の話もいただいた。札幌では盤溪小学校、江別では野幌小学校が小規模特認校という制度をやっている。この小規模特認校は相当色々な条件を付けてやらなければ、よそから来ていただいた、校区以外から来た家庭には1年から6年間責任を持たなければならない。あくまで主体は、ここに住んで、この地域の学校に通う子どもさん、保護者さん、そこのバランスも十分考えていかなければならないと思っている。ご提言の部分は、この学校再編とは少し質の違う議論になるかと思うが、ご提言いただいた部分は、今日この会場で発言があったことは踏まえさせていただき、今後の一つの課題としていかなければならないと思っている。</p> |
| 桂岡小 7月13日 | <p>1</p> <p>今説明いただいたが、教育委員会の方向としてはもう決まっているという理解で良いか。というのは、少子化がこれ以上良い方向に向かうことは考えられない。そうすると、市としては、統廃合は考えざるを得ないということは理解できる。さて、どこの学校というのは私も関心を持っていたが、ここ桂岡小学校は自慢するわけではないが環境としては最高だと思う。空気が良い、国道から離れているから。先ほど触れられたが、広いグラウンドがある、ということであれば何とかかなるのか、淡い望みですが。銭函小学校(を統合校とすること)に反対はいたしません、移行する場合にはバスの運行など子どもの安全・安心をまず考えていただきたい。その上で、銭函小学校にこの地区の子どもたちが通うというのであれば、賛成はしかねるが、いたし方ないと思っている。</p> | <p>今、プランを説明させていただいて、最後に検討結果で、銭函小学校が適切であると冊子には記述した。1ページを見ていただきたい、タイトルの下に囲みにこの資料の意図として、地区別懇談会で皆さんの意見を聞きながら教育委員会としては決めていきたい、皆さんと協議をして決めていきたい、議論のたたき台として本日配付し、41校を対象に5月17日から7月22日まで懇談会を開催している。私どもも、統合校はどこだということを決めたものではない。学校規模、通学距離、学校施設の三つの観点で検討した中では、こういうのが適切だということを書いた。お話のあった環境、グラウンドが広いということも大事な要素であり、施設面の関係でここに整理させていただいた。</p> <p>もう一点、子どもさんの安心、安全については、学校再編をしていく中で、41校を21校に再編していくと基本計画で示しており、当然子どもさんの通学距離は長くなっていくことから、子どもさんの安全確保として、通学距離の負担を減らすためスクールバス、路線バスなどバス通学の支援などを考えていかなければならないと思っている。子どもさんの安全確保のためには私どもも当然気を遣っていきますが、どのような通学路を通ると安全が確保されるのか、そういった点については、保護者の皆さんまたは地域の皆さんと協議をしながら、決めていきたいと考えている。</p> |

銭函ブロック

| 会場 | 会場での発言（質問・意見・要望） | 教育委員会の発言（回答・説明） |
|-----|------------------|---|
| 桂岡小 | | <p>今、これだけ少子化が進んでいる中ではやむを得ないというお話をいただいた。</p> <p>桂岡小学校の児童数が一番多い時期は昭和59年で、中心部では昭和30年代だが、ここは団地の造成に合わせて学校を建てており昭和59年がピークになっている。その時の小学生の数は626人で、現在一番大きい朝里小学校よりも多い。クラス数も18学級で、今で考えるとマンモス校だ。残念ながら、その後減ってきて平成13年から各学年1クラスになり、今日に至っている。</p> <p>今、担当からあったが、今回私どもはこのプランは皆さんからの色々なご意見をいただきたいということで、プランをお示しして、前段の説明でも、張碓小学校を統合校とした場合にはどうなのか、ここ桂岡小学校を統合校とした場合にはどうなのかと、銭函小学校を統合校とした場合にはどうなのかと、それぞれの条件でパターンを検討した。この地図だけ見ると、この桂岡小学校はこの地区の真ん中にあり、通学距離から見れば桂岡小学校が妥当ではないかとの意見は出てくるかと思う。ただ、ご理解いただきたいのは、桂岡小学校を統合とした場合に、星野町から5キロの距離になる、銭函小学校を統合とした場合は、一番遠いところは張碓の大曲のところから4.7キロ程度、図面では桂岡小学校が真ん中辺りに見えて、通学距離が一番短くなるかと思われるが、実際にはこの広い地区だからそうではないということも、一つの要件としては銭函小学校を適切としたという判断の理由にある。</p> <p>もう一つは、この地区はいずれにしてもバス通学になる。どこを統合しても多くのお子さんがバス通学になる。現在、銭函小学校に通っているお子さんと、あかしあ団地の方からは50人ほどおり、スクールバスを1台用意している。星野町からは108人でスクールバスを2台用意している。この銭函地区はバス通学を考えなければならないが、道路事情から、環境面ではこの桂岡は高台にあって良い、グラウンドも広いという優位点は間違いなくあるが、今後さらにバス通学を拡大していかなければならないことを考えると、冬場は相当厳しい面があると思う。この地区だけではなく、今回の再編計画では小樽市内全部でやるものだから、相当バス通学の分が増えると思う。その場合、路線バスがどのくらいの本数が走っているのか、スクールバスを出した場合でも冬場の運行にどこは支障が無いのか、そこを考えていかなければならないということで、今日の懇談会でこのような意見があったときちゃんと記録し、色々なところでこのような意見があったと申し上げていくが、私どもの考え方としては、そういったものも含めて、バス通学が多くなるという中で、交通事情としてどこが良いのかということ要素を入れて考えなければならないということをご理解いただきたいと思う。</p> |

銭函ブロック

| 会場 | 会場での発言（質問・意見・要望） | 教育委員会の発言（回答・説明） |
|-----|--|--|
| 桂岡小 | <p>この前の銭函小学校でも言ったが、教育委員会の話を聞くと、どうしても教合わせの方が優先的な話が多いと思う。銭函小で連合町会長が、地域の伝統、地域性があるとの話をした。数で割りきれないものがあるんだということを頭に入れて話してほしい。以前の話では、教育効果の面、子どもの教育条件とかあったが、大分話が煮詰まった部分があるから今日は省略したのかと思ったが、私は根本的には学校は残してほしいと思っている。それは、最後の張碓もあるので今日はここで言いたくないので。やはり学校が無くなるというのは、地域にとって大変なことだ。でも少子化で、地域の方がどうしてもしょうがないとなれば、私たちはそういう意見をはねのけてまで、残せとは言えない。でも、そういう気持ちを十分考えてほしいということ、銭函地域は後期ですから、8年後くらいですらあまり関心が無くて、集まりが悪く残念に思う。</p> <p>三つ質問がある。一つ目はプールのことが話に出ました。もし、8年後に桂岡が無くなった場合に、銭函地域にプールが無くなる。小樽市としては、銭函地域にプールは残すべきだと私は思う。蘭島の水泳学習も無くなったし、子どもたちに安全な水泳指導をするのはプールが一番だと思う。高島まで行くわけにはいかない。銭函地域にプールは必ず残していただきたい。皆さんは8年後にここにいるか分からないが、桂岡が無くなった場合、どういう考えを持っているのか聞きたい。銭函小学校にプールを建てる敷地は無いですか。どのようにお考えか。</p> <p>二つ目は、市内の学校が無くなると体育館で色々運動している方がたくさんいると思います。その方々は、生涯学習という意味も含めて、健康のために運動をしている。そういう機会が失われる。体育館だけ残して、社会教育の職員を配置するか、地域の方に委託して体育館を残して、社会教育、社会体育みたいなのを継続していただけるのなら良いが、そこをどうお考えか。</p> <p>三つ目、8年後ということだが、近くなってからも一回このような話があるのか。今日、話をして、そのままというのであれば忘れてしまう。8年後に、もう一回こういう機会を設けてくれるのか。具体的に変わった場合に、今委員会として提案はしないと。いつ、煮詰める話をするのか、そこを聞きたい。</p> | <p>学校施設は地域にとって大切なものだとお話を聞いたが、各学校それぞれ歴史があって、またその地域とのかかわりも持って学校運営をしている。また、そこに地域の方がかかわってきているということで、地域との繋がりというのは、もちろん否定できるものではありませんし、私どももそれは大事なもので、大切なものと認識している。教合わせだのお話ですが、学校再編に当たっては、昭和30年代4万人いたお子さんが現在8千人程度になっているという小規模化の現状を踏まえた中で、当時からそれほど変わらないこれだけの学校数をこの先維持していけるのかという観点から、学校再編に取り組んで、ここ数年基本計画を策定するまで取り組んできており、昨年の説明会はその基本計画素案の説明をさせていただいて、その中のご意見で教育委員会としてもたたき台を作って示してはどうかという意見をいただいて、このようにたたき台をお示ししている。前段の部分のお話は、今日はないが、このようなプランを作って皆さんのご意見を聞きに来ているということでご理解いただきたい。</p> <p>プールの件、基本的には地域の中で学校施設の在り方は、今後再編していく場合に、このプールを含めた学校施設、校舎、体育館をどうしていくかというものは、もちろん市の方で考えなければならないが、地域の皆さんの意向を聞きながらどういう利用の仕方があるのか、また、その費用負担の問題、市が見るのか、民間にお願いをするのか、地域に協力をお願いするという手法もあるかと思うけれども、今後学校再編を進めていく中ではその観点は大事な観点であると思っています。小中学校41校すべて市では避難所に指定していますので、その位置付けの問題についても整理していく必要があると考えている。そことの関係の中で、学校施設については整理していかなければならない課題であると思っています。</p> <p>二つ目の社会体育としての学校の体育館を利用している部分、そこについても学校施設の跡利用の中で利用方法についてどのような観点が一番望ましいのかを整理していく必要があると思う。</p> <p>三つ目、後期だから、後期の計画の中で今後どうするのかということだが、今年度からこの計画はスタートしているが、まず市内41校を回って、そこでいただいたご意見はホームページを通じて皆さんにお知らせしていく、さらに年に何回出せるかまだ分からないが、出来る限り学校や町会を通じて、学校再編でこのように動いているということをお知らせしていこうと考えている。ただ、8年後になるかその前段から動き出すかということはあるが、またこのような懇談の場を設けて皆さんのご意見を聞く場は当然必要になると思うので、その時点で、町会、学校を通じ、さらに市の広報やホームページを使って皆さんにご案内をして、このような場を設けて、議論をして、ご意見をいただく場を設けなければならないと考えている。</p> |
| 3 | <p>本校の教職員の一人として、また過去に、50年代後半に3年間、18学級あった時の教職員の一人としても、桂岡小学校は残してほしい、あってほしい学校だと思う。ただ客観的に交通事情なども見ると、絶対桂岡を残してとは言えない状況にもなっているとも思う。3校の中で、2校は無くなるわけで、本当に一つの学校になってしまうまでは、統廃合するので、無くなる学校は適当な、例えば、修繕とか施設、設備をおろそかにすることのないように、強くお願いしたい。</p> | <p>今、先生がお話しされたことはもっともなことだと思う。他の会場でも同じような質問が出て、そのような形になっても必要な修繕などは続けていくとお話をさせていただいている。抜本的なことは中々出来ないことはあるが、そういったことは引き続き続けていきたいと思っている。</p> <p>この桂岡小学校を例にとりますと、今年は皆さんの目には見えるところではないが、高圧受電設備というのがあって、学校の場合高圧で受けて、100ボルトにする小さな変電所みたいなのがあって、その設備が老朽化しており、この学校は暖房も電気、そこが壊れるとライフラインということもあり、かなり費用はかかるが修繕をしていく。そういったことで必要な部分は引き続き修繕をしていく。</p> |

銭函ブロック

| 会場 | 会場での発言（質問・意見・要望） | 教育委員会の発言（回答・説明） |
|-----|--|--|
| 桂岡小 | <p>桂岡に在籍している。さらに下の子は、再来年入学する予定の母親。先ほど先生が言ったように、不安点としては統廃合により無くなる学校ということで学校全体の活気が無くなってしまふこと。以前もこのような場で言ったが、皆さん関心はある。上の子は、桂岡小学校に入学して卒業できても、下の子が統廃合により、途中で転校するとなるのであれば、可哀そうだから、この学校の区域でも初めから銭函小へ行きたいという親御さんの話を耳にする。やはり、無くなる小学校ということで、環境的に人数も減って、設備も良くないのではないかと、お金をかけてもらえないのではないかと、学校自体も老朽化してくると思う。学校には新しいものがどんどん導入されているが、ほかの学校よりも後回しにされてしまふのではないかと、不安が多いので、それであれば最初からというのを聞くのですが、入学通知が桂岡でも距離などで銭函小で入学許可がおりるということもあって、当初よりも入学者が減ってしまうというのがあるが、それ以前に桂岡の近くに住んでいても、頑張って銭函へ通わせるという親御さんがいた場合、これは質問だが、下の子が銭函小学校になるのであれば、新しく入学させるのは同じように上の子を銭函小学校に入学させたいとの要望があった場合は、教育委員会として許可するのですか。</p> <p>お願いだが、今日見て分かるのとおり、下の子がいるお母さんたちは適正配置の説明会に関心が無いわけではなく、6時半からの開催では、小さい子をお持ちのお母さんたちは、子どもを寝かせつけなければならない時間であって、関心があっても参加できません。できれば、これからは、日中、午前中、10時半とか11時に開いていただきたいと思う。</p> | <p>まず、時間設定の部分、できるだけ多くの方に集まっていたらいいと思っており、夜の方が良いと思この時間に設定した。今後PTAの集まり、役員会とか、これは日中でも全然構わない。言っていたら、今日のような説明でも、またしにいくので、日程、時間の設定、どんな形でも私どもは対応できるようにしたい。</p> <p>学校再編に伴っての特認の部分、これは今学校にいる子の保護者さんはもちろん、これから学校に入れるお子さんをお持ちの保護者さんにも、大変大きな問題、考えられているところだと思う。今日配付した使用の2ページをご覧ください。一番下の◆のところ、ここはまとめて書いてある、簡単にしか書いていないが、趣旨としてはこのように考えている。「学校再編に伴い、在学中に統合することになる学校への入学予定者については、再編後の新たな通学区区域や通学距離を考慮した特例を、また、統合の時点での在在生についても、交友関係や通学距離などを考慮した特例を設け、指定校変更、いわゆる特認、の弾力的な運用を行います。」と極めて役所的な言葉で分かりづらいつい面があるかと思うが、上の方で言っているのは、例えば2年後にA校が無くなる、B校と統合になる場合、今年1年に入る子は、2年後に統合になるのだったらもう先にいきたいと思われる部分、そこは弾力的に対応する。そういう申し出があれば特認の一つの特例として対応するというのを前段で言っている。後段で言っている部分は、この地区ではわりと考えにくい、中央・山手は学校がいっぱいあり、一つの学校が二つの校区に分かれることがある。今各学校とも人数が少ないから、1クラスで15人とか20人とか、学年全部で。それを分けると、こっちの学校に15人のうちの12人、もう一方の学校には3人だけ、中には男の子と女の子半分くらいだとすると、こっちの学校は男の子ほとんどで、もう一方の学校は男の子一人しかいないということになると、子どもはゆるくない。そういう場合であっても、特認については弾力的に考えるということを意味している部分。ここは後期に位置付けているが、先ほど言われた8年後という、そこも微妙なところがある。</p> <p>ほかのところでも懇談会を開いてきたが、今日6月25日までの懇談会でいただいたご意見を市のホームページにアップした。具体的なお話をさせていただくが、ここと同じ後期に位置付けた朝里地区で、豊倉小学校という20人の小さい学校の保護者さんから、ここまで小さい学校になっていると、平成30年度以降の後期ではなくもっと早い段階での協議はできないのかというお話もあった。大きくは前期、後期に分けているが、私どもとしては、このような懇談会で色々な意見が出る中では時期も含めて一定の議論はしていかなければならないと思っている。</p> <p>実は、来週張碓小学校での懇談会がある。昨年の説明会では地域の方々の意見が極めて多かった、大半ここを残してほしいとの意見が多かったが、今回このように具体的なプランを出した中で、地域の方のご意見はもちろんあるでしょうが、保護者さんからどういったご意見が出てくるのかお聞きしていかなければならないと思っている、ぜひその辺も含めて、現在お子さんを学校に通わせている保護者さんからのご意見をいただければと思っている。</p> |

銭函ブロック

| 会場 | 会場での発言（質問・意見・要望） | 教育委員会の発言（回答・説明） |
|-----|--|--|
| 桂岡小 | | <p>活気のある学校ということで、お話があった。もう少し別の目でこの学校を見守ってほしいと思いお話をさせていただく。先生方、校長先生、教頭先生もおられるが、ここの学校はこの数年来、前任者も、その前任者も校長先生、教頭先生を中心に猛烈に、信じられないくらいの素晴らしい実践をやっている。小樽でもトップ級の実践だと思って見ている。そういう中で、例えばここの学校が古くなった、統合になるから色々な面で不便を感じているのではないかと言われたが、決してそんなことはない。例えば、コンピューターでは、小樽のどこの学校にも新しいコンピューターを同じ台数は入れている。学校便りを一つ見てもここの学校は、今何をやっているのか十分感じられるし、ここの学校便りはここの保護者のみならず、町内会のみならず、小樽中にインターネットで全部の学校で見られようになっている。全部の家庭でも見られるようになっている。ここの学校の保護者である限り、私は素晴らしい学校だという見守りをぜひしていただきたいと思っている。私は小樽市の中で猛烈に期待している学校の一つですので、決して活力が無いとかという思いではなく、先生方全力で子どもたちに力を注いでいるということだけはご理解をいただきたいと思う。</p> |
| 5 | <p>だいたい話が見えてきた。ただ、この地区に現実に私は住んでいる。学校が無くなると先ほども触れていたが、学校が無くなるというのは、非常に寂しくなる。また、この地区は高齢化が進んでいる。今年は、たまたまこの町会から小学校へ9人が入学した。これは一学年の半数だ。かつて、二人、三人が続いていた。今年は9人の新入生がいると大喜びをした。考え方としては、そろそろ出ていた息子さん、娘さんが親のところに帰ってきて子育てを始めてくれているのかと思って見ている。喜んでいる。話は変わるが、統廃合が終了した段階で、先ほど学校開放等に関する施設等は存続させるということ聞き安心しているが、施設だけ残ってもこれまでの卒業生は、我が学校はどの昔に消えてしまった、ということでは、寂しいわけです。これは夢のような話だが、ここのグラウンドは広いのだから、ぜひ桂岡小学校が存在したというものが生かせるものを何か作る。あまりお金をかけなくとも良いが。一つとしては、これは夢ですが、メモリアルの公園を作っていただきたい。そうするとそこには桂岡小学校の名前が入った公園であれば、あそこに行けば、海が見える、環境も良いと、大人になった卒業生が帰ってきて、あるいは訪ねられるかもしれない。(桂岡小学校が)ここにあったということであれば、ソフト面で大事なことかと思うので、これらも考えに入れていただければ幸いです。</p> | <p>学校の跡地利用ということで一つの提案をいただいた。学校の跡地利用としては、まずは教育委員会が説明している統合校が決まった時点で、実際に、具体的に動き出すものと思っている。その中で、当然地域の皆さんのご意見、ご要望を十分お聞きしながら、市内では41校が21校になる、かなりの学校のところが出てくるので、小樽市全体のバランスも考えながら、繰り返しになるが、地域の方々のご要望を聞く機会も当然あるので、そういう中で声を聞きながら跡利用について進めていきたいと思っている。今ご提言いただいたメモリアルの公園というの、メモしているし、ご意見、ご要望として承る。</p> |

銭函ブロック

| 会場 | 会場での発言（質問・意見・要望） | 教育委員会の発言（回答・説明） |
|-----|---|---|
| 桂岡小 | <p>話を伺っても正直なところ漠然とした不安感というのは拭えないものがある。自分は桂岡小学校を卒業したということもあり、上の息子、高校1年の子もこの学校を卒業した。小学校で絵本の読み聞かせをさせていただいて8年目になる。来年1年間だけ小学校にいく子はいないので、銭函小学校に行こうと思えば行けるんですが、すごく愛着がある。下の子が入る時は（人口推計からは）11名となっている。でも、もしかしたら、5人、6人になるかと思いついていた。ちょうど卒業するくらいの時期に統廃合になりそうだが、桂岡小学校を卒業させたいという思いがあるので、この学校を入学校としたいと考えてはいます。ただ、先ほど言ったように、途中で人数が大きく減ったりすると柔軟に考えますということになると、その流れで転校もあり得るとか、それはそれで仕方のないことだと思ふし、感傷だけではなく先のことも考えて、張碓小学校、銭函小学校の地域の方とも、今でも交流がないわけではないので、もっと広い考えで、一つの新しい学校でやっていこうという思いもありますが、両方の面で、もしかしたら卒業できないかもしれないと思いつながりながら考えていたが、話を聞いていると、今の段階では何があるか分からないということですね。もしかしたら、早くに統廃合もあり得る。児童の人数によっては、最後に卒業生がほんの少ししかいなくなって、どんどん児童数が減るといのは、今でも運動会は少し寂しいという状態なので、それよりもっと減ってしまうと、球技や人数がいなくて出来ない学校行事もたくさんあるので、そういうものができなくなるというのが現実的に大変なことだと思います。おそらく、そういうことですね。柔軟に考えていかなくてはいけないのですよね。これから先というのは、そういうふうには私は理解しました。</p> | <p>今、率直なお話を聞かせていただいたと思う。少し制度的なお話をするが、教職員の定数でいえば6学級の場合で児童数が100人を切るか、切らないかで教員定数も1名変わる。現在100人を超えているので、フリーの先生が入っているが、100人を切ると1名減となる道教委の制度になっているので、その辺のところでも実際に指導、子どもさんたちと向き合う時間を作っていくという観点からは、あまり規模が小さくなってしまうと、困難性みたいなのが新たに出てくるという課題もある。</p> <p>今、発言いただいたことに何かお答えするというではないが、私どもの考えをお話しさせていただく。</p> <p>今日お配りした資料の広報をご覧いただきたい。6ページと7ページの部分で、7ページの下に⑥として小さく銭函地区が載っている。横の6ページは中央・山手地区でこのページ全部がこの中央・山手地区だ。一目瞭然だが、中央・山手地区は小学校だけで6校ある。この中で、この桂岡と同じような1学年1学級という学校は、もうすでに4校がそういう状態になっている。それで、中央・山手地区は前期にしている。銭函地区は、小中合わせて4校だが、銭函小と銭函中はそこそこの規模の学校であり、全体の割合からすれば小規模な学校が集中しているということではないので、後期に位置付けたということ。機械的すぎと思われるかもしれないが、前期、後期に分けた考え方はそういうこと。</p> <p>ただ、前期にしても、後期にしても、それぞれの個別の学校の色々な条件からすれば、それぞれ異なるものを持っていると思っている。先ほど発言いただいた方との関係で、この桂岡小学校のことで言うと、今現在1年生から6年生までのお子さんで15人が本来桂岡小学校の校区だが、銭函小学校にいかれているお子さんがいる。どちらかといえば、国道から下の方の方が多い。皆さんの校区だからお分かりかと思う。良いとか、悪いとかではなく、通学距離の関係や保護者さんの勤務先との関係で、わりと銭函小へいく特認が多い流れがある。もう一方では、この桂岡に入学してくるというお子さんの人数が現状より増えるということとはほとんど考えにくい。それほど急に減っていくわけではないが、どちらかという減っていくという状況にある。先ほども言ったが、来週、張碓が終わるとこの地区の懇談会が終了する。終わったから、ここは後期だから、教育委員会は平成30年まで来ませんということではなく、このブロックの中での話を聞いた段階で、この地区としての今後の話をどうしていくのか、いつ統合するとかそういう話ではなく、しばらく中断で良いのか、そういうわけにはいかないのか、ということも含めて、ご相談をさせていただく場面を作りたいと思っている。</p> <p>まずは、この懇談会一当たり終わった段階で、出てきたご意見を集約、まとめさせていただいて、今後の進め方として考えているということだと思っておいていただきたい。8年後までずっと来ないということではないということだけ、考えておいていただきたい。</p> |

銭函ブロック

| 会場 | 会場での発言（質問・意見・要望） | 教育委員会の発言（回答・説明） |
|---------------------|---|--|
| <p>銭函小 7月9日</p> | <p>1 質問だが、資料5ページの最後の◆で通学支援の方法についてと書いているが、これはスクールバスのルートのようなことなのか。</p> | <p>「再編により、バスを利用して通学する児童の数は増える見込みです。通学支援の方法については、実施計画策定の段階で検討を行います。」ということで書いてあるが、実施計画策定というのは、先程説明に使った青いリーフレットの左側の部分の下の方の囲みにひし形の印が書いてあるが、「仮に統合校が決まった場合」として「保護者や学校、地域の方がメンバーになった学校統合協議会で話し合いながら統合が円滑に進むようにします。」ということで、その下に「通学路の選定や通学安全上の問題」ということで書いているが、この実施計画というのは、統合が決まった場合こういった内容のものを盛り込んで実施計画というものを作る。通学支援についても、仮に統合校が決まった場合には、統合校をここにすると通学はバスになるとか、スクールバスを利用するとか、そういった具体的な協議をしていくということとここに記載をしている。</p> <p>今、銭函小学校に通っているお子さんは、2方向からJRバスに委託してスクールバスを走らせている。このブロックで言えば、張碓小学校の子どもさんは春香町の方から学校に行くのに路線バスを利用して小学校へ行っているということがある。それとあと今回、桂岡もこのブロックの中の小学校ということで、統合を考える学校ということになるから、今は当然徒歩で通っているが、銭函小学校へ来る時の通学手段について色々考えなければならない。そういうことで、このブロックの通学の方法については、三者三様であるわけだが、銭函小学校のお子さんも3分の2は徒歩で来ているが、その辺がどのような選択になるのか、ということは今段階ではなく、もう少し皆さんと議論して時間的な余裕をみながら話をする、というようにやっていった方が良いのではないかと、という意味合いで、通学支援の方法という意味合いでここに記述をしている。</p> |
| | <p>2 小学校のプランで銭函小学校になった場合、「大きな改修の必要性」で改修工事が必要とあるが、その点でどの程度の改修を見込んでいるのか。</p> | <p>他の学校に比べるとここは新しいが、それでも平成元年に建て替えているので、外壁であるとか色々な面で、外からご覧になっても分かるとおおり、少しひびが入っているところとかがあるので、建物の診断をしてどういった改修をするか、あと余りにも学級数が増えてしまった場合、以前も一番多い時で16学級になったこともあるが、そうなった場合に増築するか、前の時は特別教室をプレハブにして中にある特別教室も一部利用したということもあったので、その辺りの改修ということも考えていかなければならないと思っている。大まかに言って、そういうことで、ここに書いてある改修ということとはご理解をいただきたい。</p> <p>この学校の特徴として、このようなオープンスペースを活用してということがある。ただ統合した場合は、学級数が増えるので、それがこの状態で良いかどうかということも考えなくてはならない。そういう意味で内部の造作についてもどういった形がいいのか、子どもさんの数によって、クラス数によって考えなければならない。そういった面もあると思う。</p> |
| | <p>3 ここは13学級ということでやっているが、ひょっとしたら、銭函地区の児童数が増えることもあるかもしれない。そういったときに適度に教室数が必要になるのではないかと思う。その点を考慮していただきたいと思う。</p> | <p>それはおっしゃるとおりだと思うので、将来の児童生徒数の見直しを持って考えていかなければならないと思っている。</p> |

銭函ブロック

| 会場 | 会場での発言（質問・意見・要望） | 教育委員会の発言（回答・説明） |
|-----|--|---|
| 銭函小 | <p>二つ質問させてほしい。一つは大きな話になるが、全市的に今、統廃合をやっているがスクールバスがかなり利用されることになると思う。税金を払う立場から見て、子どもの送り迎えにどのくらいの予算を考えているのか。</p> <p>二つ目は案では、銭函小学校を残すということで桂岡、張碓の子どもにこっちに来てもらうということになると、教育長も話したとおり、これから水泳学習が始まるが、8年後のことになるがプールがなくなる。銭函小学校にプールを作るといっても、どこを作るかわからないが、水泳学習ということが小樽にとってとても大事な行事だと思う。泳げる子を育ててきた、スキーと合わせて、プールについて、どういう考えがあるのか。全くなくするのか、それともどこかに設置するのか。具体的にあったら話を聞きたい。</p> | <p>スクールバスの予算をどのように見込んでいるかという質問だが、市内41校、全市的に再編を行うので、当然統合した場合、距離は遠くなる。5月17日から各校に説明に入っているが、通学距離が長くなった場合の通学支援についての質問が色々出てくる。その中で、私ども41校を一当たり回っていくが、その中で、ご意見、ご要望などをいただいて、1回でこの懇談会を終わるとは考えていない。6ブロックに分けたのでいろんな意見をいただいて、次には2校や3校で話し合いを持っていくということもあるだろうし、もっと具体的に保護者の皆さんと協議を進めていくということもあるだろうし、そういった形で進めていきたいと思っている。当然スクールバスや路線バスの通学支援について、統合校が決まってそれが必要ということになれば、当然措置はしていかなければならないと考えている。</p> <p>プールについて、平成21年度のプールの利用状況を見ると、桂岡小学校のプールを利用している学校は6校ある。この地域の張碓や銭函小学校はもちろんだが朝里小学校も使っている。この地域でプールをどうするのかというお話だが、今の段階では、後期ということもあってプールをどうするかについては、明確なところまでは至っていない。これからどのパターンを選ぶかによりプールがなくなることもあるので検討課題だとは思っている。今すぐ、ここにこのように作るという案までは持っていない。</p> |
| | <p>銭函小学校が統合校の位置になるという案は妥当かなと思う。張碓小学校や桂岡小学校の駐車場やグラウンドの状況を見ても、児童に対して歩道やグラウンドの大きさが適切と思う。ただ保護者として見る側に立つと、児童の日常生活を見ると、保護者が送り迎えをしていることが多い。私も車を乗り入れることが多々ある。銭函小学校の入口が入りづらかったり、すれ違うのはかなりきつい。特に、札幌方向から小樽へ向かって左折するのと、右折する車がすれ違うのは大変だと毎回感じている。桂岡小学校と張碓小学校の保護者の方も、児童の生活上、習い事であるとか用事がある場合は車で送り迎えをすることになると思う。今、先生たちの車を駐車しているスペースでUターンしたり、グラウンドの校門側が少し広がっている部分があるが、そこでUターンをしたりしている。そういった日常生活の中で、児童の安全面を子どもに声をかければ大丈夫なこととは思いますが、もう少しゆとりのある空間がほしいと思う。</p> | <p>学校敷地の関係で、入口が入りづらいというのは、私どもも学校に来る時に感じるので分かる。ただ限られた面積の中で、どう改良していくか持ち帰って考えてみたいと思う。学校の敷地内に入って、先生方が車を止めているスペースでUターンということで話があったが、今すぐに敷地を広くということは無理なので、今校長も見えているので学校と一定のルールを考えていきたいと思う。</p> |

銭函ブロック

| 会場 | 会場での発言（質問・意見・要望） | 教育委員会の発言（回答・説明） |
|-----|--|--|
| 銭函小 | <p>6</p> <p>もしここへの統合ということで決まったら、決まる前からだが、放課後児童クラブではプレハブの部屋にかなりの人数が詰め込まれているという状態がある。そういった点についても十分な広さを、統合になると人数も増えるだろうし、もう少し余裕のある放課後児童クラブの教室であってほしいと思う。それと、中央の方に行けば、図書館なり科学館なり色々な施設があるが、こちらの方から中心部に行くというのはかなり大変だ。何らかの形で、廃校になった小学校を利用するか、そういった点で、子どもたちの施設として使えるような、多目的に使えるような施設を考えていただければと思う。</p> | <p>放課後児童クラブについての要望をいただいた。私が福祉の時には放課後児童クラブの担当をしていた。今こちらはプレハブということで手狭ということでやっているが、放課後児童クラブについては国の基準ということではないが、児童1人当たりの保有面積が決まっています、東京の方にくとんど狭いという状況がある。今お話のあった点については、ご要望として持ち帰らせていただきどう方法があるのかということについて探っていきたい。</p> <p>学校の跡利用ということについて、例えば今、お示している案でいくと銭函小学校が残るから、張碓小学校と桂岡小学校の跡利用については考えていかなければならないということになる。私どもの基本的な考え方については、使わなくなったからといって直ちに学校の施設あるいは土地を処分するという考え方は基本的にはない。地域の皆さんのご意見をいただきながら、跡利用について考えていくという考え方を持っているので、この集まりは学校の統廃合、適正化についてのご意見をいただくという場になっているが、学校の跡利用についても、今まで市内でもいくつかの学校がそういう状況になっているが、その際も跡利用について地域の皆さんのご意見をいただく場を設定しながら跡利用について検討してきているので、今お話があったのは、例えば、市の中心部から離れているということで、子どもたちのための何らかの施設をというご意見だったと思うし、先程はプールをというご意見があったが、そういったご意見を跡利用についての地区別懇談会というものを開催していくので、そうやって意見をいただきながら検討したいと思っている。ただ直ちに、財源の問題もあるし、残った施設の維持管理を誰がしていくのかという問題も一方ではあるので、そういったものも考えながら検討していきたいと考えている。</p> <p>市内の小中学校41校はすべて避難所に指定されている。地域防災計画というのがありすべてが避難所に指定されているので学校の再編と合わせて避難所としてのことも十分配慮していかなければならない問題ではないかと考えていて、まだ議論の過程なので具体的なことは申し上げられないので、一般的な形での回答ということでお許しをいただきたいが、避難所としての機能としては十分配慮していかなければならないのではないかと考えている。</p> |
| | <p>7</p> <p>プランの件だが、今まで懇談してきた中で何校くらいからプールを設置してほしいという話が出たのか。</p> | <p>すでに4分の3以上の会場の懇談が終了しているが、その中で新たにプールを設置してほしいという要望はなかった。ただ、現在プールのある学校が再編によって、別の学校に行った時にそのプールはどうするか、新しい学校にプールを設置してくれるのか、そういう意見はあった。</p> <p>現在、プールがある学校は小学校3校、中学校3校の6校ある。そのうち小学校の一つは隣の桂岡小学校ということになる。あと高島小学校が一番新しい、市民プールと一緒に使っているところだ。また幸小学校にもある。幸小学校を建て替えた時にプールを作った。桂岡小学校は昭和52年にこの銭函小学校から分かれて新しく作った時に建てた。当時は新しい学校にはプールを設置するという一つの考え方があったという時代背景がある。中学校は、長橋中学校、西陵中学校、向陽中学校この3か所にある。西陵中学校の懇談会では、プールの話も出ていた。この中学校にはプールがあるので考慮してほしいという発言もあった。ただ、新しく学校にプールをという話は今のところ懇談会ではない。</p> |

銭函ブロック

| 会場 | 会場での発言（質問・意見・要望） | 教育委員会の発言（回答・説明） |
|-----|---|--|
| 銭函小 | <p>8</p> <p>プールについて引き続き質問。小中学校でプール授業を年に数回やっているが、これはどこの小中学校でも実施されているのか。プールについての設置基準はどうなっているのか。では、プールが設置されている学校はなぜ設置されたのか理由が分ったら教えてほしい。</p> | <p>水泳学習について。小学校では水泳学習を行っている。中学校では3年生になると選択となっている。すべてではなく選択ということで水泳学習が含まれている。やらなくても良く、学校でそれを決めるという形になっている。</p> <p>学校設置基準の中には確かに、校舎や体育館を必ず作りなさい。グラウンドを作りなさい。というのはあるが、プールを作りなさいというのはない。先程司会からもあったとおり、現在市内6校に新しく校舎を建てた時にはプールを作るという時代背景とか、市内の各地域に満遍なくではないが、大体の方向で分散ということである程度教育的なことを考えて当時やってきたものと考えている。</p> <p>プールのことで補足するが、6校に設置しているが、そのうち長橋中学校については旧制の中学校であり、かなりの伝統のある学校だったので、当時建てた板谷宮吉さん、あの方があのような施設を建て、それを埋めたが、やはり伝統的にプールがほしいという思いがあり、今の場所に建てたという経緯がある。それから幸小学校だが、設立当時、建築会社の方が最初に建てた時、プレハブで屋根も何もなくただプールがあるというものを寄贈してくれた。それも年月が経つうちに破れたり、色々なことがあり今のように屋根つきのプールになったということがある。建てた時に寄贈された方の思いがあり、今まで存続しているものだ。桂岡については承知をしていない。皆さんの方がご存知かもしれない。</p> <p>プールのない学校は、他の学校のプールを使ったり、高島小学校のプールを今は中心部の学校でも高島小学校のプールに行くバスに乗って行ったり、あと民間のサンフィッシュというプールが若松にあるがそこに行ったり、以前はウェルビーを使ったこともあるが、今は使っていない。朝里クラッセにもプールがあるがそこを使っている学校もある。それから昔、望洋台に民間のプールがあったが、そこを望洋台で使っていたが閉鎖されたので、高島小のプールを使ったりということでもそれぞれ学校で工夫をしながら水泳学習に取り組んでいる。</p> |
| | <p>9</p> <p>廃校になる張碓小学校、桂岡小学校の保護者の方は来ているか。一番大事なことだと思うが、歴史的に古いし張碓小学校もあるし、桂岡だって頑張っている学校、その人たちが来ない中で議論しても、それで良いと言っているのか。答えは出ているのか。それは一番大きな問題だと思う。張碓小学校にしても、銭函小学校にしても、量徳小学校の分校として百年以上経っている。銭函小学校は130周年を迎える、張碓小をもっと古い。なくなることに對して、地域の人はどう言っているか実際に聞いたことがあるのか。一番大事な問題だと思う。その人たちが了解して、来る方の学校はこれからの話だから良いけれども、なくなる学校の保護者がどう考えるか、その辺をもう少し、ひとりも来ていない中で議論してもどうしようもないと思うので、もう少し真剣に取り組むことが必要だと思うので、是非一つその辺をしっかりとっていただきたいと思う。</p> | <p>5月17日から市内全41校を対象に行っているが、桂岡小学校は、7月13日、来週の火曜日に同じ形で開催する。それから張碓小学校についても、その翌週の7月20日火曜日に開催する。ご意見を聞いているのかという話だが、このようにして皆さんのご意見、ご要望はお聞きをしているが、今はまだ6月4日までの分しか載せていないが、市のホームページの方にいたたいご意見、ご要望を載せている。それから、小規模校ということで、学校の歴史に触れたご発言もあったが、先日、豊倉小学校での懇談会、豊倉小学校も張碓小学校と同じく複式の学校だが、その前は、塩谷方面の忍路中央小学校で行ったが、確かに、豊倉小学校では自然を生かした体験発表をしており、地域とも密接に関係ある学校だということがあり、忍路中央小学校でも同じような意見が出ていた。その中で一方複式になると、実際、豊倉小でも話があったが、3人しかいない学年もあり、3人が仲の良い時は良いが、ちょっと喧嘩をしたりすると、ちょっとその子の居場所がなくなる。そういう場合なかなか辛いというお話もあった。それと、あそこは卒業すると朝里中学校に行くが、1クラス3人しかいないところから、朝里中学校になると1学年百人くらいの規模になる。その中に2、3人で行っていくことになる、その時のギャップのようなものもなかなか辛いということで、保護者の方からそういったお話もあった。</p> |

銭函ブロック

| 会場 | 会場での発言（質問・意見・要望） | 教育委員会の発言（回答・説明） |
|-----|---|---|
| 銭函小 | <p>10 私が開いているのはそういう話ではない。歴史を持っているのだからしっかり話をしてほしいということで、教育の問題を言っているわけではない。</p> | <p>歴史の話も色々出ていた。私どもそういう意見なりご要望を聞く場ということで、このような機会を設定している。</p> <p>来週以降、桂岡小学校、張碓小学校で同じように意見を十分聞いていきたいと思う。</p> |
| | <p>11 私は統廃合という言葉をもとに十分に理解できないところがあるが、「統」は良いが、「廃」の方、いわゆる廃校、閉校には辛いことがつきまとう。伝統ある学校が廃校になるのではなくて、例えば、A校ならA校の中で統合されて、生き延びていくというか、歴史は続くという考え方。具体的にいうと札幌の創成小学校という北海道一の伝統のある学校と豊水小学校、これも伝統のある学校だが、これが統合するときに、閉校、廃校という感覚を避けて、資生館小学校という全く新しい学校にして両校の伝統がその中に生きていくという形をとって地域住民の感情を考えたわけだが、銭函地区は比較的そのようなことがやりやすい地区だと思う。やはり、他の学校についても、閉校、廃校という悲しい言葉を聞かなければならないのか。それとも、A校ならA校に統合されて、そこで歴史がついていくんだ。そのためには、校名や校歌など変える必要が出てくる、そういう準備が教育委員会の方であるのか。地域住民の希望によってということになるのだろうが、教育委員会としてはこのことをどのように考えているのか。そのことによって地域住民の思いも大分変わってくると思う。</p> | <p>こちらで適正化基本計画というものを作らせていただいた。その中に書かれていることだが、学校再編の進め方というところに、「学校再編は、従来の通学区を隣接する学校に編入する統合だけでなく、統合の対象校はいずれも廃止して新しい校名の学校にすることも視野に入れている。」ということで、今おっしゃったように札幌市の資生館小学校のようにいくつかの学校が一つになって新しい学校を作るという発想、特にこの銭函地区は、本当に一生懸命に子どもたちの健全育成について取り組んでいただいているということを私どもも十分に理解している。今おっしゃったようにそういう意味では、新しい学校を作るという意味では、先程の方の話にもあったように、私自身、18年3月31日に堺小学校を教頭で閉じた。その時は非常に辛かった。その思いは、住んでいる方ではないと分らない。その学校に携わった人間ではないと分らない。その思いというのを十分にかみしめながら、いい学校を作る、そして子どもたちにいい環境を与える。そういう視点を私ども大事にしていきたいと思う。このように思っているのでご理解願いたい。</p> <p>今のご質問で、廃校だとか、閉校だとかそういう言葉を私どもあまり使いたくないということで、「学校の統合を進めるに当たって」という青いリーフレットを見ていただく分かるが、今、主幹が言ったように統合するとか閉校するとかそういうことではなく、いくつかの学校が集まって、新しい学校を作るということで教育委員会は、考えている。リーフレットの左側の方に「2年程度かけて保護者や地域の方の協力をもらいながら」の下の方に話がどんどん、銭函の2校をこれから回って行くが、最終的にはまだ先のことになるが、「保護者や学校、地域の方などで構成した学校統合協議会（仮称）と教育委員会が参加して」どういう学校にするのかということで、通学路の選定やPTA、地域の連携、校歌、校名、校章ですとか、色々なことについて新しい学校だから例えば、桂岡がこちらに来るとすると1人、2人ではなく、たくさん的人数になる。そうすると、ここの学校の校歌をどうしようかということ保護者や地域の方だとか伝統もすべてひっくり返して、これから考えていくという考え方に立っている。教育目標などもあるが、今ここにいる先生、保護者、教育委員会や地域の方にも入ってもらって、新しい学校を作っていくという思いでないと、先程出ていた「統合される」「閉校される」という思いだとか何かよそに行って、小さい思いで、という思いを子どもたちにも保護者にもしてほしいので、おっしゃったとおりの方向で考えていて、こうして活字にしているところなので、ご協力をお願いしたい。</p> |

銭函ブロック

| 会場 | 会場での発言（質問・意見・要望） | 教育委員会の発言（回答・説明） |
|----------------------|---|---|
| <p>銭函中 7月22日</p> | <p>1 子どもが小学校の後半の時に小樽に引越してきたので小樽のことは良く分からないが、子どもがこれだけ減っているというの、普通に社会として減ってきているのと一緒に減ってきているというのは分かるが、分からないから聞きようがないというのもある。 今、聞いていて思ったが、小学校のプランで、銭函小学校のお母さんから、今の教室数では合併しても児童が全員入らないのではないかと聞いたことがあるが、合併する時に今の教室で足りるのか。</p> | <p>銭函小学校の懇談会でも同じような質問があった。確かに一番気になる点かと思うが、銭函小学校の過去を調べてみると、今の校舎になった平成元年は13学級だった。特別支援学級はない。一番多い時は16学級という時期があり、今もその当時のプレハブが残っているが、図書室をプレハブに移して、特別教室を普通教室に入れ替える操作をして16学級を確保していた。実際に、学級数がどこまでなるかはあるが、今後もそのような形で、学校の中でやりくりできるのか、それともプレハブを使用しなければならないか、簡単に増築といっても何年も同じクラス数が維持されれば増築も考えなければならないが、場所のこともあるので、簡単にすぐ増築ということはお答えできない部分もあるが、学校の中の仕切りやフリースペースを利用してどの程度までいけるか、具体的な数が分かってから考えていきたいと思っている。過去の例から16学級というのはあったが、特別教室を潰すというのはあまり良いことではないので、それらのことを含めて検討していきたいと思っている。</p> <p>資料、冊子の4ページに小学校のプランが出ており、一番下に学年別の表が出ている。三つの小学校を合わせた場合396人、6年生が81人で3学級編制になり、トータルで13学級編成となる見込みを今の時点ですしている。今銭函小学校は通常の学級12クラス編成で、そのままでは教室が足りないということで、ただ、今言ったように、12クラスの中に13クラスの子どもさんを入れるわけにはいかないので、当然学校の中で教室の入れ替えをしたり、あるいは増築ということも基本的には考えなければならない場面も出てくると思う。それがずっと続くということが推計で分かれば、ただ子どもさんの勉強の環境を落とすようなことは念頭にないので、その時点、その時点で最善の方法を考えていく。</p> |

銭函ブロック

| 会場 | 会場での発言（質問・意見・要望） | 教育委員会の発言（回答・説明） |
|-----|--|--|
| 銭函中 | <p>2 忍路から長橋まで合併するという話で、どのくらいの距離か分からないが、説明のとおり考えたとして、人数の観点から考えた場合に、何十年先になるか分からないがこの先どんどん子どもの数が少なくなった時に、朝里との合併という形になるのか。</p> | <p>先ほども少し触れさせていただいたが、15年間の計画を立てた一つの根拠は、平成20年に生まれた子どもが15年後には中学3年になる。そこまでは、推計できる。そこで15年間というスパンで計画を作った。今発言いただいた方も11人という中学校は解消していかなければならないと思っている。その時のバランスだ。平成15年、16年にも中学校の適正配置をやった。その時は距離の要件を決めていた。通学距離が、小学校2キロ、中学校3キロを超えたところは対象にしないとした。その場合、再編できる地域が中心部の一部しか該当しない。距離要件だけではできないと考えたのは、平成15年くらいまで市内で生まれるお子さんは950人くらいいたが、平成16年に一気に800人台に落ちた。昨年生まれた子どもさんは730人くらい。そうすると、距離要件だけで学校の再編を考えると、たくさん小さい学校が残ってしまうので、距離要件を外して、学校運営の適正な規模としてどうかということで作った。ここで書いている基本は、中学校は9クラス、小学校は12クラスにしたいということが軸になっている。</p> <p>今後、言われたように、もし銭函、朝里ということでそのような状況が出てくれば、統合になり得るのかは、一つの議論になると思う。今度のプランでは41校を21校にしている。そのなると、学校間が広がる。まちのつくりも当然あるので、それとのバランスでどのように考えていくかは、次の代で議論していただくかと思う。ご承知かと思うが、平成17年から日本国中が人口減少社会に突入し、札幌でも学校の再編をやっている。手稲区でもやっている。つい20年前まではものすごく子どもがいたのが、新興住宅地は一世代で終わってしまう、家を建てて住んで、子どもが大きくなると親だけの町になってしまう。何代も住むということにはならない。桂岡がそういう傾向がある。銭函は、商店や会社があり、回転がある。今小樽の中で、子どもが減っていく量が多いのは、朝里、新光町。今はいますが、この先落ちていくのが多くなるのはあのような地域。望洋台もそうで、宅地造成をして家が建っていけば維持はされるが、家が建たなくなった瞬間にぐっと落ちてしまう。文字通りそれは、今後の小樽のまちのつくりがどのようになっていくのかということで議論していかなければならないと思っている。</p> |

銭函ブロック

| 会場 | 会場での発言（質問・意見・要望） | 教育委員会の発言（回答・説明） |
|-----|---------------------------------|---|
| 銭函中 | <p>3 使われなくなった小学校は、今後どうするのか。</p> | <p>使われなくなった学校のその後ということだが、この地区では桂岡小学校の懇談会でもあった。桂岡小ではこのように使ってほしいというご提言もいただいた。まずは、このように懇談会を進めているが、いずれ統合校が決定することになれば、統合校にならない学校が空くわけで、計画どおりにいくと41校の半分が空くことになり、市全体では貴重な市民の財産であることから、具体的には統合校が決まり、空く学校が決まった時点で、地元の方々の活用に対する意見を十分聞いていきたいというのが第一。その他にも市全体のバランスというか、中心部では学校がかなり近くにあるので、市全体でのバランスも考えながら、学校や地域の持っている特性についても考慮しながら、繰り返しになるが、地域の方々のご意見を聞いて、どのような活用が良いのかということで決めていきたい。</p> <p>今、現在では、どこどこに何々をといった具体的なことは全くないが、そのような形で進めていきたいと考えている。</p> <p>転入されてきた方でしたね。ここ10年くらいの間に4校適正配置で無くなった学校がある。どのように使われているかお話するが、中心部にあった旧堺小学校は市立小樽病院の看護学校に転用して使っている。キャパがあるので、他の施設も入っているが、メインは看護学校として使っている。旧住吉中学校は南小樽駅に近いところにあるが、今は双葉中学校として使われている。旧東山中学校は教育委員会の庁舎として、2階、3階は使用している。1階は「子ども発達支援センター」という、言語、肢体とか就学前の障害を持つ子どもさん方の療育施設として使用している。これだけのキャパを持つので、色々な使い方をしていく。ただ、忍路方面となるとほとんど学校というのは公共施設としても重要な場所なので、地域の方々と学校では無くなっても体育館を地域の活動の場に使うとか、そういった議論はしていかなければならないと思っている。</p> <p>一つ前の質問だが、今回の再編プランを突然皆さんに示しているわけではなく、4年前の平成18年から市民の皆さんの組織、検討委員会というのを作り、学者や保護者の代表、学校の先生方にも入っていただいて1年以上議論をして、その後説明会や懇談会で市民の皆さん延べで1,000人以上の方が参加をして、最終的に今このようなプランになっている。これから、15年計画の後のことについては、同じように市民の皆さんの色々な形での意見を聞きながら学校の在り方についてどうすべきかというのは次の世代というか、次の当時の中心になっているメンバー皆さんが市民的に色々な意見をぶつけあって、学校の在り方について検討されるものと考えている。</p> |

銭函ブロック

| 会場 | 会場での発言（質問・意見・要望） | 教育委員会の発言（回答・説明） |
|-----|--|--|
| 銭函中 | <p>4 私は張碓小学校の卒業生の親で、以前張碓小学校の説明会で聞いたことがあるが、小学校に通う若いお母さんたちが、統合した場合、銭函小学校にバスで通う1年生は心配だという話をされているようだ。私はもう小さい子はいないが、小学校低学年だと通うのが大変だと思う。小さい子を持つお母さんやこれから子どもを産もうとするお母さんたちもそれが一番聞きたいと言っているが、スクールバスを出してもらえとか、どんな手段を使っていったら良いのかとか、心配事がたくさんあると言っていたので、聞いてみたいと思った。</p> | <p>現在、スクールバスとか通学助成を含めて400人くらいの子どもがその制度を利用している。銭函地区は、銭函小学校の方でスクールバスを150人くらい利用している。張碓小学校では、バス助成制度があって、小学生は2キロ以上、その二分の一以上のバスの乗車区間があれば助成をしている。将来的に仮に張碓小学校の子どもたちが銭函小学校に通う場合に、現状であれば路線バスで銭函小学校に行く場合、それが有効なのか、もしくは現在銭函小学校でスクールバスが出ているので、今銭函小学校でスクールバスを出しているのは、利用する方が150人とたくさんいるので、スクールバスを導入している。それが有効なのかということ踏まえて検討していかなければならないと考えている。</p> <p>配付した地図をご覧ください。張碓小は60人くらいの学校で、国道から下の方の、北海道高等聾学校の横の道路が書かれている部分の、新しく造成されたところから通われてるお子さんが40人、3分の2ほどいる。そのお子さんたちは全部ではないが、多くの子は張碓小学校に通うのに現在も路線バスを使って通っている。</p> <p>この地域は先ほども触れたが、子どもが少なくなってきたと思えないところだ。忍路の方は、20年くらい前は150人くらいいた学校が、今は20人、30人の学校になってしまっている。そこに住んでいる人の意識は違うとは思いますが、冊子の2ページをご覧ください。先日の張碓小学校でも言ったが、張碓小学校は入りくり無く張碓町と春香町、この住所は全部張碓小学校に入る。中学校3年生は平成27年度では15人、2年生12人、1年生は10人。その列の小学校を見ていただくと、この6年生は今の1年生で、8人になっているが、転出された方がいて現在は7人。平成27年の1年生、20年生まれのお子さんは6人になっているが、2人転出されて今は4人。その次の1年生、21年度生まれも4人です。張碓でも言ったが、今まで1学年10人くらいできていた地域というのは分かるが、今後この地域がどのようになっていくのか、1学年4人になってしまうのか、そこは推移を見てまた話し合いをしようと言って帰ってきた。今後どうなるのかはあるが、地域の方は春香のところは造成が終わって、家が建つところもいっぱいあるから、これからまだ子どもさんが増えたら、ぜひそうあってほしいとは思いますが、もう一方では現実はどうなるかという、見極めが必要かと思っている。その意味では、来年、再来年から考えようということではなく、その辺の状況、あのまちの成り立ちを見ていかなければならないと思っている。</p> <p>ご質問のバスの関係はよろしいか。基本的に銭函小学校となればバスを利用する、バスを利用せざるを得ないという部分があるから、その場合も今もJRバスを利用しているが、JRバスになるか、あるいは銭函小学校で星野の方やあかしあタウン 銭函3丁目の方からスクールバスを出しているから、そういう選択になるか、それはもう少し具体的に話し合いが進んだ段階で、率直なご意見も、張碓小学校の保護者の皆さんからもご意見も聞きたい。</p> |

銭函ブロック

| 会場 | 会場での発言（質問・意見・要望） | 教育委員会の発言（回答・説明） |
|-----|--|-----------------|
| 銭函中 | <p>5</p> <p>（要望） きっと桂岡小学校の方からも出たと思うが。私引越してきた時に、一番最初にどこに住もうかと決めた時は、坂の無い所。スーパーが近い所。学校が近い所。JRの駅が近い所ということを考えた。結局、銭函小学校に入るつもりだったが、間違っって桂岡に行った。ちょっとした区域の違いのところだったようで、少し大変だと思った。桂岡地区はすごい坂の上であって、皆が集まる、集うところがないと、あの辺りはどンドン寂れてしまうのではないかと思っている。きっと桂岡小学校のお母さんが意見を出したのではないかと思うが、あそこに何か空き教室を使ったものがぜひほしいと思っている。</p> | |